

東 前 田 遺 跡
大 谷 口 遺 跡
中 嶺 遺 跡
金クソ谷遺跡1区・2区・3区

国道431号道路改築事業（川津バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

2007年3月

島根県教育委員会

序

本報告書は、島根県教育委員会が高根県土木部の委託を受けて、平成14年度から平成17年度にかけて実施した、松江市福原町、上本庄町の国道431号道路改築事業（川津バイパス）地内に所在する東前田遺跡、大谷口遺跡、中嶺遺跡、金クソ谷遺跡1区から3区の発掘調査の成果を記録したものです。

本書に掲載した遺跡は、嶋根郡家比定地の一つである芝原遺跡の南面に展開しています。東前田遺跡においては奈良時代の土器溜りと多嘴瓶、大谷口遺跡では古代の木簡、中嶺遺跡では7世紀代から8世紀代にかけての集落と子持勾玉や須恵器の権や銅滴と、芝原遺跡との関連がうかがえるものが多数出土しました。

これらの成果が『出雲国風土記』に記載された嶋根郡の様子を解明する資料となり、郷土の文化財に対する理解と関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成に当たり御協力をいただきました地元住民の方々、松江市教育委員会、島根県土木部をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

島根県教育委員会

教育長 藤原義光

例 言

1. 本書は島根県土木部の委託を受けて、島根県教育委員会が平成14年度から平成17年度にかけて実施した国道431号道路改築事業（川津バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2. 発掘調査地は下記のとおりである。

東前出遺跡	島根県松江市福原町東前田
大谷口遺跡	島根県松江市福原町大谷口
中嶺遺跡	島根県松江市福原町中嶺
金クソ谷遺跡1区～3区	島根県松江市上本庄町金クソ谷ほか

3. 調査組織は下記のとおりである。

調査主体 島根県教育委員会

平成14年度 現地調査

〔事務局〕 宍道正年（埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（同副所長）、
内田 融（同総務課長）、坂本淑子（同総務係長）

〔調査員〕 大庭俊次（同文化財保護主事）、伊藤幸子（同調査補助員）、
是田和美（同調査補助員）

平成15年度 現地調査

〔事務局〕 宍道正年（埋蔵文化財調査センター所長）、永島静司（同総務課長）、
西尾克己（同調査第1課長）

〔調査員〕 林 健亮（同調査第3係長）、是田 敦（同文化財保護主事）、
伊藤幸子（同調査補助員）、寺本和明（同調査補助員）、岡本育子（同調査補助員）

平成16年度 現地調査

〔事務局〕 山根正巳（埋蔵文化財調査センター所長）、永島静司（同総務グループ課長）、
川原和人（同調査第1グループ課長）

〔調査員〕 林 健亮（同調査第3サブグループ企画員）、是田 敦（同文化財保護主事）、
寺本和明（同調査補助員）、岡本育子（同調査補助員）

平成17年度 現地調査

〔事務局〕 卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、永島静司（同総務グループ課長）、
川原和人（同調査第1グループ課長）

〔調査員〕 柳浦俊一（同調査第2サブグループ主幹）、是田 敦（同文化財保護主事）、
寺本和明（同調査補助員）、池田恵理（同調査補助員）

平成18年度 報告書作成

〔事務局〕 卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、坂本憲一（同総務グループ課長）、
川原和人（同調査第1グループ課長）

〔調査員〕 林 健亮（同調査第3サブグループ主幹）、
大庭俊次（同調査第4サブグループ主幹）、
是田 敦（同調査第3サブグループ文化財保護主任）、寺本和明（同調査補助員）、
松崎恵美子（同調査補助員）

4. 調査指導 中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル）

- 調査にあたっては次の方々から有益な御助言、御協力を賜った。
勝部衛（松江市立出雲玉作資料館）、梅木茂雄（江津市教育委員会）
- 挿図で使用した方位は、測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は世界測地系による。また、レベル高は海拔高を示す。
- 本書で使用した図のうち、第2図は国土地理院発行のものを、第5図・第61図は株式会社ワールドが作成したものをそれぞれ一部改変して使用している。
- 本書に掲載した実測図は各調査員、調査補助員が作成し、浄書は各調査員、調査補助員のほか、門脇弘美、佐々木澄江、三木サトコ、神谷登喜美、山本悦子、難波夏枝、井上美由紀（埋蔵文化財調査センター整理作業員）が行った。
- 本書に掲載した写真は調査員、調査補助員が撮影した。
- 本書の執筆は大庭俊次、是田敦、寺本和明が分担して行い、文責を目次に記した。石材の自然科学分析は、有限会社遺物材料研究所に、金属製遺物の自然科学分析は、JFEテクノリサーチ株式会社分析・評価事業部埋蔵文化財調査研究室に委託した。
- 本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。

凡 例

- 本文中、挿図中、写真図版中の遺物番号は一致する。
- 本書で用いた須惠器、土師器の分類および編年観は下記の各論文に依拠している。

須惠器

足立克己、丹羽野裕「高広遺跡発掘調査報告書-和田岡地造成工事に伴う発掘調査-」
島根県教育委員会 1984

平石 充「文字資料（墨書土器）の時期に関して」『山陰古代出土文字資料集成Ⅰ（出雲・石見・隠岐編）』 島根県古代文化センター 2003

*暦年代について、高広ⅠA期～ⅡB期までは足立克己・丹羽野裕（1984）の年代観を採用し、高広ⅢA期～Ⅴ期までは平石充（2003）の年代観を採用する。

高広ⅠA期…6世紀後葉

高広ⅠB期…6世紀末葉～7世紀初頭

高広ⅡA期…7世紀初頭～前葉

高広ⅡB期…7世紀中葉～後葉

高広ⅢA期…7世紀末葉～8世紀初頭

高広ⅢB期…8世紀前葉

高広ⅣA期…8世紀前葉～中葉

高広ⅣB期…8世紀後葉～9世紀初頭

高広Ⅴ期…9世紀前葉以降

土師器

松山智弘「小谷式再検討—出雲平野における新資料から—」『島根考古学会誌』第17集
島根考古学会 2000

本文目次

第1章 調査に至る経緯	(是田 敦) ...	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2章 遺跡の位置と環境	(寺本和明) ...	1
第1節 地理的環境		1
第2節 歴史的環境		2
第3章 東前田遺跡	(大庭俊次) ...	4
第1節 発掘作業と整理作業の経過		4
第2節 1区の調査		4
第3節 2区の調査		12
第4章 大谷口遺跡	(大庭俊次) ...	43
第1節 平成14年度発掘作業の経過について		43
第2節 1区の調査		43
第3節 2区の調査		50
第4節 3区の調査	(是田 敦) ...	51
第5章 中嶺遺跡	(是田 敦) ...	60
第1節 発掘作業と整理作業の経過		60
第2節 1区の調査		67
第3節 3区の調査		75
第4節 4区の調査		82
第5節 5区の調査		119
第6節 総括		133
第6章 金クソ谷遺跡	(是田 敦) ...	139
第1節 発掘作業と整理作業の経過		139
第2節 1区の調査		141
第3節 2区の調査		142
第4節 3区の調査		148
第5節 総括		150
第7章 自然科学分析		157
第1節 川津バイパス関係遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析および メノウ製勾玉・剥片の非破壊定性分析	(有限会社遺物材料研究所) ...	157
第2節 国道431号道路改築事業(川津バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査に 必要とする中嶺遺跡出土遺物分析	(JFEテクノリサーチ株式会社分析・評価事業部埋蔵文化財調査研究室) ...	182

挿目目次

第1図	調査地の位置	1	第31図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図9	29
第2図	道路分布図	3	第32図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図10	30
第3図	平成14年度川津バイパス発掘調査遺跡位置図	5	第33図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図11	31
第4図	平成14年度川津バイパス発掘調査 遺跡調査区別位置図	6	第34図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図12	33
第5図	東前田遺跡1区須恵器及び 石埋納坑実測図	7	第35図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図13	33
第6図	東前田遺跡1区須恵器及び 石埋納坑出土須恵器高台付坏実測図	8	第36図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図14	34
第7図	東前田遺跡1区須恵器及び 石埋納坑出土須恵器高台付坏実測図	8	第37図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図15	35
第8図	東前田遺跡1区中段柱根柱穴実測図	8	第38図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図16	36
第9図	東前田遺跡1区中段166号 柱穴柱根実測図	9	第39図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図17	37
第10図	東前田遺跡1区中段167号 柱穴柱根実測図	10	第40図	東前田遺跡出土黒曜石製石器実測図	38
第11図	東前田遺跡1区下段建物跡実測図	11	第41図	東前田遺跡出土鉄貨片影	38
第12図	東前田遺跡1区出土遺物実測図	11	第42図	大谷口遺跡調査区平面図	44
第13図	東前田遺跡2区黒色土溜り湾入部 土層断面実測図	13	第43図	大谷口遺跡調査区土層断面実測図	44
第14図	東前田遺跡2区黒色土溜り東端 土層断面実測図	13	第44図	大谷口遺跡1区溝跡実測図	45
第15図	東前田遺跡2区土坑実測図	14	第45図	大谷口遺跡1区溝跡出土遺物実測図	45
第16図	東前田遺跡2区土坑近辺出土遺物実測図	14	第46図	大谷口遺跡1区出土遺物実測図1	46
第17図	東前田遺跡2区須恵器埋納坑実測図	15	第47図	大谷口遺跡1区出土遺物実測図2	47
第18図	東前田遺跡2区須恵器埋納坑 遺物出土状況実測図	15	第48図	大谷口遺跡1区出土遺物実測図	48
第19図	東前田遺跡2区須恵器埋納坑 出土須恵器実測図	16	第49図	大谷口遺跡1区遺物出土状況図	49
第20図	東前田遺跡2区須恵器埋納坑周辺 出土遺物実測図	18	第50図	大谷口遺跡2区出土遺物実測図	50
第21図	東前田遺跡2区須恵器埋納坑及び 土坑周辺遺物出土状況図	20	第51図	大谷口遺跡出土黒曜石製石器実測図	50
第22図	東前田遺跡2区木片及び配石遺構実測図	21	第52図	3区遺構配置図	51
第23図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図1	22	第53図	3区トレンチ調査出土遺物	51
第24図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図2	23	第54図	中央セクション土層断面図	52
第25図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図3	24	第55図	S X 01完掘状況	53
第26図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図4	25	第56図	S X 01遺物出土状況	54
第27図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図5	26	第57図	S B 01完掘・遺物出土状況	55
第28図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図6	27	第58図	出土鉄貨	56
第29図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図7	28	第59図	大谷口3区出土遺物実測図	57
第30図	東前田遺跡2区黒色土溜り 出土遺物実測図8	28	第60図	中塚遺跡調査区・トレンチ位置図	61
			第61図	中塚遺跡遺構配置図	62
			第62図	中塚遺跡トレンチ出土遺物(1)	63
			第63図	中塚遺跡トレンチ出土遺物(2)	64
			第64図	中塚遺跡トレンチ出土遺物(3)	65
			第65図	調査前地形測量図	67
			第66図	調査後地形測量図	68
			第67図	1区土層断面図	69-70
			第68図	1号墳平面形推定図	71
			第69図	1号墳主体部	72
			第70図	2号墳土層断面図	73
			第71図	土器溜り1区実測図	73
			第72図	1区出土遺物実測図	74
			第73図	3区遺構位置図	75

第74図	加工段1完掘・遺物出土状況	76	第111図	4区包含層出土遺物(4)	110
第75図	S B01完掘・遺物出土状況	76	第112図	4区包含層出土遺物(5)	111
第76図	S B02完掘・遺物出土状況	77	第113図	4区包含層出土遺物(6)	
第77図	S B03・加工段2・加工段3・加工段4 完掘・遺物出土状況	78		・S B05出土土器	112
第78図	3区出土遺物(1)	79	第114図	4区包含層出土土器	113
第79図	3区出土遺物(2)	80	第115図	5区斜面面付近遺物	119
第80図	4区南東側遺構位置図	82	第116図	S B06完掘・遺物出土状況	119
第81図	S B04・S B05完掘状況	83	第117図	S K02・S K03完掘・遺物出土状況	121
第82図	S B04遺物出土状況	84	第118図	石群出土状況	122
第83図	S B05遺物出土状況	84	第119図	石群周辺の遺物出土状況	122
第84図	S B06・S B07・S B08完掘状況	85	第120図	Pit.184完掘・遺物出土状況	123
第85図	S B06遺物出土状況	86	第121図	S R16・S K02出土遺物	124
第86図	S B07遺物出土状況	87	第122図	S K02・S K03出土遺物	125
第87図	S B08遺物出土状況	87	第123図	S K03・石群出土遺物	126
第88図	S B09・S B10完掘・遺物出土状況	89	第124図	5区包含層出土遺物(1)	127
第89図	S B11完掘・遺物出土状況	90	第125図	5区包含層出土遺物(2)	128
第90図	S B12・S B13完掘・遺物出土状況	91	第126図	5区包含層出土遺物(3)	129
第91図	S B14完掘・遺物出土状況	92	第127図	5区出土土器	130
第92図	S B15完掘・遺物出土状況	92	第128図	地滑り模式図	133
第93図	加工段5完掘・遺物出土状況	93	第129図	遺構実測図	136
第94図	上器溜り2出土状況	94	第130図	トレンチ出土遺物	139
第95図	S K01完掘・遺物出土状況	94	第131図	金クソ谷遺跡調査区位置図	140
第96図	上器溜り3出土状況	95	第132図	金クソ谷遺跡1区遺構位置図	141
第97図	S D01・S D02完掘・遺物出土状況	96	第133図	2区調査前地形測量図	142
第98図	S D01・S D02ピット断面図	97	第134図	2区土坑付蓋図(1)	143-144
第99図	S D03・S D04完掘・遺物出土状況	98	第135図	2区土坑上層図	143-144
第100図	S B04出土遺物	99	第136図	Tr.14, Tr.15, Tr.22土層図	145-146
第101図	S B05出土遺物(1)	100	第137図	2区調査後地形測量図および遺物出土状況	147
第102図	S B05出土遺物(2)	101	第138図	3区遺構配置図および遺物出土状況	148
第103図	S B06出土遺物	102	第139図	Tr.36遺物出土状況	149
第104図	S B06・S B07・S B08出土遺物	103	第140図	Tr.36上層図	149
第105図	S B09～S B15出土遺物	104	第141図	S X01遺物出土状況	150
第106図	加工段5・上器溜り2出土遺物	105	第142図	S X02遺物出土状況	151
第107図	上器溜り3出土遺物	106	第143図	金クソ谷遺跡出土遺物1	152
第108図	土器溜り3・S D01・S D02・S K01・ 4区包含層出土遺物(1)	107	第144図	金クソ谷遺跡出土遺物2	153
第109図	4区包含層出土遺物(2)	108	第145図	金クソ谷遺跡出土土器1	154
第110図	4区包含層出土遺物(3)	109	第146図	金クソ谷遺跡出土土器2	155
			第147図	金クソ谷遺跡出土土器	155

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	3	第19表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(2)	114
第2表	東前田遺跡出土土器観察表(1)	39	第20表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(3)	115
第3表	東前田遺跡出土土器観察表(2)	40	第21表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(4)	116
第4表	東前田遺跡出土土器観察表(3)	41	第22表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(5)	117
第5表	東前田遺跡出土土器観察表(4)	42	第23表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(6)	118
第6表	東前田遺跡出土土器観察表	42	第24表	中瀬遺跡4区出土土器・土製品観察表	118
第7表	東前田遺跡出土土器観察表	42	第25表	中瀬遺跡5区出土土器観察表(1)	131
第8表	東前田遺跡出土土器観察表	42	第26表	中瀬遺跡5区出土土器観察表(2)	132
第9表	大谷口遺跡1区・2区出土土器観察表	58	第27表	中瀬遺跡5区出土土器・銅網観察表	132
第10表	大谷口遺跡1区・2区出土土器観察表	58	第28表	周辺の初期古墳	133
第11表	大谷口遺跡1区・2区 出土土器・土製品観察表	58	第29表	島根県出土の子持勾玉	134
第12表	大谷口遺跡3区出土土器観察表	59	第30表	島根県出土の埴	134
第13表	大谷口遺跡3区出土土器観察表	59	第31表	中瀬遺跡の遺構変遷	135
第14表	中瀬遺跡トレンチ出土土器観察表	66	第32表	各遺跡の主要な遺構	138
第15表	中瀬遺跡1区出土土器観察表	74	第33表	金クソ谷遺跡出土土器観察表(1)	155
第16表	中瀬遺跡3区出土土器観察表	81	第34表	金クソ谷遺跡出土土器観察表(2)	156
第17表	中瀬遺跡3区出土土器観察表	81	第35表	金クソ谷遺跡出土土器観察表	156
第18表	中瀬遺跡4区出土土器観察表(1)	113	第36表	金クソ谷遺跡出土土器観察表	156

写真図版目次

図版1	上 東前田遺跡空中写真 芝原遺跡方向を望む 下 東前田遺跡調査前(南西から)	図版8	上 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況4 中 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況5 下 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況6
図版2	上 東前田遺跡及び大谷口遺跡調査前(西から) 下 東前田遺跡発掘状況空中写真	図版9	上 東前田遺跡1区中段第167号柱根柱穴 発掘調査状況1 中 東前田遺跡1区中段第167号柱根柱穴 発掘調査状況2 下 東前田遺跡1区中段第167号柱根柱穴 発掘調査状況3
図版3	上 東前田遺跡1区上段遺構検出状況 下 東前田遺跡1区上段遺構発掘調査状況1	図版10	上 東前田遺跡1区下段土層断面 中 東前田遺跡1区下段第1号柱礎柱建物跡 検出状況 下 東前田遺跡1区下段第1号柱礎柱建物跡 発掘調査状況
図版4	上 東前田遺跡1区上段遺構発掘調査状況2 中 東前田遺跡1区上段遺構発掘調査状況3 下 東前田遺跡1区上段須恵器及び 石埴納坑検出状況	図版11	東前田遺跡1区及び2区発掘状況
図版5	上 東前田遺跡1区上段須恵器及び 石埴納坑発掘状況1 中 東前田遺跡1区上段須恵器及び 石埴納坑発掘状況2 下 東前田遺跡1区上段須恵器及び 石埴納坑発掘状況3	図版12	上 東前田遺跡2区土層断面 中 東前田遺跡2区黒色土溜り発掘状況 下 東前田遺跡2区発掘状況
図版6	上 東前田遺跡1区上段須恵器及び 石埴納坑発掘状況4 中 東前田遺跡1区中段柱穴等遺構検出状況 下 東前田遺跡1区中段柱穴等 遺構発掘調査状況	図版13	上 東前田遺跡2区黒色土溜り検出状況 中 東前田遺跡2区黒色土溜り発掘調査状況1 下 東前田遺跡2区黒色土溜り発掘調査状況2
図版7	上 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況1 中 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況2 下 東前田遺跡1区中段第166号柱根柱穴 発掘調査状況3	図版14	上 東前田遺跡2区黒色土溜り 発掘調査状況3・4 下 東前田遺跡2区黒色土溜り 発掘調査状況5・6

図版15	上	東前田遺跡 2区須恵器埋納坑発掘調査状況 1
	中	東前田遺跡 2区須恵器埋納坑発掘調査状況 2
	下	東前田遺跡 2区須恵器埋納坑発掘調査状況 3
図版16	上	東前田遺跡 2区木片及び配石遺構発掘調査状況
	下	東前田遺跡 2区木片及び配石遺構発掘調査状況
図版17	上	東前田遺跡 2区土坑発掘調査状況
	下	東前田遺跡 2区土坑発掘調査状況
図版18	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版19	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版20	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版21	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版22	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版23	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版24	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版25	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版26	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版27	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版28	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版29	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版30	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版31	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版32	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版33	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版34	上	東前田遺跡 2区出土遺物
図版35	上	大谷口遺跡調査前近景 (西から)
	中	大谷口遺跡 1区調査前近景 (東から)
	下	大谷口遺跡 1区調査前近景 (東から)
図版36	上	大谷口遺跡 1区発掘調査状況 (東から)
	中	大谷口遺跡 1区発掘調査状況
	下	大谷口遺跡 2区発掘調査状況
図版37	上	大谷口遺跡 1区出土遺物
図版38	上	大谷口遺跡 1区出土遺物
図版39	上	大谷口遺跡 1区出土遺物
図版40	上	大谷口遺跡 2区出土遺物
図版41	上	大谷口遺跡 3区全景 (中塚遺跡から)
	中	大谷口遺跡 3区・中塚遺跡調査前近景 (大谷口遺跡 2区から)
	下	大谷口遺跡 3区 S X01 完掘状況
図版42	上左	大谷口遺跡 3区 S X01 遺物出土状況
	上右	大谷口遺跡 3区 S D01 遺物出土状況
	中	大谷口遺跡 3区 S X01
	下	C-C' セクションベルト 東側北壁
		D-D' セクションベルト 南側西壁
図版43	上	大谷口遺跡 3区 S X01
	中	C-C' セクションベルト 西側南壁
	下	1D-D' セクションベルト 北側東壁
		大谷口遺跡 3区 S X01
		台状遺構サブレンテ
	下下	大谷口遺跡 3区 S B01 完掘状況
図版44	上	大谷口遺跡 3区出土遺物①
図版45	上	大谷口遺跡 3区出土遺物②
図版46	上	大谷口遺跡 3区出土遺物③
図版47	上	大谷口遺跡 3区出土遺物④

図版48	上	中塚遺跡空中撮影 (西側から中海を含めて撮影)
	下	中塚遺跡空中撮影 (真上から全体を撮影)
図版49	上	中塚遺跡空中撮影 (真上から 1区調査後を撮影)
	下	中塚遺跡空中撮影 (真上から 3区調査後を撮影)
図版50	上	中塚遺跡遠景 (芝原遺跡から撮影)
	中	中塚遺跡の眺望 (芝原遺跡と北山を望む)
	下	中塚遺跡 1区調査前状況 (立木伐採後に北側丘陵から撮影)
図版51	上	中塚遺跡 1区調査後状況 (北側丘陵から撮影)
	中	中塚遺跡 1区 1号墳調査前状況 (立木伐採後に 2号墳から撮影)
	下	中塚遺跡 1区 1号墳調査後状況 (2号墳墳頂から撮影)
図版52	上	中塚遺跡 1区 1号墳主体部完掘状況 (西側から撮影)
	中	中塚遺跡 1区 1号墳主体部遺物出土状況
	下	中塚遺跡 1区 2号墳周溝完掘状況 (1号墳と 2号墳の周を北側から撮影)
図版53	上	中塚遺跡 1区 2号墳調査前状況 (立木伐採後に 1号墳から撮影)
	中	中塚遺跡 1区 2号墳調査後状況 (1号墳から撮影)
	下	中塚遺跡 1区 2号墳
図版54	上	東西セクションベルト 西側南壁
	中	中塚遺跡 1区 2号墳
	下	南北セクションベルト 南側西壁
		中塚遺跡 1区 2号墳
		東西セクションベルト 東側北壁
		中塚遺跡 1区 2号墳
		南北セクションベルト 北側東壁
図版55	上	中塚遺跡 3区調査後状況 (北側から撮影)
	中	中塚遺跡 3区加工段 1完掘状況
	下	中塚遺跡 3区加工段 1遺物出土状況
図版56	上	中塚遺跡 3区 S B01 完掘状況
	中	中塚遺跡 3区 S B02 完掘状況
	下	中塚遺跡 3区 S H03・加工段 2・3・4 完掘状況
図版57	上	中塚遺跡 4区 S B03 加工段 2・3・4 遺物出土状況
	中	中塚遺跡 4区 S B04・S B05 完掘状況
	下	中塚遺跡 4区 S B05 完掘状況
図版58	上	中塚遺跡 4区 S B04 遺物出土状況
	中	中塚遺跡 4区 S B05 遺物出土状況 (托出状況)
	下	中塚遺跡 4区 S B05 遺物出土状況 (托出状況)
図版59	上	中塚遺跡 4区 S B06・S B07・S B08 完掘状況
	中	中塚遺跡 4区 S B06 遺物出土状況
	下	中塚遺跡 4区 S B06 遺物出土状況 (南東隅)
図版60	上	中塚遺跡 4区 S B06 遺物出土状況 (北東隅)
	中	中塚遺跡 4区 S B09・S B10 完掘状況
	下	中塚遺跡 4区 S B09・S B10 セクションベルト

図版61 上 中継道路4区SB09遺物出土状況
中 中継道路4区SB11完備状況
下 中継道路4区SB12遺物出土状況

図版62 上 中継道路4区SB12・SB13完備状況
中 中継道路4区SB14完備状況
下 中継道路4区SB15完備状況

図版63 上 中継道路4区土器溜り2遺物出土状況
中 中継道路4区土器溜り3遺物出土状況
(真上から撮影)
下 中継道路4区土器溜り3遺物出土状況
(南側から撮影)

図版64 上 中継道路4区SD01完備状況
中 中継道路4区SD02完備状況
下 中継道路4区SK01完備状況

図版65 上 中継道路5区調査後状況(空中撮影)
下 SB16完備状況

図版66 上 中継道路5区SK02遺物出土状況(全体)
中 中継道路5区SK02遺物出土状況
(近くから撮影)
下 中継道路5区SK02完備状況

図版67 上 中継道路5区SK02・SK03
セクションベルト
中 中継道路5区SK03遺物出土状況(全体)
下 中継道路5区SK03遺物出土状況
(近くから撮影①)

図版68 上 中継道路5区SK03遺物出土状況
(近くから撮影②)
中 中継道路5区SK03完備状況
下 中継道路5区SK03セクションベルト

図版69 上 中継道路5区石帯周辺(空中撮影)
下 中継道路5区石帯全体

図版70 上 中継道路5区石帯1出土状況
中 中継道路5区石帯2出土状況
下 中継道路5区石帯3出土状況

図版71 上 中継道路5区Pt184遺物出土状況
中 中継道路5区雁行状電線
下 中継道路5区石帯で観察された崩落による
旧表土の巻き込み

図版72 中継道路トレンチ出土遺物①
図版73 中継道路トレンチ出土遺物②
図版74 中継道路トレンチ出土遺物③
図版75 中継道路トレンチ出土遺物④
図版76 中継道路トレンチ出土遺物⑤
図版77 中継道路1区出土遺物
図版78 中継道路3区加工段1・SB01出土遺物
図版79 中継道路3区SB02・SB03・加工段1
出土遺物
図版80 中継道路3区SB03出土遺物①
図版81 中継道路3区SB03出土遺物②
図版82 中継道路4区SB04出土遺物
図版83 中継道路4区SB05出土遺物
図版84 中継道路4区SB05出土遺物①
図版85 中継道路4区SB05出土遺物②
図版86 中継道路4区SB06出土遺物①
図版87 中継道路4区SB06出土遺物②

図版88 中継道路4区SB06・SB07・SB08
出土遺物①
図版89 中継道路4区SB06・SB07・SB08
出土遺物②
図版90 中継道路4区SB09・SB10出土遺物
図版91 中継道路4区SB10・SB15・加工段5・
土器溜り2出土遺物
図版92 中継道路4区SB15・加工段5出土遺物
図版93 中継道路4区出土器溜り2・土器溜り3
出土遺物
図版94 中継道路4区土器溜り3出土遺物
図版95 中継道路4区SD01・SD02・SK01・
包含層出土遺物①
図版96 中継道路4区包含層出土遺物②
図版97 中継道路4区包含層出土遺物③
図版98 中継道路4区包含層出土遺物④
図版99 中継道路4区包含層出土遺物⑤
図版100 中継道路4区包含層出土遺物⑥
図版101 中継道路4区包含層出土遺物⑦
図版102 中継道路4区包含層出土遺物⑧
図版103 中継道路4区包含層出土遺物⑨
図版104 中継道路4区包含層出土遺物⑩
図版105 中継道路4区包含層出土遺物⑪
図版106 中継道路5区SB16・SK02出土遺物
図版107 中継道路5区SK02・SK03出土遺物
図版108 中継道路5区SK03出土遺物
図版109 中継道路5区SK02・SK03・右群出土遺物
図版110 中継道路5区包含層出土遺物①
図版111 中継道路5区包含層出土遺物②
図版112 中継道路5区包含層出土遺物③
図版113 中継道路5区包含層出土遺物④
図版114 中継道路5区包含層出土遺物⑤
図版115 中継道路5区包含層出土遺物⑥
図版116 中継道路5区包含層出土遺物⑦
図版117 中継道路5区包含層出土遺物⑧
図版118 上 金クツ谷遺跡跡地(東側より撮影)
中 金クツ谷遺跡1区SK01完備状況
下 金クツ谷遺跡1区SK01セクション
図版119 上 金クツ谷遺跡2区縄文時代包含層完備状況
(金クツ谷遺跡3区から撮影)
下左 金クツ谷遺跡2区古墳時代包含層完備状況
(南側から撮影)
下右 金クツ谷遺跡2区縄文時代包含層完備状況
(南側から撮影)
図版120 上 金クツ谷遺跡3区完備状況
(金クツ谷遺跡2区から撮影)
中 金クツ谷遺跡3区Tr36遺物出土状況
下 金クツ谷遺跡3区SX01遺物出土状況
図版121 金クツ谷遺跡出土遺物①
図版122 金クツ谷遺跡出土遺物②
図版123 金クツ谷遺跡出土遺物③
図版124 金クツ谷遺跡出土遺物④
図版125 金クツ谷遺跡出土遺物⑤
図版126 金クツ谷遺跡出土遺物⑥
図版127 金クツ谷遺跡出土遺物⑦

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

般国道431号は、出雲市を起点とし、松江市・境港市を経て米子市に至る、島根半島を東西に結ぶ広域幹線道路である。昭和40年代以降、松江市とその周辺地域では急激な都市化により、慢性的な交通渋滞が生じた。島根県はこの対策として松江市西川津町から同市野原町までの8.1kmの区間について4車線計画により、昭和48年度から道路改築事業に着手した。

島根県教育委員会は、昭和48年に松江土木事務所から依頼を受けて、路線決定に先立ち、遺跡の分布調査を行い、26か所で遺跡を確認した。この調査内容をもとに島根県教育委員会と松江土木事務所が協議しルートを決した。昭和62年には島根県土木部から依頼を受けて分布調査を行い、新たに12か所で遺跡を確認した。本書所収の東前田遺跡、大谷口遺跡、中嶺遺跡、金クソ谷遺跡は、昭和62年度の分布調査で確認された遺跡である。

発掘調査は断続的に実施しており、昭和50年度に橋本遺跡・柴Ⅰ遺跡・中嶺遺跡、昭和56年度に柴Ⅱ遺跡、昭和62年度に祖子分長池古墳・祖子分胡麻畑遺跡、平成4年度に八色谷古墳群、平成8年度と平成9年度に本庄川条里遺跡・荒船古墳群・荒船遺跡、平成10年度から平成11年度に馬場遺跡・杉ヶ樋遺跡・客山墳墓群・速行遺跡を調査した。これらの遺跡は既に報告書が刊行されている。本書所収の東前田遺跡は平成13年度と平成14年度に、大谷口遺跡は平成14年度と平成15年度に、中嶺遺跡は平成15年から平成17年度に、金クソ谷遺跡1区・2区・3区は平成17年度に調査した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

東前田遺跡、大谷口遺跡、中嶺遺跡は松江市福原町に、金クソ谷遺跡は福原町と上本庄町に所在する。地理的には松江市街地北東部に広がる持田平野と、中海西岸に広がる本庄平野の境界に位置し、付近には嶋根郡家比定地の一つである芝原遺跡が所在する。東前田遺跡は芝原遺跡の南西、福原町平野部の東端に位置する。標高22m前後の平地に立地し、南側には朝酌川が流れる。大谷口遺跡は芝原遺跡の南側、標高27m前後の平地に立地し、北側に朝酌川が流れる。中嶺遺跡は大谷口遺跡の東側に隣接し、標高約56mの丘陵頂部と斜面に立地する。中嶺1号墳からは福原町の平野部や、北山の山並みが眺望できる。金クソ谷遺跡は中嶺遺跡の東側に隣接する。福原町平野部と本庄平野の境界を成す標高57m～63mの3つの丘陵に立地する。丘陵頂部からは本庄平野、中海、マヶ浜まで望むことができる。



第1図 調査地の位置

第2節 歴史的環境

縄文時代：上本庄町荒船遺跡(448)において草倉期の有舌尖頭器が出土した。他に手角町寺の脇遺跡、夫手遺跡において後期のドングリ貯蔵穴が検出されている。

弥生時代：前期から中期にかけての遺跡は夫手遺跡で確認され、後期になり上本庄町の場遺跡において住居跡が検出され、古墳時代まで継続して集落が営まれている。末期では墳丘墓が検出された邑生町客山墳墓群がある。

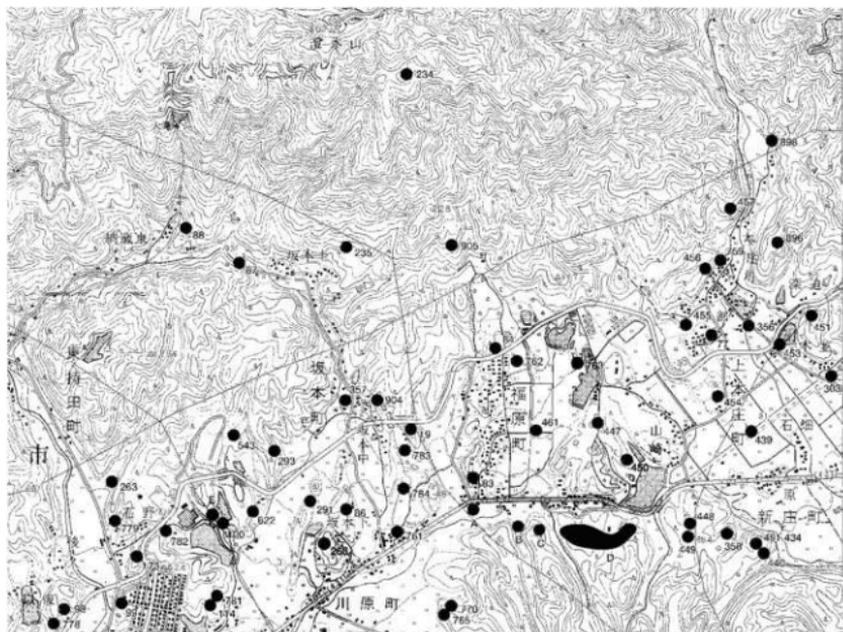
古墳時代：前期古墳に新庄町八日山1号墳がある。一辺23.5mの方墳で、三角縁神獸鏡が出土している。中期になると扇状地を取り巻く丘陵上に多くの古墳群が造られるようになる。新庄町客山1号墳は、方墳で主体部が木棺直葬であり、小形の倣製九乳文鏡、刀子、管玉、ガラス小玉、櫛が主体部から出土している。丘陵部から離れた平地的場遺跡においては、11基の方墳が墳丘を削平された状態で検出されている。後期の古墳には上本庄町中西古墳群(77)がある。横穴式石室を主体部とし、円筒埴輪も出土している。横穴墓は新庄町宮島古墳群、梅廻古墳群、邑生町連行遺跡で発見されている。

古代：芝原遺跡(461)は福原町平野部に位置する。遺構は総柱建物を含む掘立柱建物、棚列、溝などが多数検出され、遺物は14点の墨書土器や、製塩土器、丹塗土師器、木器などが多数出土した。墨書土器には「出雲家」、「出雲」、「校尉」と書かれたものがあつた。遺構や遺物の状況から嶋根郡家比定地の一つとなった。遺跡の中心時期は8世紀後半から9世紀前半とされている。本庄町本庄川流域条里遺跡(303)では古代の条里が確認されている。上本庄町京殿遺跡(356)では手捏土器、土馬等の祭祀遺物や、硯、丹塗土師器など出土しており、官衙関係の遺跡と考えられている。

中世：的場遺跡において掘立柱建物と土墳墓が確認されている。土坑墓は、木棺と思われ、和鏡の上に中国製同安窯の青磁の完成品が伏せられた状態で出土している。建物の多くは庇を有する大型の建物であり、豪族の居館の可能性もある。館を備えた山城として上本庄町の城山城(451)がある。この城は北側の上本庄町あん山城(896)との関連も指摘されている。

参考文献

- 松江市教育委員会『芝原遺跡』1986年
松江市教育委員会『芝原遺跡』1989年
松江市教育委員会『本庄地区呂宮園地整備事業に伴う松江北部遺跡発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書第78集
1999年
島根県教育委員会『本庄川流域条里遺跡発掘調査報告書』国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ
1997年
島根県教育委員会『馬場遺跡・杉ヶ境遺跡・客山墳墓群・連行遺跡』国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘
調査報告書Ⅶ 2002年
松本岩雄『原始から古代へ』ふるさと本庄 1994年
内田律雄『奈良・平安時代の本庄』ふるさと本庄 1994年



第2図 遺跡分布図 (縮尺1:25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	名称	概要	番号	名称	概要
A	東前田遺跡	本書所収遺跡	448	荒船遺跡	縄文土器
B	大谷口遺跡	本書所収遺跡	449	荒船古墳群	17基
C	中嶺遺跡	本書所収遺跡	450	平田古墳群	8基
D	金クソ谷遺跡	本書所収遺跡	451	城山城跡	井戸・郭・堀切
E	沢下遺跡	円隅突出型墳丘墓2基	453	深迫古墳	方墳・石材
19	坂本館跡	郭・土塁	454	荒神古墳群	方墳1基・墳形不明2基・須恵器
77	中西古墳群	方墳2基	455	小馬枝古墳群	方墳1基・墳形不明1基
83	山根古墳	円墳	456	金比羅古墳群	方墳1基・墳形不明2基
84	上の堂横穴群	4穴	457	鎌ヤガ尾根古墳群	方墳1基・墳形不明1基
86	小林古墳群	方墳3基	461	芝原遺跡	掘立柱建物跡・溝状遺構・墨書土器他
87	小川善之助奥山古墳群	方墳	491	松音寺古墳	
88	古妙見古墳	石棺式石室	543	沢ノ奥横穴墓	人骨・須恵器
98	城の越横穴	須恵器	622	158古墳群	方墳4基
99	立花横穴	須恵器	759	川上遺跡	
100	常盤古墳群	須恵器・土・刀・刀子・鉄鍔	761	流田遺跡	須恵器・鉄鍔
114	納佐池古墳	須恵器	762	畷目遺跡	須恵器
173	石野古墳群	方墳5基	763	石浦遺跡	須恵器・土師器
234	澄水寺跡	礎石・常滑大甕・陶器・磁器	765	118遺跡	須恵器
235	坊床庵寺	軒平瓦・蔵骨器・古銭	770	124古墳群	方墳2基
263	鏡谷遺跡	土師器・須恵器・土馬	778	城ノ越遺跡	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器他
268	香ヶ廻古墳群	方墳3基	779	石野遺跡	須恵器
291	中久路古墳	方墳	781	原ノ空古墳	円墳
293	細曾古墳群	方墳2基・円墳2基	782	149古墳	方墳2基
303	本正山流域糸里遺跡	古代糸里	783	153古墳	方墳
356	京殿遺跡	須恵器・土師器・土馬	784	159遺跡	須恵器
357	坂本中遺跡	須恵器・土師器・弥生土器	896	あん山城跡	郭・堀切
358	前田遺跡	須恵器	898	梨ノ谷遺跡	溝状遺構・須恵器・土師器・土師器土器他
434	松音寺古墳	方墳	901	仁の谷遺跡	加工段・鉄滓
439	原ノ後遺跡	掘立柱建物・堅穴住居	904	安十山城跡	堀切・土塁・加工段
440	原ノ平遺跡	土師器	905	往生院遺跡	加工段・石積基壇・五輪塔
447	玉野寺跡	寺院跡			

第3章 東前田遺跡

第1節 発掘作業と整理事業の経過

遺跡の位置

東前田遺跡は松江市北東郊の福原町に所在する。鳥根郡家跡に比定される芝原遺跡にほど近い、国道431号線上り車線沿いの一畑バス福原バス停の南にあり、朝酌川沿いに広がる水田部分である。

平成14年度東前田遺跡調査の経過

平成13年10月1日から同12日まで実施した一斉調査で確認された国道用地内における東前田遺跡調査対象範囲は4,500㎡であった。調査対象範囲の中に1区から3区までの調査区を設定して発掘調査を実施した。経過の概略は以下のとおりである。

5月20日	1区現地発掘調査開始
5月29日	1区下段掘立柱建物跡検出
6月6日	2区現地調査開始
6月7日	2区黒色土溜り検出
6月14日	松江市立本庄小学校発掘体験（2区）
7月5日	2区須恵器埋納坑検出
7月16日	2区黒色土溜りで墨書須恵器（第32図2・図版27）出土
7月31日	3区現地調査開始
8月5日	2区木片及び配石遺構検出
8月29日	3区調査終了
9月25日	1区須恵器及び石埋納坑検出
10月11日	1区中段柱根柱穴検出
10月31日	東前田遺跡現地発掘調査終了
11月29日	東前田遺跡空中撮影

第2節 1区の調査

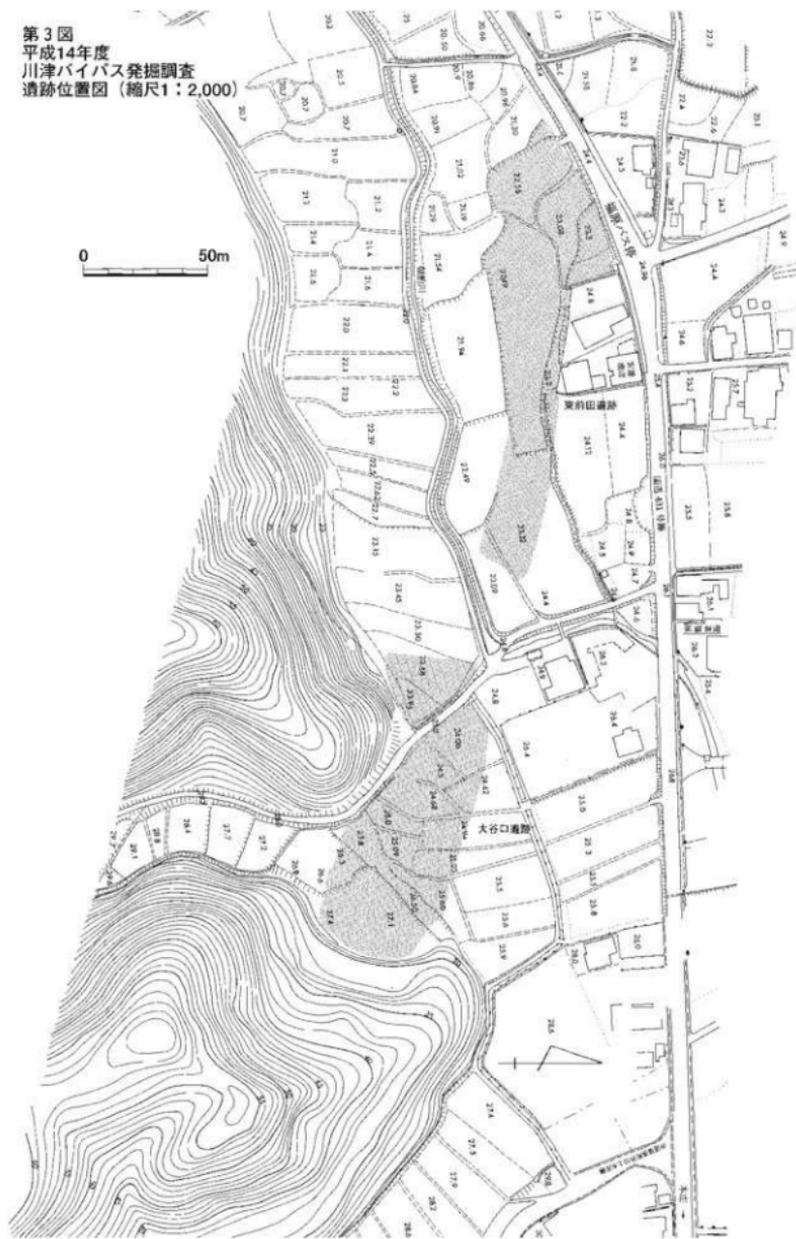
1区の様相

1区は設定した3つの調査区の中で最も標高が高く22.56m～23.5mを測る国道沿いに設定した調査区である。現在の朝酌川（南西方向）に近づくにつれて標高が下がってゆく。現況の水田の区画にしたがって、さらに、上段、中段、下段に細分した。

1区の遺構の様相

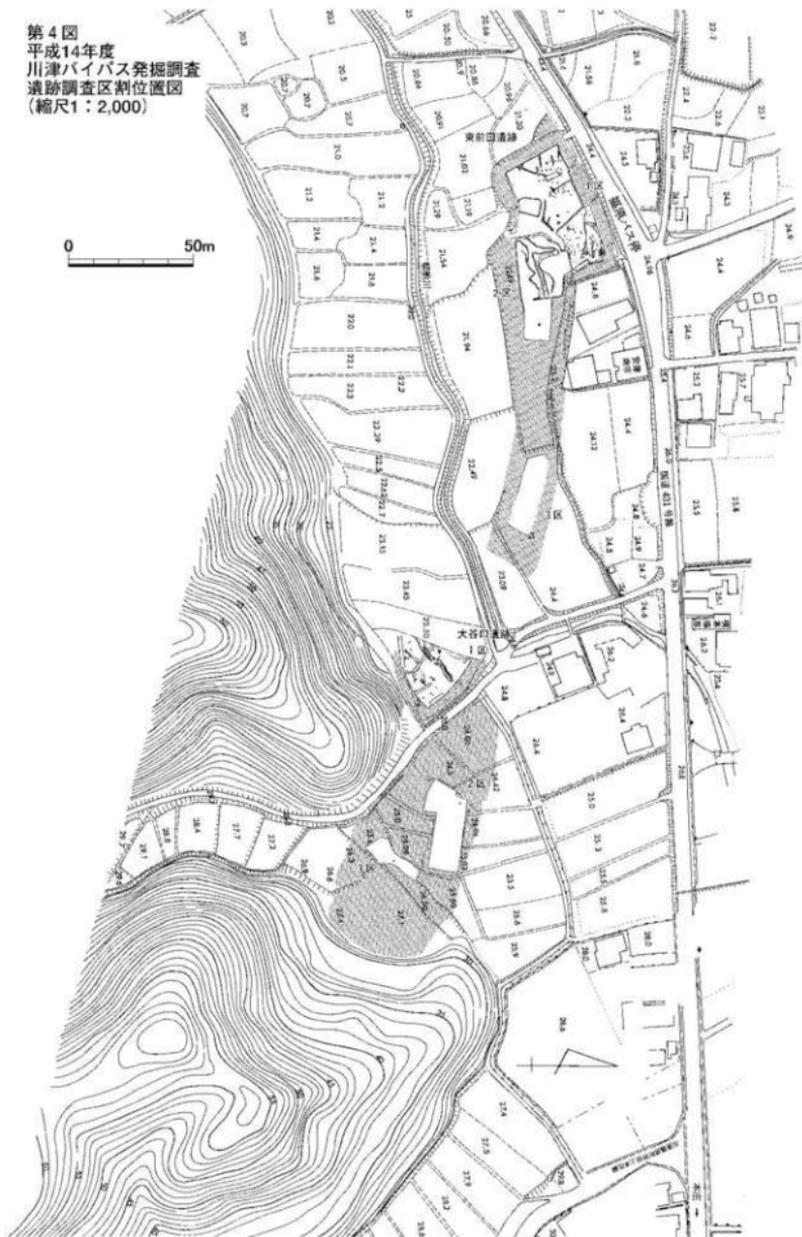
1区は設定した3つの調査区の中で、建物跡など比較的顕著な遺構が検出された区画である。下段からは2間×3間の掘立柱建物跡1棟（1区下段建物跡）を検出したほか、柱穴列2（上段）、溝跡15条（上段及び下段）、ピット150以上（全域、特に上段）などを検出した。

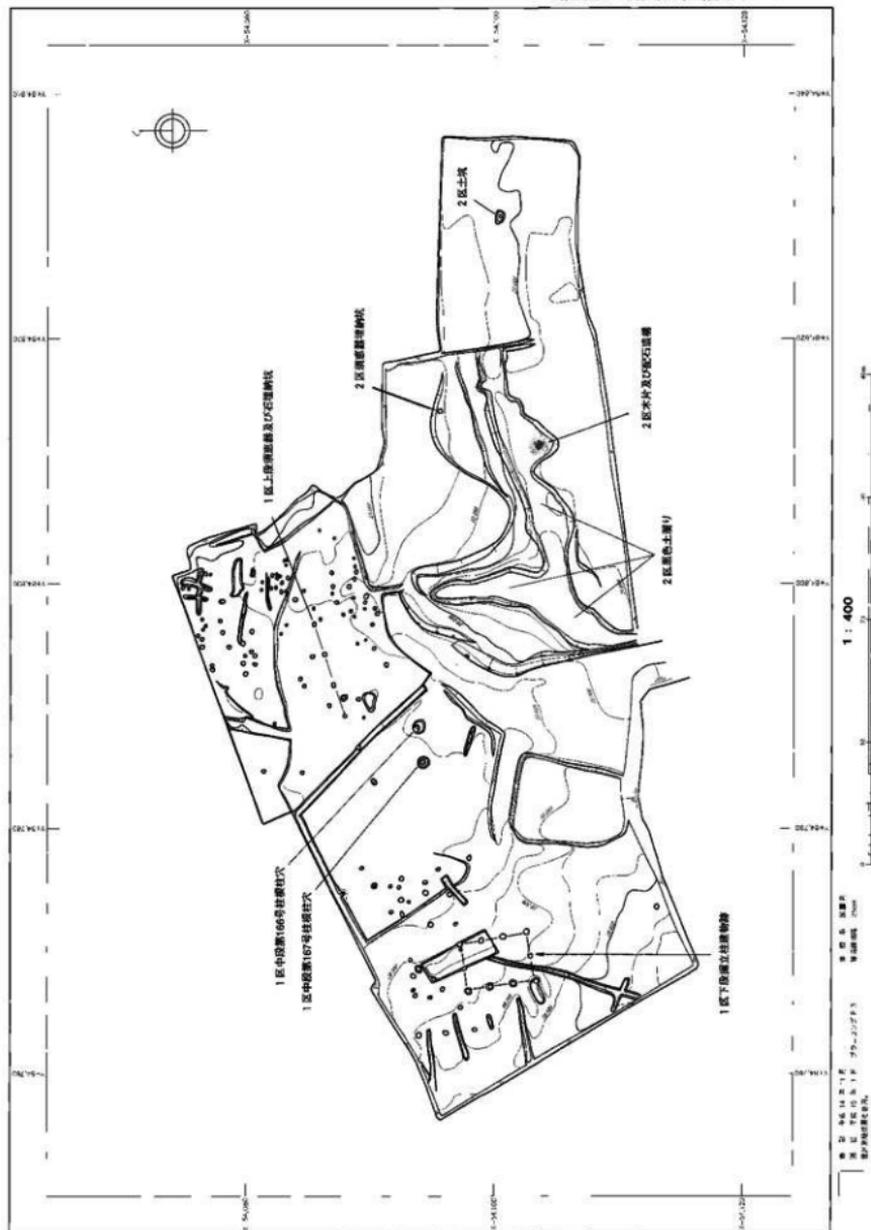
第3図
平成14年度
川津バイパス発掘調査
遺跡位置図 (縮尺1:2,000)



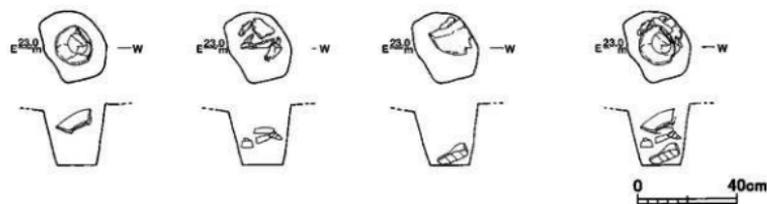
第3章 東前田遺跡

第4図
平成14年度
川津バイパス発掘調査
遺跡調査区割位置図
(縮尺1:2,000)





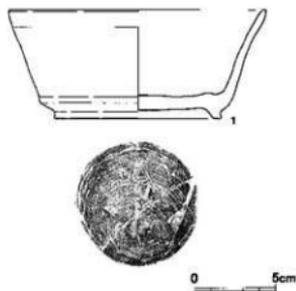
第5図 東前田遺跡遺構位置図



第6図 東前田遺跡1区須恵器及び石埋納坑実測図(縮尺1:20)

1区上段の遺構

1区上段の顕著な遺構としては1区須恵器及び石埋納坑(第6図)が検出された。この埋納坑は穴列を構成する一つと見ることもできる。これは直径25cm、深さ45cmの小穴に拳大の削石を含む6個の石を詰め込んで、その上に須恵器高台付環(第7図)を置いて埋納している。この須恵器高台付環は低い高台が底部外縁に近い位置に付き、体部が円曲して立ち上がり、若干外反しながら直線的に斜め上方に伸びる。高広編年ⅣB期のもので8世紀後半から9世紀初頭ごろのものである¹⁾。埋納坑もこの時期のものと考えられる。組み合う遺構は柱穴列以外あまり考えられないが、単独の遺構の可能性もある。祭祀的意味合いの強いものと考えられる。

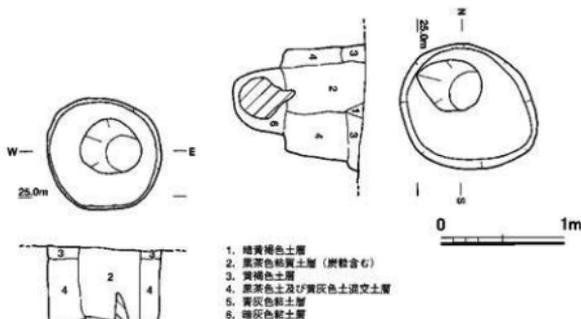


第7図 東前田遺跡1区須恵器及び石埋納坑出土須恵器高台付環実測図(縮尺1:3)

1区上段の遺構は溝跡といい、ピットや柱穴列といい、ある程度のみまりは観察できるが構造物や地割が復元できるような斉一性あるいは規格性のあるものはほとんどないと思われる。

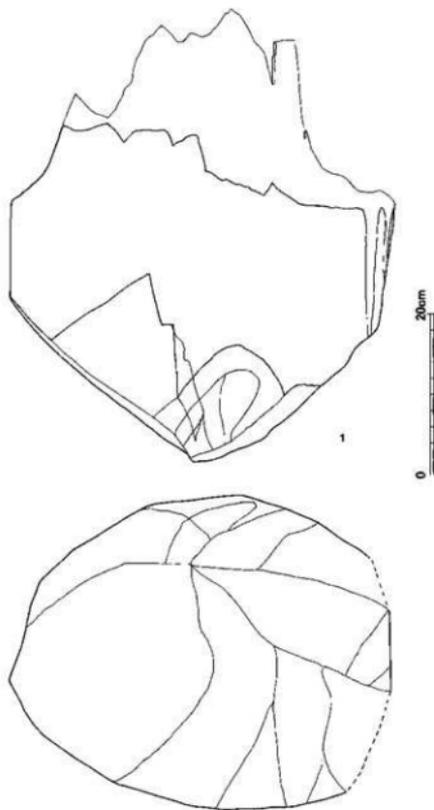
1区中段の遺構

1区中段で検出された顕著な遺構は、1区で検出された柱穴やピットの中で最も大きな



1. 緑黄色土層
2. 黒茶色粘質土層(炭粒含む)
3. 黄褐色土層
4. 黒茶色土及び黄灰色土混交土層
5. 黄灰色粘土層
6. 暗灰色粘土層

第8図 東前田遺跡1区中段柱根柱穴実測図(縮尺1:40)



第9図
東前田遺跡1区中段166号柱穴柱根実測図
(縮尺1:6)

166号柱穴と167号柱穴である。この柱穴群は双方とも検出面が皿を逆さに伏せたような若干の盛り上がりを見せた状態で検出された。また、上部は一見二段に掘れるように見えた。これは4層以下の埋土が非常に硬く締まっていたためであった。この2柱穴は柱心間3mの間隔を置いて並ぶのみで他に組み合う遺構が見られない奇異な遺構である。166号柱穴の規模は平面卵形で径1m~1.2m、深さ1.05mを測る。167号柱穴の規模は平面隅丸方形に近い形状で径0.9m~1m、深さ1mを測る。両柱穴とも直径70cmを測る柱根を残していた(第8図~第10図)。柱穴内の壁面は広範囲にわたって赤紫色に焼け爛れた痕跡を残している。出土した柱根の上側表面にも焼け焦げた痕跡が残っており、柱が柱穴内まで立ったまま火を受けている可能性が考えられる。なお、167号柱穴の埋土から須恵器坏底部破片が出土している(第12図3)。これは底部外面に糸切痕を残すもので復元予想される底径が小さく高広編年ⅣA期(8世紀前葉~中葉)に類例の見られるものと思われる。あるいは灯明皿のような小坏であるとなれば8世紀の後半のものとも考えられる。この須恵器が167号柱穴の時期を表しているとなれば、この両柱穴は後述する2区の遺構、遺物と時期的に重なる可能性がある。

1区下段の遺構

1区下段では掘立柱建物跡1棟を検出した(第11図)。建物跡の柱穴は2間×3間の配列で長軸をほぼ南北に採っている。長軸、短軸とも柱間は中心から中心で1.8m~1.9mを測る。柱穴内部の形状と覆土の堆積状況から柱が内側にやや傾いていたようすがうかがえたが、建物が機能していたときの状態を示しているものかどうかはわからない。床面直上の覆土からも柱穴からも遺物は出土していない。

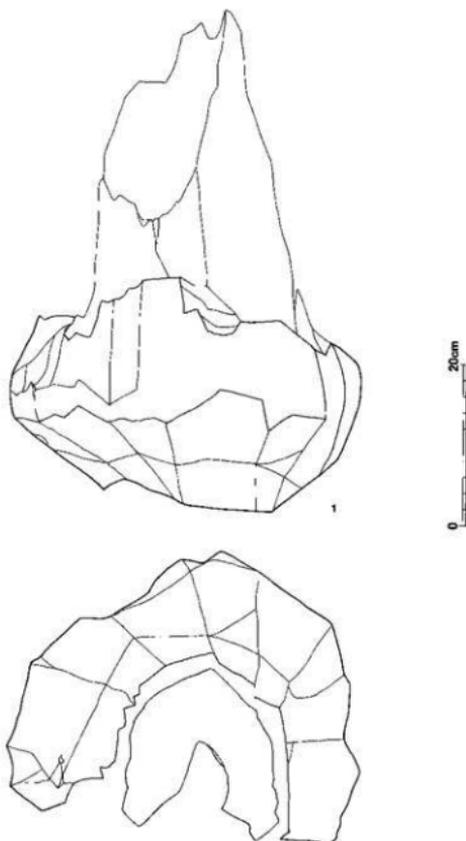
1区下段からは溝跡が7条検出されている。このうち1区下段の掘立柱建物跡まで延びる溝跡が

ら第12図1に挙げる須恵器蓋坏の蓋の破片が出土している。この蓋の口縁端部内側にはかえりが巡っており、高広編年ⅡB期あるいはⅢA期、8世紀初頭までのものと思われる。溝と建物とは両立しないと考えられるが、溝と建物の先後関係を確定させることはできなかった。ただ、建物跡は比較的高い位置にあり、溝跡は南にある朝的川に向かって次第に傾斜するように掘られていた。

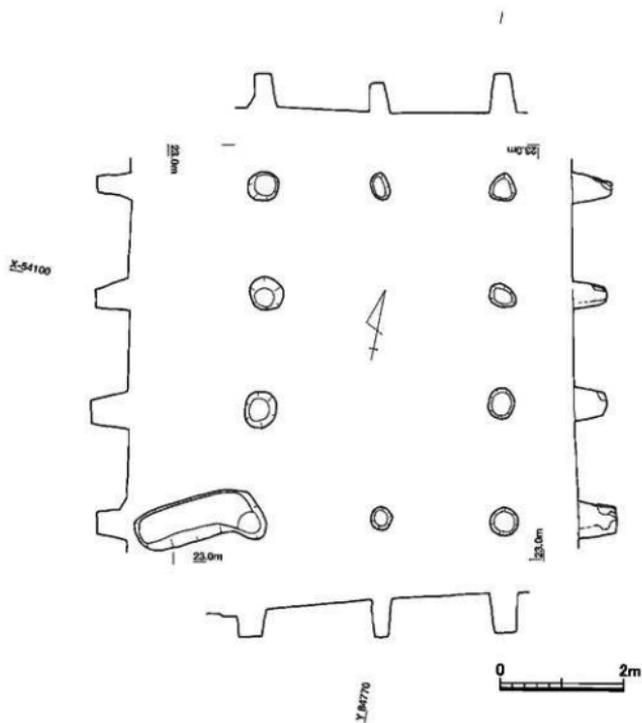
1区の出土遺物

1区からは灰色を呈する耕土下の遺物包含層から土師器、須恵器、陶磁器などが540mm×340mm×150mmのコンテナ2箱分出土した。これらはいずれも破片資料であり、一部の埋設遺構（小穴）から出土したものを除いて完形に近いものはほとんどなかった。これらの遺物の中で土師器や須恵器の年代を概観すると、古墳時代の終わりごろ（7世紀中葉）から平安時代初めごろ（9世紀ごろ）と見られる。また、陶磁器は16世紀以降現代までのものがまばらに出土した。さらには、いずれも黒曜石製の、石鎌（1点）、削器（1点）剥片（3点）、石核（2点）などの石器類（第40図）も出土している。これらの石器は縄文時代ものと考えられる。

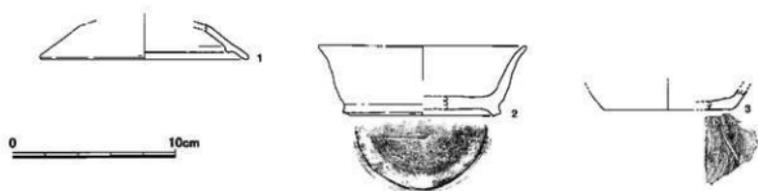
1区から出土した遺物の多くは耕土下から遺構面までに30～50cm堆積する灰色土層から出土したものであり、遺構そのものから出土した遺物は非常に少なかった。第12図2は須恵器高台付坏である。これは1区上段の遺物包含層から出土したものである。高広編年ⅣB期（8世紀後半～9世紀初頭）にかけてのものと思われる。1区で検出された溝跡や柱穴列、ピット群など遺構の時期をある程度反映していると思われる。また、この時期は芝原遺跡の出土須恵器が最も多様化する時期と重なると思われる²⁹⁾。



第10図
東前田遺跡1区中段167号柱穴柱根実測図
(縮尺1:6)



第11图 東前田遺跡1区下段建物跡実測図 (縮尺1:80)



第12图 東前田遺跡1区出土遺物実測図 (縮尺1:3)

第3節 2区の調査

2区の様相

2区の田面は、1区の調査区内最高標高から1.01m下がった22.49mであった。この調査区からは大量の須恵器や土師器が出土した。これらの遺物は、1区（北）に向かって入り江状に入り込んだ旧河道の痕跡と見える黒色土溜りから出土したものである。この多量の土器類を含んだ黒色土溜りは、2区からその南側に隣接する調査区外（国道用地外）に広がっているが、土器類を含んでいるのは調査区として設定した範囲内の約300㎡であり、田面からの深さ約70cmから1m30cmまでの堆積であった。

2区の遺構の様相

2区では黒色土溜りのほかに土坑1基、須恵器埋納坑1基と、木片及び配石で構成された遺構1基が検出された。いずれも黒色土溜りを取り囲むように位置している。

遺構の時期を概観すると周辺の出土遺物から見て上坑が最も古い時期にある。第16図2は須恵器蓋環の蓋である。輪状筒みの蓋の口縁内面端部近くにかえりがあり高広編年ⅢA期のものである。他の2点は高広編年ⅢB期のものである。次いで木片及び配石遺構が営まれ、その後2区黒色土溜りが形成される。これは2区黒色土溜りが木片及び配石遺構の上に乗っていると見られることから木片及び配石遺構が2区黒色土溜りの形成よりも先行すると思われるからである。木片及び配石遺構からはこの遺構の時期や性格、用途を特定できる遺物は全く出していない。また、2区黒色土溜りの遺物には8世紀前半までの遺物の割合が非常に多い。2区の遺構の中でその出土遺物から最も新相を示しているのは須恵器埋納坑とその周辺から出土した遺物群である。須恵器埋納坑中に埋納されていた須恵器とその周辺から出土した須恵器の一部に接合関係が認められることから、埋納坑と周辺出土遺物群は不可分の関係にあると考えられる。これらの中には第20図に挙げたように高広編年ⅣB期の須恵器の割合が多く、また、須恵器小環（灯明皿）を含んでおり、8世紀後半の様相を呈しているものと思われる。2区の遺構の変遷を跡付けると以下ようになる。

土坑の造営（8世紀前半）→木片及び配石遺構の造営→黒色土溜りの形成（8世紀前半～中葉）→須恵器埋納坑（8世紀後半）

一方、1区の遺構の様相をまとめると、1区上段須恵器及び石埋納坑が高広編年ⅣB期、1区中段166号柱穴及び167号柱穴が高広編年ⅣA～ⅣB期、1区下段獨立柱建物跡は高広編年ⅡB～ⅢA期の前後と下段から上段への変遷がうかがえる。これを加味して遺跡全体の遺構の変遷を再度整理すると次のようになると思われる。

1区下段獨立柱建物跡、2区土坑の造営（7世紀末～8世紀前半）→2区木片及び配石遺構の造営→2区黒色土溜りの形成（8世紀前半～中葉）、1区中段166号及び167号両柱穴（8世紀前半～後半）→2区須恵器埋納坑（8世紀後半）→1区上段須恵器及び石埋納坑（8世紀末9世紀初頭）

可能性のみ追求すれば、建物と墓の組み合わせ、特異な柱穴群と土器の大量廃棄及び遺物埋納遺構の組み合わせ、埋納遺構の変遷（祭祀儀礼の継承）などそれぞれの時期の遺跡の姿が浮かび上がってくるのではないだろうか。集落の縁辺にあって祭祀的空間だったことがうかがえる。しかし、遺構の組み合わせ変遷については、1区下段獨立柱建物跡及び1区中段柱穴群と2区上坑、2区木片及び配石遺構の時期が明確に特定できないことが大きな問題である。

2区の遺物の様相

2区では黒色土溜りの出土遺物をはじめ多量の土器類が出土している。須恵器については、甕壺類などの貯蔵容器、碗皿類などの供膳具食器類などである。土師器については、甕などの貯蔵炊事容器あるいは暗文のある赤彩の坏皿類が多く見られた。これらの遺物はそのほとんどが8世紀前葉～中葉にかけてのものである。

なお、須恵器蓋及び坏の中には第20図1や第32図に挙げた墨書、墨痕が確認された。また、第33図に挙げたへら記号（一文字、×印、文字？など）を刻んだ須恵器坏あるいは蓋坏も出土している。

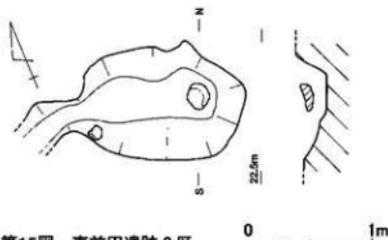
さらに、第20図に挙げた多嘴瓶（第20図13）やタールの付着痕跡のある須恵器小坏（灯明皿、第20図5～8）など寺院官衙に関連するのではないかとと思われる遺物が出土している。第20図に挙げた遺物は、出土位置と各個体の接合状況などから須恵器埋納坑と不可分の関係にあるものと思われる。須恵器埋納坑とこの遺物群は、墨書土器の出土と併せて仏教にかかわる何かの祭祀が行われていた空間の一部である可能性が考えられる。

また、牛屎に関わる遺物として第34図に挙げた漆の付着した須恵器が出土している。このことは、付近に漆にかかわる何かの寺院官衙に関する施設があったことを示しているものと考えられる。

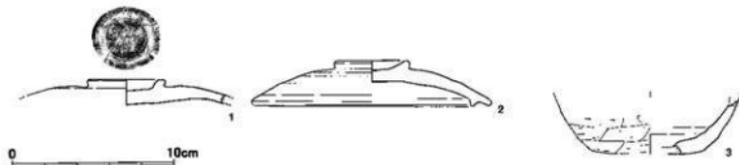
第37図から第38図に挙げた土師器甕及び甗、土製支脚は奈良時代の炊事に関係する遺物群であり、大量の土師器及び須恵器を廃棄しているこの2区黒色土溜りの性格を考える上で欠かせない要素と思われる。

その他の調査区の様相

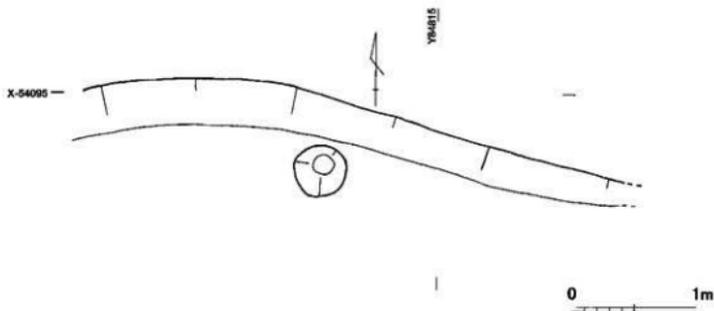
2区の東側部分には、西側で検出された黒色土の包含層はほとんど検出されず、遺物も出土しなかった。また、3区からは須恵器や土師器、陶磁器など若干の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。



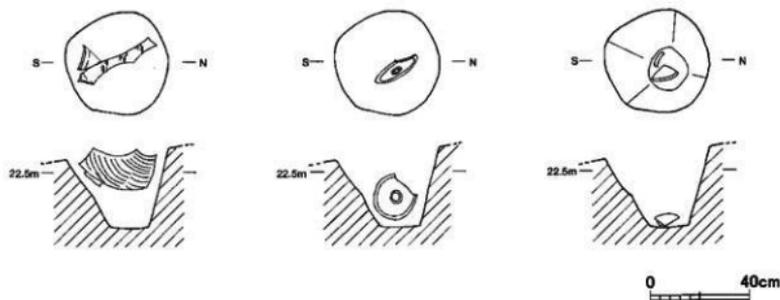
第15図 東前田遺跡2区土坑実測図 (縮尺1:40)



第16図 東前田遺跡2区土坑近辺出土遺物実測図 (縮尺1:3)



第17図 東前田遺跡2区須恵器埋納坑実測図（縮尺1：40）



第18図 東前田遺跡2区須恵器埋納坑遺物出土状況実測図（縮尺1：20）

土坑について

土坑の規模は長径1.35m、短径0.9m、深さ15cmで、平面形は不整形な隅丸長方形、断面形は弓弧状を呈していた。強いて表現すれば平面隅丸長方形の西側の短辺から溝状の掘り込み跡が付いている。これは本体よりも浅い。白石もしくは砥石と思われる石製品（第15図右の遺物、実測図第39図2）が出土した。あるいは墓穴であった可能性も考えられる。

土坑については、それ自体からは遺構の時期を示す遺物は出土していない。しかし、周辺から出土した遺物を見ると2区の中では最も古い時期の様相を呈している。第16図に挙げた3点である。1は輪状摘みの付いた須恵器蓋環の蓋である。輪状摘みの内部に静止糸切痕をナデ消した形跡が観察できる。高広編年ⅢB期のものであると思われる。2は須恵器蓋環の蓋である。輪状摘みの蓋の口縁内面端部近くにかえりがあり高広編年ⅢA期のものである。3は須恵器甕の底部と思われる。高広編年ⅢB期まで残るものと思われる。土坑の時期は奈良時代前半までと思われる。

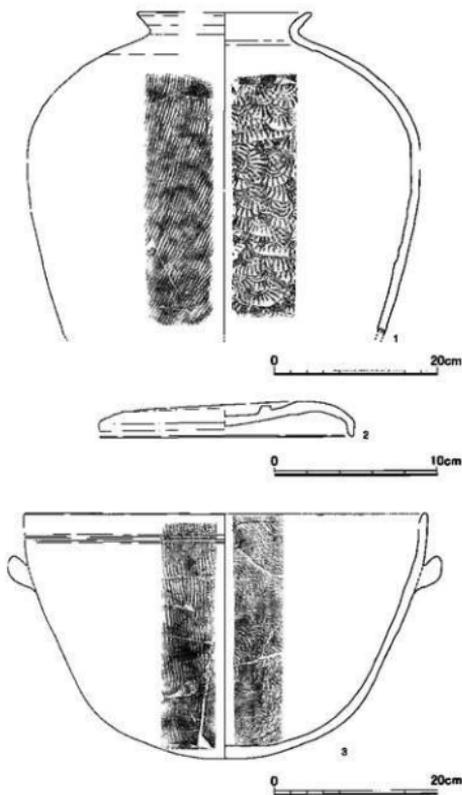
須恵器埋納坑について

須恵器埋納坑は直径30cm、深さ55cmの小穴で、遺構の概要、須恵器の出土状況は第17図及び第18図に示したとおりである。埋納坑の中に第19図に示した須恵器3点の破片もしくは全部が埋納されていた。最低部には把手付鉢（第19図3）の胴部破片が埋められ、その上に須恵器蓋（第19図2、ほぼ完形品）を横にして垂直に立てて埋め、その上にさらに、内面に車輪状タタキ目文を持つ須恵器甕の破片半個体分（第19図1）を埋め込んだものであった。埋土は非常にしまりが強かった。埋納坑を掘き固めた可能性を考慮するべきかもしれない。

第19図1 須恵器甕及び 第19図3 須恵器把手付鉢の破片は埋納坑のみならず埋納坑周辺の包含層からも出土しており、互いに接合して第19図に示すような形となる。甕の部位の中で埋納坑に納められていたのは胴部の破片で、口縁部は埋納坑の周辺及び2区黒色土溜りから出土している。合わせてほぼ半個体分となる。鉢の埋納坑に

納められていた部位は底部に近い胴部の極小部分であり大半は埋納坑の周囲の包含層から出土している。これも口縁から底部まで隙間なく接合するが、ほぼ半個体分にしかない。

第19図1は内面に車輪状のタタキ目文を施した須恵器甕である。口縁は低く外反しており、単純なつくりである。口径復元20cm、器高は残存40cmである。東前田遺跡で出土した須恵器のタタキ目、当て貝痕で同心円文以外の痕跡を残すものはこの第19図1に挙げた1点のみである。このような須恵器甕の例は鳥根県松江市大井町に所在する須恵器窯跡群として著名な大井窯跡群の山津遺跡I-2区包含層に出土例がある。8世紀後半の遺物と思われる。第19図1の須恵器甕とは外面の平行タタキ目文の溝も幅が若干違っており、器形も肩の張り具合がやや異なる。山津遺跡I-2区では同様なタタキ目を持つ甕も出土している。また、類似のタタキ目文として蜘蛛の巣状を呈するものも見られる¹⁶⁾。



第19図
東前田遺跡2区須恵器埋納坑出土須恵器実測図
(1甕と3鉢は縮尺1:6 2蓋は縮尺1:3)

消費地での類例としては出雲国府跡4号溝上面・上層出土遺物が挙げられる。第19図1の甕に比べて小形であり、タタキ目も放射状部分のみ残っており、中心部分の文様は定かでない。8世紀後半から9世紀初頭のものと思われる⁶⁶。

第19図2は須恵器蓋環の蓋である。非常に扁平で退化した輪状柄を持ち、体部の一部が焼け歪んで膨らんでいるが、器自体は全体に扁平なつくりである。器自体の径は15.3cmと比較的大きい。口縁端部を屈折して真っ直ぐ垂下させており、垂下させた端部の外反や内傾は見られない。輪状柄み内の切り離し痕跡は柄み貼付時の回転のようすしか確認できない。高広編年ⅣA期のもので8世紀前半から中葉にかけてのものである。

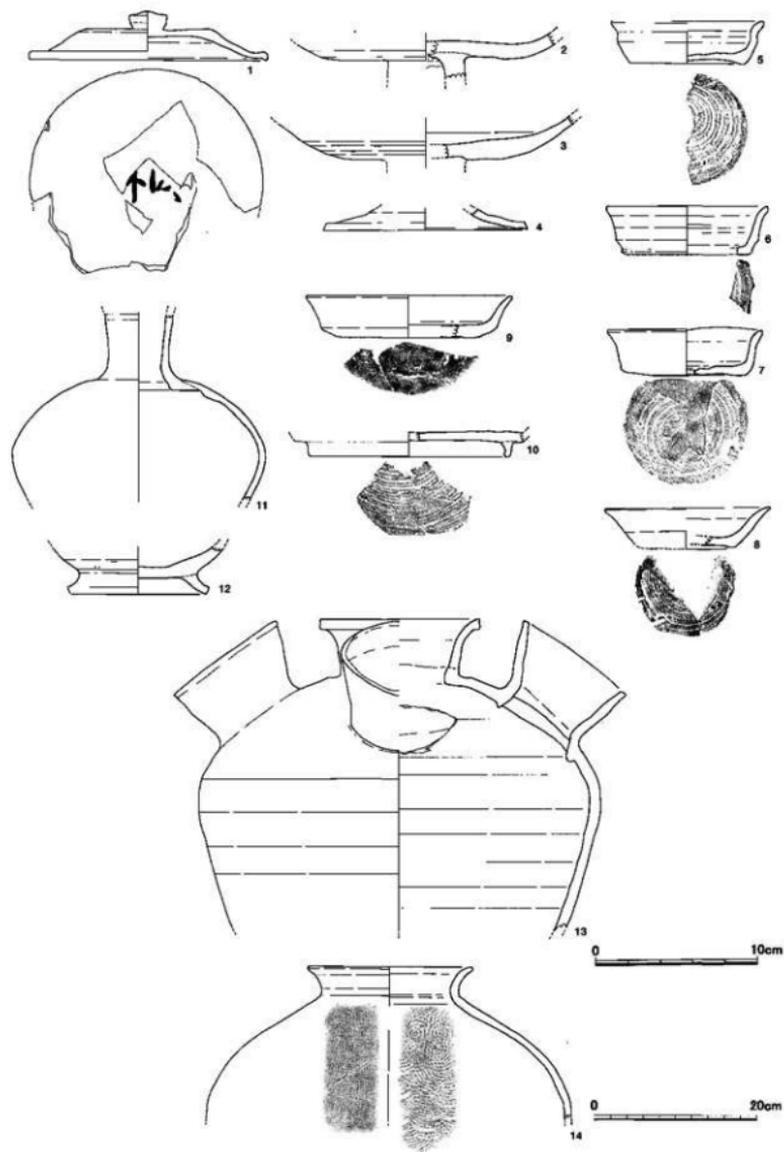
第19図3は須恵器把手付鉢である。口径復元49cm、器高30.5cmを測る大きなものである。比較的ゆるい丸底の底部から大きく斜め上方に直線的に開き、口縁近くでやや真上に引き上げている。鉢の口縁端部は丸く仕上げ、口縁端部からやや下がる外面に3条の沈線を巡らす。短く扁平な把手が体部のかなり上方、ちょうど大きく開いた体部が真上に向かって僅かに屈曲している部位に付く。外面は溝幅の広い平行タタキ目文、内面は同心円タタキ目文の当て具痕を残す。須恵器にしては焼成が軟質で明るい灰色を呈しており、器壁も厚い。丸底という形態から見て甕等にかかる調理具(鍋?)と考えられる。このような遺物の出土例はさしあたり以下の3例がある。

1例目は第19図1でも例を引いた山津遺跡E区西側包含層下層(赤褐色粘質土)中の出土遺物である。この須恵器把手付鉢は第19図3に形状がよく似ている。把手の形もほぼ同じと見られるが、接着部位が山津遺跡出土品のほうが若干下に付いている。大きさは口径36.0cm残存器高22.4cmと山津遺跡出土品のほうがかなり小さい。しかし、器壁は厚い。外面は溝幅の広い平行タタキ目文、内面は同心円タタキ目文の当て具痕が残る。色調は内外ともに灰色、焼成は良好とされている。用途は特定されていない。山津遺跡E区西側包含層(赤褐色粘質土)の時期は8世紀の遺物が大半を占める層とされている⁶⁷。

2例目は消費地として連行遺跡の東南斜面SD06上層出土遺物の例が挙げられる。連行遺跡は島根県松江市福原町に所在する東前田遺跡から比較的近い、松江市邑生町の中海沿いの丘陵に所在した。SD06は古墳の周溝とされており、下層からは古墳時代中期の土師器高坏などの遺物が出土している。鉢自体の形状は第19図3よりも低く扁平な形状で、色調は茶色から褐色を呈し、焼成は須恵器としては軟質である。須恵器把手付鉢が出土した上層からは7世紀後半から8世紀後半までの須恵器等の遺物が出土している。これらのSD06上層出土遺物は、上方の遺構である掘立柱建物跡等からの流入遺物とは考えにくく、何か古墳への祭祀的行為があった可能性が指摘されている⁶⁸。

3例目は島根県松江市玉湯町玉造に所在する岩屋遺跡Ⅱ区加工段4出土遺物の例である。第19図3と形状が非常によく似ているが岩屋遺跡出土遺物のほうが若干小さい。やはり須恵器にしては焼成が軟質で外面の色調は暗黄褐色を呈し、底部外面周辺のみ明黄褐色になっており、被熱痕とされる。このことから鍋としての使用が類推されている。8世紀前半のものとする⁶⁹。

第19図1の車輪状タタキ目文を持つ須恵器甕は類例から見て8世紀後半から9世紀初頭、第19図2の須恵器蓋環の蓋は高広編年ⅣA期で8世紀前半から中葉、第19図3の須恵器把手付鉢は類例から8世紀前半の年代観が得られる。これらの年代を考慮すると埋納坑の成立時期は8世紀後半以降に設定できることになる。



第20図 東前田遺跡2区須恵器埋納坑周辺出土遺物実測図
(13號縮尺1:6 その他の遺物縮尺1:3)

2区須恵器埋納坑周辺出土遺物について

次に、埋納坑と不可分の関係にあると見られる2区黒色土溜りの中でも2区須恵器埋納坑に近い位置から出土した遺物とその出土状況について記述する。

2区須恵器埋納坑の周辺から出土した遺物群中で凶化したものは第20図に挙げた須恵器14点である。1は擬宝珠柄の付いた須恵器蓋の蓋である。内面に墨書がある。2は須恵器高坏である。3は須恵器高坏の受部が浅く広いタイプのもと思われる。4は須恵器高坏の脚部と思われる。5～8は須恵器小坏である。6にはタール様の物質が付着している。9は高台のないタイプの須恵器皿である。10は高台の付く須恵器皿である。11は須恵器長頸壺である。12は脚の付く須恵器長頸壺の脚と思われる。13は須恵器多嘴瓶である。14は須恵器甕である。なお、14の須恵器甕のみ1/6の縮尺で掲示している。その他は1/3の縮尺である。

1の須恵器蓋の蓋は比較的高い擬宝珠柄を付け、平らな天井部から屈折して斜め下方に伸び、口縁端部に至って若干の平面を作って端部は僅かに折り曲げ、かえりを作っている。これらの特徴から高広編年ⅣB期8世紀後半から9世紀初頭にかけてのものと思われる。内面の墨書については、「ネ」(しめす)偏の一部が確認できるのみで字の特定はできていない。2～3の須恵器高坏については2が古い様相を見せていると思われる。

5～8に挙げたような須恵器の小坏については、島根県松江市矢田町来留美に所在する来美廃寺の調査で灯明皿とされ仏具に分類されるものがある⁹⁾。外面に回転糸切痕を残す底部から屈折して立ち上がり、若干膨らむかあるいは直線的に斜め上方に伸びて口縁を屈曲外反させているといった成形技法や大まかな形状は共通している。5は来美廃寺第2基壇出土品及び第3基壇出土品中に、6、7は来美廃寺5区出土品中に、8は来美廃寺第4基壇出土品中にそれぞれ類例がある。8世紀後半の遺物とされている¹⁰⁾。

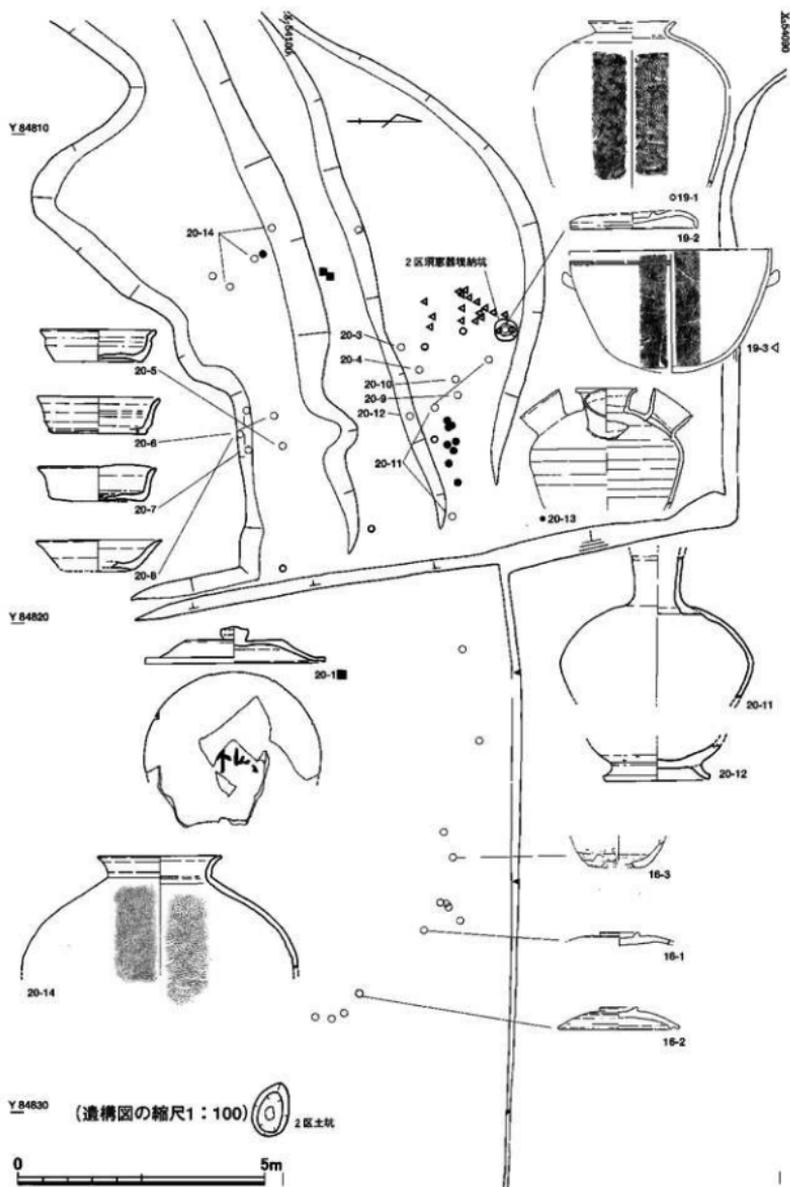
9の無高台の須恵器皿、10の高台の付く須恵器皿はともに高広編年ⅣB期のものと思われる。

13の多嘴瓶は残存器高19.7cm、同部最大径24.6cm、中央口径9.7cm小壺部分の口径7.7cmを測る。これも来美廃寺第2基壇燈籠跡に出土例がある。13は来美廃寺出土品と比べて口径が小さく頸部がしまっており、小壺が付く肩部の成形も来美廃寺出土品は小壺の接着部内に角張る肩のピークがある。そこから屈折して直線的に垂下してすばまる。これに対し、13は小壺接着部より下にピークがありなだらかで造形的に均整がとれていると思われる¹¹⁾。

14の須恵器甕は口縁は単純なつくりで、口径20.2cm、胴部最大径45cm、残存器高18.8cmを測る。胴部最大径が口径に対して大きい。外面に平行タタキ目文、内面に同心円タタキ目文の当て具痕を残す。

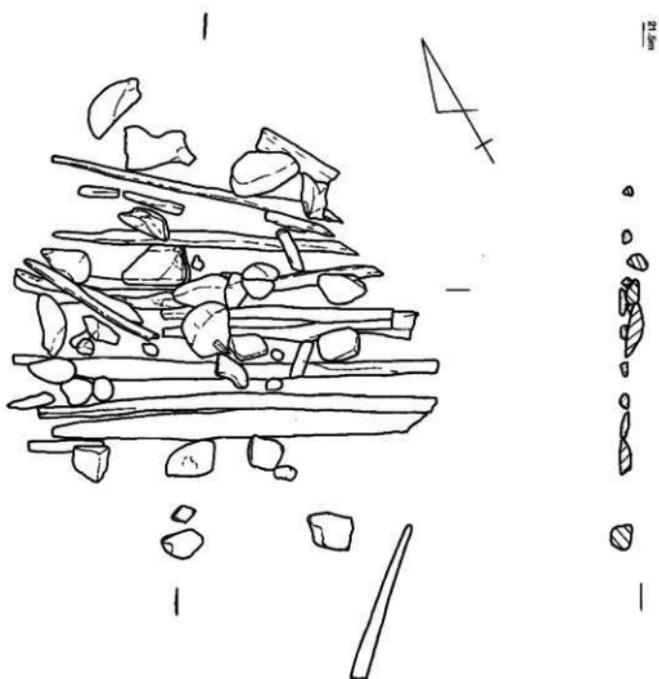
これらの須恵器は、第21図のように2区須恵器埋納坑周辺からこれを取り囲むように出土している。須恵器埋納坑は最も北にあってこれら出土遺物の頂点にあるかのようである。2区においては埋納坑より北側にはほとんど遺物が出土していない。埋納坑に近い位置では、第19図3の須恵器把手付鉢の破片の出土が多い。また、須恵器多嘴瓶を取り囲むように第20図に挙げた高坏、皿、長頸壺が出土し、少し下ったところから須恵器小坏(灯明皿)が出土している。

これらの須恵器を概観すると来美廃寺出土品、特に仏具として分類されているものの中に類例を求められるものが多く、その時期は概ね8世紀の後半以降と思われる。瓦類は一切出土していないが、寺院あるいは当時の仏教に関わる何かの施設が極近隣に存在した可能性が高いと考えられる。



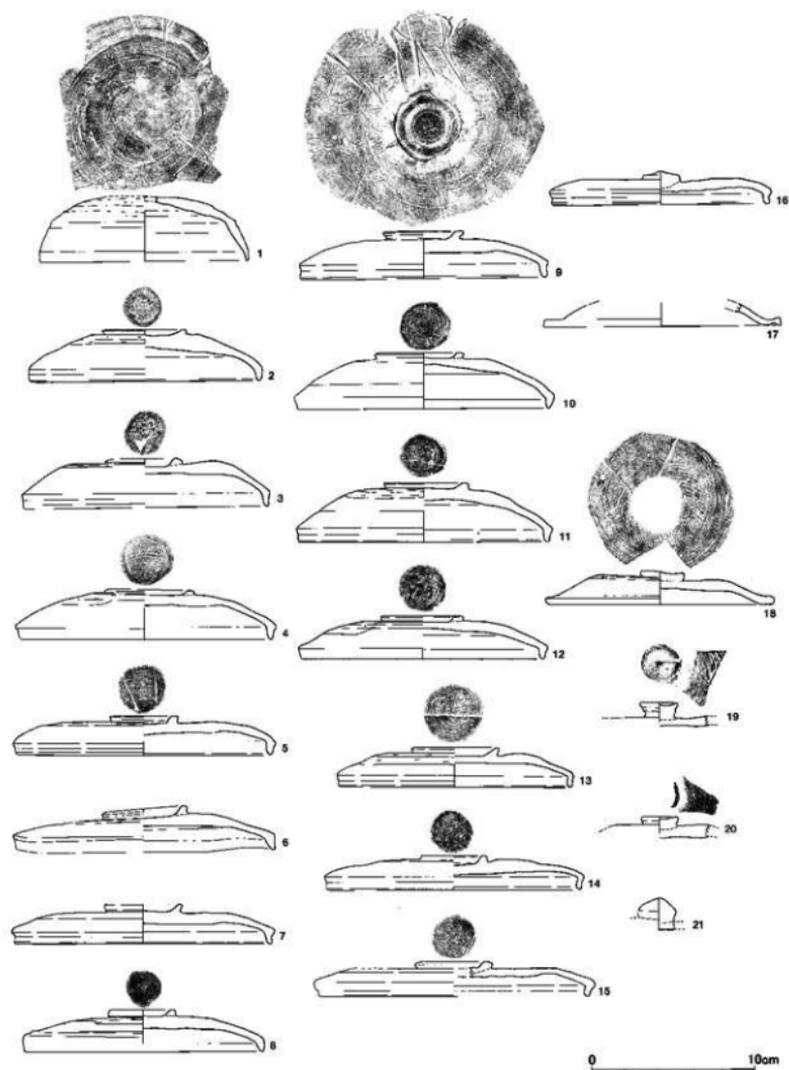
第21図 東前田遺跡 2区須恵器埋納坑及び土坑周辺遺物出土状況図

21.5m



0 50cm

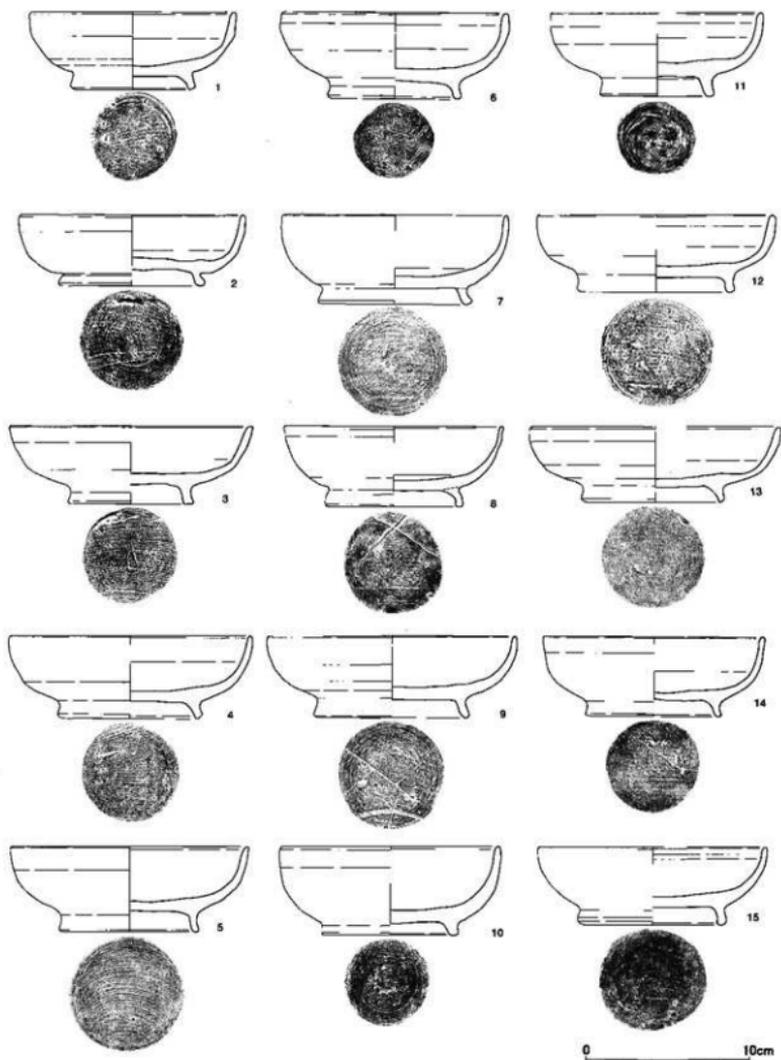
第22図 東前田遺跡2区木片及びび集石遺構実測図(縮尺1:10)



第23図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図1 (縮尺1:3)

木片及び配石遺構

2区黒色土溜りのさらに下層で第22図に示した木片及び配石遺構を検出した。60cm前後の細木と幼児の拳大くらいの石を組み合わせたもので、凡そ1m四方の遺構であった。時期や用途を特定できる遺物は出土していない。

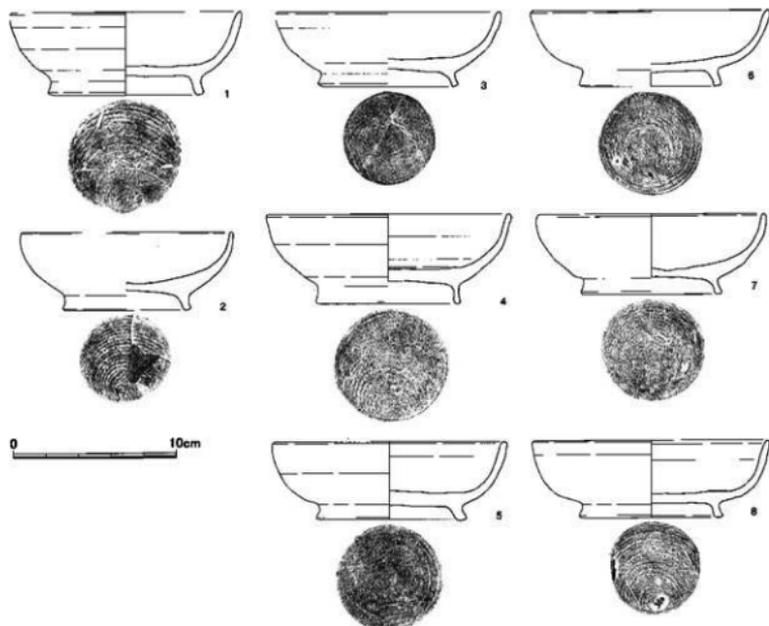


第24図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図2 (縮尺1:3)

2区黒色土溜り出土遺物について

2区黒色土溜りからは須恵器、土師器など多量の遺物が出土している。このうち円化したものは第23図から第40図に挙げたものである。

第23図に挙げたものは須恵器蓋環の蓋である。1は古墳時代後期のものである。2から15までは

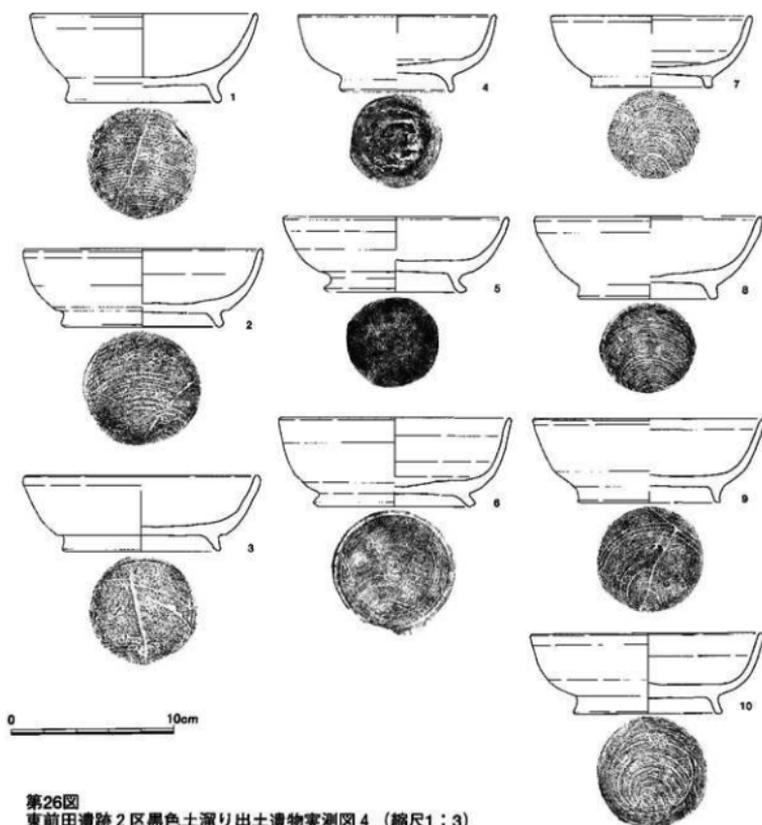


第25図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図3（縮尺1:3）

輪状握みを持つ蓋である。2から15まではすべて口縁外端部が屈折して下方に垂下する。真下に垂下するもの、やや外反するもの、内傾するもの内傾して外に屈曲するものなどがある。器高と断面形状にも全体がなだらかなカーブを描くもの、中部位が盛り上がって頂部が陥没しているもの、全体に扁平なものなどいくつかの傾向が見られる。また、輪状握みの径の大きさや付き方などにもいくつかの傾向があるように見受けられる。

16から20までは擬宝珠、ボタン状など輪状握み以外の形状の握みを持つ蓋である。16の切り離し技法は回転糸切である。擬宝珠握みを持ち、口縁端部は屈折して垂下し若干外反している。この点2～15までの特徴と共通する。全体に扁平で器高は低い。18～20は擬宝珠あるいはボタン状の握みを持つ一群である。犬井部のみでなく体部中部位まで回転糸切痕が残っている。18はかえりが退化して痕跡すらない、成形の最初から作っていないものである。一方17は18とほぼ同じ形態と思われるが口縁端部内面にわずかにかえりを残している。

2～15について成形技法の特徴を見ると次のようである。2から5は輪状握みの内側に静止糸切痕が顕著に残っているものである。このうち、5には静止糸切痕をナデ消そうとした痕跡も残っていると見られる。また、11, 13, 14は不明確ではあるが若干の静止糸切痕がみとめられる。このうち、11と14は静止糸切痕をナデ消していると見られる。同様に、9, 10, 12, 15は回転糸切痕を残している。このうち15は回転糸切痕をナデ消そうとした痕跡が残っていると見られる。2～15の蓋体部中部位から口縁にかけてはみな回転ヘラケズリである。



第26図
東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図4（縮尺1：3）

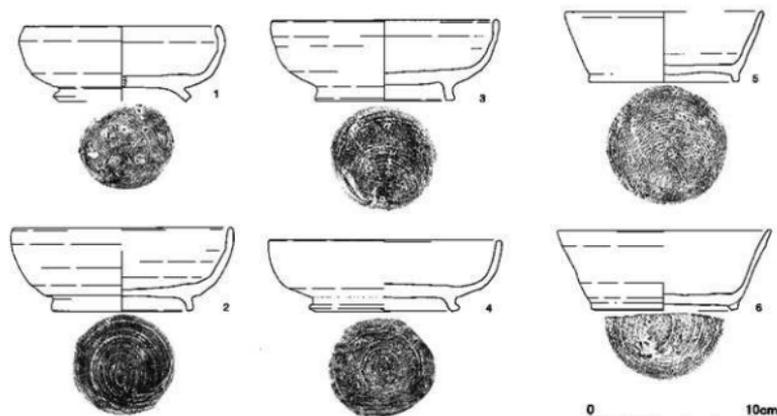
2～15について形態の特徴を見ると次のようである。2, 4, 8, 9～12の器形は全体に概ねなだらかなカーブを描き、器高も比較的高いものが多い。3, 5～7, 13, 14の器形は体部の中部位が盛り上がり頂部が陥没して見えるものである。15, 16は体部が全体に扁平で器高が低いものである。

形態から見ると全体になだらかにカーブを描く器高の高いものから中部位が盛り上がり頂部が陥没しているものへ、さらに、全体に扁平なものへと移り代わっていくように見える。2, 4, 8, 9, 10, 11, 12から5, 6, 7, 13, 14へ、さらに15, 16への変容である。

また、輪状摘みから擬宝珠摘みへの変化も見られる。器全体が扁平であるという特徴が共通する15, 16において、15には径の小さい輪状摘みが付き、16には擬宝珠摘みが付く。過渡期的な傾向であろうか。

口縁下部のかえりが形骸化して消滅する変化も見られる。17から18への変容である。

2～16までは高広編年ⅣA期（8世紀前葉～中葉）までのもの、17～21は高広編年ⅣB期（8世紀後半～9世紀初頭）のものと思われる。



第27図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図5 (縮尺1:3)

第24図から第27図に挙げたものは須恵器蓋環の身で高台の付くものである。第24図に挙げた15点は体部が丸いもので、口縁を真上に引き上げて仕上げているものである。技法の特徴としては、すべての環が高台の内側に静止糸切痕を残している。このうち、1～5までは静止糸切痕をそのまま残しているが、6～15までは静止糸切痕をナデ消そうとした痕跡が見られるものである。

第25図に挙げた8点は、第24図に挙げたものと同じように形態的特長としては体部が丸いもので、口縁を真上に引き上げて仕上げているものである。技法の特徴としては、すべての環が高台の内側に回転糸切痕を残しているものである。1, 2, 7は回転糸切痕をそのまま残しており、他は回転糸切痕をナデ消そうとした痕跡が見られるものである。

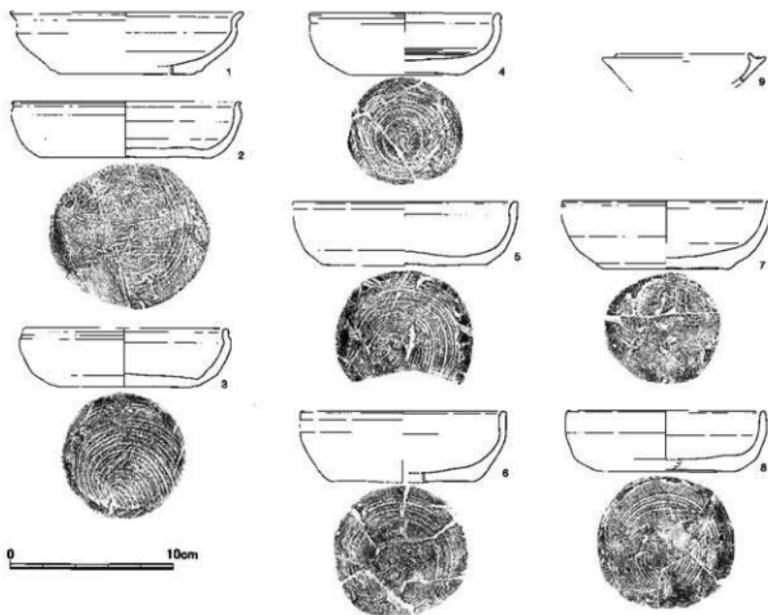
第26図に挙げた10点は、体部が丸みを帯びて立ち上がるものではあるが、第24図及び第25図に挙げたものに比べて直線的に斜め上方に伸び、口縁が開放したまま仕上げられているものである。技法の特徴としては1～3は静止糸切痕をそのまま残すもので、4～6は静止糸切痕をナデ消そうとしている痕跡が認められる。7～10は回転糸切痕をそのまま残すものである。

第27図に挙げた6点のうち、1～4は形態的特長としては体部が丸く立ち上がるもので、口縁が内湾する傾向にあるものである。技法の特徴としては4点とも回転糸切痕を残しているが、1と4は回転糸切痕をナデ消そうとした痕跡が見られる。5と6は体部が底部から屈折して立ち上がり、直線的に開放する形態のものである。2点とも回転糸切痕を残す。5は高台が底部外端部に付き、6は底部外端部やや内側に付いている。

これらの蓋環を概観すると、第27図5及び6以外の蓋環の身は高広編年ⅣA期（8世紀前葉～中葉）までのものと思われる。第27図5は高広編年ⅣB期（8世紀後半～9世紀初葉）、第27図6は9世紀前半以降のものと思われる。

第28図に挙げた9点は、高台の付かない無高台の須恵器環である。

9は古墳時代からの系譜を受け継ぐかえりの低い小形品の蓋環の身で7世紀中葉から後葉にかけてのものであると思われる。



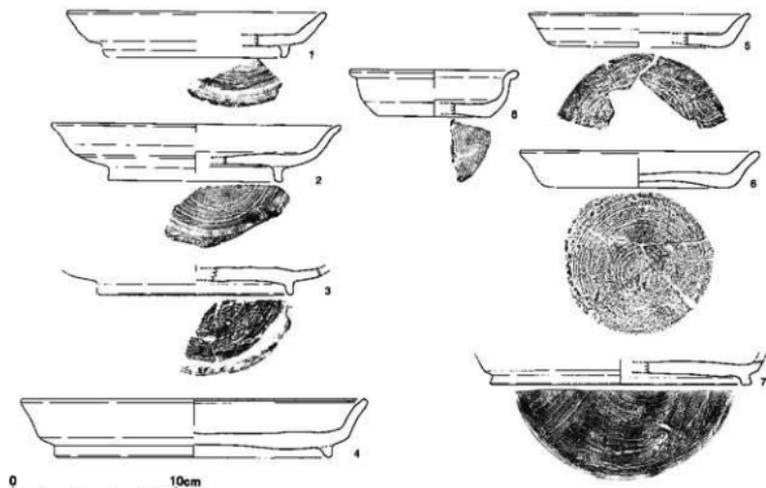
第28図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図6 (縮尺1:3)

第28図に挙げた1～8について概観すると、体部が丸みを帯びて立ち上がり、内湾するという形態成形の傾向は共通しているが、口縁の成形の特徴から4種類に分類することができる。1は口縁を大きく屈折外反させて仕上げている。2～4は口縁の内側が肥厚してやや外反し、口縁端部外面に沈線状のくぼみが巡る。5、6は口縁端部内面がわずかに肥厚するのみで外面に沈線状のくぼみはほとんど見られない。7、8は口縁端部を肥厚させることなくシャープに仕上げている。これら第28図9以外の須恵器坯はすべて回転糸切痕を残している。しかし、7のみ回転糸切痕を一部ナゲ消した痕跡がある。第28図1～8は蓋を伴わないもので高広編年ⅣB期までのものである。

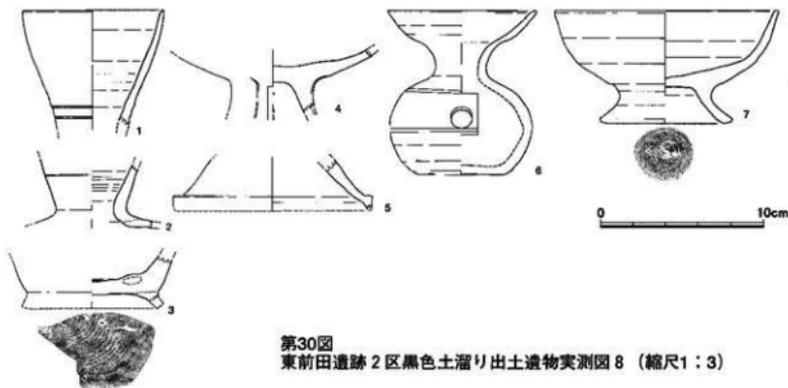
第29図に挙げたものは須恵器皿と小坏である。1～4及び7は高台の付くもの、5、6は無高台のものである。ただし、7は高広編年ⅣB期の坏の底部である可能性がある。8は須恵器小坏で灯明皿と思われる。

これらを概観すると、形態的には1、5、6は屈折して立ち上がり直線的で単調な口縁の仕上げとなっている。これに対し、2、4は底部から一旦丸みを帯びて立ち上がった後直線的に斜め上方に屈折し、やや外反して口縁にいたる。4についてはよく観察できなかったが、すべて回転糸切痕を残すものである。これらの須恵器高台付皿あるいは無高台皿は高広編年ⅣB期までのものと思われる。

8は第20図5～8同様米美庵寺に類例が求められる灯明皿と思われる。第29図8の場合は米美庵寺第3基壇出上品に類例が求められる¹⁰⁾。しかし、とくに第35図で挙げているようなタール様物質が付着している痕跡はない。



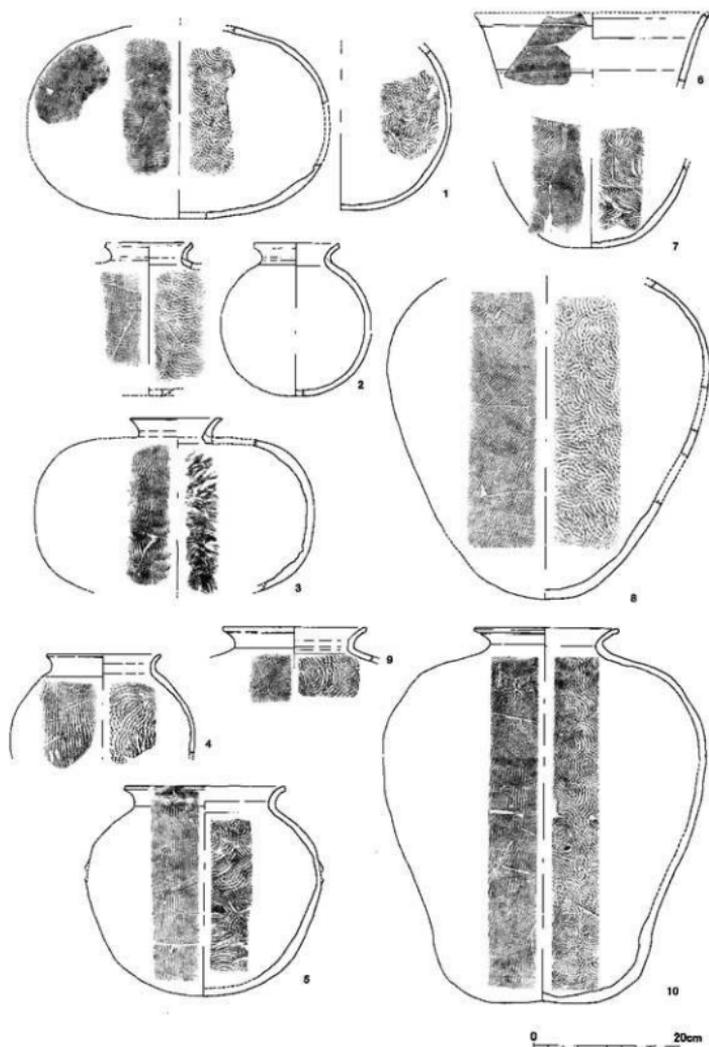
第29図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図7 (縮尺1:3)



第30図
東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図8 (縮尺1:3)

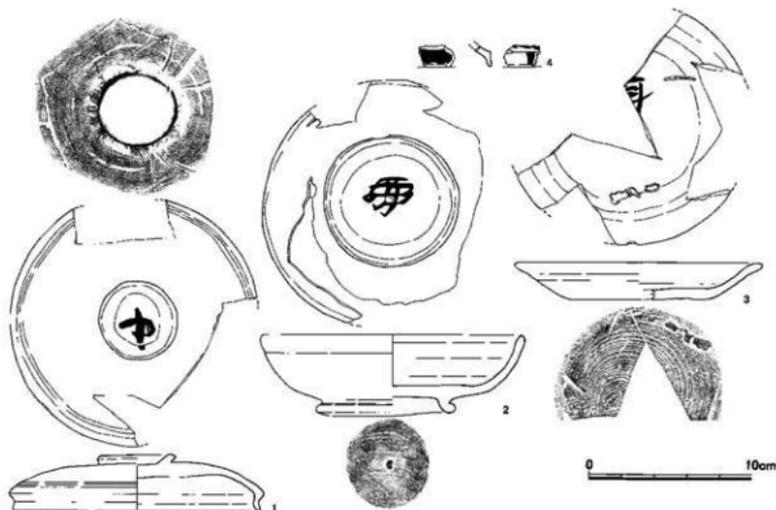
第30図に挙げた7点は2区黒色土溜りで出土した甕壺類、蓋環、皿以外の須恵器の器種である。

1は長頸壺の頸部から口縁にかけての破片である。2は1と同じく長頸壺の頸部、それも体部と頸部の接合部位付近の破片である。体部と頸部の接合の様子が観察できる。3はやはり長頸壺の底部から脚部にかけての破片と思われる。底部外面に回転糸切痕を残すものである。4は高環の受部と脚柱部の接合部位の破片である。おそらく痕跡的な切込みを入れただけの透かしの上端が残っているものと思われる。5はこれも4と同じく高環の脚部の破片と思われる。6は臚である。なだらかな曲線の形状である。体部の最大径と口径がほぼ同じである。8世紀前葉まで残るタイプのものであると思われる。7は高台というよりも脚の付いた低脚環のような形態である。体部は丸みを帯びて立ち上がり、斜め上方にほぼまっすぐ伸びている。脚接地部も口縁端部もやや角張った仕上げ



第31図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土物実測図9（縮尺1：6）

になっている。脚内部は脚を貼り付けたときのなでつけの痕跡をとどめるのみで切り離し技法の痕跡は観察できないように思われる。ほぼ完形に近い状態のもので、当遺跡からはこれ1点のみの出土であった。体部の形態から見れば第26図に挙げた一群に類すると思われるが特殊な用途が考えられるかもしれない。



第32図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図10 (縮尺1:3)

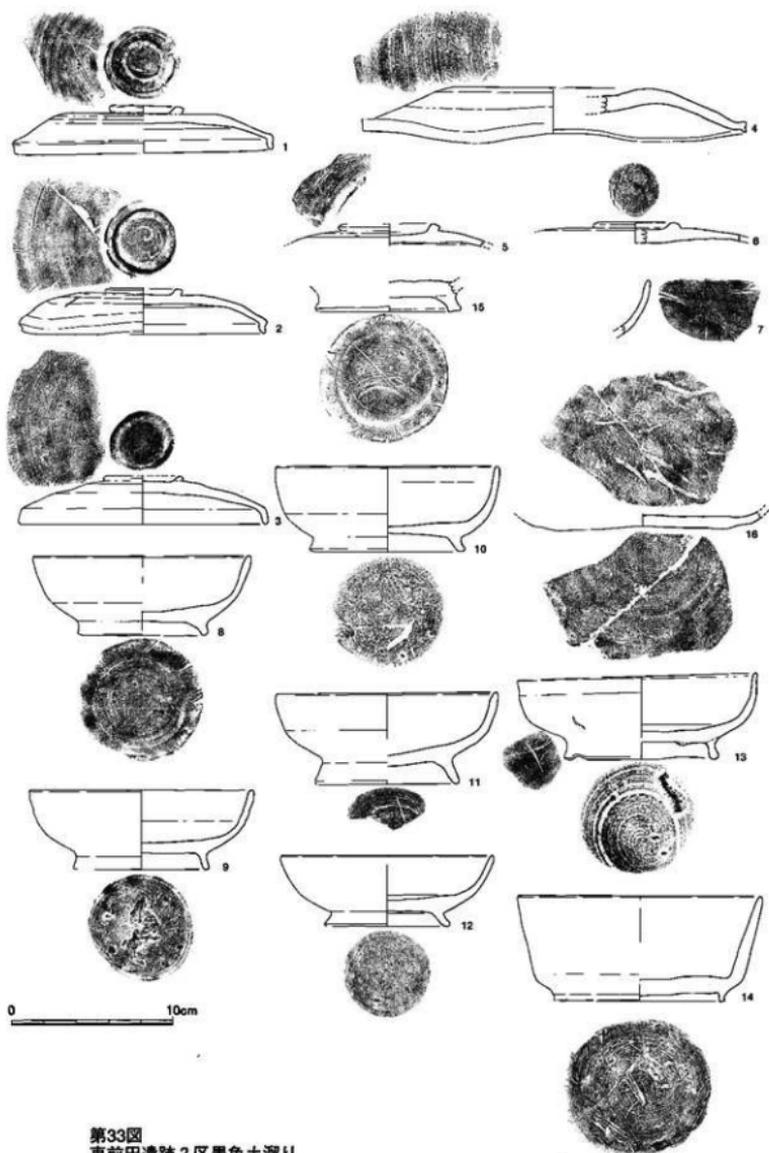
第31図に挙げたものは須恵器甕壺類である。

1～3は横瓶である。いずれも内面に同心円状タタキ目文を残す。外面には平行タタキ目文を残し、その上から縦にカキ目文が巡らされている。口縁や張り出し部の接合のようすが観察できる資料もある。8世紀まで残ったものと思われる。

4, 5, 7は壺である。4は体部の肩張りは弱くならかな形状で口縁は丸みを帯びて外反する。外面に平行タタキ目文、内面に径の大きな同心円状タタキ目文を残す。内外ともタタキ目の溝幅が広い。5は把手付壺である。体部はかなり肩が張るがピークは低い位置にある。その胴部最大径の位置に把手が付いていた痕跡が残る。口縁は丸みを帯びて外反する。外面に平行タタキ目文、内面に同心円状タタキ目文を残す。7は甕の底部の破片である。外面に平行タタキ目文、内面に同心円状タタキ目文を残す。底部下半にタタキ目文が縦横に入っているようすが観察できる。

6及び8～10は甕である。6は口縁部の一部を残すのみであるが、外面に波状文が見られる。古墳時代のものと思われる。8は口縁部を欠いているが半分以上遺存している。形態も肩の張りが強く、底部に向かって齊な曲線を描く優美なものである。外面の溝幅が狭く、丹念で精緻な平行タタキ目文、内面に同心円状タタキ目文を残す。一部自然釉がかかる。9は甕の口縁部のみである。

10は単純なつくりの口縁をもち、胴部というよりも胴部が強く張り出している。その曲線は胴部下半の底部近くに至り一旦弛みを見せる。外面に平行タタキ目文、内面に同心円状タタキ目文を残す。この甕には、焼き上がった後に穿たれた人為的な穴が開いている。胴部から胴部上半にかけての横長楕円形の穴で横(長径)28.0cm、縦(短径)20.0cmを測り、胴部最大径が44cmのこの甕にしては大きなものと思われる。割れ口が非常に滑らかに連続しているようすが観察される。何かの機能を付加するためのものか、あるいは呪術的な意味があるのかもしれない。



第33図
 東前田遺跡2区黒色土溜り
 出土遺物実測図11(縮尺1:3)

墨書

第32図に挙げた4点は墨書あるいは墨痕のある須恵器の一群である。

1は輪状掴みの付く須恵器蓋環の蓋である。径の小さい輪状掴みの内側に墨書がある。体部は全体になだらかなカーブを描き器高は高い。口縁端部は垂下してさらに外反する。輪状掴みの内側に静止糸切痕を残すが、それをナデ消そうとした痕跡も見られる。他の部分は回転ヘラケズリである。高広編年ⅢB期のものと思われる。輪状つまみの中に書かれていた墨書は「小」と読める。

2は須恵器蓋環の身で高台の付くものである。高台内に静止糸切痕を残す底部外面に墨書がある。高台は低く外にめくれている。体部は丸みを帯びて立ち上がり斜め上方に伸びて口縁は開いて終わる。端部はややシャープに仕上げられている。第24図に挙げた一群の中に入るものと思われる。高広編年ⅢB期～ⅣA期（8世紀前半～中葉）のものと思われる。墨書はやや薄い墨蹟を追うことができる程度の濃度ではある。しかし、表された文字なり記号を判読できないでいる。

3は高台の付かない須恵器皿である。墨書は底部外面にある。回転糸切痕を明瞭に残すその底部から屈折して立ち上がった体部は真っ直ぐ短く伸び、口縁はわずかに外反する。口縁端部は丸みを帯びている。高広編年ⅣB期（8世紀後半）のものである。底部外面に記された墨書はおそらく「耳」の一部と思われるが、この一文字のみかどうかはわからない⁽¹⁰⁾。

4は須恵器蓋環の蓋の垂下した口縁端部の破片と思われる。内外面にそれぞれ墨痕がある。

このほかにも、図示していないが墨痕のある土師器皿底部破片が1点確認されている。

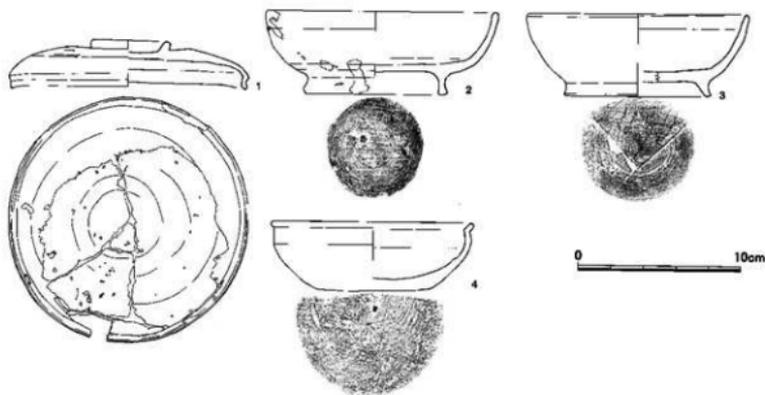
2区では、第20図1に挙げた1点を含めて、この第32図にも挙げた4点と土師器皿破片1点で計6点の墨書または墨痕を確認しているが、時期を奈良時代にほぼ限定できるとと思われる点以外には、器種や墨書の部位が多様であり、表された文字や記号にもそれぞれの関連性はうかがえず、一定の傾向は読み取れないように思われる。

ヘラ描き

第33図に挙げた14点はヘラ描きのある須恵器群である⁽¹⁰⁾。

1～6は輪状掴みの付く蓋環の蓋である。各個体のヘラ描きの位置と内容を概観すると、1は外面に「×」印、2は外面に「一」文字、3は内面に「*」記号、4は非常に径の大きな蓋の外面に「一」文字、5は外面に「×」印がそれぞれ刻まれている。6は輪状掴み内に「二」字あるいは短い直線（「一」文字）が2本と捉えるべきかもしれない。1～3は径の小さい輪状掴みが付き、体部は全体にカーブを描いて口縁端部が垂下する。器高は比較的高いものである。1、2は切り離し技法の痕跡を回転ナデでナデ消している。3は静止糸切痕を残すがその痕跡をナデ消そうとしている。この3点は高広編年ⅢB期からⅣA期、8世紀前半から中葉のものと思われる。4は非常に大形の蓋で、天井部を欠いているが、擬宝珠掴みが付くものと推測される。口縁近くには若干の平坦部が巡り、端部はほんのわずかに折り曲げられてかえりが嘴状に仕上げられ、痕跡的に作られている。高広編年ⅣB期、8世紀後半から9世紀初頭ごろのものと思われる。2及び4は工具等が偶然に当たった痕跡の可能性がある⁽¹⁰⁾。

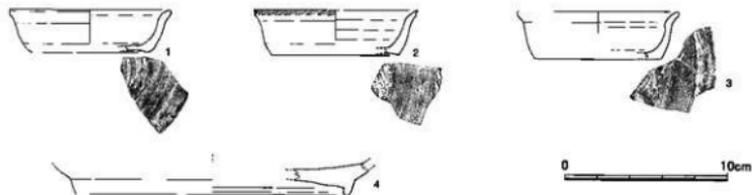
7～15までは須恵器蓋環の身である。7は不明だが、ほかはすべて高台が付くものである。各個体のヘラ描きの位置と内容を概観すると、7は口縁付近の外面に縦「一」文字、8は静止糸切痕をナデ消した底部外面の高台近くに「井」字が刻印されている。これは、總先が割れているためか二



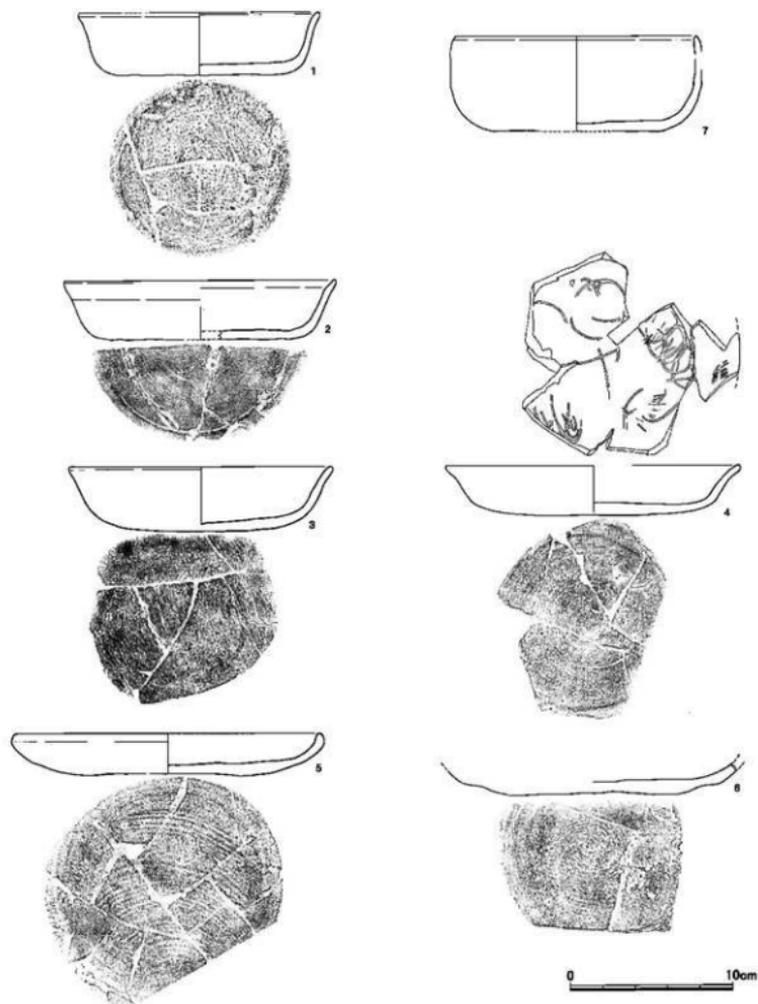
第34図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図12 (縮尺1:3)

重になった平行線が2本引かれ、それに直交する穂先のそろった2本の平行線がさらに引かれたものである。9は高台内両端にかかるとような細長い「X」印、10も高台内に比較的大きく「X」印、11は直線部分のみ見えている。12は高台内底部外面に「一」文字、13は体部外面の高台に近い下平にかけて縦に線が刻印されている。14は高台内の回転糸切痕を明瞭に残す底部外面に縦横の直線が走破しており、中に「X」印に見えるものもある。これは成形に関わる工具や施設装置に当たって偶然に付いた可能性が高いかもしれない。15は静止糸切痕を残す底部と高台のみの出土品であるが、高台内ほぼいっぱい「X」が二重に刻印されている。8～13までは第24図から第27図の1～4までに挙げた須恵器蓋坏の身のうち高台の付くもので体部が丸く立ち上がる一群に入るものと思われる。高広編年ⅢB期～高広編年ⅣA期、8世紀前葉から中葉にかけてのものと思われる。14は回転糸切痕を明瞭に残す底部から屈折して直線的に立ち上がりそのまま口縁にいたる。高台は端部に近い位置についている。高広編年ⅣB期、8世紀後半から9世紀初頭のものと思われる。

へら描きの種類から概観すると、「一」文字が1、12の2点、「二」字が6の1点、「X」印が1、5、9、10、15の5点、「*」印は3の1点、「井」字は8の1点、その他へら描きかどうかが不明なものあるいは記号の全容が不明なもの4、7、11、13、14の5点に分類される。「X」印が1/3を占める(その他及び不明品を除外して考えると半分を占める)勘定になる。このうち、8の「井」字

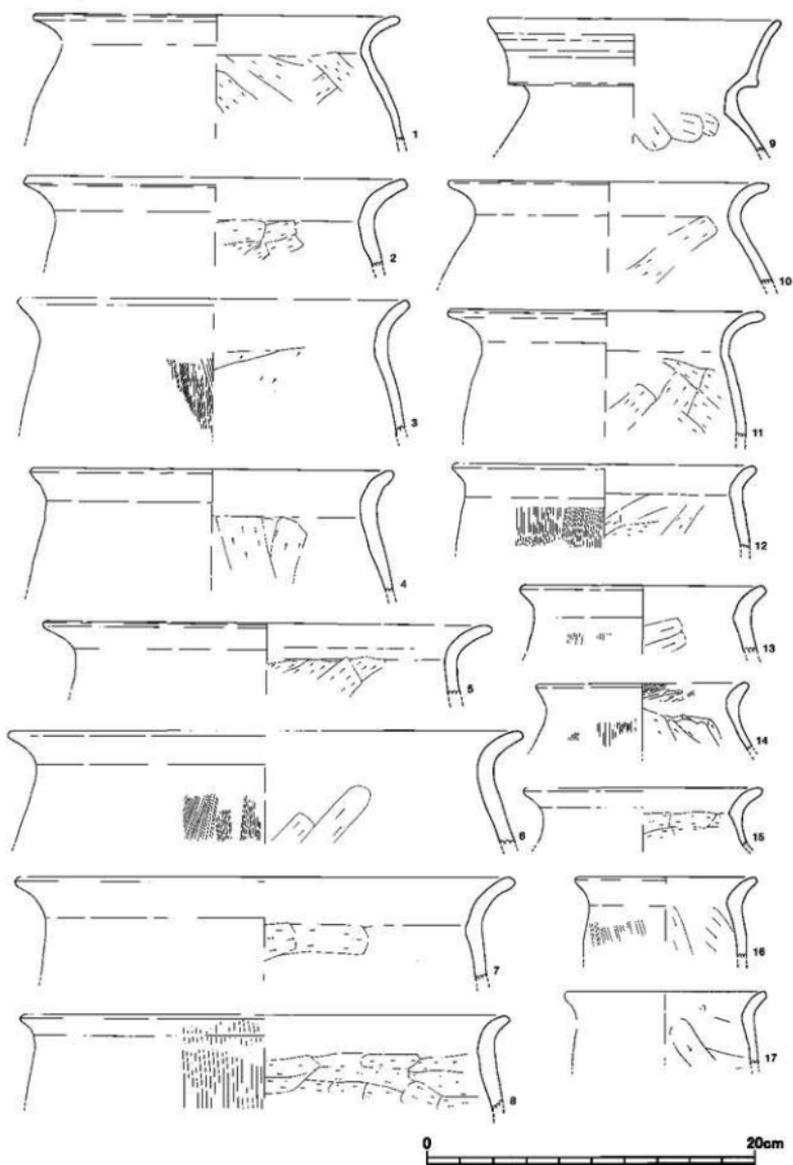


第35図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図13 (縮尺1:3)

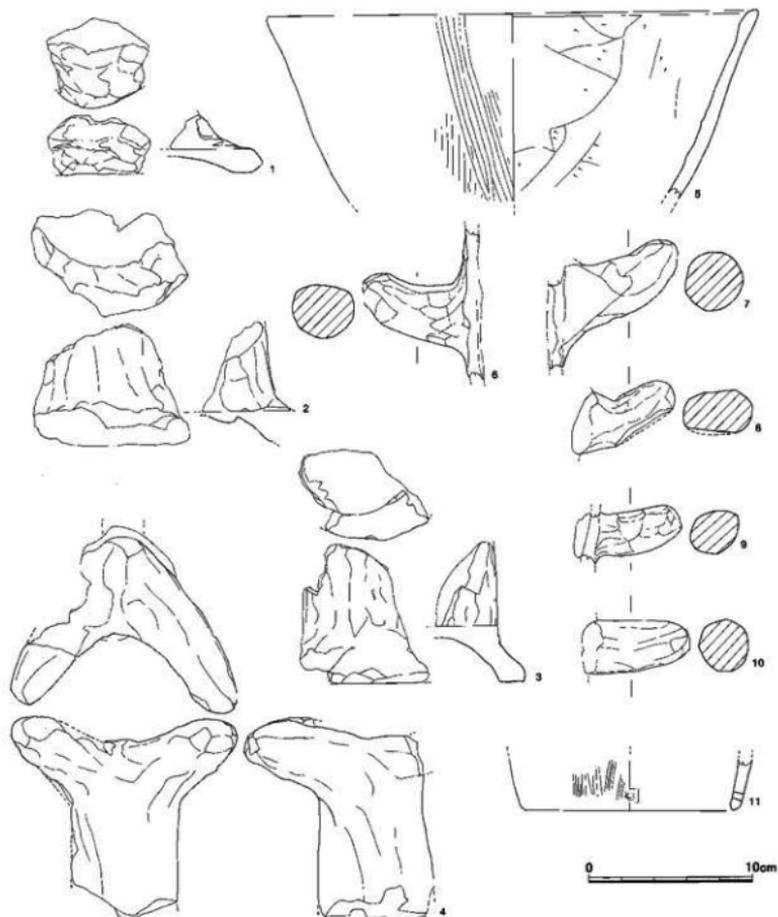


第36図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図14 (縮尺1:3)

を文字と捉えてよいかどうかはわからない。ヘラ描きの刻印された部位から見ると次のような整理ができる。蓋の外側に刻印されたものうち、頂部輪状構みの内側に刻印されているのは6の「二」字のみで、ほかは体部中部位あるいは口縁近くに刻印される。「*」印の3のみ蓋の内側に刻印されており、記号及び刻印の部位が他の須恵器と異なっており注目される。蓋坯の身のほうは、13が体部中部位に刻印されているほかはすべて底部外面の高台内に刻印されている。



第37図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図15 (縮尺1:3)



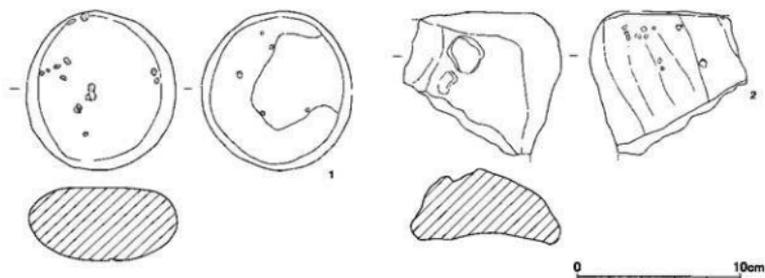
第38図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図16 (縮尺1:3)

漆附着遺物

生産に関わる遺物として第34図に挙げた4点の漆の付着した須恵器が出土している。

1は輪状つまみの付いた蓋環の蓋である。全体の形は体部中部位が盛り上がり輪状握みを含む天井部がやや陥没しているような印象がある。器高は比較的高い。漆はほぼ完形で出土した器の内側に広く付着し、垂下した口縁端部の内面に塗している部分がある。パレットとして使用された可能性が考えられる。

2, 3は体部が丸いものうち、高台の付くものである。2の底部外面には静止糸切痕、3の底部外面には回転糸切痕があり、それをナゲ消そうとした痕跡がそれぞれある。2には内部全面に漆



第39図 東前田遺跡2区黒色土溜り出土遺物実測図17(縮尺1:3)

の付着が認められることから(運搬)容器としての使用が考えられる。外面にも図示したような付着が見られる。3には底部外面に若干の漆の付着が見られる。その付着残存状況からパレットとして使用された可能性が高い。

4は無高台の坏である。第28図1と同じように、丸い体部、強く外反する口縁、外端部の沈線状のくぼみなどの特徴がある。4は内面の極わずかの付着で、工程外での付着が考えられる。これらの遺物は付近に漆を扱う施設があったことを示していると考えられる。この4点の須恵器の時期は高広編年ⅢB期～ⅣA期、8世紀前葉～中葉と思われる。

2区黒色土溜りから出土したその他の遺物

第35図に挙げた4点はいずれもタール様物質が付着していた遺物である。1～3は第20図5～8第29図8でも図示した来美廃寺5区出土遺物で仏具として分類される灯明皿に類例が求められるものである。4は十師器皿の高台部分の破片であるが、底部外面高台内にタール様物質が付着している。高台内を利用して灯明皿として使用していた可能性が考えられる。

第36図に挙げた6点は十師器環あるいは皿である。第33図16も上師器の皿である。図示したものはすべて赤彩され、暗文があるものと思われるが、暗文が観察できたものは4のみであった。図示できたのはこの7点であるが、出土した個体数はさらに多い。

第37図9は弥生七器で複合口縁の甕である。後期後半V-4様式のものと思われる⁹⁶。第37図のその他16点は上師器甕である。細片が多く、図化できるものは出土量に比べて少ない。1～5、7、8、11～13、16、17は口縁端部よりも胴部最大径のほうが同じかあるいは小さいと思われるものである。

第38図に挙げたものは甕あるいは甕の把手と思われるもの及び土製支脚など炊事に関わる遺物の一群である。1～4は土製支脚である。5は甕の上半部で、この下位で把手が付くものと思われる。7～10までは甕の把手である。11は甕の底部開口部であると思われる。開口部端の直上に穿たれた穴は榎木用小円孔と思われる。

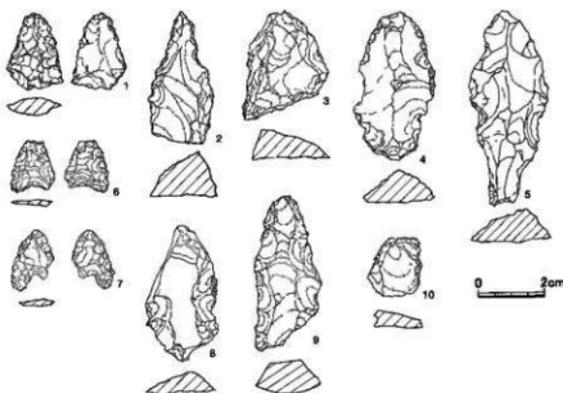
山陰地方では、西日本で最も土製支脚が使用された弥生時代後期～古墳時代初頭にはそれを用いず、西日本で土製支脚利用が衰退した古墳時代後期～奈良時代に頻繁に利用されるという現象を見せている⁹⁷。2区黒色土溜りから出土した土製支脚はここに図化した4点に集約されていると思われる。1～3は脚接地部の破片であり、全体像を復元できるのは4のみである。4は岩橋分類の

第3章 東前田遺跡

Ⅱ類（頂部の突起が3方向に延びるもの）に分類されるものである⁽¹⁰⁾。Ⅱ類は7世紀後半以降土製支脚の類型の主流を占めるタイプである。

第39図1は磨石である。同じく2は2区土坑出土遺物の砥石と思われるものである。

第40図に挙げたものは黒曜石製石器である。上段は1区の出土遺物、6及び下段は2区黒色土溜りから出土したものである。



第40図 東前田遺跡出土黒曜石製石器実測図（縮尺2：3）

総括

遺構としては掘立柱建物跡1棟など明確なものはきわめて少なく、このことは、遺構の営まれていた当時としても土地利用の限界を示しているものと考えられる。つまり、集落内の機能、役割の重要度は別として、位置的に河川などに面して集落の展開が一旦収束する縁辺部に当たると考えられるのである。

主要な遺物としては、時期的には奈良時代から平安時代初めごろにかけての遺物がほとんどであり、赤彩以外の土師器食器類や、白磁、青磁などは皆無に近い。このことは、2区の入り江状の地形が埋まった時期を示しているものと考えられる。また、この土層から、この時期以降の遺構、遺物が、近世までほとんど途絶している状況も興味深い。

2区からは、多嘴瓶や灯明皿など来美庵寺の仏具に分類されている出土品に類例を求めることができる遺物が、位置的にも2区黒色土溜りの一角にまとまって出土している。また、同じ一角から黒書土器など特徴的な遺物も出土しており、これらと合わせて何か仏教的祭祀を行う施設があったことが推察される。近接する芝原遺跡も含めて官衙関連遺跡の内容、それを構成する遺構群の構成を考察する上で重要な資料である。



第41図 東前田遺跡出土銭貨拓影（等倍）1.「咸平元寶」 2.「寛永通宝」

註

- (1) 『高広遺跡発掘調査報告書』 鳥根県教育委員会 1984年及び「山陰古代文字資料集成Ⅰ(出雲・石見・隠岐編)」鳥根県古代文化センター調査研究報告書第14 2003年 飛鳥時代以降の須恵器の編年は以下これによる。
- (2) 月羽野 裕「報告Ⅰ 出雲における9～10世紀の須恵器の様相」及び林 健亮「報告Ⅱ 史蹟山雲国府出土の上瀬について」『集平安時代前期の土器様相—中国地方を中心に—』 第4回山陰中世土器検討会資料 山陰中世土器検討会 2005年 9世紀～10世紀の上瀬編年については以下これによる。
- (3) 『芝原遺跡』 松江市教育委員会 1989年
- (4) 『大井宮跡群 山津宮跡・山津遺跡発掘調査報告書』 松江市文化財調査報告書第104集 松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団 2006年
- (5) 『史跡出雲国府跡1』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14 鳥根県教育委員会 2003年
- (6) 註(5)と同じ
- (7) 『馬場遺跡・杉ヶ橋遺跡・客山墳墓群・津行遺跡』 国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ 鳥根県教育委員会 2002年
- (8) 『岩尾遺跡・平床Ⅱ遺跡』 中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6 鳥根県教育委員会 2001年
- (9) 『来美庵寺』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書13 鳥根県教育委員会 2002年
- (10) 註(9)と同じ
- (11) 註(9)と同じ
- (12) 註(9)と同じ
- (13) 墨書判読に当たってはセンター職員平石 充及び久保田一郎の助言を得た。
- (14) 第33図16は十師蓋皿である。整理当初はヘラ描き土器に分類していたが、精査の結果ヘラ描きは確認されなかった。
- (15) なお、第33図4の径の大きな須恵器蓋碗の蓋については、写真図版28において輪状溝みを復元しているが、本文で述べられているように擬宝珠編みが付くものと推測される。
- (16) 松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年—山陰・山陽編—』 木耳社 1982年
- (17) 岩橋孝典「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について—土製支脚・移動式甕を中心として—」『古代文化研究』第11号 鳥根県古代文化センター 2003年から引用
- (18) 註(17)と同じ

第2表 東前田遺跡出土土器観察表(1)

群発番号	調査番号	種別	形名	出土地点	調査 層位	直径 (cm)	高さ (cm)	式年 (推定)	特徴	胎土	施文	色澤	備考
7-4	18	須恵器	灰合付片	1区東縁部瓦 埋蔵品	1	12.6	4.8	10-12	灰 瓦割テブ、ナブ 内面テブ、ナブ	黄	瓦割 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
12-1	18	須恵器	蓋	2区下遺跡跡	10	12.6	9.2	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
12-2	18	須恵器	灰合付片 3区	1区埋蔵品大 塚群	20	12.7	4.2	8-9	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
12-3	18	須恵器	片	1区埋蔵品大 塚群	10	11.2	7.8	9	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
16-1	19	須恵器	片蓋	2区上縁部	20	11.6	2.2	10-12	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
12-4	19	須恵器	片蓋	2区上縁部	30	14.6	12.8	4-7	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
16-3	19	須恵器	蓋	2区上縁部	10	10	0.0	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
19-1	19	須恵器	蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	40	20.0	16.0	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
19-2	19	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	30	11.3	2.2	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
19-3	19	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	40	46.1	30.1	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-1	20	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	14.3	2.8	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-2	20	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	12.4	1.6	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-3	20	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	12.7	1.6	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-4	20	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	10	11.3	12.4	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-5	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	9.2	2.8	7.8	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-6	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	5	9.8	3.1	8.1	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-7	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	50	9.3	2.6	7.2	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-8	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	30	10.8	2.4	8.8	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-9	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	16	12.8	2.8	8.8	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-10	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	13.0	12.8	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-11	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	11.8	8.8	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-12	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	20	13.0	8.2	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-13	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	40	8.7	13.2	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
20-14	20	須恵器	土皿	2区東縁部埋蔵品 須恵土	30	13.0	14.8	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土
23-1	21	須恵器	片蓋	2区東縁部埋蔵品 須恵土	40	12.8	4.6	10	内面テブ、ナブ	黄	黄赤 灰白	黄褐色	1区東縁部埋蔵品 須恵土

第4表 東前田遺跡出土土器観察表(3)

群発番号	遺物番号	種類	器種	出土地層	MPP	厚さ(mm)	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	観察	備註	色澤	備考
29-5	25	須恵器	平	2区黒色土層	40	12.8	10.2		18.2	内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	口縁部 磨面(1区黒色土層)
29-6	25	須恵器	平	2区黒色土層	30	12.8	4.3	8.4	18.2	内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	片取一断面 磨面(1区黒色土層)
29-7	25	須恵器	平	2区黒色土層	60	12.8	4.3	7.8	18.2	内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	片取 磨面(1区黒色土層)
29-8	25	須恵器	平	2区黒色土層	90	12.8	3.8	8.4	18.2	内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	片取 磨面(1区黒色土層)
29-9		須恵器	蓋形	2区黒色土層	8	8.1	(1.8)			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-10	25	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	20	13.5	11.2		11.2	内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-11	25	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	17.8	5.5	10.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	中央へ	磨面
29-12		須恵器	高付鉢	2区黒色土層	20	(1.7)	11.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-14	25	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	65	21.8	3.8	18.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	不良	口縁部
29-15	25	須恵器	皿	2区黒色土層	30	13.1	2.0	10.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	不良	口縁部
29-16	25	須恵器	皿	2区黒色土層	78	11.2	2.1	11.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-17		須恵器	鉢	2区黒色土層	30		1.6	10.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-18	25	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	10	10.0	2.8	8.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-19	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	8.4	(7.0)			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-20	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	20	(1.8)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-21	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	(1.7)	8.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-22	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	(1.8)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-23	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	5	(2.2)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-24	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	90	10.0	10.1	8.2		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-25	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	60	13.0	7.0	6.3		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-26	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	40					内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-27	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	(1.4)	21.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-28	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	(1.4)	21.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-29	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	70	11.0	14.0			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-30	26	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	10	21.8	28.6			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-31	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30					内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-32	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30					内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-33	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30					内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-34	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	40	(4.0)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-35	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	(1.0)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-36	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	19.2	11.2			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-37	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	65	14.9	3.4	5.5		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-38	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	13.8	10.1	8.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-39	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	13.1	2.3	9.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-40	27	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	8	(1.3)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-41	29-20	須恵器	平	2区黒色土層	70	13.9	2.9	4.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-42	29-20	須恵器	平	2区黒色土層	60	14.9	2.9	4.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-43	29-20	須恵器	平	2区黒色土層	70	14.2	3.0	4.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-44	29-20	須恵器	平	2区黒色土層	70	14.2	3.0	4.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-45	29	須恵器	平	2区黒色土層	40	(1.0)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	中央へ	磨面
29-46	29	須恵器	平	2区黒色土層	40	(1.5)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-47	29	須恵器	平	2区黒色土層	5	(1.0)				内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-48	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	70	13.2	4.9	7.4		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-49	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	50	13.8	4.1	8.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-50	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	40	13.3	3.3	9.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-51	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	20	12.4	2.8	8.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-52	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	13	12.8	4.4	7.2		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-53	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	65	14.5	5.3	8.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	中央へ	磨面
29-54	29-20	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	50	14.8	5.5	10.2		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-55	30	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	10	(1.0)	8.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-56	30	土師器	皿	2区黒色土層	30	(1.1)	10.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-57	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	65	14.4	3.8	4.9		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-58	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	13.9	5.2	8.4		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-59	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	30	13.4	5.1	9.4		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-60	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	20	11.1	4.2	6.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-61	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	5	9.8	2.8	7.1		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-62	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	5	10.0	2.8	7.1		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-63	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	5	9.7	3.0	7.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-64	31	須恵器	高付鉢	2区黒色土層	5	(2.1)	16.8			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	不良	磨面
29-65	32	土師器	平	2区黒色土層	73	14.3	1.9	10.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-66	32	土師器	平	2区黒色土層	30	14.5	3.7	12.8		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-67	32	土師器	平	2区黒色土層	30	16.8	4.1			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-68	32	土師器	平	2区黒色土層	30	17.8	5.1			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-69	32	土師器	平	2区黒色土層	30	17.8	5.1			内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面
29-70	32	土師器	平	2区黒色土層	30	16.8	2.5	10.0		内面にナツ	底, 100以下の砂状土層	良好	磨面

第4章 大谷口遺跡

第1節 平成14年度発掘作業の経過について

遺跡の位置

大谷口遺跡は松江市北部の福原町に所在する。烏根郡家に比定される芝原遺跡の国道431号をはさんで向かい側に当たる朝酌川沿いの狭小な水田部分で発掘調査を実施した。

発掘調査の経過

平成13年度の一次調査で割り出された大谷口遺跡の調査対象面積は5,050㎡であった。平成14年度においても強固に繁茂する巨大な雑草を除去するなどして調査環境を整え、順次本調査を進めていったところ大谷口遺跡の全調査対象区域を年内に調査し終えることは困難であると判断されたため、平成14年10月31日に松江土木事務所と協議の上、遺物包含層が確認された部分を3区画に分けて、比較的包含層が薄く、遺構密度も薄いと見られ、通行あるいは進入の比較的容易な1区(500㎡)及び2区(450㎡)については全域について本調査を実施すること。また、最も顕著な遺物包含層や建物遺構などが確認され、通行及び進入について比較的不便な3区については1区と2区の調査が終了した後、12月20日の調査終了予定日までできる限り調査を進めること。3区について平成14年度調査未了部分が残った場合は次年度以降本調査することとした。調査は予定どおり進み、3区の大部分については本調査を平成15年度以降に持ち越すこととなった。

調査経過の概略は次のとおりであった。

8月30日	大谷口遺跡1区調査開始
9月2日	1区包含層から埴杵(第48図1・図版39)出土
10月3日	1区包含層から木簡(第48図2・図版39)出土
10月22日	1区清跡検出
10月30日	2区調査開始
11月11日	3区調査開始
12月20日	大谷口遺跡平成14年度現地調査終了。3区に調査未了部分が残り、平成15年度以降に継続して本調査することとなる。

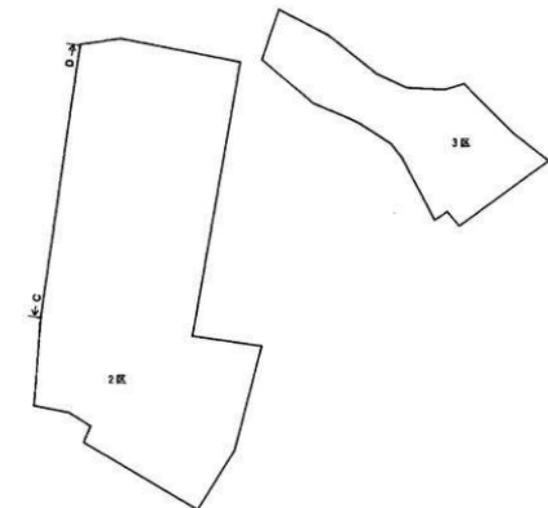
整理作業の経過

発掘調査中の整理作業は、調査員、調査補助員以外に、平成14年度は2名で実施した。平成15年度以降は川津バイパスの発掘調査事業のなかで実施した。報告書作成は平成18年度に持ち越された。石製遺物の自然科学分析は前遺物材料研究所に委託して実施した。

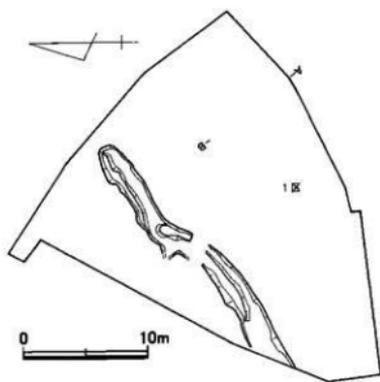
第2節 1区の調査

1区の様相について

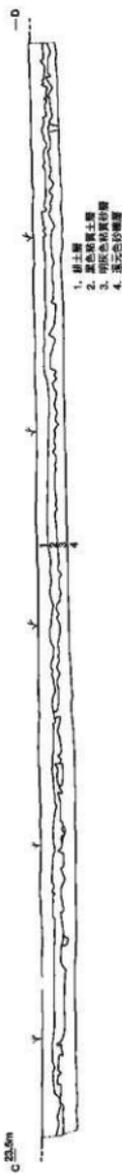
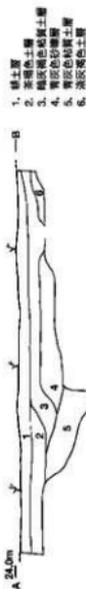
大谷口遺跡1区は、遺跡範囲の中で最も標高が低く、23.68m～23.94mを測り、朝酌川に沿う水田部分である。水田耕作土の下層には、特に山際で一部深くくぼむ遺物包含層が確認された。ここでは、砂礫層や砂層、シルト層、黒色土層などが、あるいは成層、あるいはレンズ状の互層となって複雑に堆積しており、度重なる土石流の痕跡を示すものかと思われた。また、これらの層は湧水が著しい。1区遺物包含層の分布範囲は、朝酌川と現況の排水路によって区画され、平面三角形を呈する。



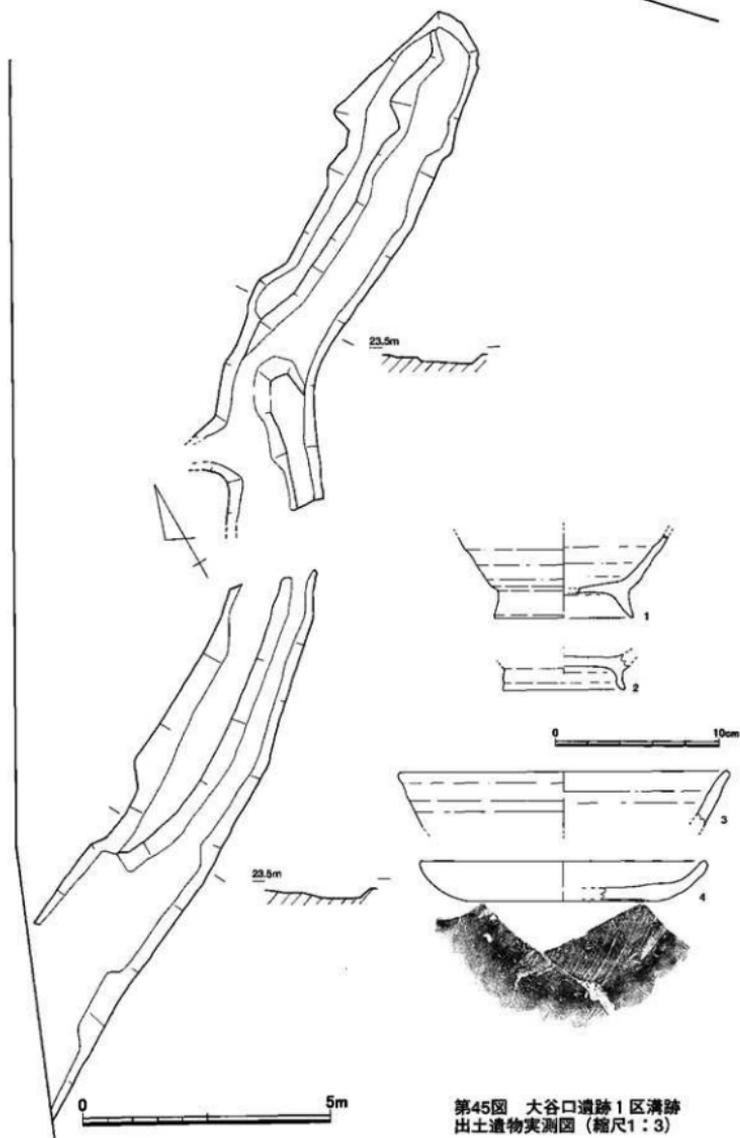
第42図 大谷口遺跡調査区平面図
(縮尺1:400 平成14年度調査)



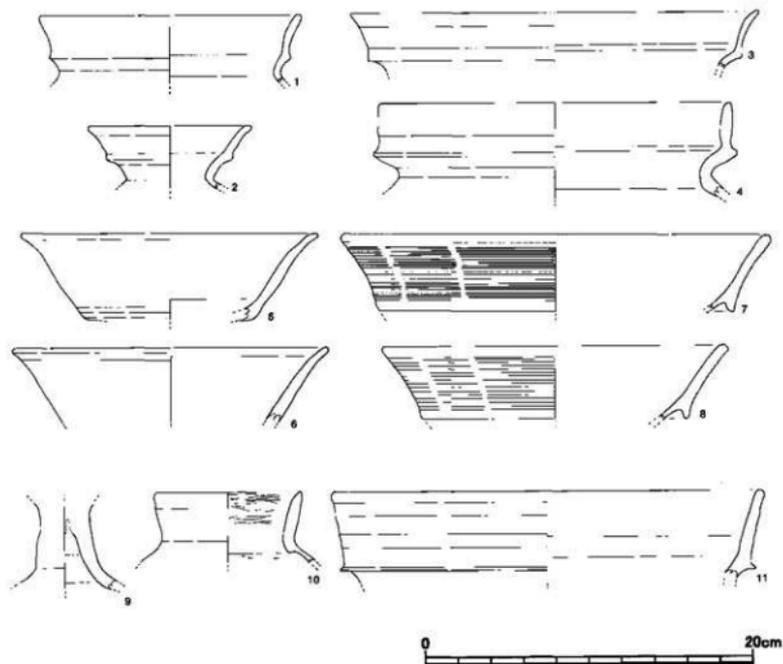
第43図 大谷口遺跡調査区土層断面図 (縮尺1:100)



第44图 大谷口遺跡1区溝跡実測図
(縮尺1:100)



第45图 大谷口遺跡1区溝跡
出土物実測図 (縮尺1:3)



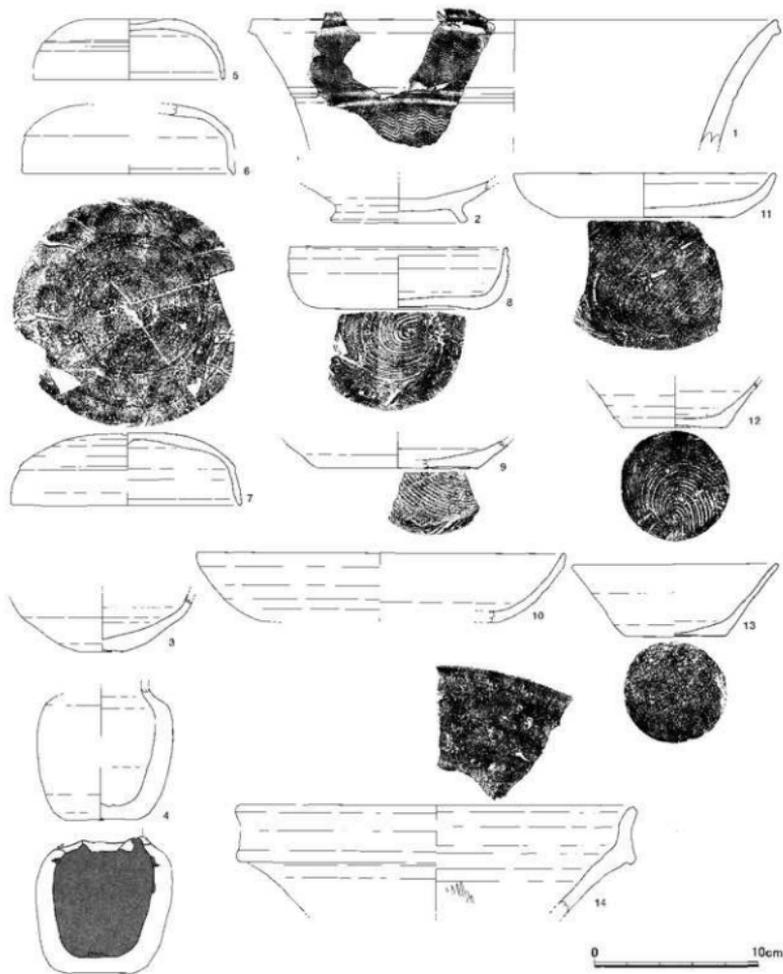
第46図 大谷口遺跡1区出土遺物実測図1 (縮尺1:3)

1区の遺構・遺物について

1区で検出された遺構としては、調査区内を北東から南西方向に走る溝跡が検出された。この溝跡は長さ23.5m、深さ5cm～20cmを測り、断面形は皿状もしくは四角形状を呈し、黒色粘質砂あるいは同様の土層に5mm～3cm大の砂礫が混じったものが堆積していた。第49図に一部示したとおり、この遺構に伴って第45図に掲げる土師器坏1点、黒色土器（内黒）碗1点及び須恵器壺口縁部破片1点、須恵器皿破片1点が、それぞれ出土している。

第45図1は土師器高台付坏で、口縁近くを欠いている。高台が高く体部はややふくらみを持って立ち上がり、斜め上方にまっすぐ伸びている。第45図2は黒色土器碗である。底部と高台を残すのみである。内黒で高台は高い。第45図3は須恵器坏の口縁と思われる。第45図4は須恵器皿である。残存率は1/2に満たない。体部はまるく立ち上がり器高は浅い。底部外面に静止糸切りの痕跡が見られる。8世紀前葉～中葉のものと思われる。

これらの遺物は、須恵器とそれ以外に時期が分かれており、溝の断面が2段になっていることと相関関係にあると考えられる。つまり、遺構の狭く深い段階には須恵器が伴い、奈良時代の8世紀前葉～中葉、溝の浅く狭い段階には土師器坏や黒色土器（内黒）碗が伴い、概ね平安時代9世紀後葉以降のものと考えられ、それぞれ遺構の存続期間内あるいは存続期間の終期に埋没したことが考えられる。

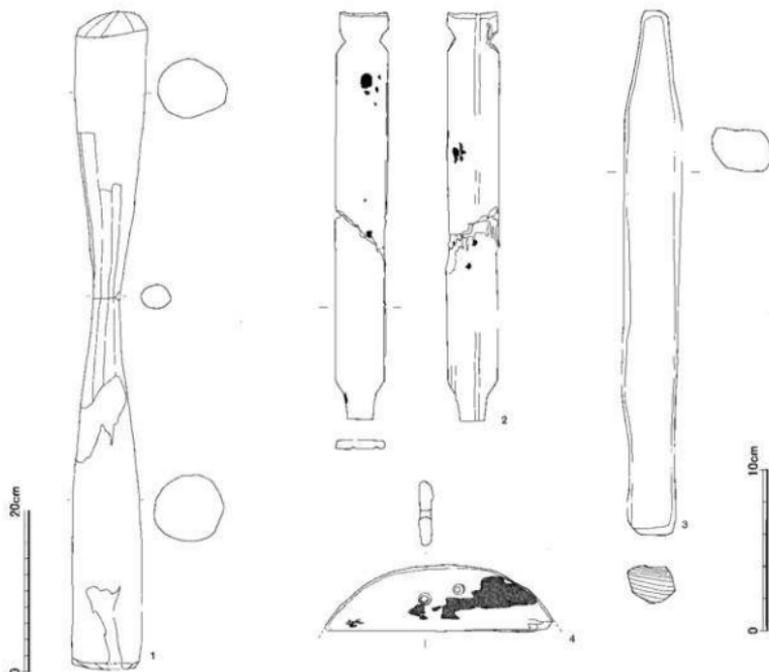


第47図 大谷口遺跡1区出土遺物実測図2 (縮尺1:3)

1区のおの他の出土遺物について

1区では、このほかにも、遺物包含層から540mm×340mm×150mmのコンテナ1箱分の遺物が出土した。遺物の種別は石器（黒曜石製、縄文時代～弥生時代中期 第51図3）、弥生土器（後期 第46図1～8）、木器（第48図1, 3, 4）、木筒（第48図2）、土師器（第46図8～11・第47図12, 13）、須恵器（第47図1～11）、中世陶器（第47図14）、などである。

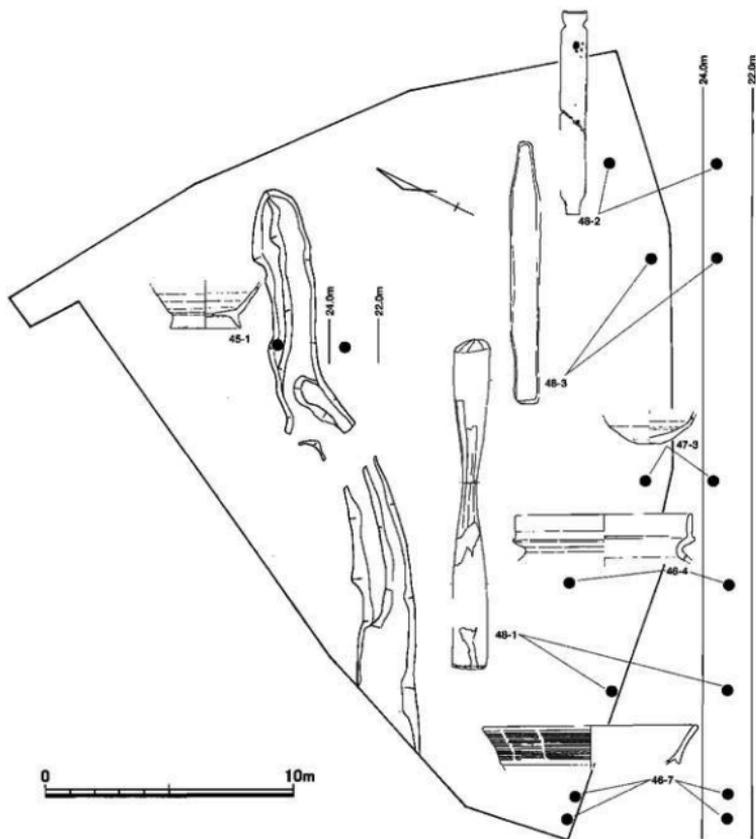
第46図1から6までは弥生時代後期V-4様式の土器である^①。1, 3は外傾する複合口縁の甕で



第48図 大谷口遺跡1区出土木器・木簡実測図（竪杵縮尺1:6そのほかは1:3）

2は壺である。4は複合口縁の甕であるが口縁がほぼ直立している。5, 6は鼓形器台の受部である。7, 8はV-2様式の鼓形器台受部である。外面に顕著な縦凹線文が巡る。9, 10, 11は古墳時代の遺物と思われる。9は高坏の脚柱部、10は口縁がほぼ直立する小形壺の口縁、11は口縁がやや外傾する甕の口縁である。

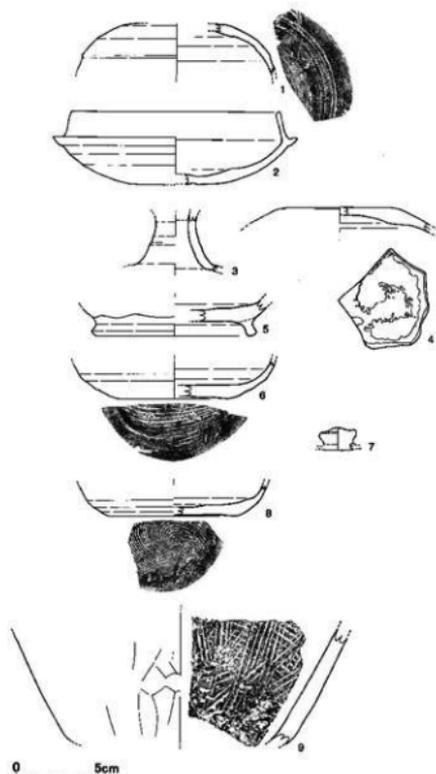
第47図は須恵器と土師器及び中世陶器である。1は須恵器甕の口縁破片である。外面に沈線に区画された波状文が見られる。2は須恵器壺の底で高台が付く。5から7は須恵器蓋坏の蓋である。5は大谷編年出雲4期^④6は同3期、7は同2期のもので古墳時代後期のものである。7は外面に「X」のヘラ記号が見られる。4は須恵器小瓶の半個体分であるが内面に漆がこびりついた状態で出土した。内面全体に付着していること、破断面にも付着していることなどから漆の運搬容器、また、パレットとしても使用されたものと思われる。破断面を若干研磨して平滑にしているようすもうかがえる。高広編年IV B（8世紀後半）以降のものである^④。3は高広編年III B期の坏（8世紀前半）と思われる。口縁部を欠いており、外面に形成時の指紋痕跡がある。8は高広編年IV B期、9は同IV A期の須恵器坏で、奈良時代から平安時代初葉にかけてのものである。12, 13は土師器坏で体部が直線的に立ち上がり、底部外面に糸切痕を残す。平安時代のもと思われる^④。14は備前焼の搦鉢である。乗岡編年中世5期a段階（15世紀後葉）のもと思われる^④。



第49図 大谷口遺跡1区遺物出土状況図
 (調査区及び遺構縮尺1:200 遺物縮尺は各掲載図版のさらに1/2)

第48図は木器あるいは木製品である。1は竪杵、2は付札木筒である。3、4は用途不明と思われるが、3は剣形、4は曲げ物底板などと思われる。

これらの遺物の出土傾向としては、第49図に一部示したように調査区の西寄りの比較的深い層から弥生土器と竪杵、東寄りの比較的浅い部分から須恵器と付札木筒、「剣形」木製品がそれぞれ出土しており、一定のまとまりを示しているものと考えられる。したがって竪杵は弥生時代後期後半に、付札木筒と「剣形」木製品については須恵器の時期の中でも奈良時代から平安時代初頭にそれぞれ比定できるとと思われる。



第50図 大谷口遺跡2区出土遺物実測図(縮尺1:3)

第3節 2区の調査

2区の様相について

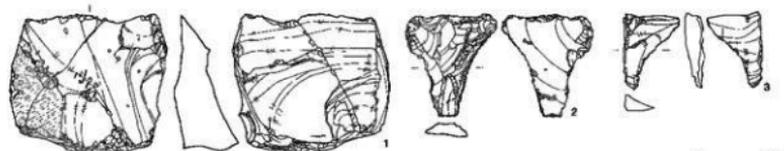
2区は1区よりも若干標高が高く、24.06m～25.09mを測る。土層観察の結果遺物包含層である黒色粘質土層の分布が確認された450㎡について表土から同層までを重機掘削した後人力による発掘調査を行った。遺物を取り上げながら黒色粘質土層を除去すると、拳大の礫を大量に含む灰色粘質土層となったが、多量の湧水のため掘削が非常に困難な状況となった。黒色粘質土層にも、その下の灰色粘質土層にも遺構はなく、遺物も650mm×450mm×170mmのコンテナ1箱に満たない程度の量であった。遺物の種別は石器(黒曜石製)、須恵器、土師器、近世以降の陶磁器などであった。

第50図1、2は大谷編年出雲4期の蓋坏で蓋の外面上には「X」印とさらに別に1条のヘラ描きがある。4は須恵器蓋坏の蓋で、内面に漆が付着している。パレットとして使用されたと考えられる。第51図1、2は2区灰色粘質土層から出土した黒曜石製石器である。いずれも使用痕のある剥片である。

(註)

(1) 松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年—山陰・山陽編—』木耳社1992年 弥生土器の編年は以下これによる。

- (2) 大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地城色」鳥根考古学会誌第11集 1994年 古墳時代の須恵器の編年は以下これによる。
- (3) 鳥根県教育委員会「高広遺跡発掘調査報告書」1984及び鳥根県古代文化センター調査研究報告書第14「山陰古代文字資料集成Ⅰ(出雲・石見・隠岐編)」2003年 飛鳥時代以降の須恵器の編年は以下これによる。
- (4) 廣江耕史「報告5 出雲の上層様相」『第5回山陰中世土器検討会資料集山陰における中世前期の諸様相—伯耆・出雲を中心として—』山陰中世土器検討会2006年 平安時代以降の土師器の編年については以下これによる。
- (5) 伊藤晃・桑岡実・石井啓・重松弘和・上内高登「中世陶器の物流—備前焼を中心として」『日本考古学協会2004年度広島大会研究発表資料集』同大会実行委員会2004年

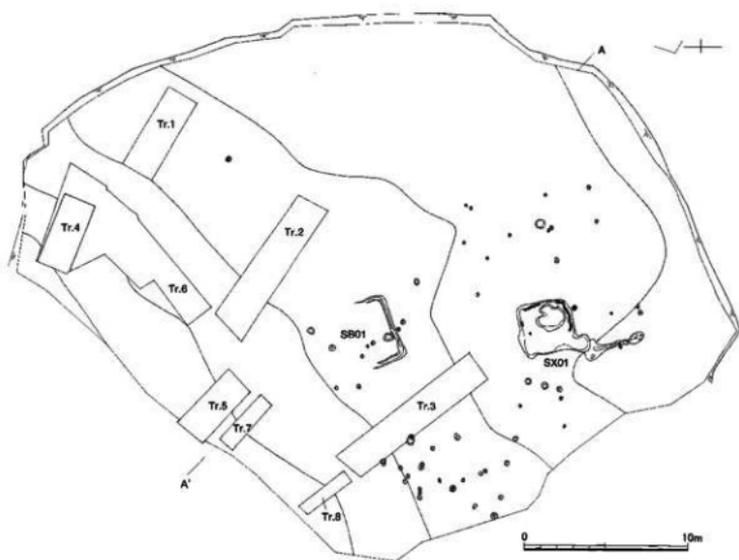


第51図 大谷口遺跡出土黒曜石製石器実測図(縮尺2:3)

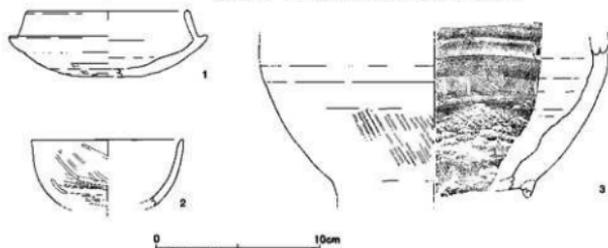
第4節 3区の調査

1. 調査の方法

3区は2区の東側、中嶺遺跡4区の西側に位置し、北側に朝酌川が流れている。遺跡は丘陵斜面である中嶺遺跡4区の下に広がる平坦な地形で、調査前には耕地として利用されていた。平成13年度にはトレンチを2か所、平成15年度にはトレンチを8か所設定し、その調査結果から1,000㎡を全面発掘調査対象地とした。全面発掘調査は調査員1名・調査補助員2名、発掘作業員14名の体制で平成15年度に実施した。トレンチ調査では遺構は確認されなかったが、採集した遺物から古墳時代から中世の集落遺跡が想定された。全面発掘調査では11世紀～12世紀の建物跡1か所と、7世紀中葉～8世紀初頭の建物跡1か所を検出した。ただし現地表面から遺構面までは浅く、耕作により遺構上面は大きく削平されていた。

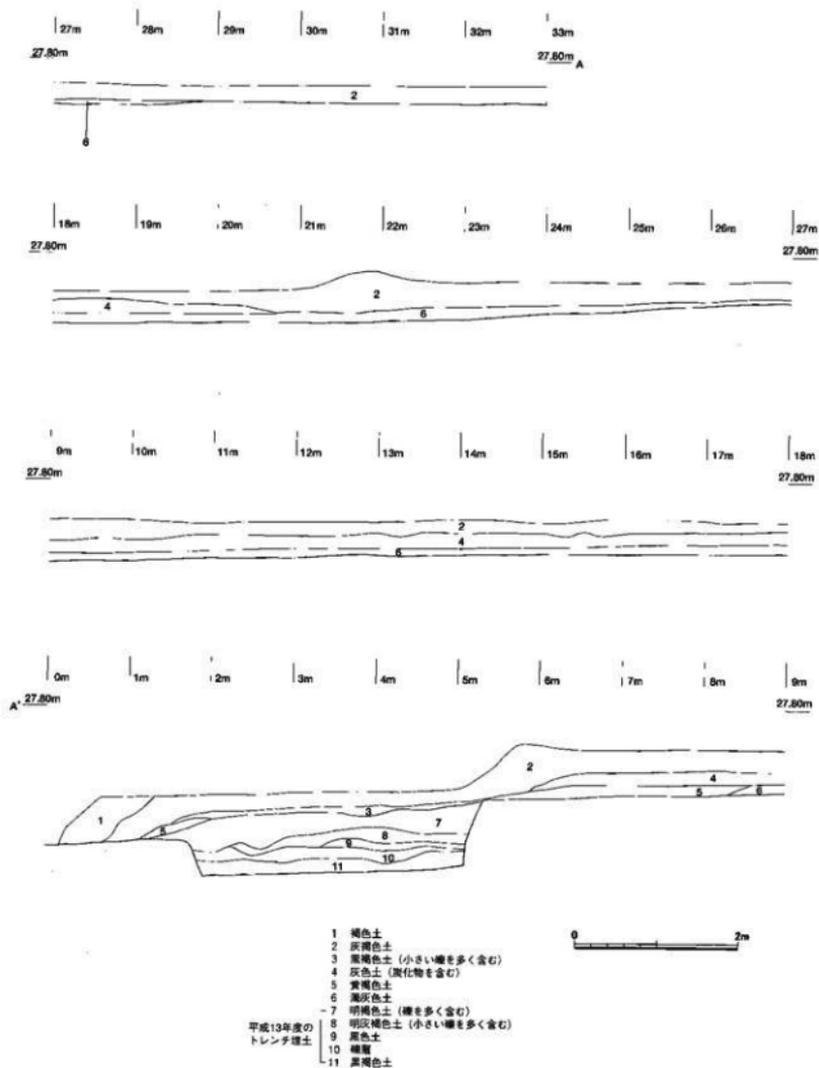


第52図 3区遺構配置図 (縮尺1:300)



第53図 3区トレンチ調査出土遺物 (縮尺1:3)

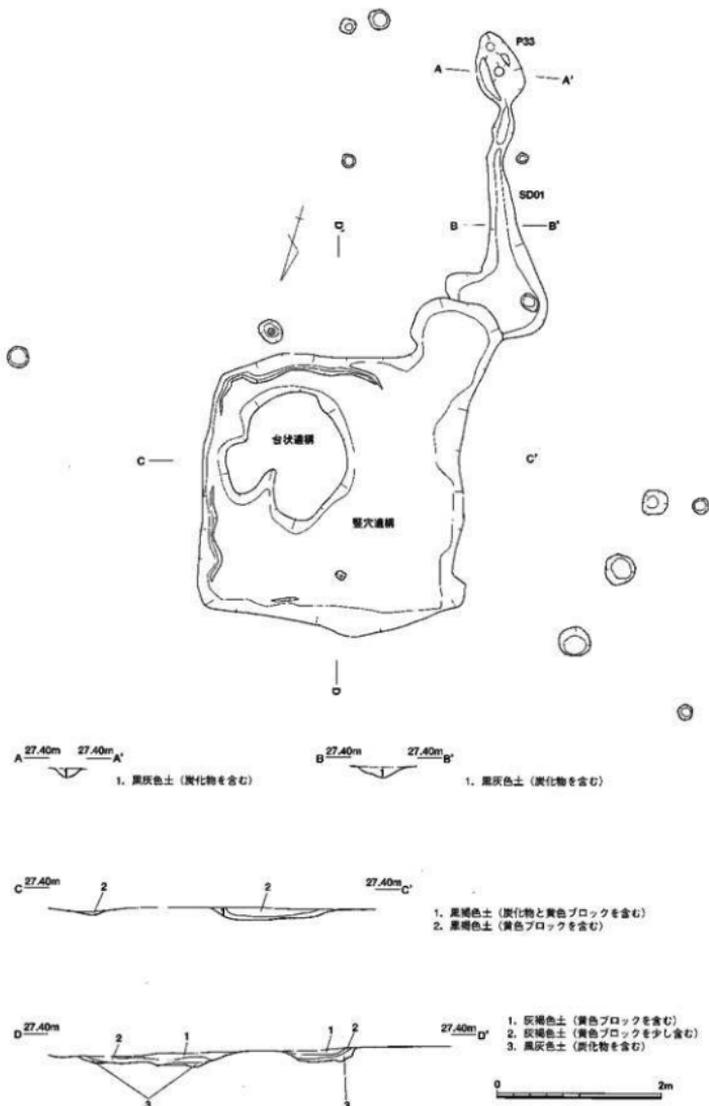
第4章 大谷口遺跡



第54図 中央セクション土層断面図 (縮尺1:60)

SX01

調査区の南側に位置する。SX01は、竪穴遺構、台状遺構、SD01、P33で構成されている。廃棄時期は床面出土の遺物から、11世紀～12世紀と考えられる。竪穴遺構の平面は隅丸方形を呈し、



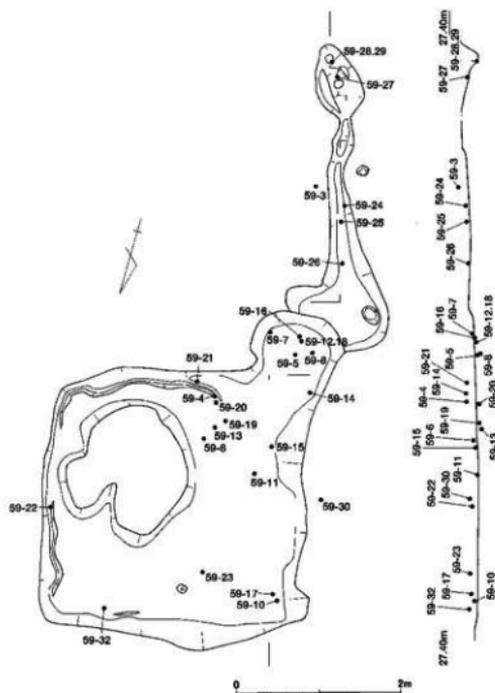
第55図 SX01発掘状況 (縮尺1:60)

第4章 大谷口遺跡

壁体溝を伴う。規模は床面で幅2.8m、奥行き3.0m、深さ16cmを測る。壁体溝は東側と、北側の一部で検出した。規模は上面で幅10cm、底面で幅4cm、深さ3cmを測る。

台状遺構は竪穴遺構の南東側に位置する。平面形は歪な円形を呈しており、上面で1.5m×1.6m、底面で1.6m×1.9m、高さ16cmを測る。制作方法は盛上によるものではなく、地山を掘り残す方法である。

SD01は南西隅からP33に向かって延びる溝状遺構である。竪穴遺構と連結する部分は幅広で段状になっている。遺構はP33に向かって細くなり、P33と連結する部分は14cmとかなり幅狭となっている。規模は長さ3.6m、上端の最大幅130cm、最小幅14cm、底面の最大幅80cm、最小幅8cm、最深部10cmを測る。



第56図 SX01遺物出土状況(縮尺1:60)

P33は楕円形で、三段畑である。規模は上面で90cm×56cm、底部は径10cm、深さ21cmを測る。

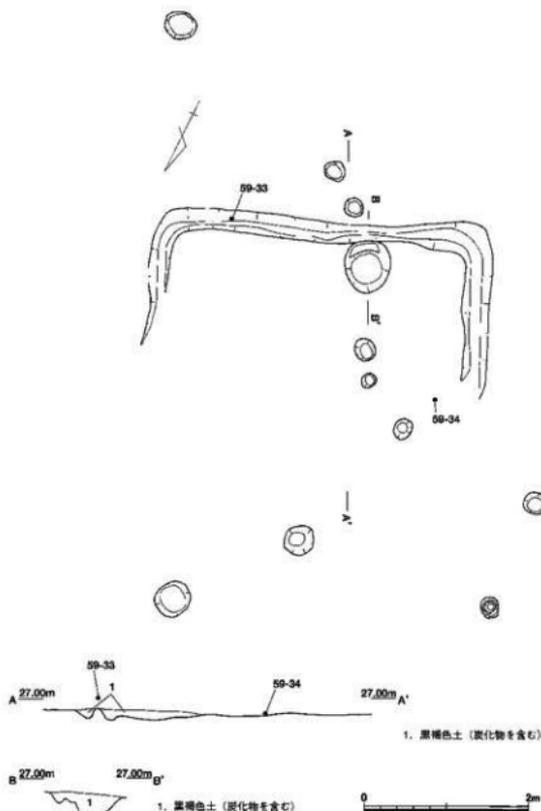
遺物は土師質の皿を中心として多量の上器が出土した。皿は無高台のものが大半である。特異な遺物に59-19がある。竪穴遺構から出土した土師質の皿で、底部には焼成前に穿孔された径1.0cm程の孔がある。胎土には砂粒を含まない。水筒した粘土をあまり捏ねずに整形した為であろうか、表面にはマーブル模様が観察できる。この他に注日される遺物としてP33から出土した59-27がある。土師質の高台付きの皿であるが、SX01出土遺物は割れた状態で出土しているが、59-27のみは割れていない完形品である。

遺構の性格は、壁体溝が竪穴遺構を廻るのではなく一部に認められるのみで、柱穴と思われるピットが無いことから建物跡とはしなかったが、建物が無かったとも断言できない。竪穴遺構の床面積は約9㎡であるが、台状遺構の床面積は約3㎡を測る。台状遺構は竪穴遺構の床面積の三分之一を占めており重要な施設と考えられる。ただし、遺構の上面は大きく削平されており、本来の竪穴遺構の深さや、台状遺構の高さなどは不明である。竪穴遺構に付属するSD01とP33の性格も不明である。特にP33は59-27が出土している点が注目される。出土遺物を見ると、祭祀性の強い59-19や、59-27を除く出土上器が全て破壊されている点から、SX01で祭祀行為が成されたと考えられる。ただしこの祭祀行為から、SX01が祭祀遺構であるとは断言できず、単にSX01を廃棄

する際の祭祀行為とも考えられる。現状ではSX01の性格は不明である。

SB01

調査区の中央に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。遺構の北側は流失している。また、上面も大きく削平されており遺存状況は悪い。遺構の廃棄時期は遺構埋土出土の遺物から、高広ⅡB期～ⅢA期と考えられる。規模は床面で幅3.9m、奥行き3.0m、深さ20mを測る。床面は水平で、壁体溝を伴う。壁体溝は上面の幅30cm前後、底面の幅5cm前後、深さ6cm前後を測る。壁体溝の中央には円形の土坑がある。土坑は壁体溝側に段を1つ持ち、上面は直径60cm、底面は直径40cm、奥行



第57図 SB01完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)

第4章 大谷口遺跡

き42cm、深さ20cmを測る。柱穴と思われるピットは無いが、壁体溝が遺贈残存部分を廻ることから建物跡と判断した。

出土遺物は図示した2点以外には、須恵器と土師器の小片が9点出土したのみで、SX01に比べると少ない。遺構廃棄に際して、土器廃棄を伴う祭祀行為は行われなかったと考えられる。図示したものは全て須恵器の坏で、底部にはナデ調整を施している。型式は2点とも高広ⅡBか高広ⅢAと考えられる。このうち59-29は床面出土遺物であるが、出土地点が遺構の端であり、流れ込みの可能性もある。

3. まとめ

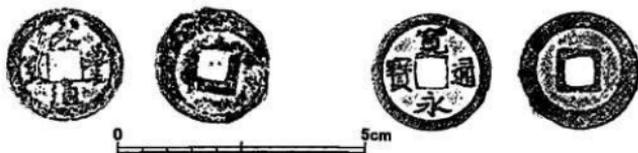
大谷口遺跡3区では、7世紀中葉～8世紀初頭の建物跡と、中世の遺構を検出した。遺跡の遺存状況は悪いので、本来は検出した遺構以外にも遺構が存在したものとと思われる。

7世紀中葉～8世紀初頭には、隣接する中嶺遺跡で建物跡が12棟も確認されている。大谷口遺跡の建物跡は中嶺遺跡と集落と連続するものと考えられる。

SX01の時期は、11世紀～12世紀である。芝原遺跡でも中世の遺構が確認されているが、中嶺遺跡では同時期の遺構はない。SX01の性格が不明であり、集落遺跡であるのかさえ不明であるが、この時期にも芝原遺跡との関連がうかがえる。

中世以降の出土遺物には第58図に示した銭貨があるが、遺構は確認できなかった。

大谷口3区の調査ではSB01を検出することによって、芝原遺跡の周辺集落を確認できたが、SX01の解明については課題を残した。

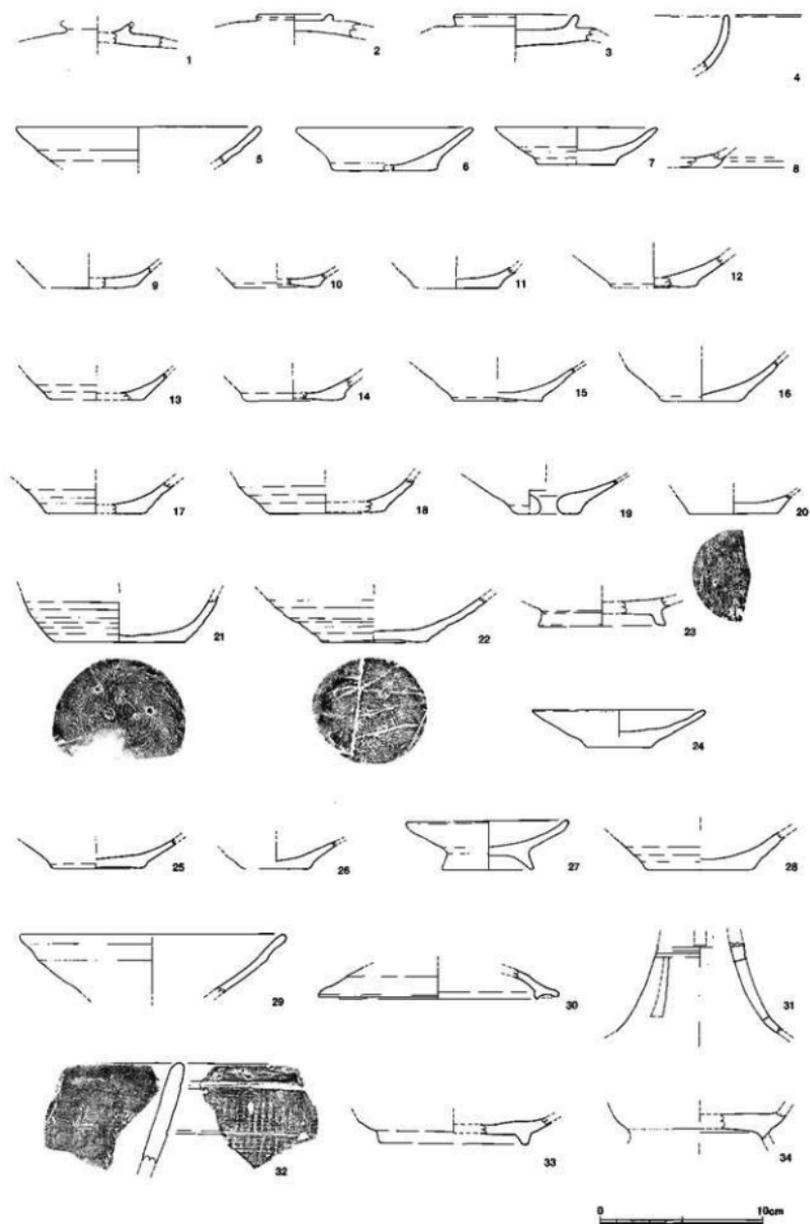


第58図 出土銭貨 (縮尺1:1)

参考文献

松江市教育委員会「芝原遺跡」1986年

松江市教育委員会「芝原遺跡」1989年



第59図 大谷口3区出土遺物実測図(縮尺1:3)

第12表 大谷口遺跡 3区出土土器観察表

調査番号	探検番号	種類	形状	出土遺構	層位	高野原(土層)	中層(土層)	表土層(土層)	調査区	調査	観察	形状	色相	備考
50-1	44	須恵器	杯	5201	溝	40	12.2	4.0			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-2	41	土師系土器	苜	5201	溝	20	8.5				外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-3	44	須恵器	壺?	5201	溝	30		11.3			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-4	44	須恵器	壺?	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-5	47	須恵器	杯	5201	溝	5					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-6	44	土師系土器	苜	5201	溝	95	10.6	2.7			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-7	44	土師系土器	苜	5201	溝	108	9.8	2.2			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-8	44	土師系土器	苜?	5201	溝	5					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-9	46	須恵器	皿	5201	溝	5					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-10	46	土師系土器	皿?	5201	溝	5					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-11	46	土師系土器	皿?	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-12	46	土師系土器	皿	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-13	46	土師系土器	皿	5201	溝	3					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-14	46	土師系土器	皿?	5201	溝	3					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-15	46	土師系土器	皿?	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-16	46	土師系土器	苜	5201	溝	8					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-17	46	土師系土器	苜	5201	溝	30					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-18	47	土師系土器	苜	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-19	47	土師系土器	苜?	5201	溝	30					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-20	47	土師系土器	皿?	5201	溝	20					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-21	46	須恵器	苜	5201	溝	90					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-22	46	土師系土器	苜	5201	溝	90					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-23	46	須恵器	苜?	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-24	46	土師系土器	苜	5201	溝	95	10.3	2.3			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-25	46	土師系土器	苜?	5201	溝	30					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-26	46	土師系土器	苜	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-27	46	土師系土器	苜	5201	溝	100	9.8	3.0			外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-28	46	土師系土器	苜	720	溝	50					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-29	47	土師系土器	苜?	720	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-30	46	須恵器	壺	5201	溝	5	11.1				外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-31	47	須恵器	壺	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-32	47	須恵器	壺	5201	溝	20					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-33	47	須恵器	壺	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色
50-34	47	須恵器	壺	5201	溝	10					外:黄褐色・内:黄褐色 外:黄褐色・内:黄褐色	2m以下の層位を含む	良好	内:黄褐色 外:黄褐色 内:黄褐色

第13表 大谷口遺跡 3区出土銭貨観察表

調査番号	探検番号	銭貨名	時代	記録簿	出土遺構	層位	縦径 (mm)	横径 (mm)	重量 (g)	備考
50-1	47	銅貨	中世前期-近世前期		層位土		2.3	2.3	1.3	2.5×1.5程度
48	2	電金通貨	江戸時代	1636			2.4	2.4	2.1	1.1(金電)

第5章 中嶺遺跡

第1節 発掘作業と整理作業の経過

1. 発掘調査の経過

中嶺遺跡は、嵩山（標高331m）から北側に派生する支脈が福原町の平野部に突出する、標高56mの丘陵に立地する。嵩山は「出雲国風土記」の峰が設置された「布自積美高山」に比定されている。北側には、澄水山（507m）と福原町の平野部が広がる。澄水山は『出雲国風土記』の「毛志山」に比定されている。

昭和62年度の分布調査で9,450㎡が調査対象地となった。平成14年度と平成15年度にトレンチ調査を実施し、古墳の周溝や、7世紀から8世紀の須恵器と土師器などを採取したことから8,200㎡を全面発掘調査地とした。

全面発掘調査は調査員1名・調査補助員2名、発掘作業員18名の体制で平成15年度から平成17年度まで実施した。調査に当たり、丘陵頂部を1区、西側急斜面を2区、北側斜面を3区、西側斜面を4区、東側斜面を5区、東側谷部を6区とした。平成15年度には1区と2区の調査を実施した。1区では古墳を2基確認した。2区では遺構は確認できなかった。平成16年度には3区・4区・5区東側・6区の調査を実施した。3区では建物跡3棟を確認した。4区では建物跡12棟・溝3条・土坑1基を確認した。5区では建物跡1棟、土坑2基を確認した。6区では遺構は確認できなかった。平成17年度には5区北側の調査を実施したが、遺構は確認できなかった。

平成16年9月18日に現地説明会を開催し、約50人が訪れた。

なお、調査当初は遺跡名を「中嶺古墳群」としたが、調査を進めるなかで多数の建物跡などを確認したことから、平成17年度より名称を「中嶺遺跡」に変更した。

2. 整理作業の経過

発掘調査中の整理作業は、調査員1名・調査補助員2名・整理作業員3名の体制で実施した。報告書作成の平成18年度は、調査員2名・補助員1名・整理作業員3名で実施した。遺跡の空中写真撮影及び地形測図は株式会社ワールドに委託した。金属製遺物の自然科学分析はJFEテクノロジー株式会社分析・評価事業部埋蔵文化財調査研究室に委託した。石製遺物の自然科学分析は有限会社遺物材料研究所に委託した。

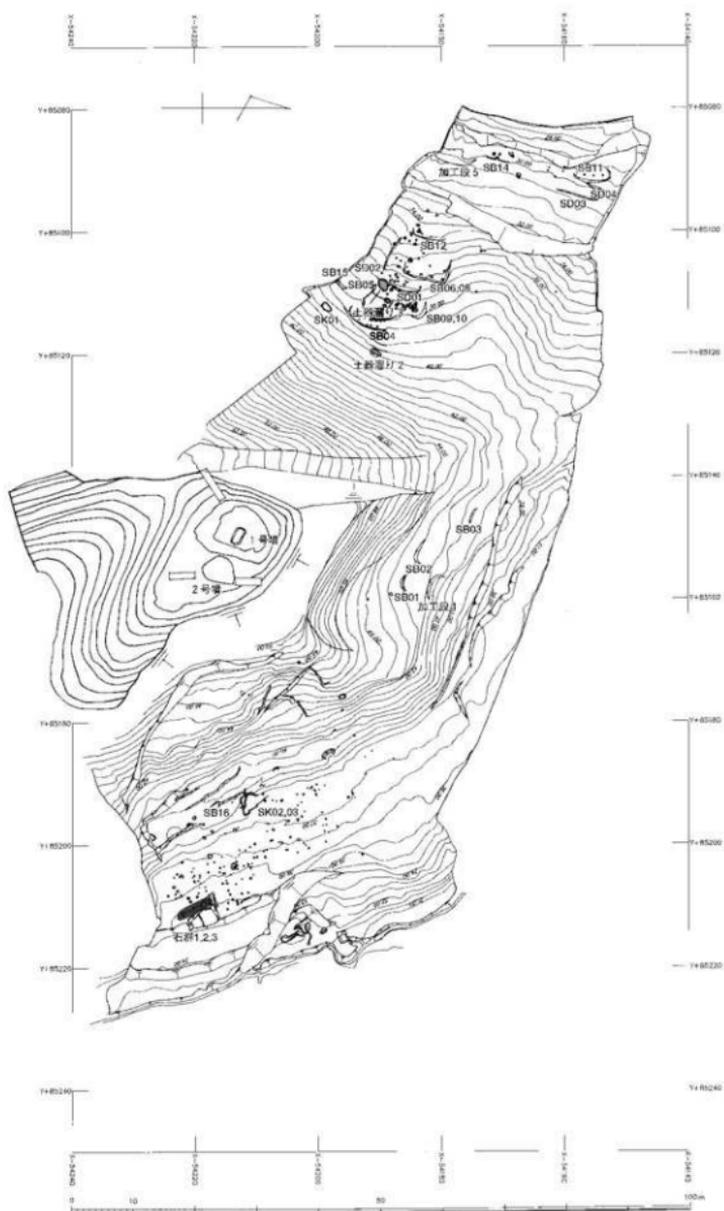
3. 2区と6区について

2区では須恵器片などを採集したことから横穴墓を想定して300㎡を全面発掘調査対象地としたが、遺構は確認できなかった。

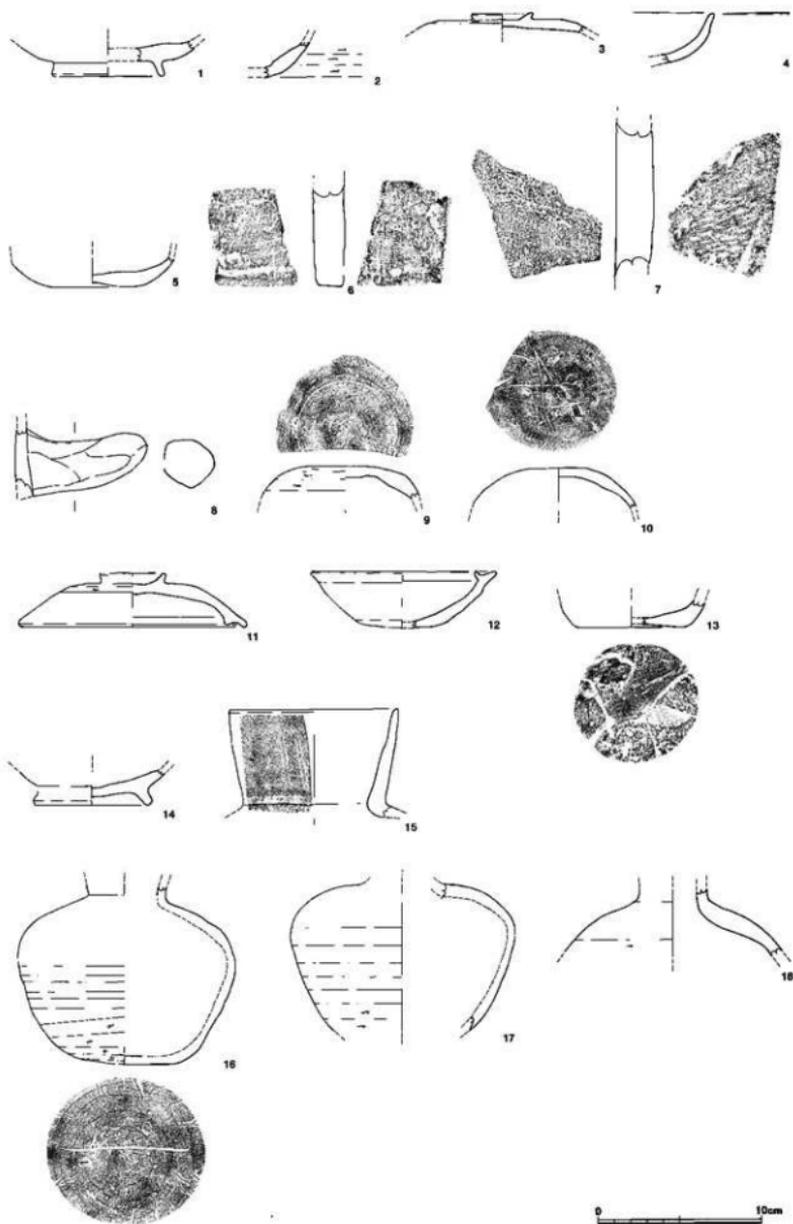
6区では2m×5mのトレンチを2か所設定し調査した。遺物は7世紀～8世紀の須恵器が出土したが、遺構は確認されず、谷底を流れる沢であったことが判明し、全面発掘調査対象地とはしなかった。



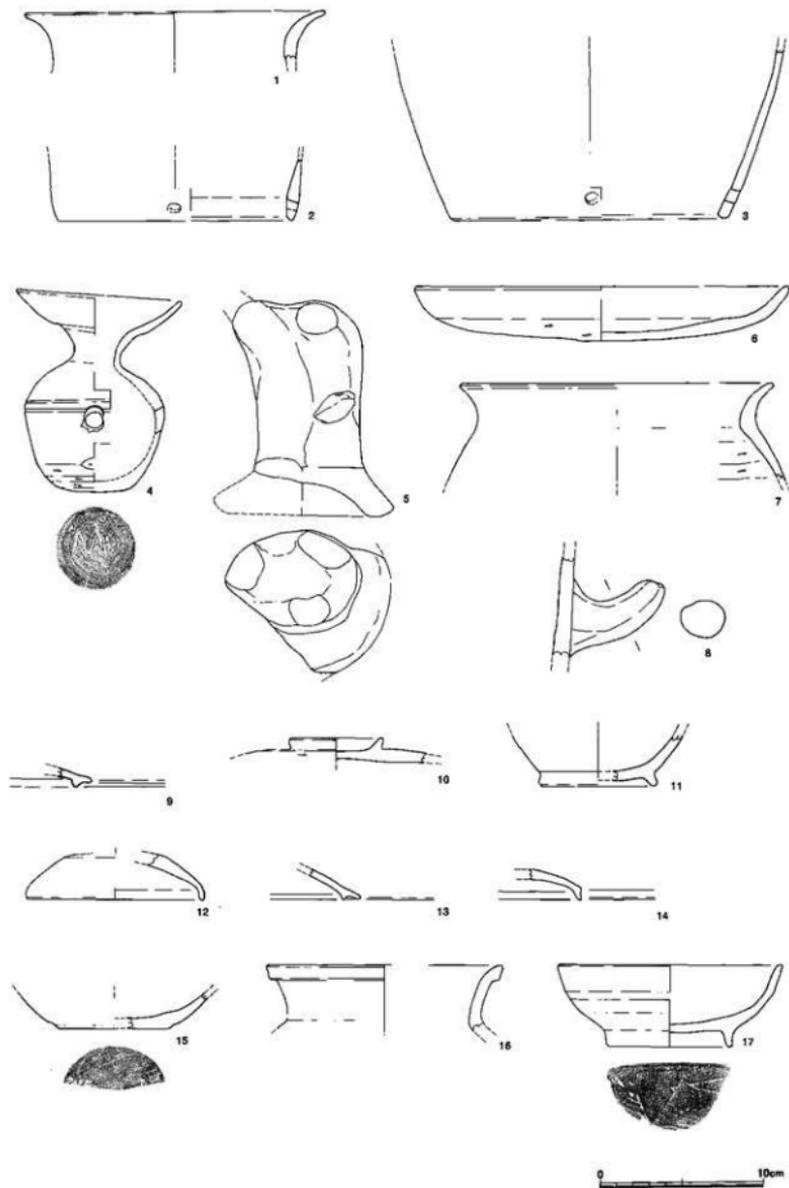
第60図 中瀬遺跡調査区・トレンチ位置図 (縮尺1:1,000)



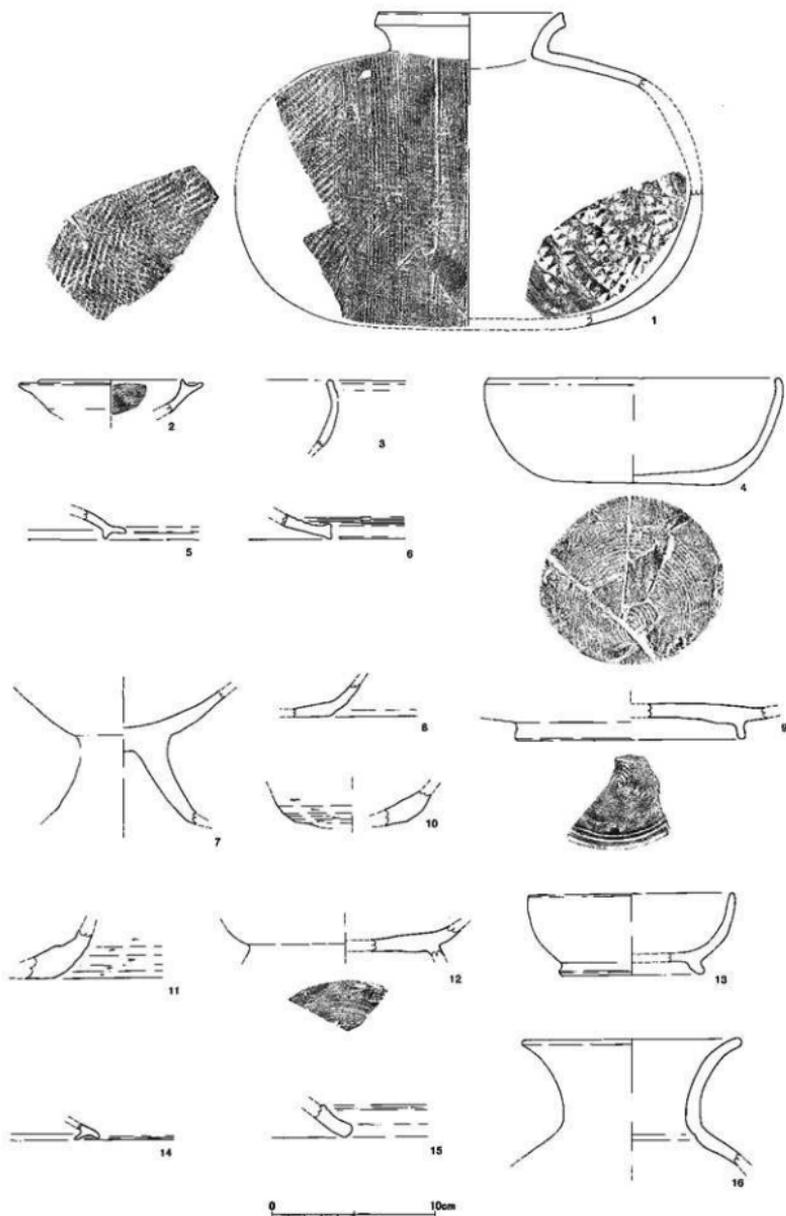
第61図 中嶺遺跡遺構配置図 (縮尺1:800)



第62図 中横遺跡トレンチ出土遺物 (1) (縮尺1:3)



第63図 中瀬遺跡トレンチ出土遺物(2) (縮尺1:3)



第64図 中嶺遺跡トレンチ出土遺物 (3) (縮尺1:3)

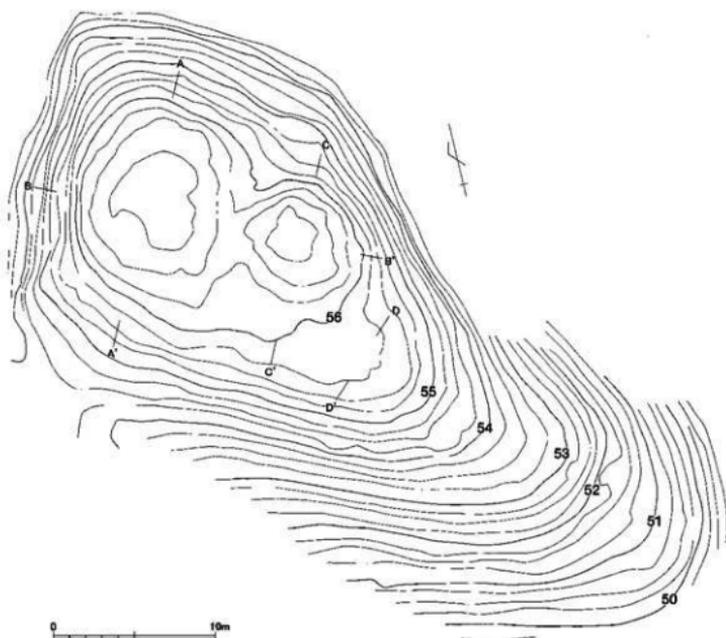
第2節 1区の調査

1. 調査の方法

1区は中竈遺跡が立地する丘陵の頂上部に位置する。頂上部は南北に2か所あり、北側頂上部は標高約60mを測り、南側頂上部は標高約56mを測る。丘陵には幅2mほどの林道が設置されている。この林道は3区と4区の境界となる尾根筋を登り、南側頂上部の西側斜面を通り、南側頂上部と北側頂上部の間を抜け、北側頂上部の東側斜面を通過する。この林道により南側頂上部西側斜面の一部が削平されていた。

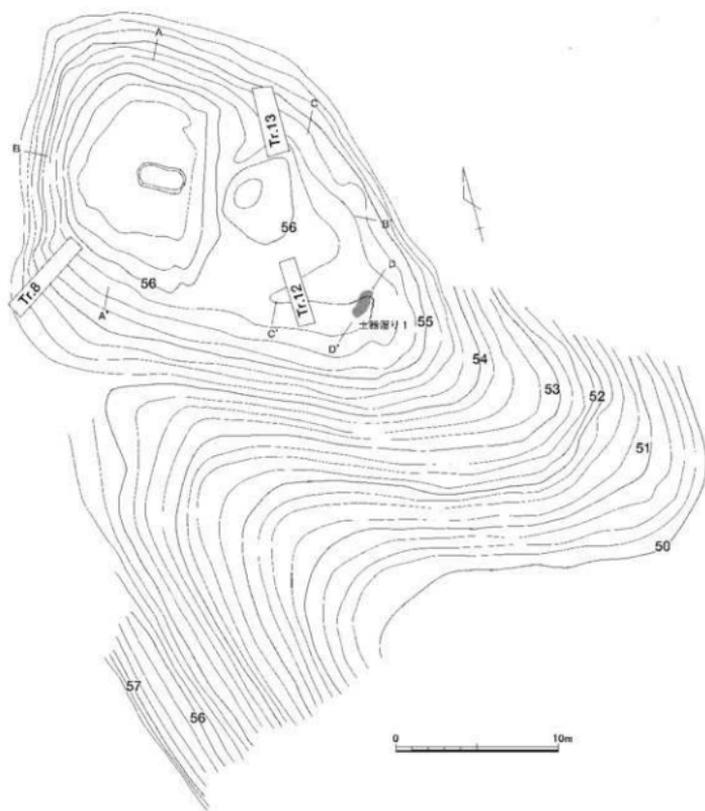
分布調査では、北側頂上部に1か所、南側頂上部に5か所の高まりを確認した。平成14年度に、幅1m～2m、長さ4m～6mのトレンチを、北側頂上部に3か所、南側頂上部に3か所設定して調査を実施した。北側頂上部では遺構・遺物が検出されなかったため、全面発掘調査対象地から除外した。南側頂上部では、Tr12・Tr13で周溝を確認し、1,600㎡を全面発掘調査対象地とした。

トレンチ調査で古墳の存在が確認されたことから、立木伐採の後に現状の地形測量を行った。その結果、トレンチ調査で確認された2基の古墳以外には古墳や墳丘墓と思われる高まりが無いことが判った。調査に当たり、西側の方墳と思われる高まりを1号墳とし、東側の円墳と思われる高ま

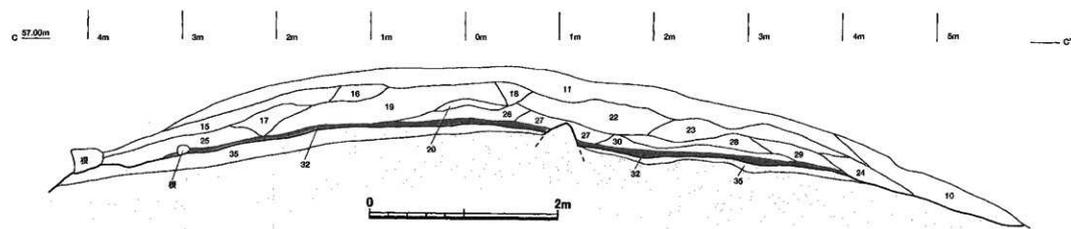
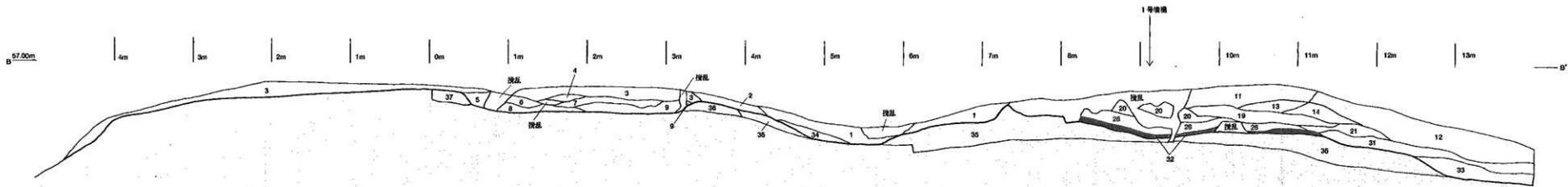
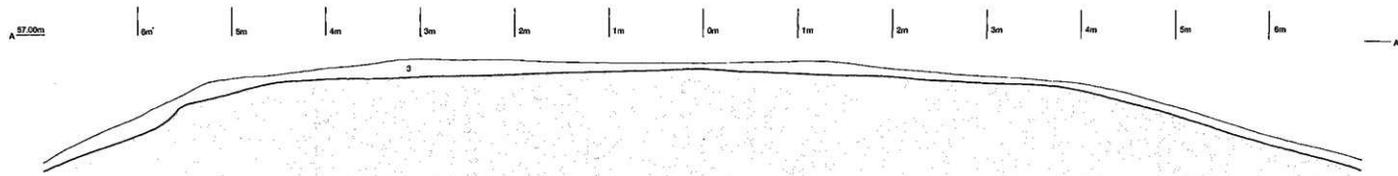


第65図 調査前地形測量図 (縮尺1:300)

りを2号墳とした。次に、土層観察用のセクションベルトを、1号墳は四辺のほぼ中心を通ように十字形に設定した。2号墳は1号墳の東西セクションベルトを延長して東西セクションベルトとし、墳丘の中心点で直交するように十字形に南北セクションベルトを設定した。また、1号墳と2号墳以外にも、墳丘が流失した古墳や土壌が存在する可能性も考慮し、尾根上にもセクションベルトを設定した。掘削を開始すると、1号墳では墳丘上平坦面の中心部から東側の地点で東西方向を長軸とする隅丸方形の上縁を検出した。土壌の検出面では複数の土師器片が出土した。1号墳で確認できた土壌はこれのみであった。2号墳では主体部となる遺構を確認することができなかった。周溝は2号墳を廻るものを確認した。また、周溝の南東側で土師器の土器溜りを確認した。尾根上では土壌などの遺構は確認できなかった。南側の谷頭でも全面発掘調査を実施したが、土師器などの遺物は採集したが、遺構は検出できなかった。



第66図 調査後地形測量図 (縮尺 1:300)



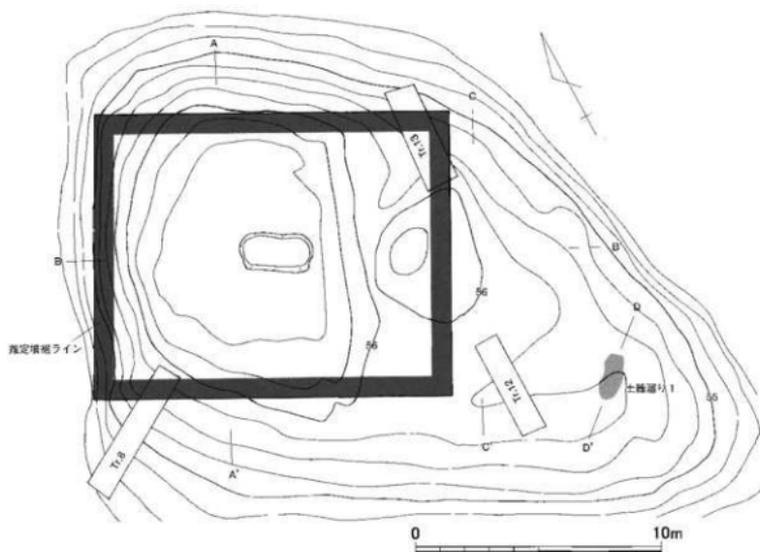
1. 湖沼褐色土
2. 湖沼褐色土
3. 湖沼褐色土
4. 褐色土
5. 湖沼褐色土
6. 湖沼褐色土
7. 湖沼褐色土 (黄灰色ブロックを少し含む)
8. 湖沼褐色土
9. 湖沼褐色土 (黄色ブロックを含む)
10. 湖沼褐色土
11. 湖沼褐色土 (4cm以下の白色ブロック、赤白色ブロックを含む)
12. 赤褐色土 (赤白色ブロック、黄灰色ブロックを含む)
13. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックを含む)
14. 湖沼褐色土
15. 湖沼褐色土
16. 湖沼褐色土
17. 湖沼褐色土 (白色ブロック、赤白色ブロックを含む)
18. 湖沼褐色土
19. 湖沼褐色土 (白色ブロック、赤白色ブロック、黄灰色ブロックを含む)
20. 湖沼褐色土 (2cm以下の白色ブロックを含む)

21. 湖沼褐色土 (赤白色ブロック、黄灰色ブロックを含む)
22. 湖沼褐色土
23. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックを含む)
24. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックの小片を含む)
25. 湖沼褐色土
26. 湖沼褐色土 (4cm以下の白色ブロックを少し含む)
27. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックを多く含む)
28. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックの小片を含む)
29. 湖沼褐色土 (白色ブロック、赤白色ブロックを含む)
30. 湖沼褐色土 (赤白色ブロックの小片を含む)
31. 湖沼褐色土
32. 湖沼褐色土 (団粒土、炭化物を含む)
33. 湖沼褐色土 (団粒土)
34. 湖沼褐色土 (団粒土)
35. 赤褐色土 (団粒土、黄灰色ブロックを含む)
36. 湖沼褐色土 (団粒土)
37. 湖沼褐色土 (団粒土、黄色ブロックを含む)

第67図 1区土層断面図 (縮尺1:40)

1号墳

墳丘 標高56mの丘陵頂上部西側に位置する。現状での平面形は東西約11m、南北約13mの長方形を呈し、墳丘の高さは0.8mを測る。墳丘の遺存状況は悪く、西側は林道設置に伴い一部が流失しており、北側は急峻な地形により一部が流失し、東側は2号墳により大きく削平されている。ただし、2号墳の墳丘内部に1号墳の墳裾が残存している。上層観察では、地山を整形した墳丘と、墳丘表面に生じた旧表土が確認できる。2号墳内部の墳丘残存部から築造時の1号墳を推測すると、14.5m×11.5m前後の方墳で、墳丘の傾斜角は14°前後であったと考えられる。墳丘の整形は、現状の墳丘には盛土が認められず、2号墳内部で確認した墳丘残存部でも盛土は確認できないことから、墳丘の大半は地山削出により整形されたものと考えられる。ただし、主体部の遺存状況から墳丘上面は40cm以上削平されていると考えられ、墳丘上面まで地山削出による整形であったのか、墳丘上面には盛土が行われていたのかは不明である。周溝や葺石は伴わない。築造時期は主体部出土の土器から、小谷1式～2式併行と考えられる。墳丘南側には明瞭な傾斜変換点無く、西側からの景観は墳丘が丘陵と一体化し規模を大きく見せている。



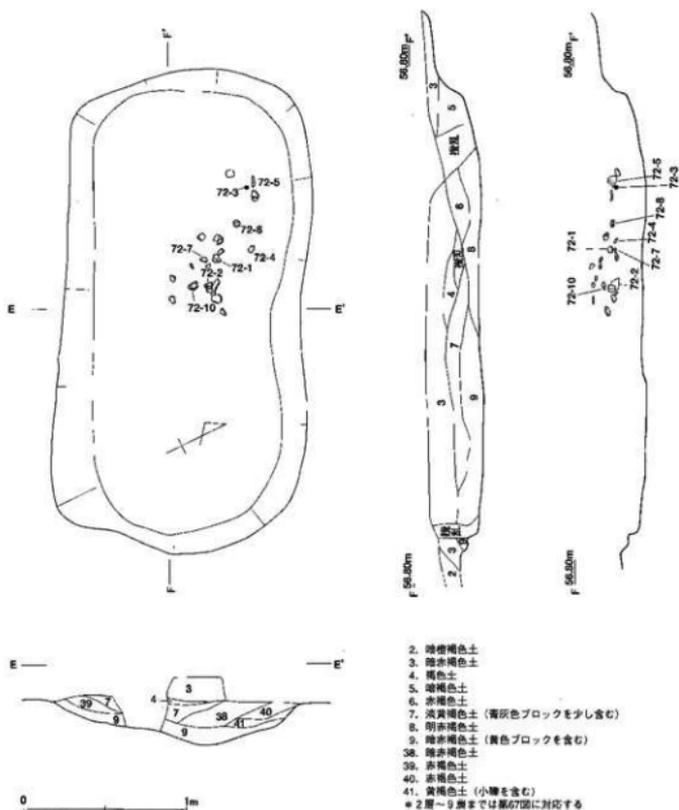
第68図 1号墳平面形推定図(縮尺1:200)主体部

主体部 墳丘平坦面の中央より南東側で1基検出した。現状では墳丘平坦面の東端に位置するが、2号墳で確認した墳裾を考慮した築造時の墳形では、墳丘のほぼ中心に位置する。主体部の長軸は築造時推定墳丘の長軸にほぼ平行(N65°W)する。平面形は隅丸長方形で、規模は検出面で長さ

3.0m、幅1.5m、底面で長さ2.75m、幅1.1mを測る。底面は短軸側の断面ではやや丸底で、検出面からの深さは25cmを測る。同時期の古墳の主体部が0.7m～1.2mの深さであることを考えれば、非常に浅く、墳丘上面を大きく削平されているものと考えられる。土壌の小口側はやや急角度で、側板側はやや緩やかである。土層観察では木棺の痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 主体部では土師器の小片が主体部の東側から集まって出土した。出土層位は1層、5層、4層、6層上面である。床面からは浮いており、木棺が朽ちた際に落ち込んだものと思われる。標石は確認できなかった。

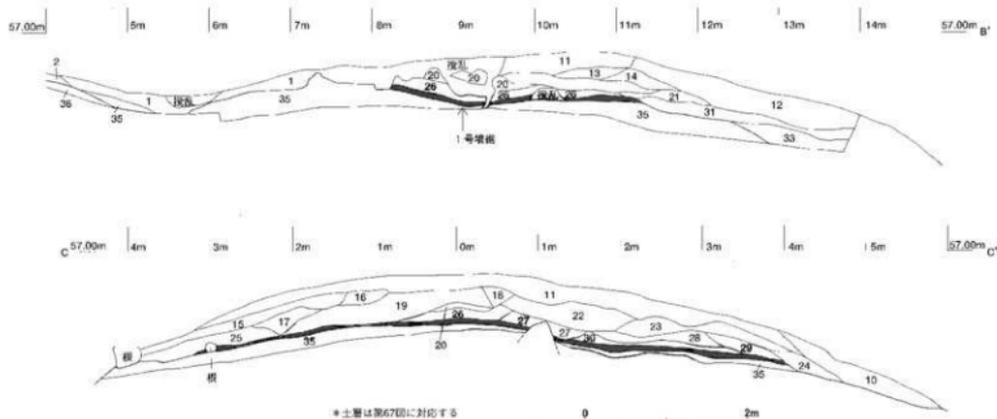
出土遺物 主体部からは鼓形器台、低脚杯、甕が出土した。大半が鼓形器台の口縁部や低脚杯の屈曲部の小片で、遺存状況が悪く調整不明の遺物が多い。これらの土師器は小谷1式～小谷2式と考えられる。



第69図 1号墳主体部 (縮尺1:30)

2号墳

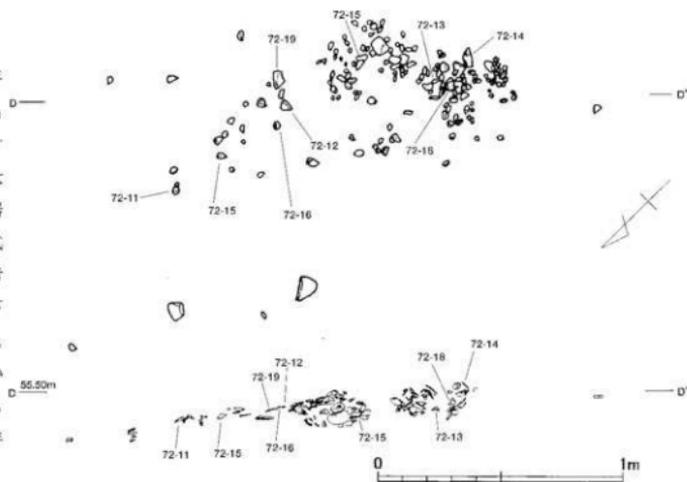
墳丘 1号墳の東側に位置する。平面形は直径約8mの円形を呈し、墳丘の高さは0.8mを測る。土層観察から、墳丘は1号墳の東側に盛土を互層に行つて形成している。周溝は墳丘を全周しており、断面の形状が丸みを帯びた逆台形状で、規模は検出面で幅2m前後、底面で幅1.3m前後、深さ10cm前後を測る。葺石は伴わない。上部部は検出できなかった。築造時期は出土遺物が無く不明で、1号墳の後に築造されたことしか判らない。



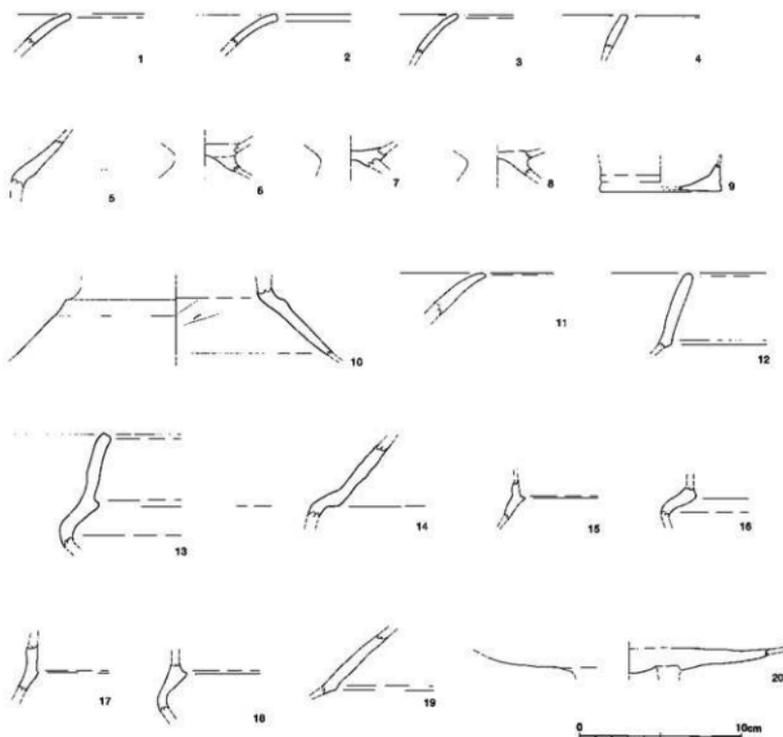
第70図 2号墳土層断面図 (縮尺1:60)

土器溜り1

2号墳の周溝外側の平坦面で検出した。2.0m四方の範囲から土師器片約230点が出土した。大半は甕片で、高坏片や器台片は少なかった。型式は小谷式2式~3式と考えられる。土器溜りの下に土壌などは無かった。出土地点は2号墳に近いが、本来の1号墳堀にも近く、どちらの遺構に伴うか不明である。



第71図 土器溜り1実測図 (縮尺1:20)



第72図 1区出土遺物実測図 (縮尺1:3)

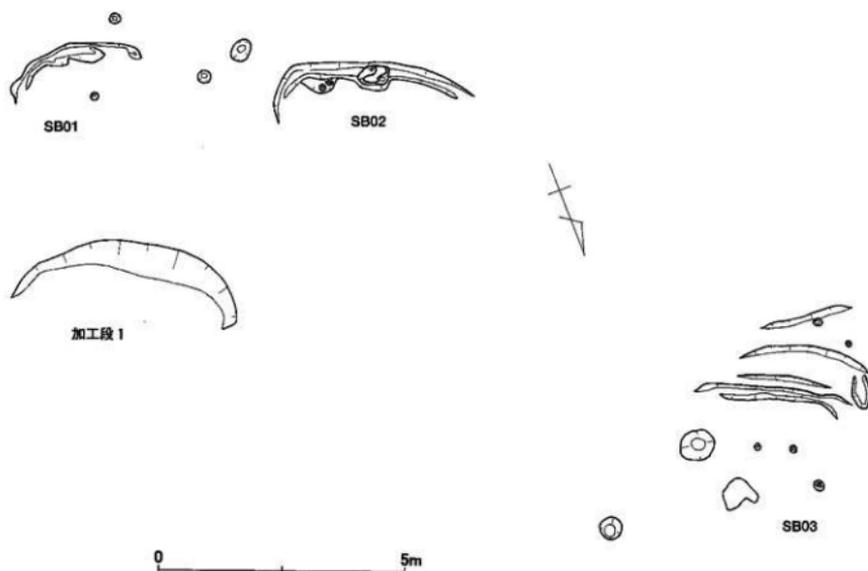
第15表 中嶺遺跡1区出土土器観察表

調査年次	調査番号	種類	群種	用途	焼成時 (℃)	下径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	調査	出土	状況	備考
72	1	77	土師器	器蓋?	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	2	77	土師器	器蓋	1年層	10				21.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	3	77	土師器	器蓋?	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	4	77	土師器	器蓋?	1年層	5	14.8				外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	5	77	土師器	器蓋	1年層	10					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	6	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	7	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	8	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	9	77	土師器	器蓋	1年層	10				7.5	外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	10	77	土師器	器蓋	1年層	5				11.8	外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	11	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	12	77	土師器	器蓋	1年層	10					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	13	77	土師器	器蓋	1年層	20					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	14	77	土師器	器蓋	1年層	10					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	15	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	16	77	土師器	器蓋	1年層	5					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	17	77	土師器	器蓋	1年層	10					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	18	77	土師器	器蓋	1年層	10					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	19	77	土師器	器蓋	1年層	20					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器
72	20	77	土師器	器蓋	1年層	30					外: 黒褐色 内: 黒褐色	10cm以下の器蓋を占む	良好	内: 土師器 外: 土師器

第3節 3区の調査

1. 調査の方法

3区は丘陵北側に位置する緩斜面で、平成14年度に幅2m、長さ5mのトレンチを2か所設定し、平成15年に幅1.5m長さ7mのトレンチを1か所設定し、その調査結果から900㎡を全面発掘調査対象地とした。全面発掘調査は平坦地に近い緩斜面であることから集落を想定して実施し、4か所の加工段を検出した。加工段の掘削は中心にセクションベルトを等高線に直交する形で設定し、遺物の出土状況を記録しながら行った。



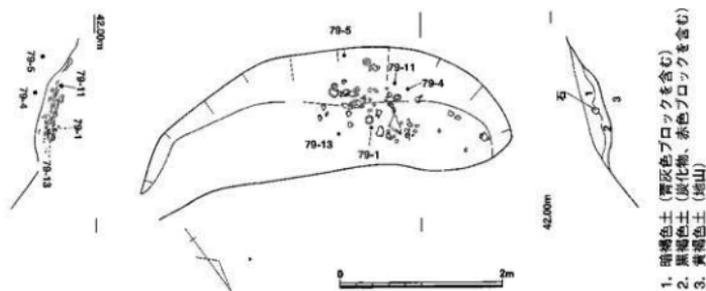
第73図 3区遺構位置図 (縮尺1:150)

加工段1

遺構 緩斜面の北側に位置する。平面形は弧状を呈し、規模は床面で幅4.0m、奥行き0.8m、深さ50cmを測る。床面はやや傾斜しており、壁体溝やピットは無く、建物の存在は不明である。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物が無く不明であるが、埋土出土遺物から高広ⅡB期(7世紀中葉～後葉)にはある程度埋没していたと思われる。

遺物 床面から浮いた状況で小片も含めて須恵器20点、土師器57点、角礫2点が出土した。大半が破片であるが完形品(79-2、79-7、79-9)も数点出土している。完形品を含むことから、ある程度埋没した加工段に、壊れた土器を廃棄した状況とは思えない。また、出土した須恵器は高広ⅠB、

高広ⅡA、高広ⅡBで構成されている。煮炊き具は土師器の瓶や甕のほか、須恵器製の瓶の蓋とと思われる遺物79-13が出土している。

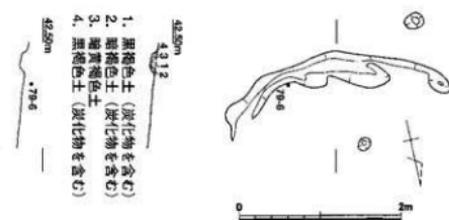


第74図 加工段1完掘・遺物出土状況(縮尺1:60)

SB01

遺構 緩斜面の南側に位置する。平面形は弧状を呈し、規模は床面で幅2.7m、奥行き1.2m、深さ10cmを測る。床面は水平で、壁体溝を伴う。壁体溝の規模は、上面の幅20cm前後、底面の幅4cm前後、深さ8cmを測る。柱穴は無いが、壁体溝が廻ることから建物跡と判断した。遺構の廃棄時期は埋上土の遺物から、高広ⅡB期(7世紀中葉~後葉)と考えられる。

遺物 壁体溝と床面から須恵器1点、土師器2点が出上った。このうち1点を図示した。須恵器の型式は高広ⅡBと考えられる。



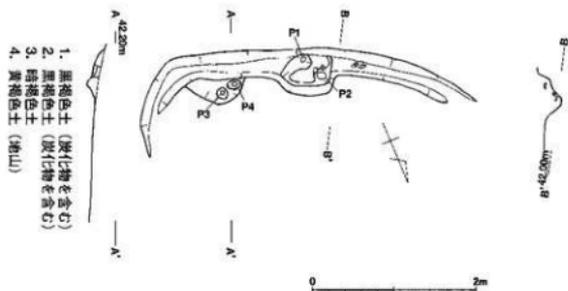
第75図 SB01完掘・遺物出土状況(縮尺1:60)

SB02

遺構 緩斜面の南側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、規模は床面で幅4.0m、奥行き2.4m、深さ12cmを測る。床面は水平で、壁体溝を伴う。壁体溝の中央には方形の上坑がある。壁体溝の規模は、上面の幅が25cm前後、底面の幅が10cm前後、深さ8cmを測る。土坑の規模は上面の幅70cm、奥行き50cm、底面は幅60cm、奥行き40cm、深さ5cmで、内部にピットを2つ伴う。P1は上面の直径18cm、底面の直径6cm、深さ8cmを測る。P2は上面の直径20cm、底面の直径10cm、深さ5cmを測る。また壁体溝の東側には内側にやや低くなっている場所があり、上面の幅70cm、奥行き30cm、深さ5cmで、内部にピットを2つ伴う。P3は上面の直径15cm、底面の直径4cm、深さ7cmを測る。P4は上面の直径16cm、底面の直径4cm、深さ10cmを測る。柱穴は無いが、壁体溝を伴うことから

建物跡と判断した。遺構の廃棄時期は埋土・出上の遺物から、高広ⅡB期（7世紀中葉～後葉）と考えられる。

遺物 遺構埋土から須恵器4点、土師器11点が出土した。このうち5点を図示した。出土した須恵器の型式は高広ⅡBと考えられる。



第76図 S B 02発掘・遺物出土状況（縮尺1：60）

S B 0 3・加工段2・加工段3・加工段4

遺構 緩斜面の北側に位置する。3区他の遺構からやや離れた位置にある。S B 0 3と加工段2・加工段3・加工段4は一連の遺構と考えられる。S B 0 3の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅3.3m、奥行き3.0m、深さ25mを測る。床面は水平で、壁体溝、ピット、焼土を伴う。焼土は壁体溝から1.8m離れた場所に位置し、直径40cmを測る。

加工段2はS B 0 3の南側に位置し、底面で幅2.0m、奥行き0.3mを測る。加工段3は加工段2の南側に位置し、底面で底面で幅2.6m、奥行き0.6mを測る。加工段4は加工段3の南側に位置し、底面で幅2.0m、奥行き0.5mを測る。

上層観察からS B 0 3と加工段は同時期に併存していたと考えられる。S B 0 3と加工段の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅡA期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。

遺物 S B 0 3では須恵器21点、土師器6点が壁体溝付近とP1付近を中心に出土した。加工段2では土師器2点、須恵器1点が出土し、加工段3では須恵器9点、土師器2点が出土し、加工段4では須恵器2点が出土した。加工段では壁際付近から多く出土している。出土遺物のうち、78-5、78-6は完成品である。これらの出土遺物は遺構の廃棄に伴う祭祀行為に使用されたものと考えられる。出土した須恵器の型式は高広ⅡAである。

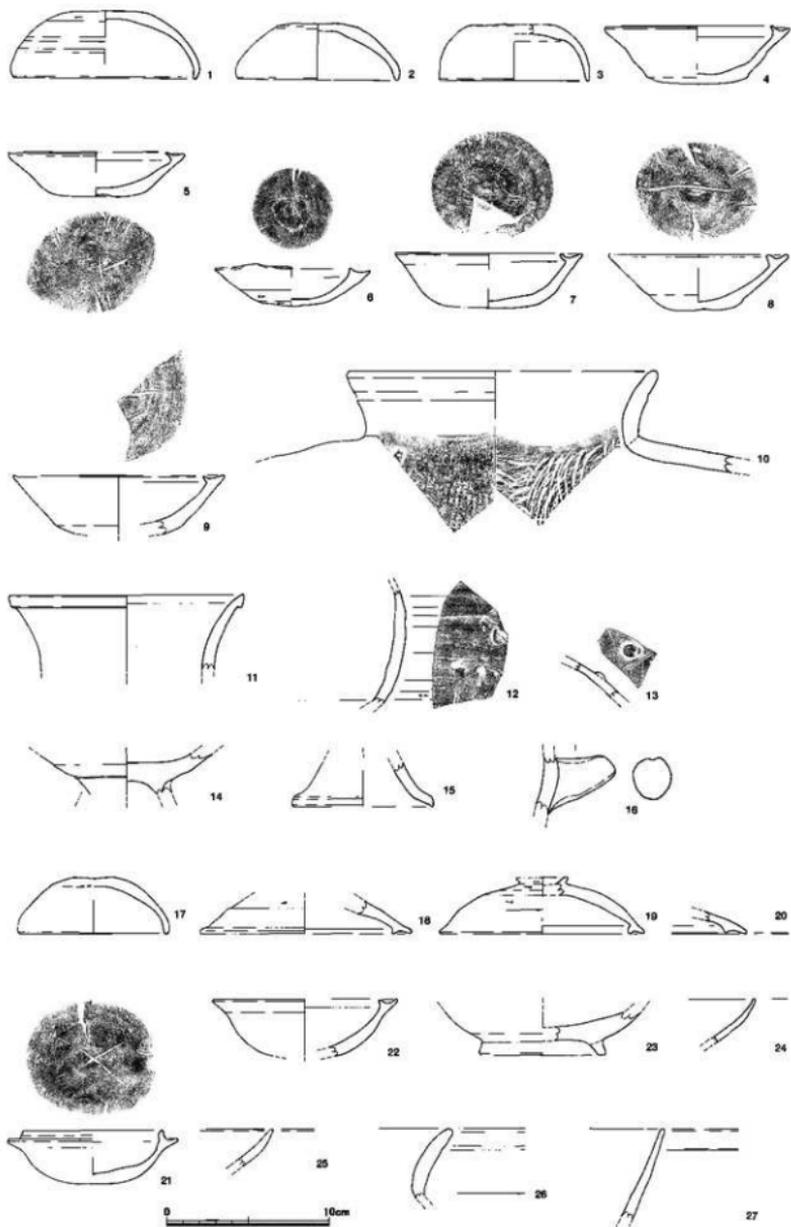
包含層出土遺物

上器類は内法54cm×34cm×15cmのコンテナに須恵器0.8箱、土師器0.2箱出土した。須恵器は高広ⅡA～高広ⅣAまで出土している。へら記号のある須恵器が1点出土した。遺構出土の須恵器と合わせると10点となる。内訳は×が2点、一が2点、＝が1点、≡が1点、≡が1点、≡が1点、不明3点である。

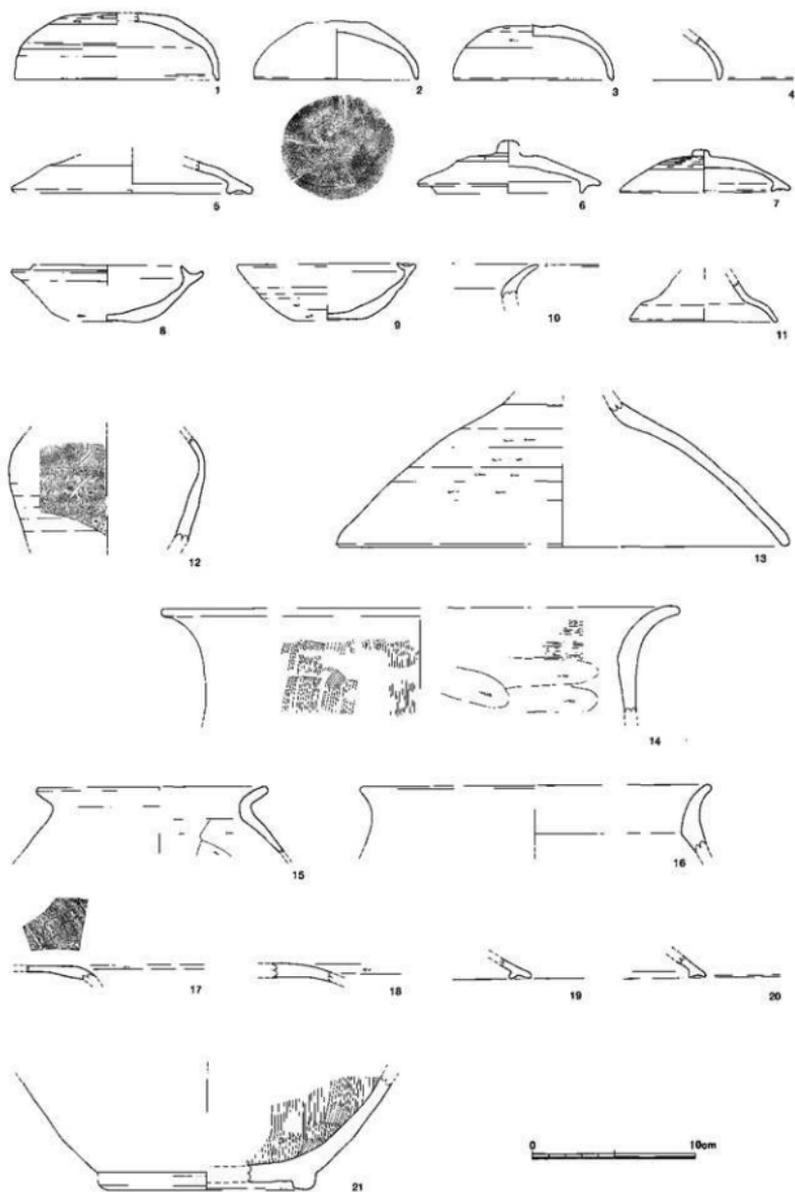
第5章 中継遺跡



第77図 S B03・加工段2・加工段3・加工段4発掘・遺物出土状況(縮尺1:60)



第78图 3区出土遗物(1)(縮尺1:3)



第79図 3区出土遺物 (2) (縮尺1:3)

第16表 中嶺遺跡3区出土土器観察表

発掘番号	図面番号	種類	形状	規格	数量	口径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	出所	特徴	素材	調査	色別	備考
78-1	79	須恵器	蓋	S203	焼土	79	11.2	4.1		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-2	79	須恵器	蓋	S203	焼土	59	9.8			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-3	79	須恵器	蓋	S203	焼土	25	9.0			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-4	79	須恵器	杯	S203	焼土	30	9.2	3.6		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	灰緑色	
78-5	40	須恵器	杯	S203	焼土	95	3.4	2.7		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-6	40	須恵器	杯	S203	焼土	55	7.2	2.6		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-7	40	須恵器	杯	S203	焼土	69	11.1	3.2		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-8	40	須恵器	杯	S203	焼土	79	4.6	4.8		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-9	40	須恵器	杯	S203	焼土	30	12.9			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-10	50	須恵器	蓋	S203	焼土	39	15.6			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-11	50	須恵器	蓋	S203	焼土	30	14.0			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-12	41	須恵器	蓋	S203	焼土	20				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-13	41	須恵器	蓋	S203	焼土	2				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-14	41	須恵器	蓋	S203	焼土	3				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-15	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-16	41	須恵器	蓋	S203	焼土	20				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-17	41	須恵器	蓋	S203	焼土	15				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-18	41	須恵器	蓋	S203	焼土	20				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-19	41	須恵器	蓋	S203	焼土	20				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-20	41	須恵器	蓋	S203	焼土	5				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-21	41	須恵器	蓋	S203	焼土	36	8.1	3.5		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-22	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30	11.0			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-23	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-24	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-25	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-26	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-27	41	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色	赤褐色	
78-1	78	須恵器	蓋	S203	焼土	40	13.4	4.1		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-2	78	須恵器	蓋	S203	焼土	36	9.8	3.8		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-3	78	須恵器	蓋	S203	焼土	40	9.0	3.4		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-4	78	須恵器	蓋	S203	焼土	5				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-5	78	須恵器	蓋	S203	焼土	29	14.4			灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-6	78	須恵器	蓋	S203	焼土	36	9.0	3.2		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-7	78	須恵器	蓋	S203	焼土	36	10.2	1.6		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-8	78	須恵器	蓋	S203	焼土	40	9.0	3.5		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-9	78	須恵器	蓋	S203	焼土	36	10.8	3.4		灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-10	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-11	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-12	78	須恵器	蓋	S203	焼土	40				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-13	78	須恵器	蓋	S203	焼土	40				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-14	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-15	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-16	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-17	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-18	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-19	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-20	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		
78-21	78	須恵器	蓋	S203	焼土	30				灰白色の砂状土を含む 内面に赤褐色の土質を有する	灰白色	赤褐色		

第17表 中嶺遺跡3区出土土器観察表

発掘番号	図面番号	形状	規格	出土層	出所	口径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	備考
114-1	81	ロノフ	銅片	第2土層	焼土	3.8	6.3	2.1	30.3 土中発見

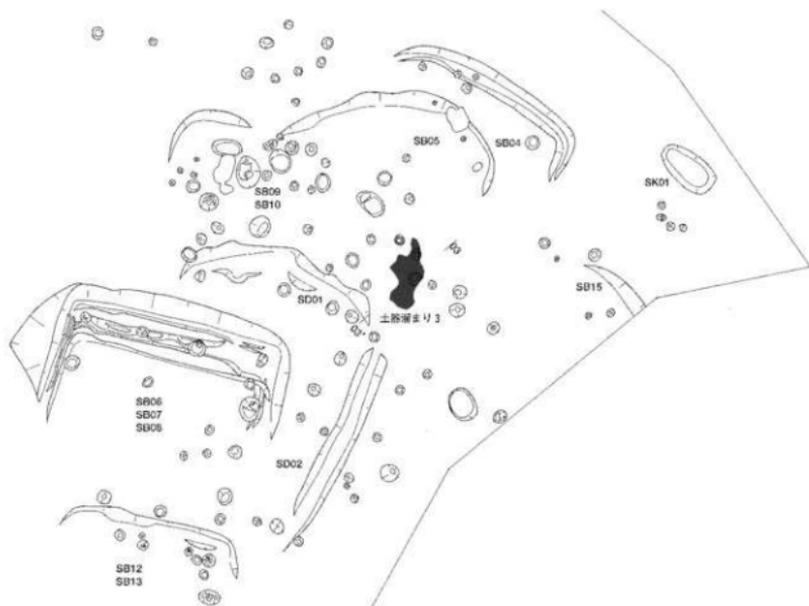
第4節 4区の調査

1. 調査の方法

4区は2区の西側に位置する。西側は大谷口遺跡3区に繋がる。2区の急斜面下に展開する西に面した標高40m～27mの緩斜面である。北側には3区との間に尾根があり、南側には緩やかな谷がある。ただし、4区西側の標高35m前後には地形改変により、標高差約2.0m～4.0mの段差がある。また、西端の大谷口遺跡3区と接続する部分も地形改変により標高差約3.0mの急峻な斜面となっている。

平成14年度に幅2.0m、長さ4.0m～6.0mのトレンチを6か所設定し、その調査結果から2,000㎡を全面発掘調査対象地とした。全面発掘調査は、2区でのトレンチ調査で加工段の一部を検出していたことや、出土遺物、緩斜面に立地することから集落を想定して実施した。

全面発掘調査の結果、建物跡10棟、土坑1基、溝状遺構4条、土器溜り2か所を検出した。これらの遺構は尾根上では検出できず、やや谷地形である南側に建物跡10棟、土坑1基、溝状遺構2条と集中している。残りの遺構は西側の削平されていない緩斜面の端に集中している。地形改変により削平された箇所にも多くの遺構が存在したと思われる。検出した遺構の時期は、大半が7世紀中葉～8世紀前葉である。



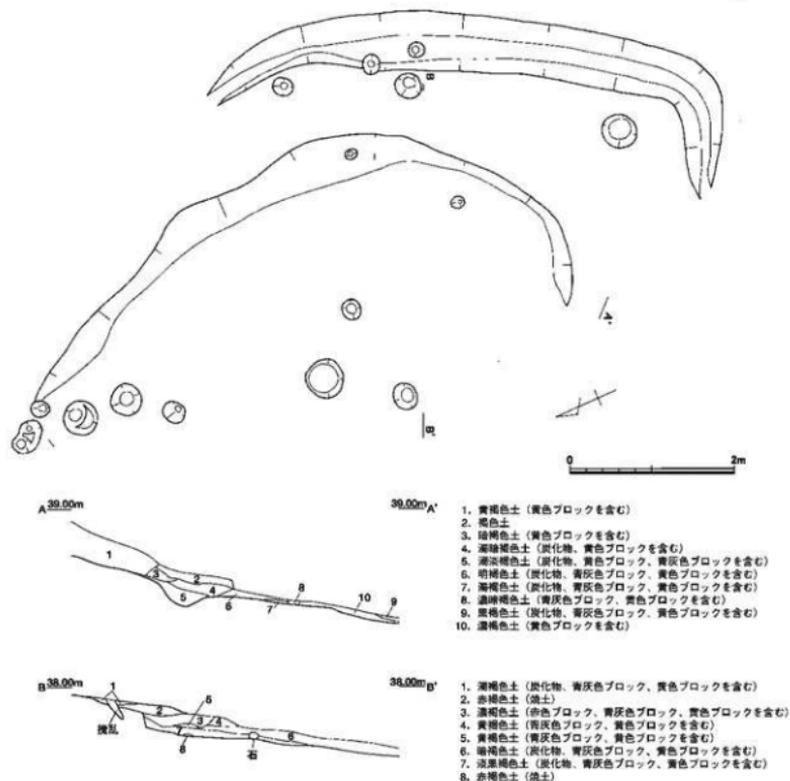
第80図 4区南東側遺構位置図 (縮尺1:150)

SB04・SB05

遺構 4区の東側に位置する。SB05を埋めてSB04を建築している。

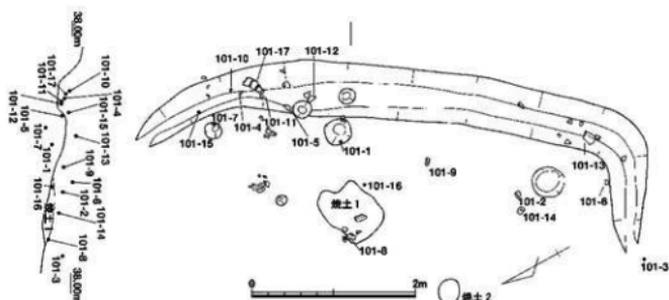
SB04の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅6.0m、奥行き2.0m、深さ18cmを測る。床面は水平で、壁体溝と焼土を伴う。壁体溝は上面の幅50cm前後、底面の幅20cm前後、深さ12cm前後を測る。焼土は2か所あり、焼土1は壁体溝から80cm離れた場所にあり、直径80cmを測る。焼土2は焼土1の南西1mの場所にあり、直径32cmを測る。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅢA期（7世紀末葉～8世紀初頭）と考えられる。

SB05は平面形が弧状を呈し、規模は床面で幅5.6m、奥行き4.0m、深さ25cmを測る。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅡB期（7世紀中葉～後葉）と考えられる。

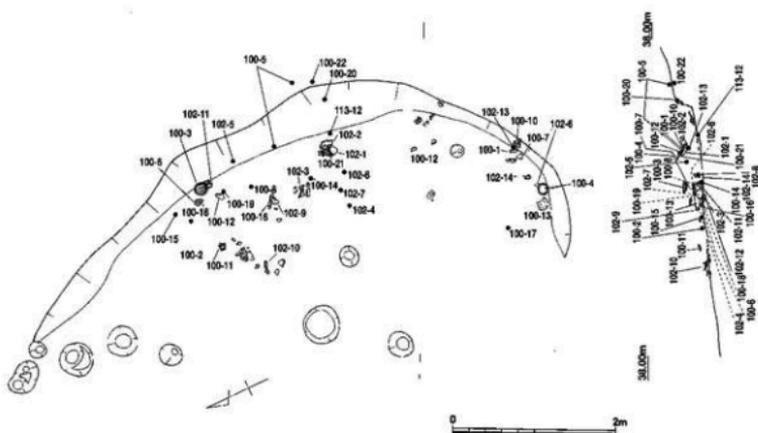


第81図 SB04・SB05発掘状況（縮尺1：60）

遺物 SB04では須恵器の蓋環、帯、土師器の甕、甔、甗が出土した。いずれも破片で完形品は出土していない。SB05では須恵器の蓋環、高環、托、土師器の甕、甔、甗、砥石、土馬などが出土した。これらの遺物は床面出土のもの、埋土出土のものに分かれる。出土層位による型式差はないが、床面から出土遺物した遺物がかなり多い。また、床面出土遺物には托(100-11)、上馬(113-12)、完形品の蓋(100-3、100-4)など特殊な遺物が認められる。床面出土遺物はこの様な特殊な遺物を含むことから遺構廃棄の祭祀行為に使用されたものと思われる。一方、埋土出土遺物にも砥石(102-13)や川原石(102-14:表面が赤化しており一部に煤が付着している。)など他の遺構からは出土しない遺物も認められる。これらの遺物はSB05を埋める際に、破損品をまとめて廃棄したものと思われる。



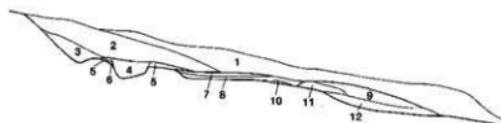
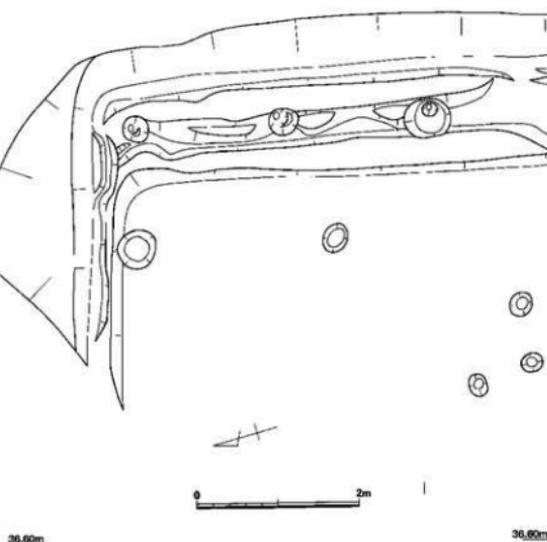
第82図 SB04遺物出土状況(縮尺1:60)



第83図 SB05遺物出土状況(縮尺1:60)

SB06・SB07・SB08

遺構 SD01の西側に位置する。SB08→SB07→SB06の順に建て替えている。SB06の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅6.7m、奥行き4.2m、深さ85cmを測る。床面は水平で、壁体溝を伴う。壁体溝は上面の幅30cm前後、底面の幅14cm前後、深さ6cm前後を測る。柱穴と思われるピットは8基あり、南北3間、東西2間の掘建柱建物を想定できる。ピットの間隔は、最深部間で南北軸はP1～P3は約1.8m、P3とP4の間が2.0mで、東西軸は1.6mを測る。P1・P2・P3・P4・P6は二段堀である。P2は遺存状況が悪く二段堀なのかは不明である。また、P8は他のピットより底部の標高が約30cmも低いことから柱穴とはしなかった。遺構の廃棄時期は壁体溝周辺の床面出土遺物から、高広ⅣA期（8世紀前半～8世紀中葉）と考えられる。



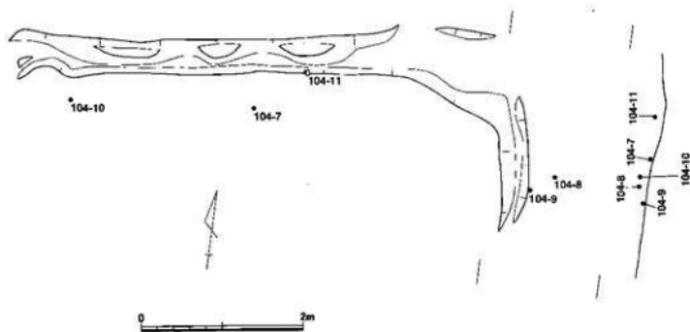
1. 栗褐色土（炭化物を含む）
2. 濃褐色土（炭化物をやや多く含む。青灰色ブロック、黄色ブロックを多く含む）
3. 暗褐色土（炭化物をやや多く含む。細かい黄色ブロックを多く含む）
4. 栗褐色土
5. 濃褐色土（青灰色ブロック、黄色ブロックを多く含む）
6. 暗褐色土（青灰色ブロック、黄色ブロックを多く含む）
7. 暗褐色土（青灰色ブロック、黄色ブロックを含む）
8. 暗褐色土（炭化物、赤色ブロック、青灰色ブロック、黄色ブロックを含む）
9. 暗褐色土（青灰色ブロックを含む。4層と同じ）
10. 淡褐色土
11. 暗褐色土（青灰色ブロック、黄色ブロックを含む）
12. 暗褐色土

第84図 SB06・SB07・SB08発掘状況（縮尺1：60）

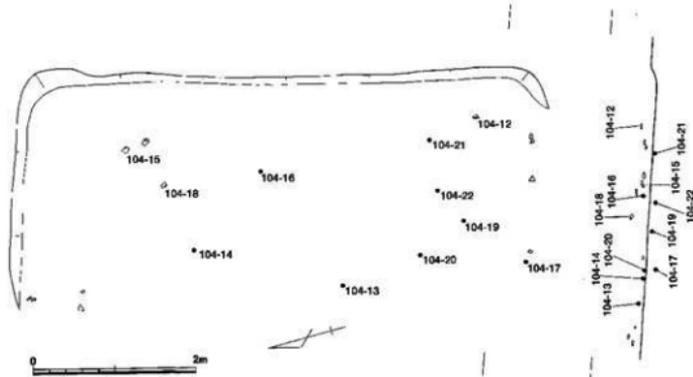
SB07の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅6.7m、奥行き4.2m、SB06床面からの深さ14cmを測る。床面は水平で、壁体溝を伴う。壁体溝は上面の幅40cm前後、底面の幅10cm前後、深さ8cm前後を測る。遺構の廃棄時期は壁体溝周辺の床面出土遺物から、高広ⅢB期（8世紀前葉）と考えられる。

SB08の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅6.7m、奥行き4.2m、SB07の床面からの深さ10cmを測る。床面は水平で、壁体溝を伴わない。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物や、床面築造時に流入したと思われる床面下出土遺物からは高広ⅢA期か高広ⅢB期と考えられる。SB07に先行することから高広ⅢA期（7世紀末葉～8世紀初頭）の可能性が高い。

遺物 SB06では須恵器の蓋坏や土師器の甕、甔などが大量に出土した。大半は破片であるが完形品（103-2、103-3）もある。注目される遺物に転用硯（103-5）がある。この転用硯は、中瀬遺跡で出土した唯一の硯である。一方、SB07やSB08では出土遺物が少なく、完形品もない。SB06を廃棄する時のみ、土器廃棄を伴う祭祀が行われたと思われる。



第86図 SB07遺物出土状況（縮尺1：60）



第87図 SB08遺物出土状況（縮尺1：60）

第5章 中嶺遺跡

SB09・SB10

遺構 SB04・SB05の下に位置する。SB10を埋めて同じ場所にSB09を建てている。その為、床面の高さは異なるが、規模に差はない。

SB09の隅丸方形で、規模は床面で幅7.6m、奥行き3.0m、深さ40cmを測る。柱穴と思われるピットを8基確認した。南北3間、東西1間の掘建柱建物が考えられる。柱穴の間隔はP1-P2、P3-P4、P5-P6、P7-P8、P1-P5、P4-P8は約1.8m、P2-P3、P6-P7は1.4mを測る。南北3間のうち中央の1間がやや狭いと言える。P1が焼土に接していることから、SB09に伴う柱穴と判断したが、焼土が一時的なものであるならば、SB10でも柱穴として機能した可能性もある遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅢA期（7世紀末葉～8世紀初頭）と考えられる。

SB10は隅丸方形で、規模は床面で幅7.6m、奥行き3.0m、SB09の床面からの深さ10mを測る。焼土を1か所伴う。焼土は奥壁から1.0m離れた場所に位置し100cm×50cmの広さである。加工段階時に地山を掘り残して制作されており床面から20cmの高さを測る。廃棄時期は床面出土の遺物からは高広ⅢA期か高広ⅢB期と考えられる。SB09が先行するので高広ⅢB期（8世紀前葉）の可能性が高い。

遺物 壁体溝や焼土付近と柱穴から出土した遺物のみを遺構に伴うものとしたため、点数は少ない。或いは、上器溜り2はSB09・SB10に関連するかもしれない。注目される遺物にP4から出土した瑪瑙製勾玉未成品（114-2）がある。D字状で穿孔済みの研磨段階未成品であるが、中嶺遺跡では砥石などの工具は出土しておらず、未成品の段階で製品として流通したものであると思われる。柱穴から出土した点が注目される。

SB11

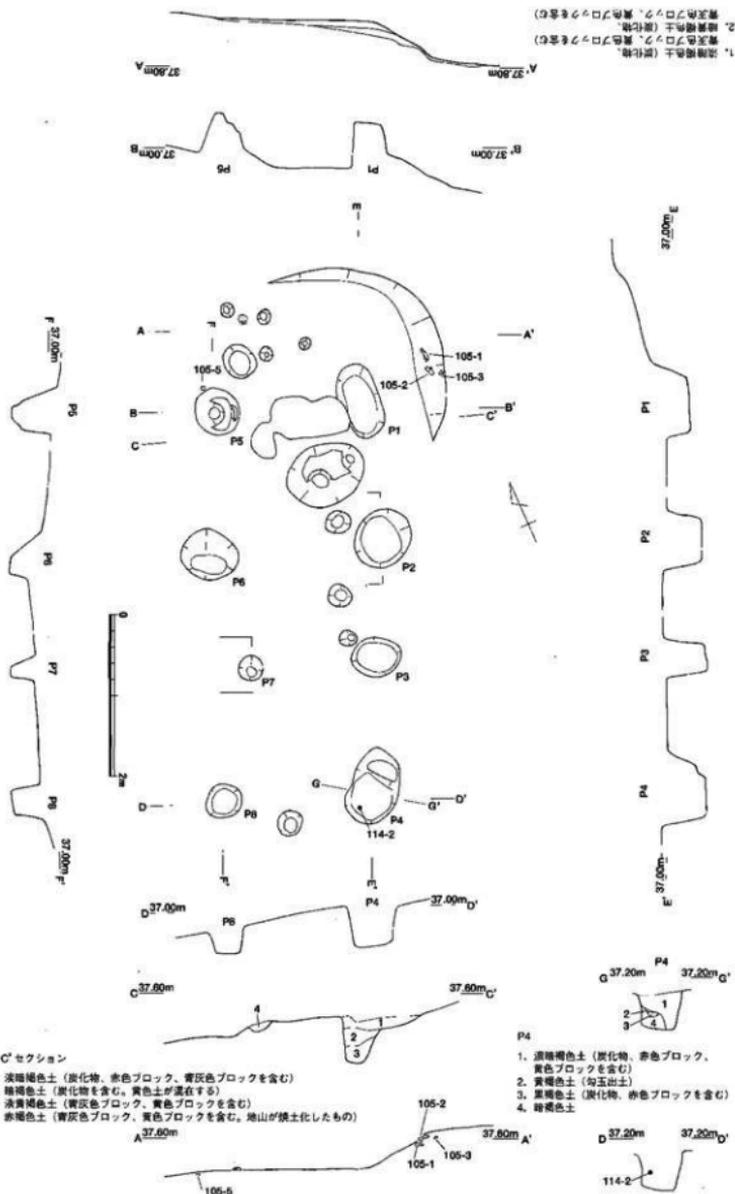
遺構 4区北西側端で検出された。平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅5.6m、奥行き2.4m、深さ30cmを測る。柱穴と思われるピットを6基確認した。南北2間、東西1間の掘建柱建物が考えられる。柱穴の間隔は南北軸、東西軸ともに1.6mを測る。遺構の廃棄時期は埋土出土の遺物から、高広ⅢB期（8世紀前葉）と考えられる。

SB12・SB13

遺構 SB06～SB08の下に位置する。SB13を埋めて同じ場所にSB12を建てている。その為、床面の高さは異なるが、規模に差はない。

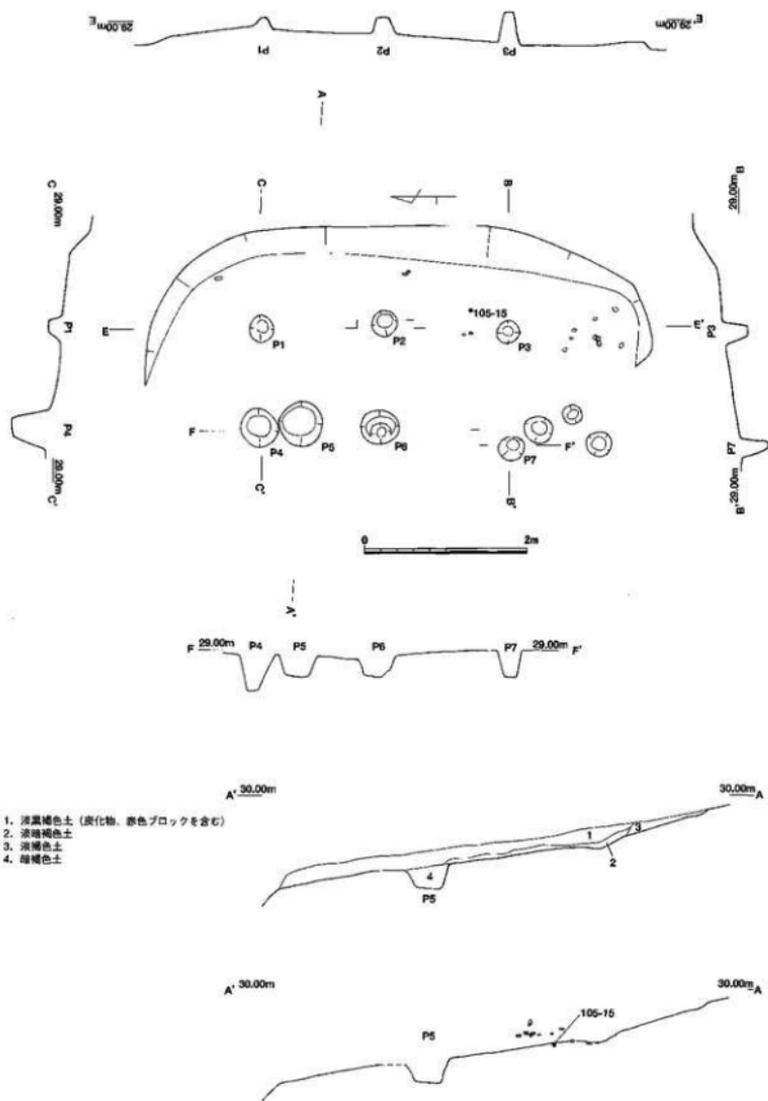
SB12の平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅5.3m、奥行き1.1m、深さ24cmを測る。壁体溝は土層断面観察でのみ確認ができた。規模は上面の幅20cm、底面の幅6cm、深さ4cmである。遺構の廃絶時期は、出土遺物が土師器や須恵器の小片のみで不明であるが、SB13の廃絶時期とあまり差はないと考える。

SB13は平面形と規模はSB12と同じで、床面はSB12床面より12cm深い。壁体溝を伴い、規模は上面の幅50cm、底面の幅30cm、深さ2cmを測る。遺構の廃絶時期は、床面出土遺物から高広ⅢA期～高広ⅢB期（7世紀末葉～8世紀前葉）と考えられる。ただし、105-16の出土地点は遺構の端なので、SB12からの流れ込みの可能性も高い。



第88図 S B09・S B10完掘・遺物出土土況 (縮尺1:60)

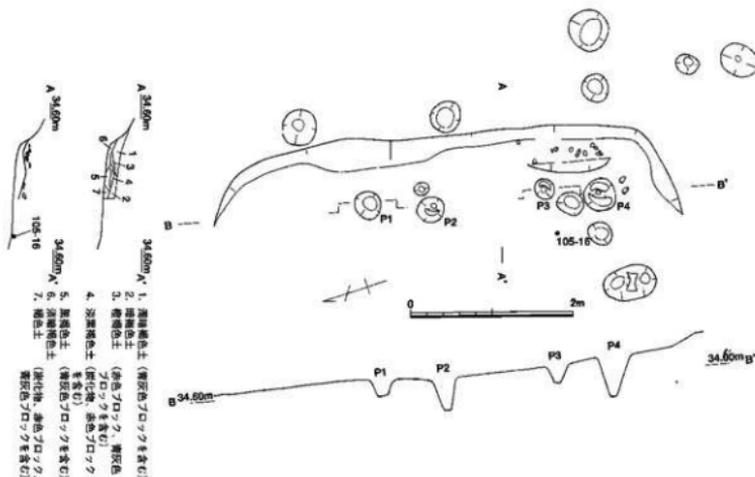
第5章 中嶺遺跡



第89図 SB 11完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)

柱穴と思われるピットを4基確認した。ピット底部の標高から、P1-P3、P2-P4がそれぞれセットになると考えられる。ピットの間隔はどちらも2.1mである。柱穴と加丁段の対応関係は不明であるが、ピットの深さを考えると、P1-P3がSB12に対応し、P2-P4がSB13に対応する可能性が高い。

遺物 SB12は床面から須恵器片10点と土師器片12点が出土したが、SB13は床面から須恵器片1点、埋土から土師器片2点が出土したのみである。



第90図 SB12・SB13完掘・遺物出土状況(縮尺1:60)

SB14

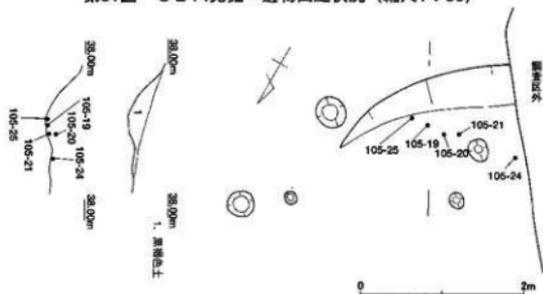
遺構 SB11の南側に位置する。遺構の遺存状況が悪く、一部に壁体溝と思われる溝を残すのみである。溝は上面の幅60cm前後、底面の幅20cm前後、深さ6cm前後を測る。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅡB期(7世紀中葉～後葉)と考えられる。

SB15

遺構 SB04の南側に位置する。検出した部分は加丁段の隅で、遺構の大半は調査区外にある。検出した部分での規模は、床面で幅2.2m、奥行き1.5m、深さ40cmを測る。柱穴は無いが、壁体溝を土層断面観察で確認ができた。規模は上面の幅50cm、底面の幅20cm、深さ8cm前後を測る。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅡB期～高広ⅢA期(7世紀中葉～8世紀初頭)と考えられる。



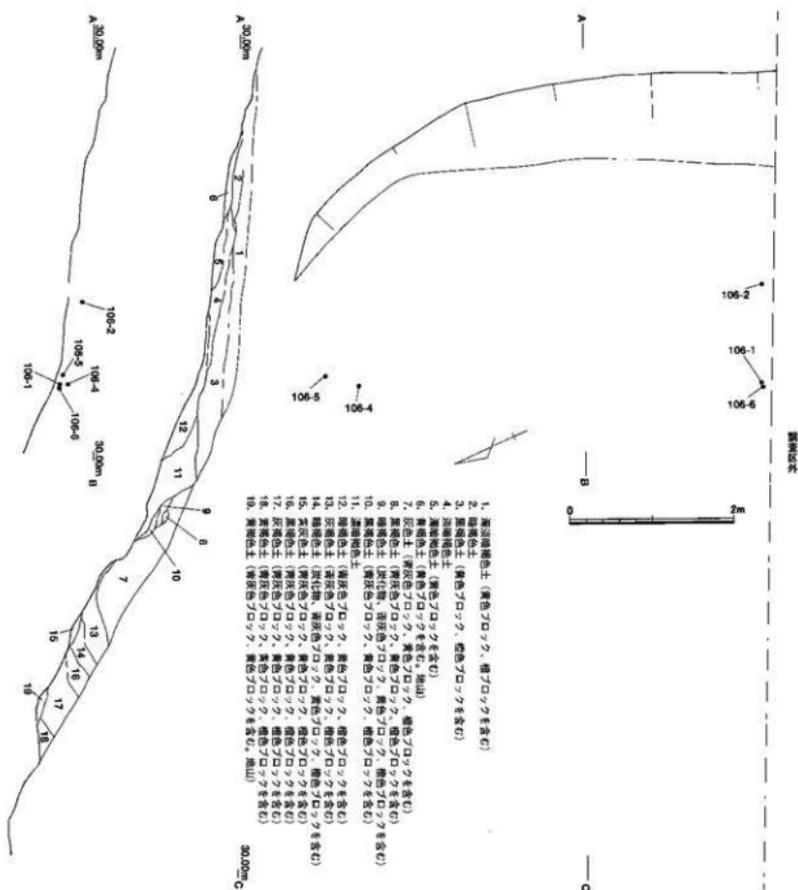
第91図 S B 14完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)



第92図 S B 15完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)

加工段 5

遺構 4区の西側、SB13の南側に位置する。平面形は弧状を呈し、遺構の一部は調査区外にある。確認できる範囲での規模は、床面で幅5.7m、奥行き2.7m、深さ35cmを測る。柱穴、壁体溝と思われる遺構は無いが、床面を水平に整地していることから、建物跡の可能性も考えられる。遺構の廃棄時期は床面出土の遺物から、高広ⅢA期～高広ⅢB期（7世紀末葉～8世紀前葉）と考えられる。



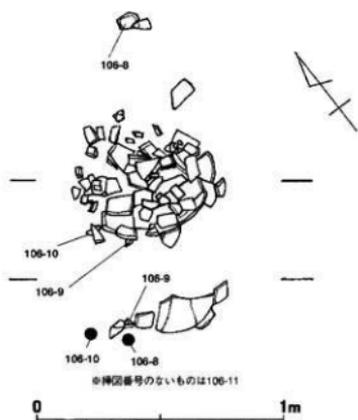
第93図 加工段5完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)

第5章 中嶺遺跡

土器溜り2

遺構 4区の西側、傾斜の強い斜面に位置する。須恵器の大甕(106-11)が底部を下にして潰れた状況で出土した。口縁部と胴部の一部は発見できなかった。106-9と106-10は甕片に接して出土し、106-8はやや離れた場所から出土した。付近に横穴墓は無く、遺構の性格は不明である。遺構の時期は出土遺物から高広ⅢA期～高広ⅢB期(7世紀末葉～8世紀前葉)と考えられる。

遺物 106-11は肩部には灰釉があり、底部には窯着した破片がある。中嶺遺跡では、大甕の破片はいくつか出土しているが、ここまで復元できた大甕は他にない。



第94図 土器溜り2出土状況(縮尺1:20)

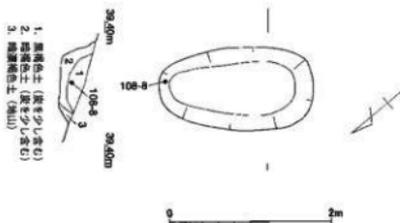
土器溜り3

遺構 SB09・SB10の南に位置する。2.5m×1.1mの範囲から、須恵器片約30点、土師器片約100点が出土した。遺物はほぼ水平に堆積している。また、付近に加工段や壁体溝と思われる掘方は確認できなかった。土器溜り3の位置はSB09・SB10に近く、或いはSB08・SB09に関連する遺構かもしれない。遺構の時期は出土遺物から高広ⅢA期(7世紀末～8世紀初頭)と考えられる。

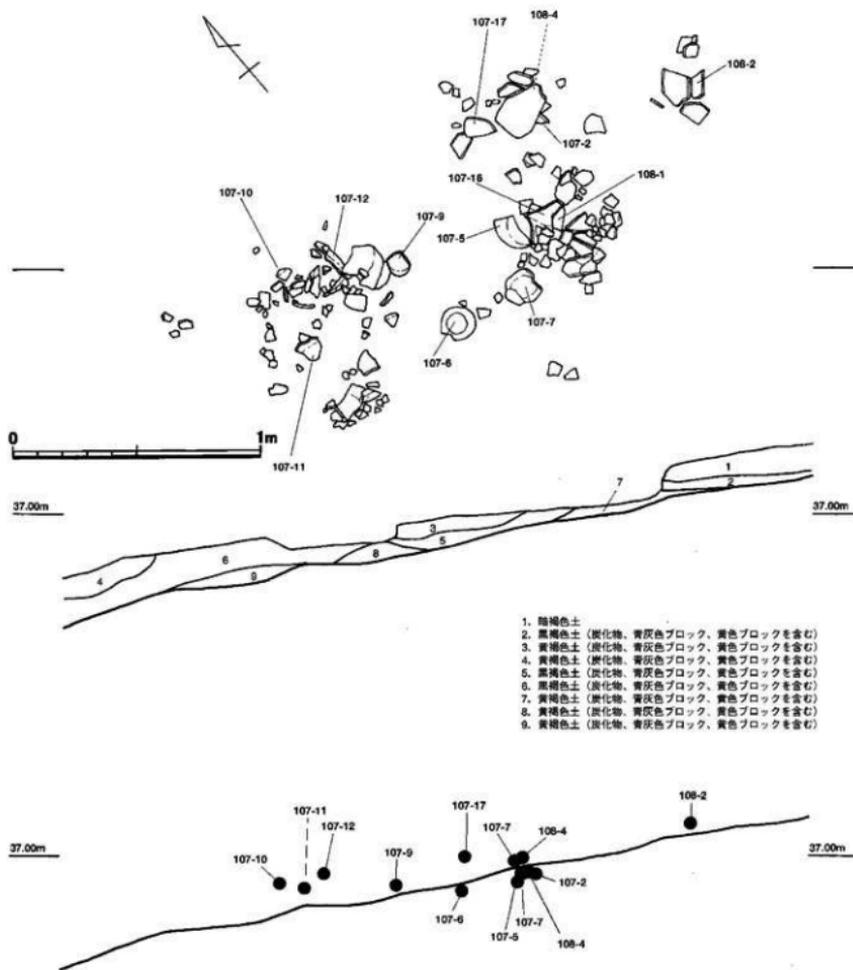
遺物 完形品は出土していないが、接合後に完形品に近い状態になる遺物(109-5、109-6、109-7)もあった。また、土師器の甕や甔の出土数がやや多い。

SK01

遺構 4区の南西側急斜面に位置する。平面形は楕円形で、規模は上面が長さ1.9m、幅1.0m、底面が長さ1.5m、幅0.7m、深さ40cmを測る。埋土出土遺物から、遺構の廃業時期は7世紀代～8世紀代と考えられる。性格は不明である。



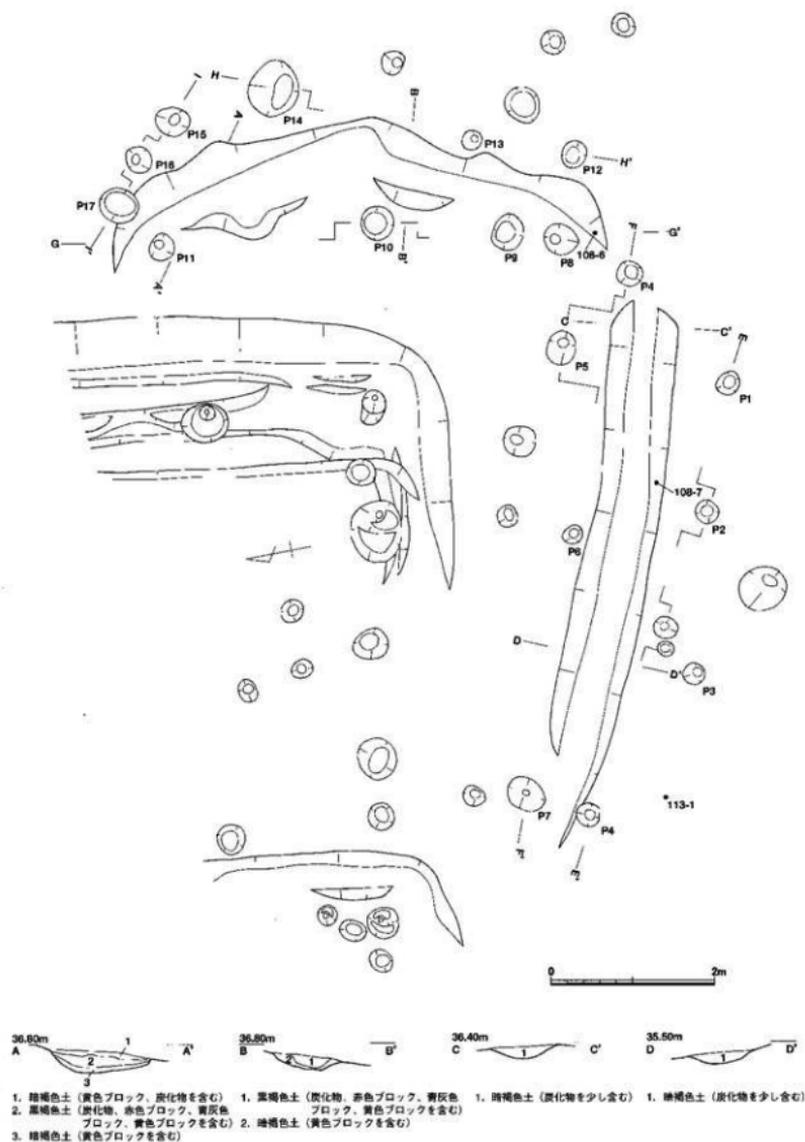
第95図 SK01完掘・遺物出土状況(縮尺1:60)



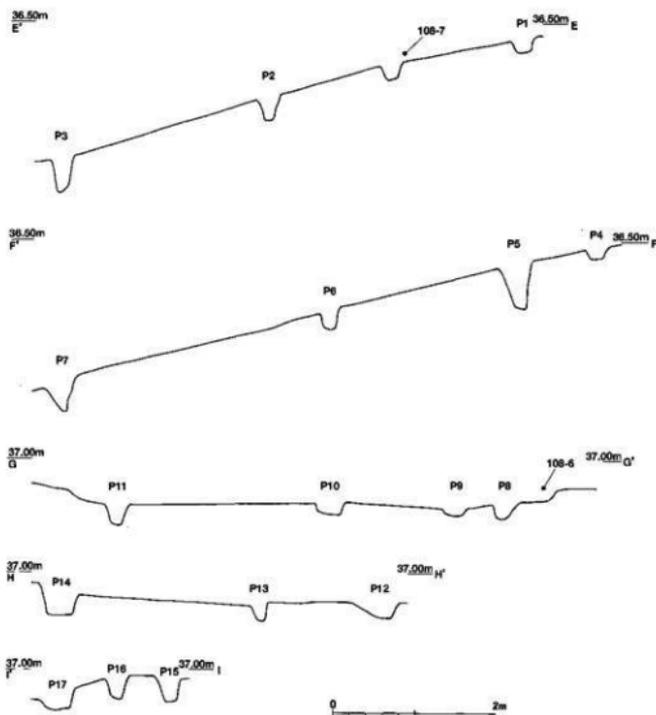
第96図 土器溜り3出土状況 (縮尺1:20)

SD01・SD02

遺構 SD01はSB09・SB10とSB06～SB08の間に位置する。平面形は、やや弧状を呈し、上面で長さ6.0m、幅1.4m、底面で幅0.35m、深さ30cm前後を測る。溝の東側に3基、西側に3基のピットを伴う。ピットの間隔はランダムである。遺構の廃棄時期は出土遺物から、高広ⅢA期～高広ⅢB期(7世紀末葉～8世紀前葉)と考えられる。



第97図 S D01・S D02発掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)



第98図 SD01・SD02ピット断面図(縮尺1:60)

SD02はSB06～SB08の南側に位置する。平面形は直線で、長さ6.8m、幅0.8m前後、底部の幅0.4m前後、深さ14cm前後を測る。溝の北側に2基、南側に5基のピットを伴う。ピットの間隔はランダムである。遺構の廃棄時期は出土遺物から、高広ⅢB期～高広ⅣA期(8世紀前葉～後葉)と考えられる。

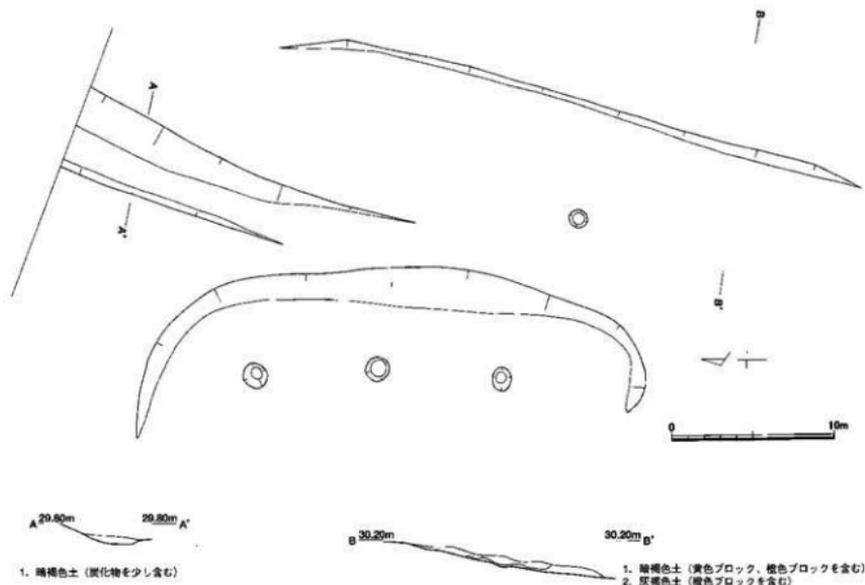
この2つの遺構は規模や、間隔がランダムに設置されたピットを伴う点が共通しており、同じ性格の遺構と考えられる。また、SD01の南端とSD02の東端が近接していることから、一連の遺構と考えられる。SB06～SB08の南側を通り、直角に折れてSB09・SB10の西側を通る配置から、集落内の道と考えられる。ピットは柵や手摺などではなからうか。

SD03

遺構 SB11の東側に位置する。平面形は、直線で調査範囲外に延びる。規模は上面で長さ4.4m、幅0.9m、底面の幅0.3m、深さ10cmを測る。出土遺物は無く、時期不明、性格不明である。

SD04

遺構 SD03の東側に位置する。平面形は、直線で調査範囲外に延びる。当初は加工段と考えていたが、土層断面観察から溝状遺構と判断した。規模は長さ7.4m、幅0.2m、深さ4cmを測る。出土遺物は無く、時期不明、性格不明である。

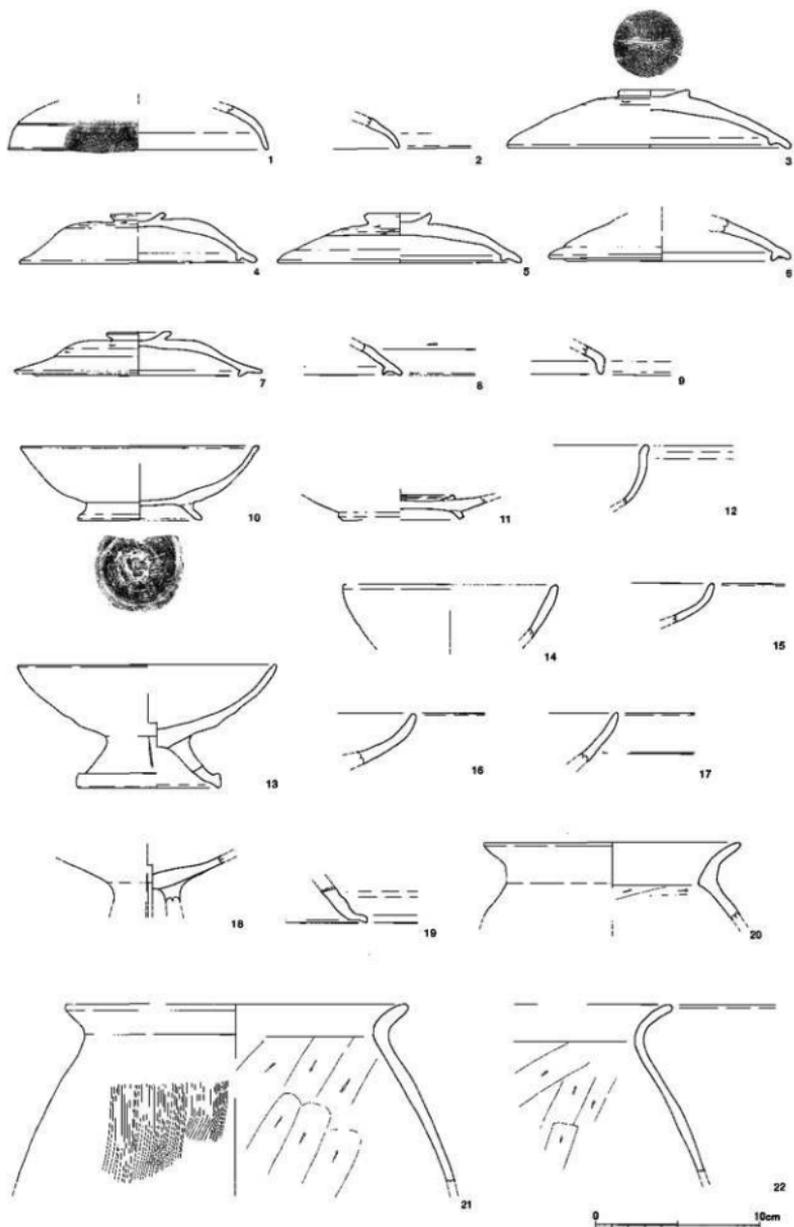


第99図 SD03・SD04完掘・遺物出土状況 (縮尺1:60)

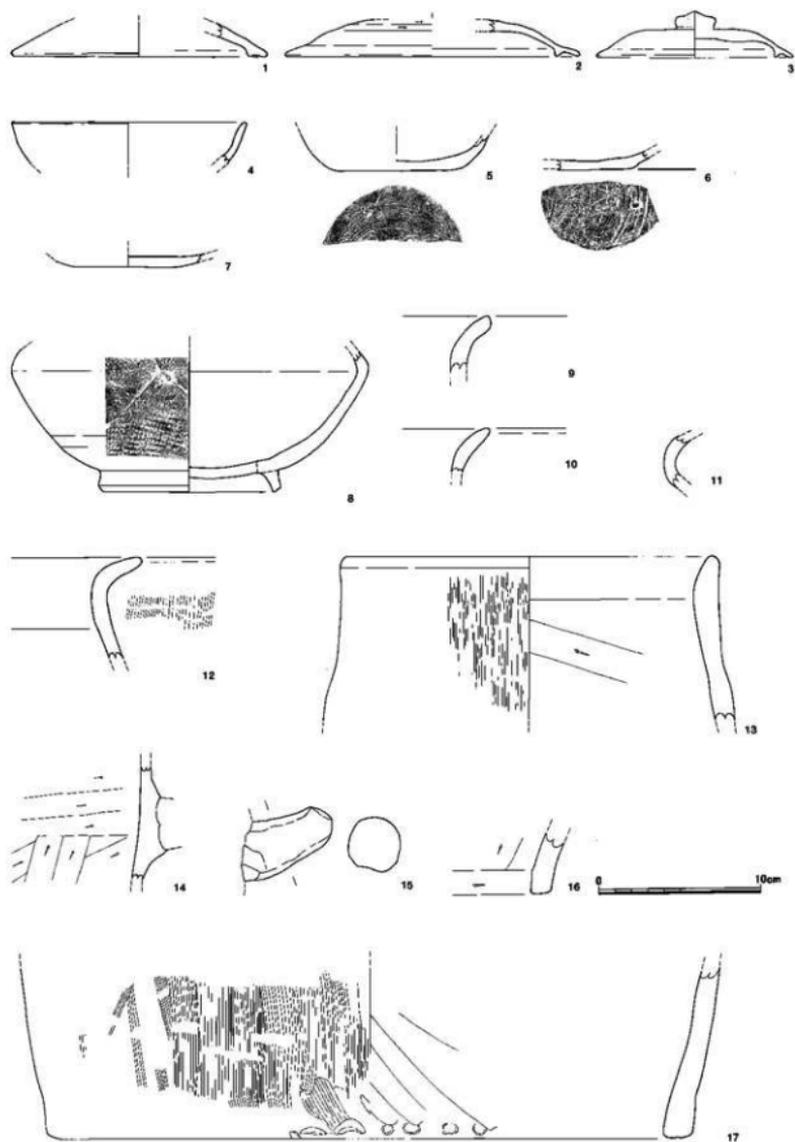
包含層出土遺物

土器類は内法54cm×34cm×15cmのコンテナに須恵器6箱、土師器4箱出土した。須恵器の形式は蓋Ⅱ類や環Ⅱ類が多く、土師器は甕や甔が多い。型式は高広ⅡB～高広ⅣAまで出土しており、特に高広ⅢA～高広ⅣAが多い。石器は黒曜石の石鏃5点(114-4～8)と剥片6点(114-10～15)、安山岩の石鏃1点(114-9)、石英の円鏢1点(114-3)が出土した。

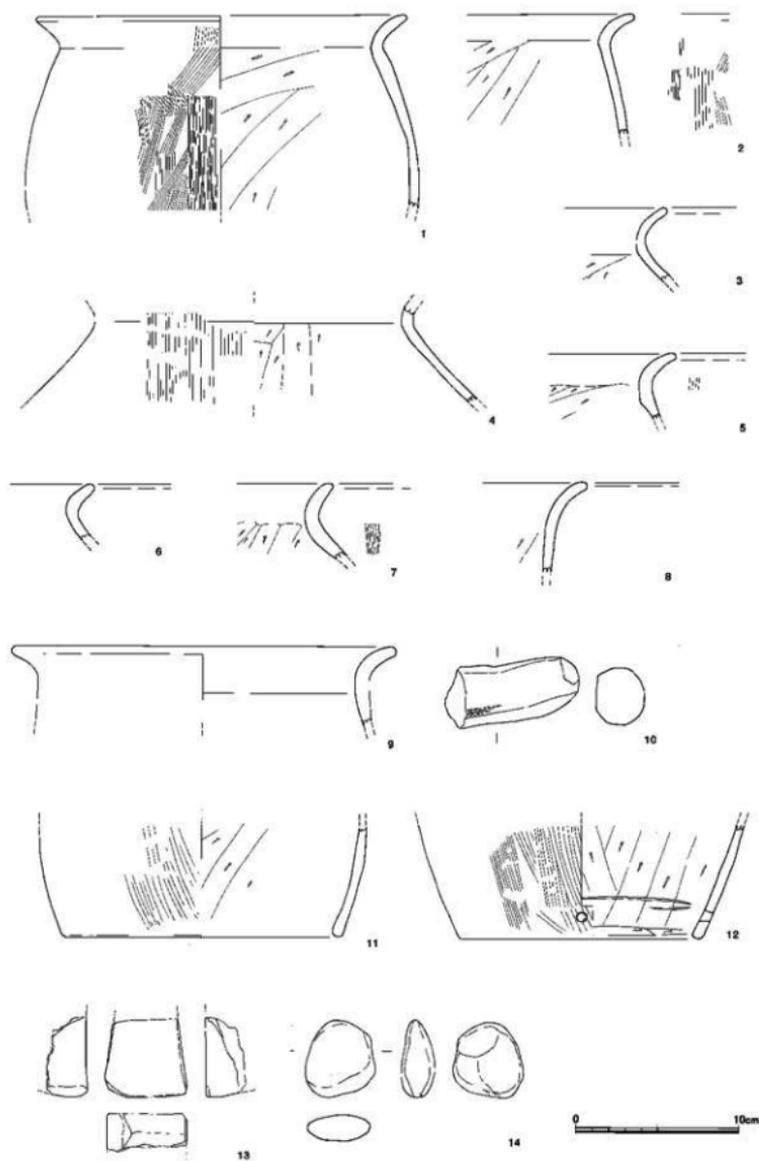
ヘラ記号のある須恵器が8点出土した。遺構出土の須恵器と合わせると17点となる。内訳は×が2点、一が3点、＝が4点、≡が1点、上が1点、≡が1点、≡が1点、不明4点である。注目される遺物には、SB11とSB14の中間地点から出土した(111-23)、SD02西側付近から出土した握ね鉢(113-1)がある。出土した土器類の大半は4区で検出した遺構に伴うものであろう。特に遺構が集中した4区南側からの出土が多かった。石器は、基本的には古墳時代以前の遺物と考えている。ただし、114-4がSB08の床面から出土している点と、縄文土器や弥生土器が1点も出土していない点から、遺構群に関係しないとも断言できない。



第100図 SB04出土遺物 (縮尺1:3)

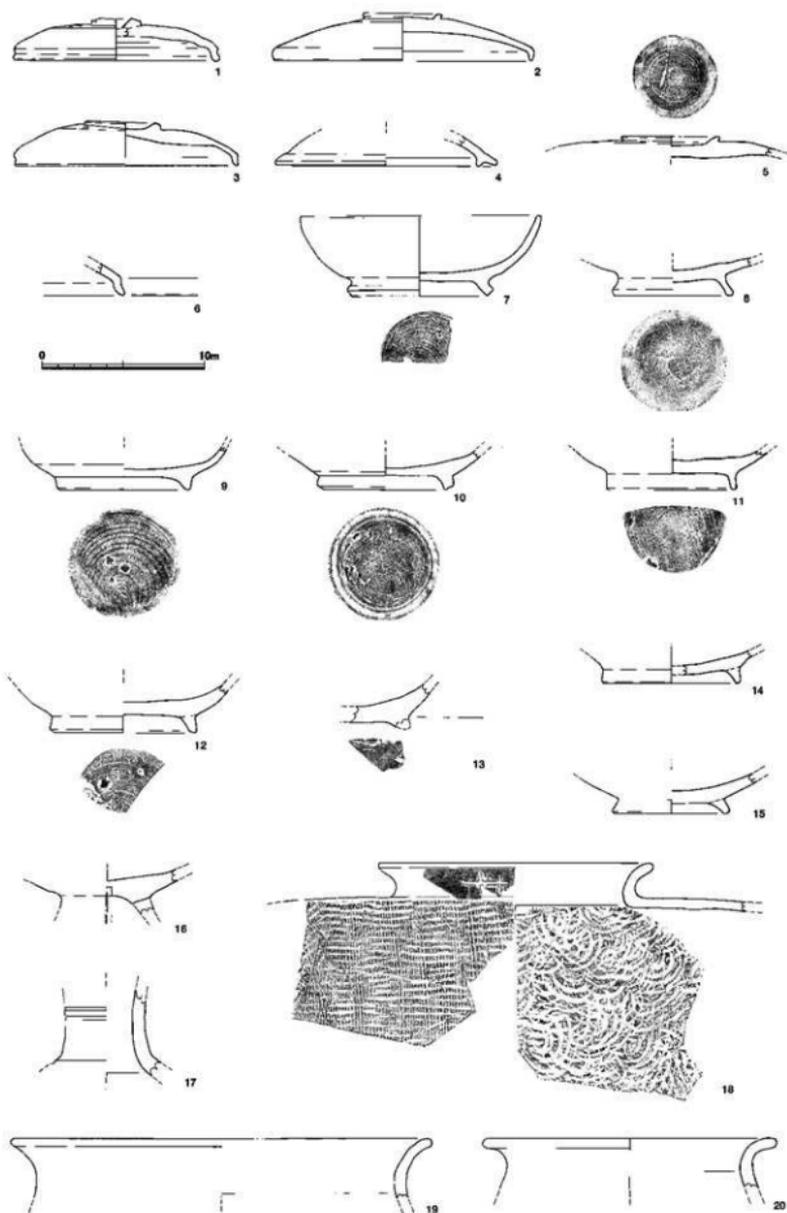


第101図 SB05出土遺物 (1) (縮尺1:3)

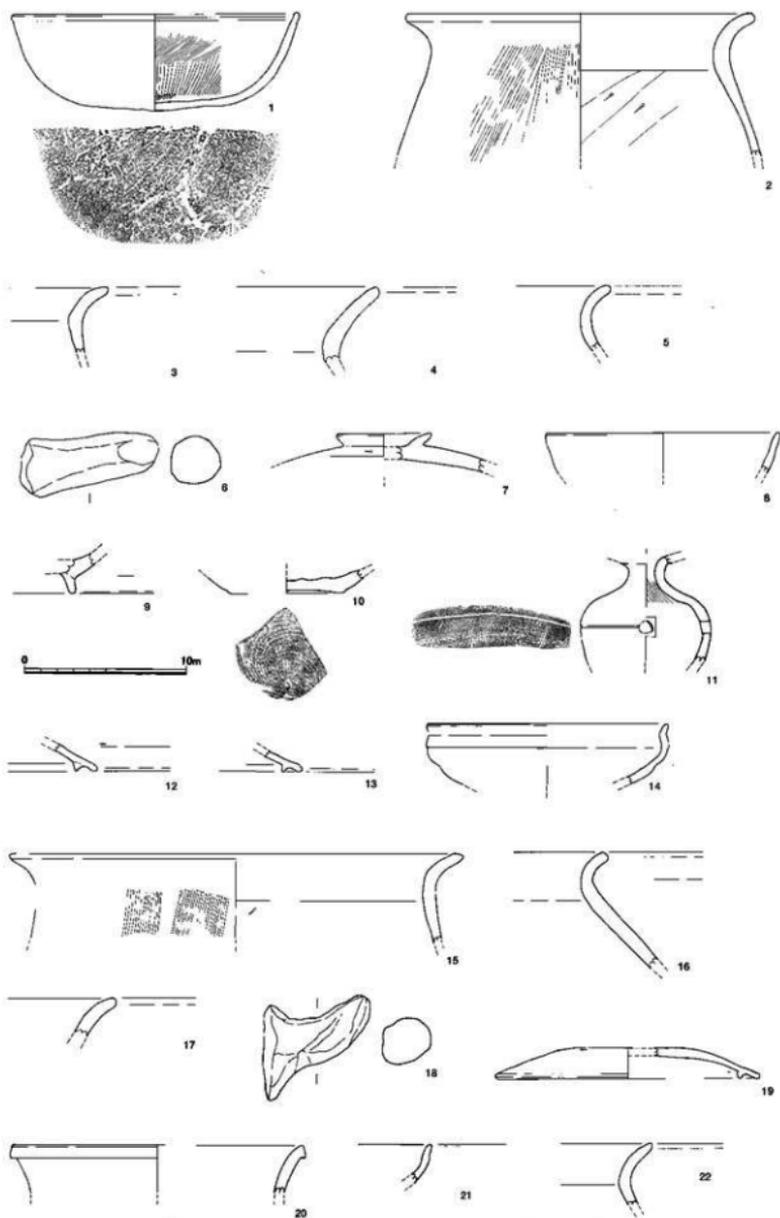


第102図 SB05出土遺物 (2) (縮尺1:3)

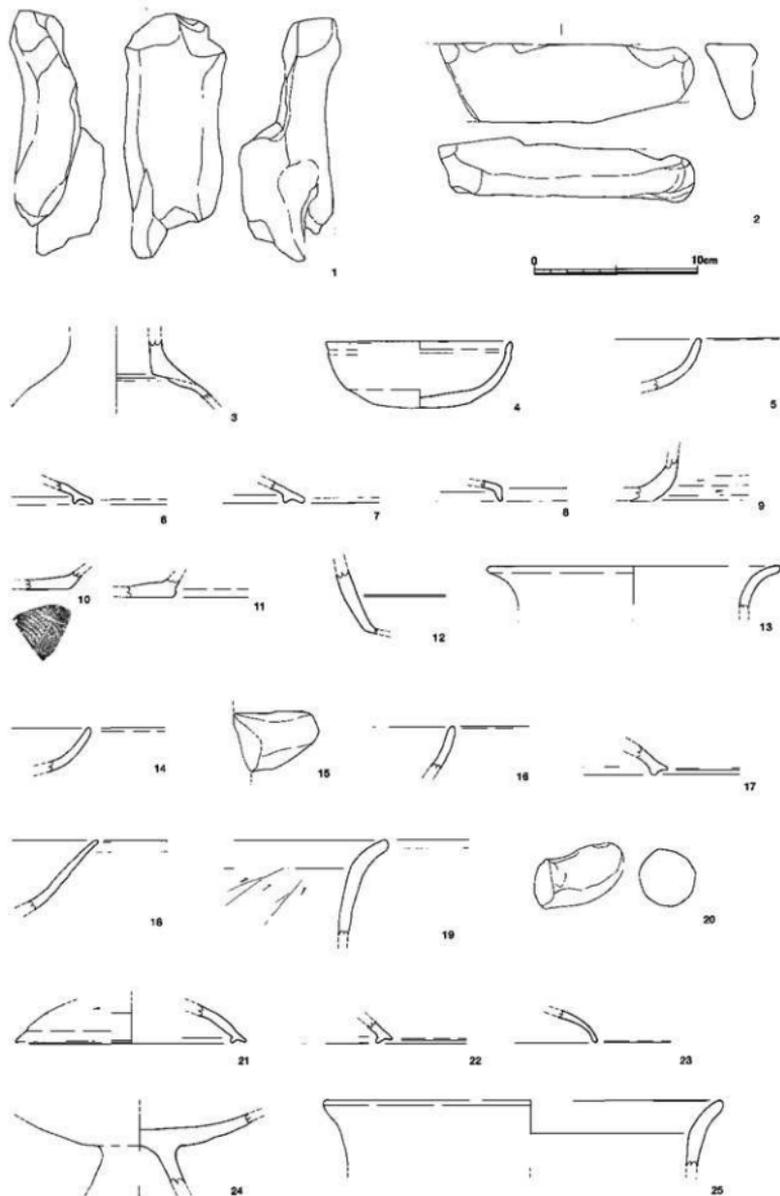
第5章 中横遺跡



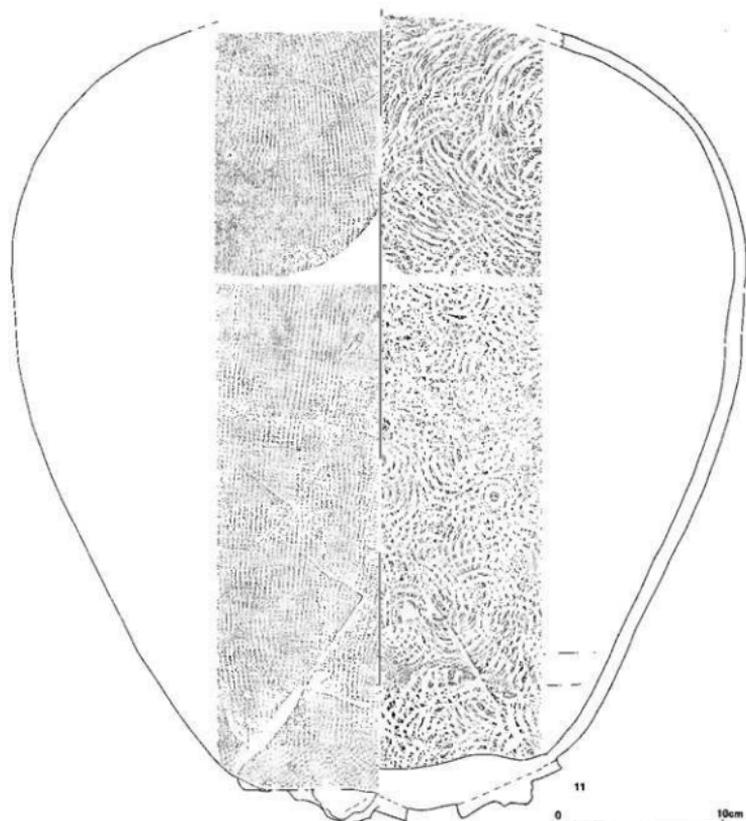
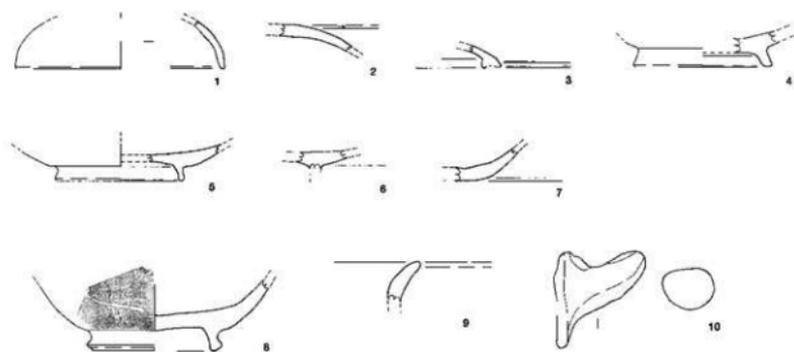
第103图 S B 06出土遺物 (縮尺1:3)



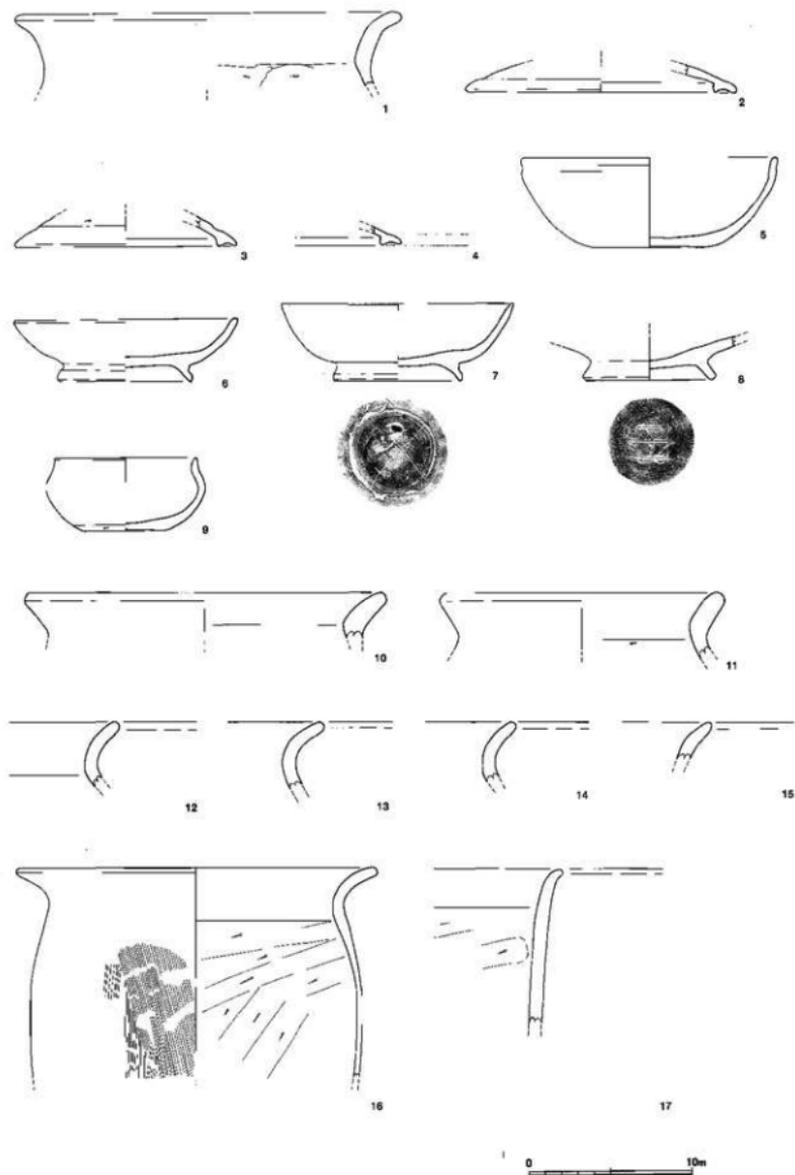
第104图 S B06 · S B07 · S B08出土遗物 (缩尺1:3)



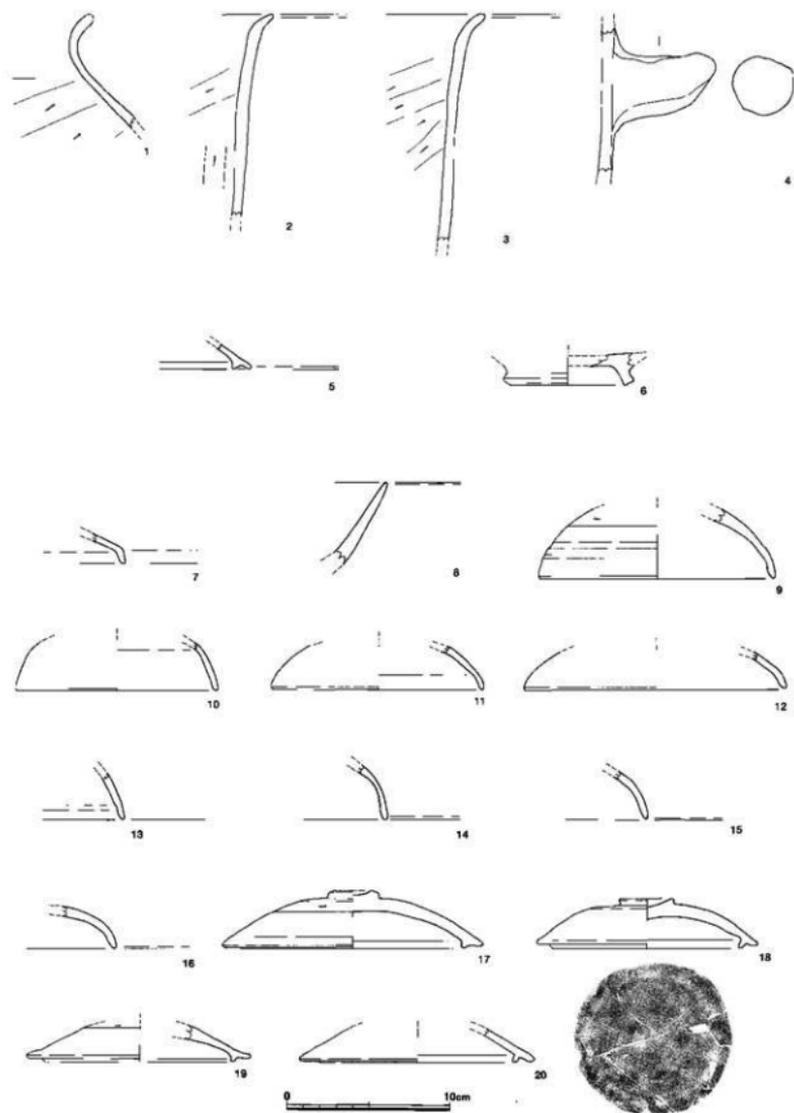
第105図 SB09~SB15出土遺物 (縮尺1:3)



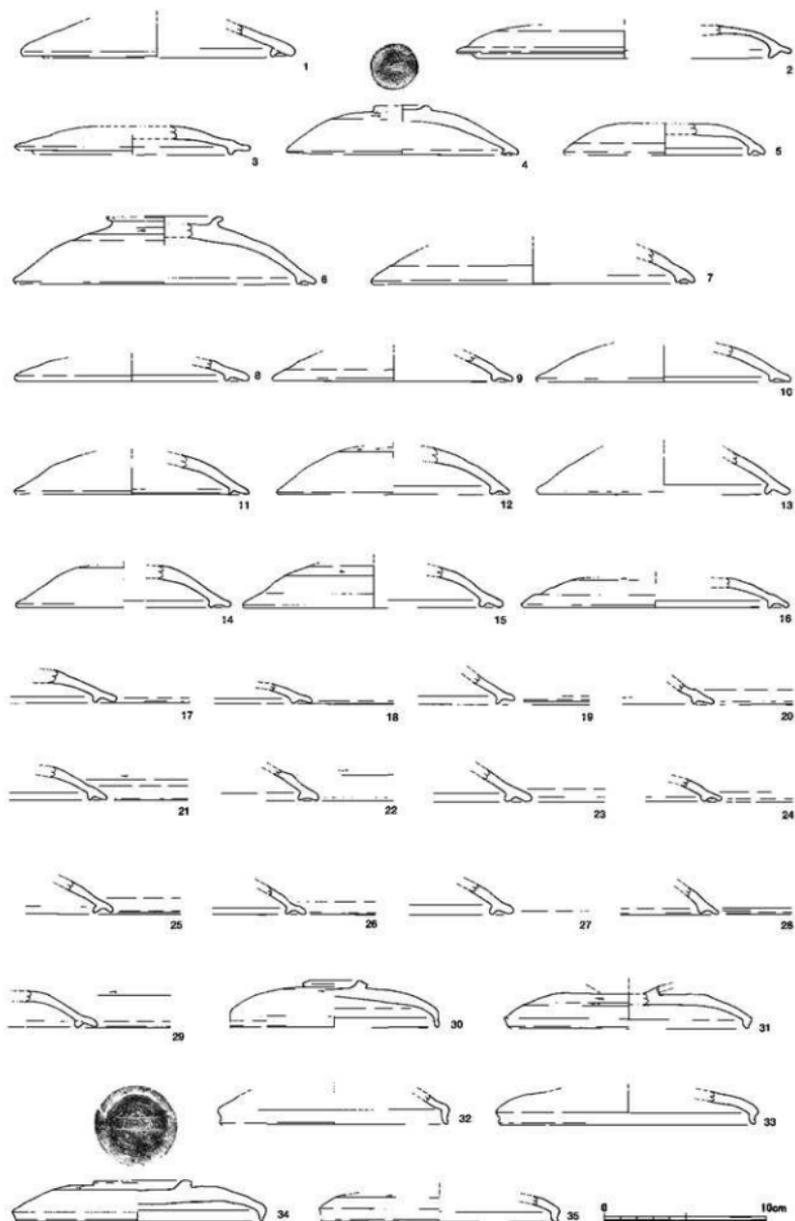
第106図 加工段5・土器溜り2出土遺物(縮尺1:3)



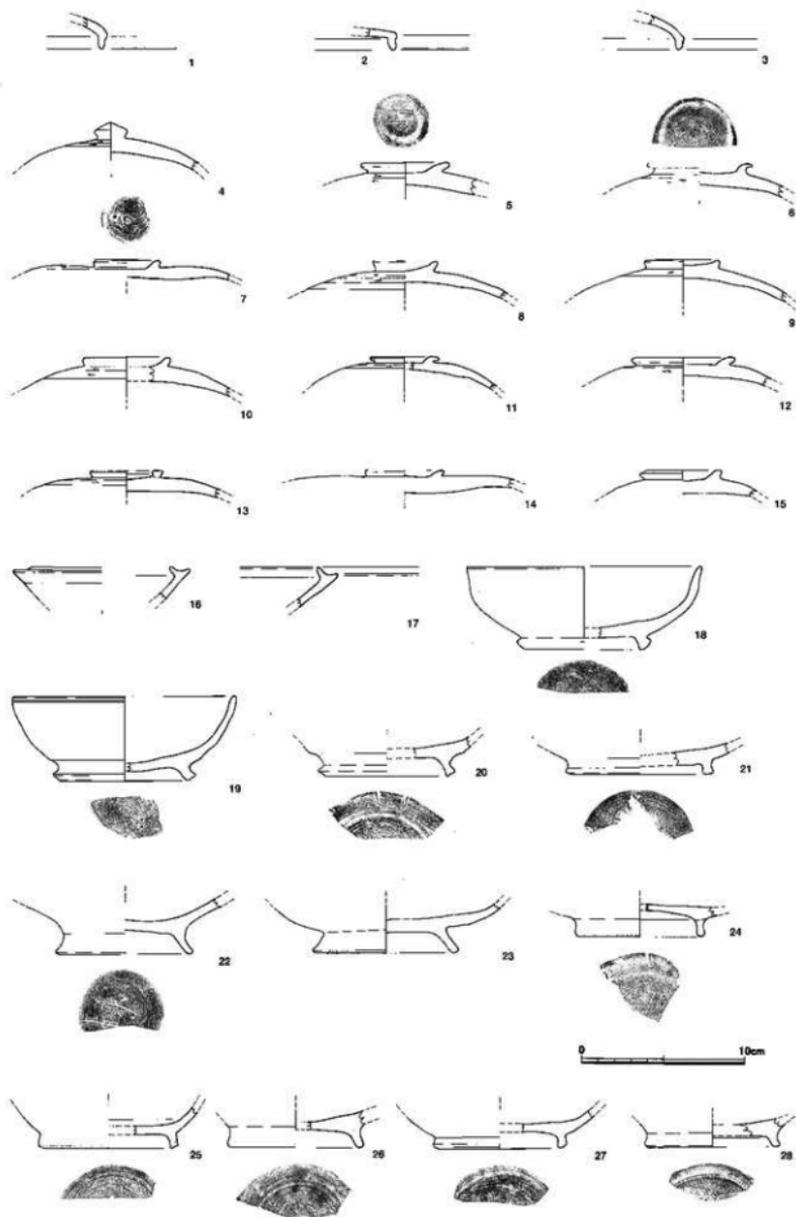
第107図 土器溜り3出土遺物(縮尺1:3)



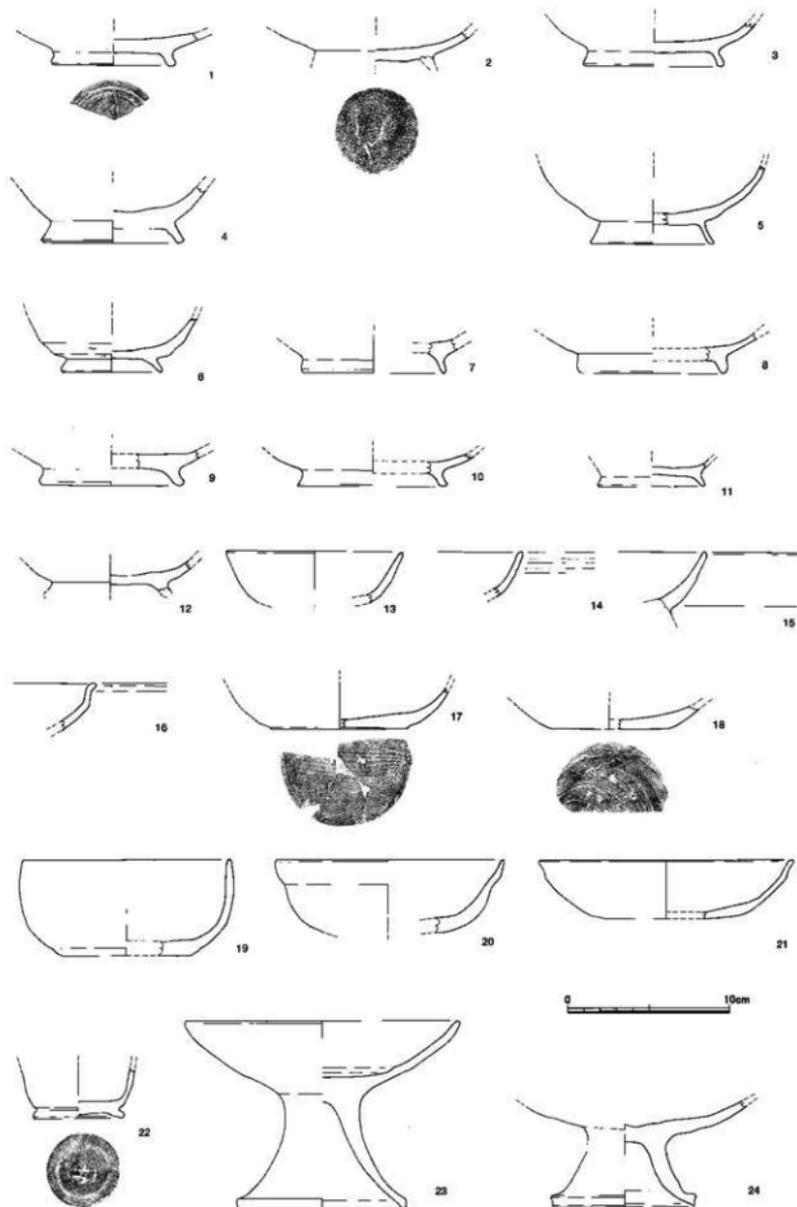
第108图 土器溜勺 3・SD01・SD02・SK01・4区包含層出土遺物 (1) (縮尺1:3)



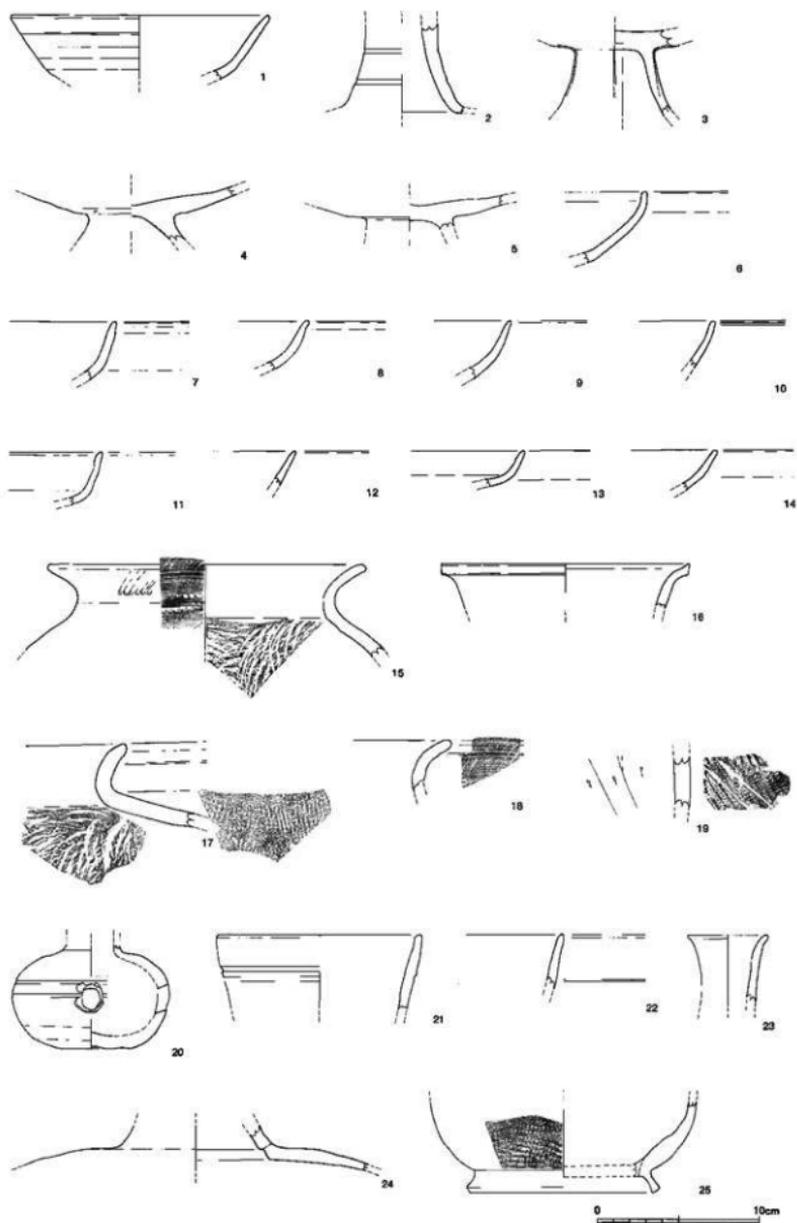
第109図 4区包含層出土遺物(2)(縮尺1:3)



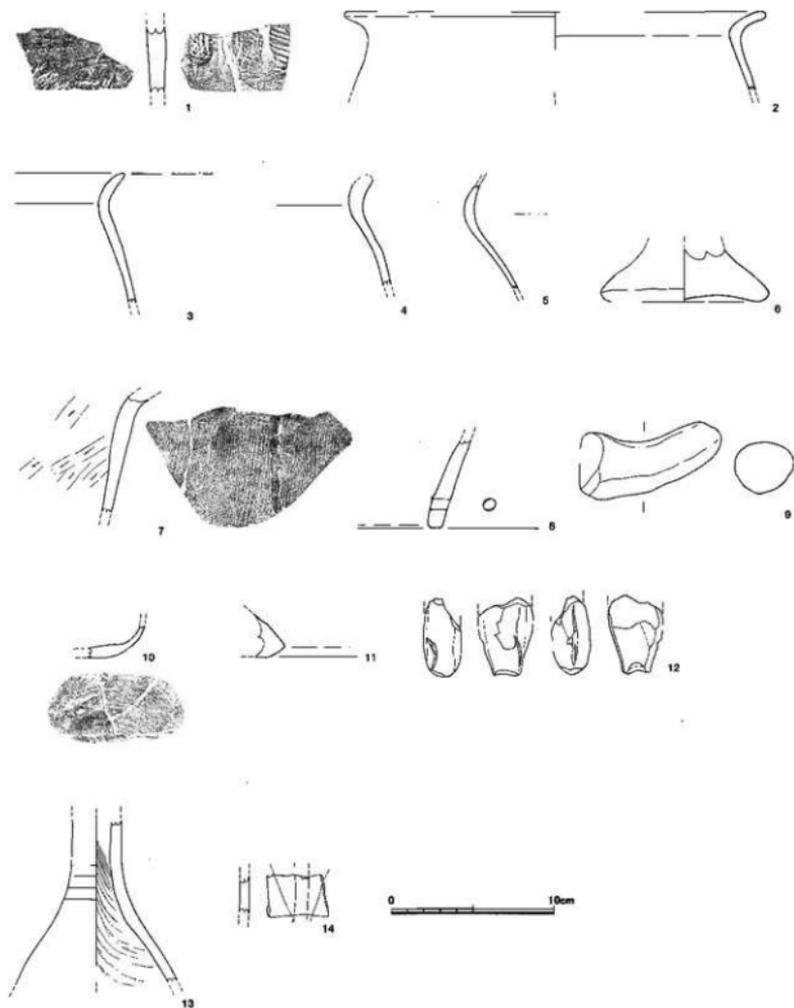
第110图 4区包含层出土遗物(3)(缩尺1:3)



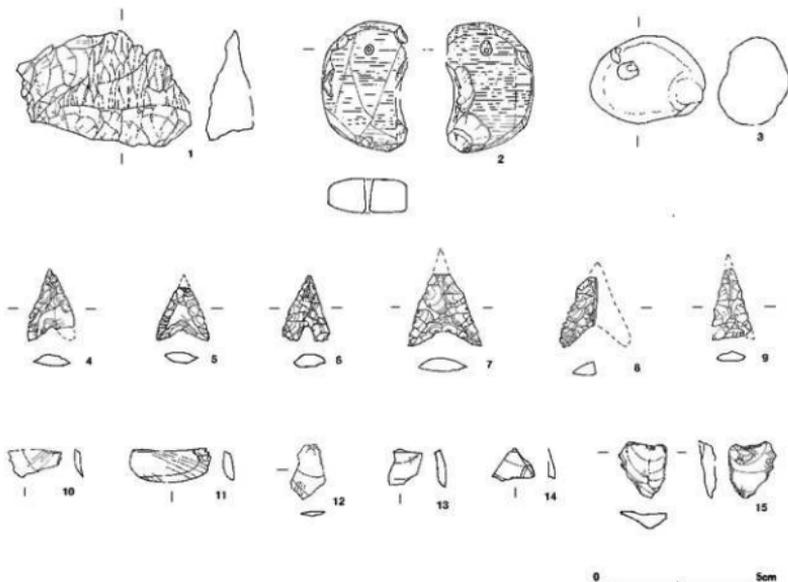
第111圖 4区包含層出土遺物(4)(縮尺1:3)



第112图 4区包含层出土遗物(5)(缩尺1:3)



第113図 4区包含層出土遺物(6)・S B05出土土馬(縮尺1:3)



第114図 3区・4区包含層出土土器 (縮尺2:3)

第18表 中畿遺跡4区出土土器観察表(1)

発掘番号	調査番号	種類	形状	出土層	層位	直径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察	胎土	土質	生産	備考
100-1	83	瓦葺器	壺	5005	粘土	30	16.0				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-2	86	瓦葺器	壺	2901	煉瓦	3					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-3	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	45	17.0	3.8			外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-4	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	98	14.2	3.1			外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-5	83	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	49	14.9	3.1			外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-6	82	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	30	13.8				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-7	82	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	30	12.4	2.7			外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-8	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	6					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-9	82	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	5					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-10	83	瓦葺器	高台付	5005	煉瓦	49	4.4	4.8	7.4		外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-11	83	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	50			7.1		外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-12	83	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	20					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-13	83	瓦葺器	壺	2901	煉瓦	60	15.8	7.6	6.4		外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-14	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	20	13.2				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-15	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	6					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-16	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	20					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-17	85	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	20					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-18	83	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	30					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-19	84	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	30					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-20	84	土師器	壺	5005	煉瓦	20	17.4				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-21	84	土師器	壺	5005	煉瓦	20	20.6				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-22	84	土師器	壺	5005	煉瓦	30					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-1	82	瓦葺器	壺	5004	煉瓦	20	15.4				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-2	82	瓦葺器	壺	5004	煉瓦	20	15.2				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-2	82	瓦葺器	壺	5004	煉瓦	20	12.0	3.8			外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-4	82	瓦葺器	壺	5004	煉瓦	20	14.1				外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-3	82	瓦葺器	壺	5004	煉瓦	30			6.8		外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	
100-6	82	瓦葺器	壺	5005	煉瓦	20					外: 黒色 内: 黒色 口縁部: 黒色 口縁部: 黒色	黒色	赤褐色	土質不明	

第23表 中横遺跡4区出土土器観察表(6)

発掘番号	区別発掘番号	地層	器種	出土遺跡	高さ (cm)	口徑 (cm)	最大径 (cm)	容量 (L)	形状	取上	採坑	色群	備考
113	- 3	104	土師器	甕	包土層	20			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 4	104	土師器	甕	包土層	20			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 5	104	土師器	甕	包土層	20			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 6	101	土師器	甕	包土層	30			外:黄褐色 内:黄褐色	10cm程度の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 7	104	土師器	甕	包土層	20			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 8	104	土師器	甕	包土層	20			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 9	104	土師器	甕	包土層	10			外:黄褐色 内:黄褐色	10cm程度の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 10	104	土師器	甕	包土層	70			外:黄褐色 内:黄褐色	10cm程度の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	図録掲載の要
113	- 11	101	土師器	甕	包土層	10			外:黄褐色 内:黄褐色	10cm程度の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 12	101	土師器	甕	包土層	70			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	
113	- 14	101	土師器	甕	包土層	6			外:黄褐色 内:黄褐色	20cm以下の砂粒を含む	黒採	外:黄褐色 内:黄褐色	

第24表 中横遺跡4区出土土器・土製品観察表

発掘番号	区別発掘番号	器種	形状	出土遺跡	高さ (cm)	口徑 (cm)	最大径 (cm)	容量 (L)	形状	備考
102	- 15	04	石製品	石	5000	幅: 80	4.8	8.1	5.4	71.0
102	- 16	04	石製品	石	5000	幅: 80	4.7	4.4	1.8	68.8
112	17	103	土師器	平盤	5000	径: 10	4.8	3.3	2.3	-
114	- 1	101	石	石製品	5000	径: 10	3.8	3.3	3.1	103.0
114	- 2	105	陶器	5000円	5000	径: 100	4.0	2.6	1.0	29.2
114	- 3	105	土師器	甕	包土層	-	2.7	3.0	2.2	29.4
114	- 4	104	陶器	石製品	5000	径: 80	2.2	1.4	0.3	0.7
114	- 5	104	陶器	石製品	5000	径: 80	2.2	1.8	0.3	0.7
114	- 6	104	陶器	石製品	包土層	100	2.0	1.8	4.0	0.7
114	- 7	104	陶器	石製品	包土層	90	2.3	3.7	0.4	0.4
114	- 8	104	陶器	石製品	包土層	40	2.1	1.1	0.4	0.4
114	- 9	104	陶器	石製品	包土層	90	2.3	1.2	0.3	0.7
114	- 10	104	陶器	石製品	包土層	-	0.9	1.0	0.3	0.3
114	- 11	104	陶器	石製品	包土層	-	1.1	2.4	0.3	2.0
114	- 12	104	陶器	石製品	包土層	-	1.7	1.0	0.1	0.4
114	- 13	104	陶器	石製品	包土層	-	1.1	1.0	0.3	0.3
114	- 14	104	陶器	石製品	包土層	-	1.0	1.3	0.7	0.3
114	- 15	104	陶器	石製品	包土層	-	1.8	1.4	0.3	0.3

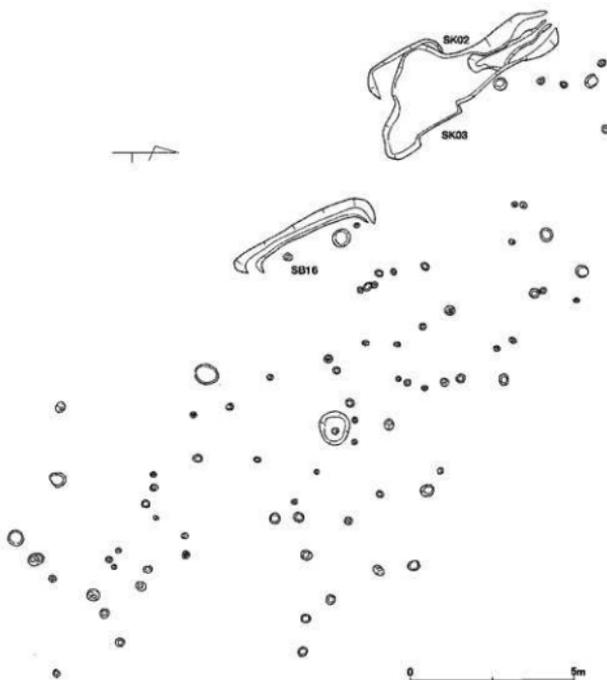
第5節 5区の調査

1. 調査の方法

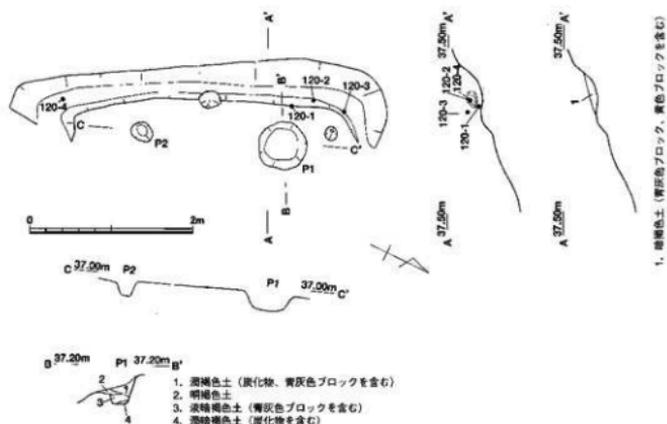
5区は1区北側、3区の西側に隣接する。急斜面と緩斜面で構成された調査区である。平成15年度に1.5m×4.0m～10.0mのトレンチを10か所調査し、2,400㎡を全面発掘調査対象地とした。全面発掘調査では、緩斜面を中心に建物跡1棟、土坑2基、石列3基を検出した。

SB16

遺構 5区の南側、やや急な斜面の中段に位置する。平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅4.0m、奥行き0.6m、深さ30cmを測る。壁体



第115図 5区緩斜面付近遺構図(縮尺1:150)



第116図 SB16完掘・遺物出土状況(縮尺1:60)

第5章 中畿遺跡

溝は上面の幅30cm前後、底面の幅12cm前後、深さ4cm前後を測る。柱穴と思われるピットは2基あり、ピットの間隔は1.7mを測る。遺構の廃棄時期は、床面出土遺物から、高広ⅡA期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。

SK02・SK03

遺構 SB16の北側で、急斜面と緩斜面の変換点に位置する。SK03を埋めて、SK02を造っている。

SK02は平面形は隅丸方形で、規模は床面で幅2.3m、奥行き1.6m、深さ50cm、床面の標高は37.7mを測る。壁体溝やピットは無く、建物跡であるかについては不明である。奥壁から60cmの位置で焼上を1か所検出した。焼上は26cm×20cmの範囲で張床が焼上化したものである。床面からは須恵器の蓋、坏、高坏、甕、土師器の甕、甗が出土した。遺構の廃棄時期は床面出土から高広ⅡA期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。

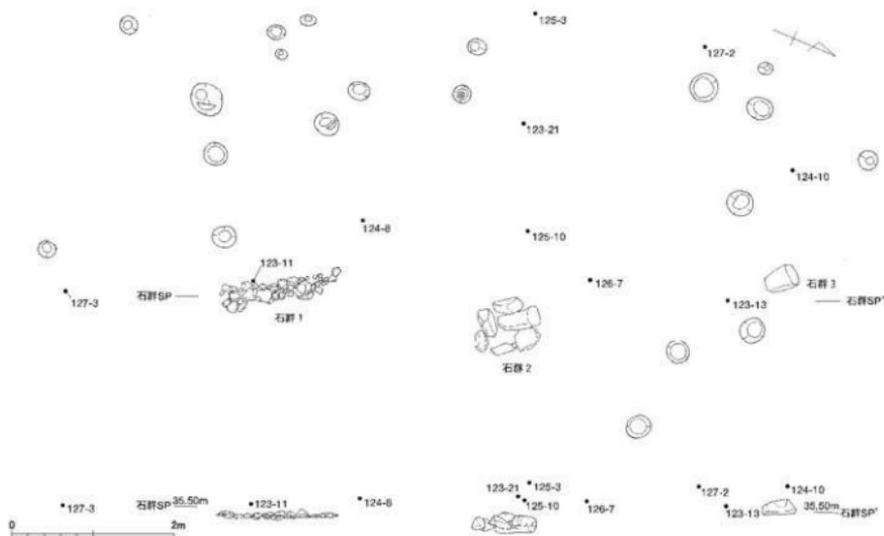
SK03は平面形は垂三角形で、規模は床面で幅6.4m、奥行き2.3m、SK02の床面からの深さ30cm、床面の標高は37.3mを測る。壁体溝やピットは無く、遺構の形状も歪で、建物跡とは考えられない。床面から須恵器の蓋、坏、高坏、はそう、甕、土師器の甕、甗、支脚が出土した。出土点数はSK02より多く、出土遺物から、煮炊きと供膳を行う祭祀遺構と考えられる。遺構の廃棄時期は床面出土から高広ⅡA期（7世紀初頭～前葉）と考えられる。両遺構の出土遺物の型式が同じことから、SK03の廃棄、SK02の構築、SK02の廃棄は、短期間に行われたと考えられる。

石群

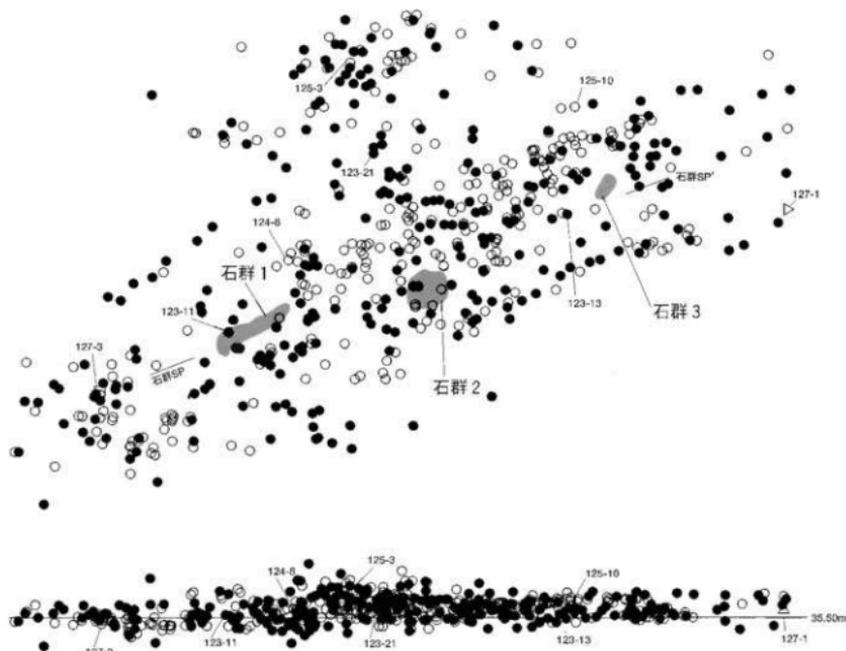
遺構 5区の南側に3か所の石群が幅7.0mの空間に、ほぼ直線の上に並ぶ。石群の中心間の距離は、石群1-石群2まで3.0m、石群2-石群3まで2.8mを測る。遺構の東側は削平されている。

石群1は1.5m×0.4mの範囲に46個の角礫が帯状に並ぶ。標高34.85m前後でほぼ水平に置かれている。石群の上面は標高34.95m前後でほぼ水平になっている。最大の石で26cm×20cm×6cmを測る。石群2は80cm×70cmの範囲に6個の角礫が方形に並ぶ。標高34.85m前後でほぼ水平に置かれている。石群の上面は標高34.97m前後でほぼ水平になっている。最大の石で52cm×22cm×20cmを測る。石群3は角礫が1点だけある。標高35.5mに置かれている。石の上面は標高34.24mとなっている。石は50cm×30cm×10cmの大きさを測る。これら石群の時期は、周辺から出土した遺物から高広ⅡB～ⅢA（7世紀中葉～8世紀初頭）と考えられる。

石群は、等間隔で直線上に並ぶこと、角礫を使用することからは、一連の遺構と考えられる。一方で、石の個数、集合状況、石の大きさが異なる点からは、一連の遺構とは考えられない。特に、石群1と石群2は配置場所と石群の上面の標高が一致するのに対して、石群3は個数や配置場所の標高も異なり、同一の遺構でない可能性が高い。ただし、石の大きさは石群2と共通しているので、石群3の大半が流失したとすれば、一連の遺構と考えられる。これらの石群が建物の礎石である可能性も考えられるが、現状では判断できない。各石群が単独の遺構である可能性もある。石群周辺からは、須恵器製権（127-2）、滑石製子持勾玉（127-3）が出土し、石群3の北側2.5mの地点からは銅滴（127-1）が、石群2から南側3.6mの地点から瓶子（126-3）が出土した。また石群周辺は



第118図 石群出土状況 (縮尺1:60)



第119図 石群周辺の遺物出土状況 (縮尺1:60)

○は土師器、●は黒土器、□は特殊土器、△は銅器

5区の中なかでも土器が集中しており、土師器片約200点、須恵器片約170点が出土した。以上のことから、建物の有無は不明であるが、祭祀を行った場所と考えられる。

Pit.184

SK02・SK03の北側に位置する。上面の直径46cm、底面の直径34cm、深さ44cmのピットから39点もの石が出土した。出た石は円礫を割ってあった。最大のもので20cm×20cm×10cmを測る。ピット上面からは土師器の甌把手が1点出土した。時期は周辺の出土遺物から高広ⅡB～ⅢA（7世紀中葉～8世紀初頭）と考えられる。性格は不明である。

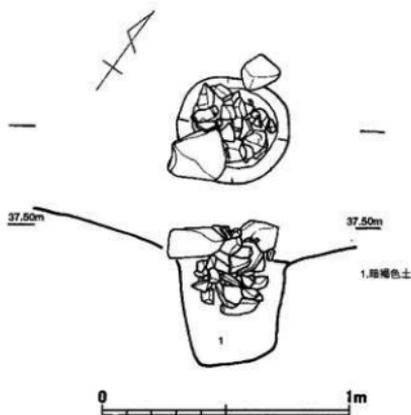
包含層出土遺物

土器類は内法54cm×34cm×15cmのコンテナに須恵器5箱、土師器3箱出土した。須恵器の形式は蓋Ⅱ類や坏Ⅱ類が多く、土師器は甌や甌が多い。須恵器の型式は高広Ⅱ

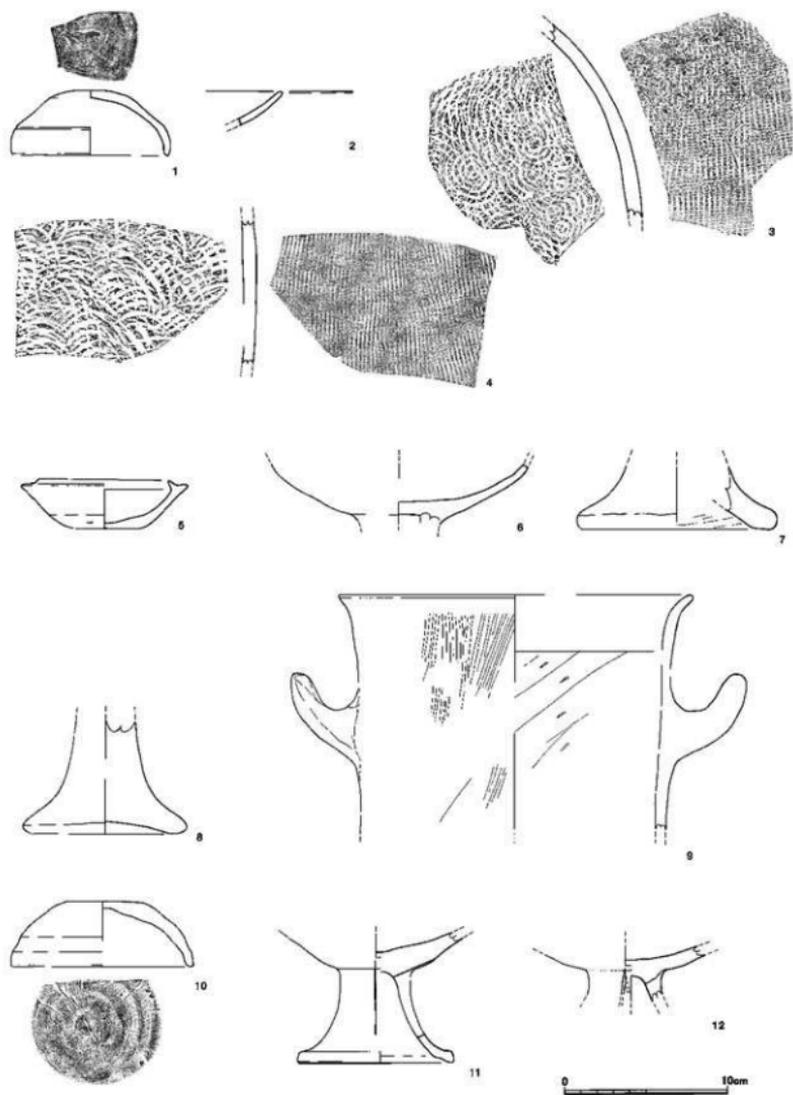
A～高広ⅣAまで出土しており、4区より1型式古い様相を示す。へら記号のある須恵器が12点出土した。遺構出土とトレンチ出土の須恵器を合わせると24点となる。内訳は×が3点、一が6点、＝が1点、井が1点、井が2点、卍が1点、Mが2点、不明8点である。

石器類は、瑪瑙製勾玉未成品の可能性があるもの1点（127-4）、瑪瑙製スクレイパー1点（127-5）、黒曜石製スクレイパー1点（127-6）、黒曜石の剥片2点（127-6～8）、水晶の剥片1点（127-8）が出土した。

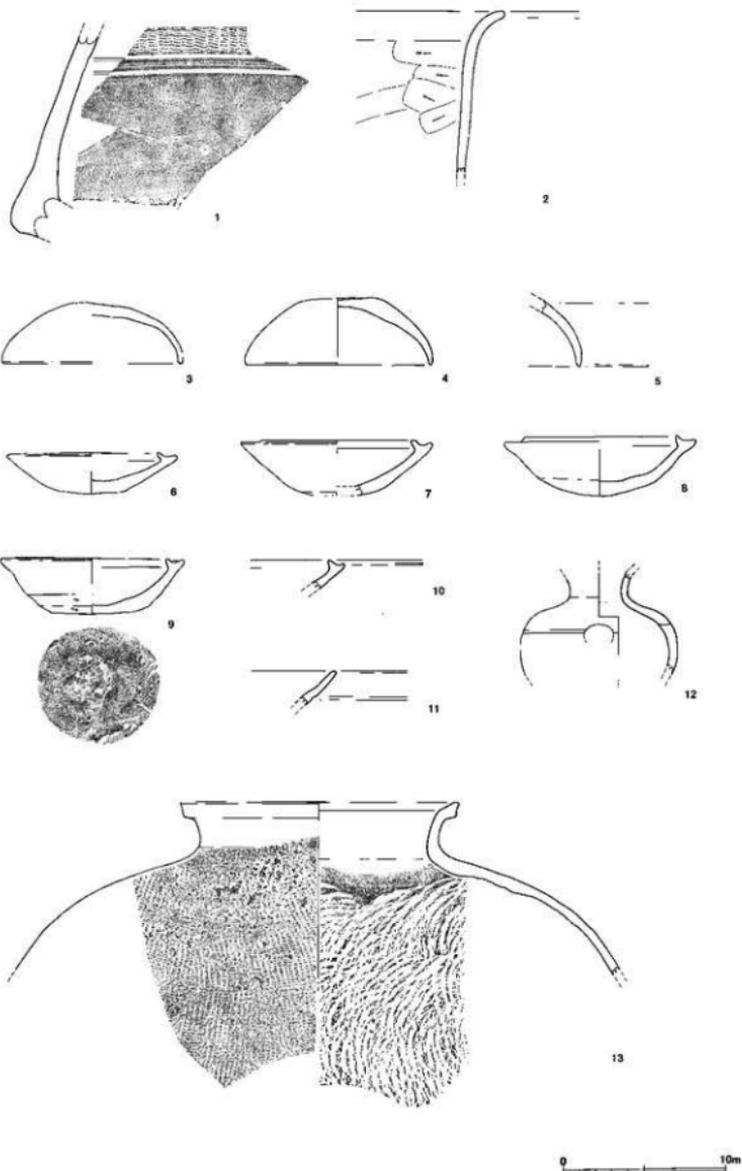
注目される遺物に平瓦がある。Tr.2から2点（62-6、62-7）とTr.2の東側2mの地点から1点（126-14）出土した。いずれも凹面に布目があり、凸面に縄目がある。色調は灰白色で、表面に離れ砂が施されている。以上のことから8世紀代の平瓦と考えられる。他に中継遺跡では少ない高広ⅣBの坏Ⅳ類（125-14）、小形高坏（125-24）などが出土している。また、小谷2式の壺（126-8）が出土している。



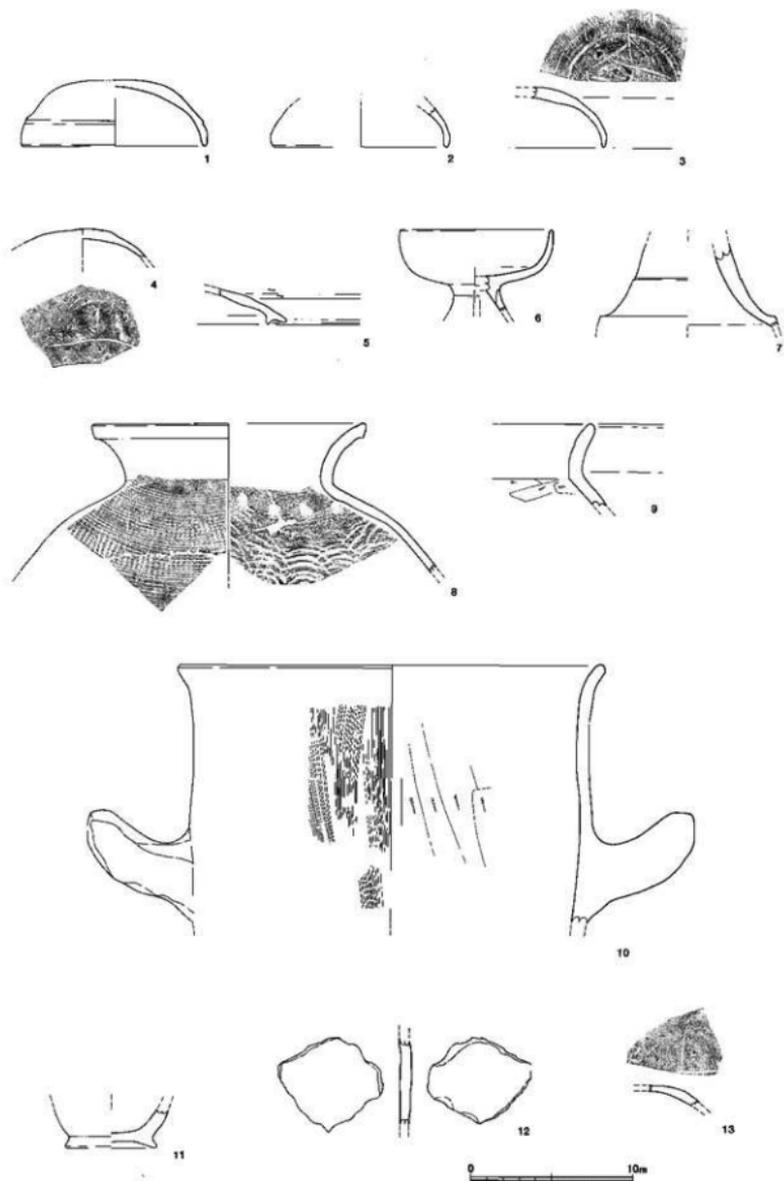
第120図 Pit.184完掘・遺物出土状況



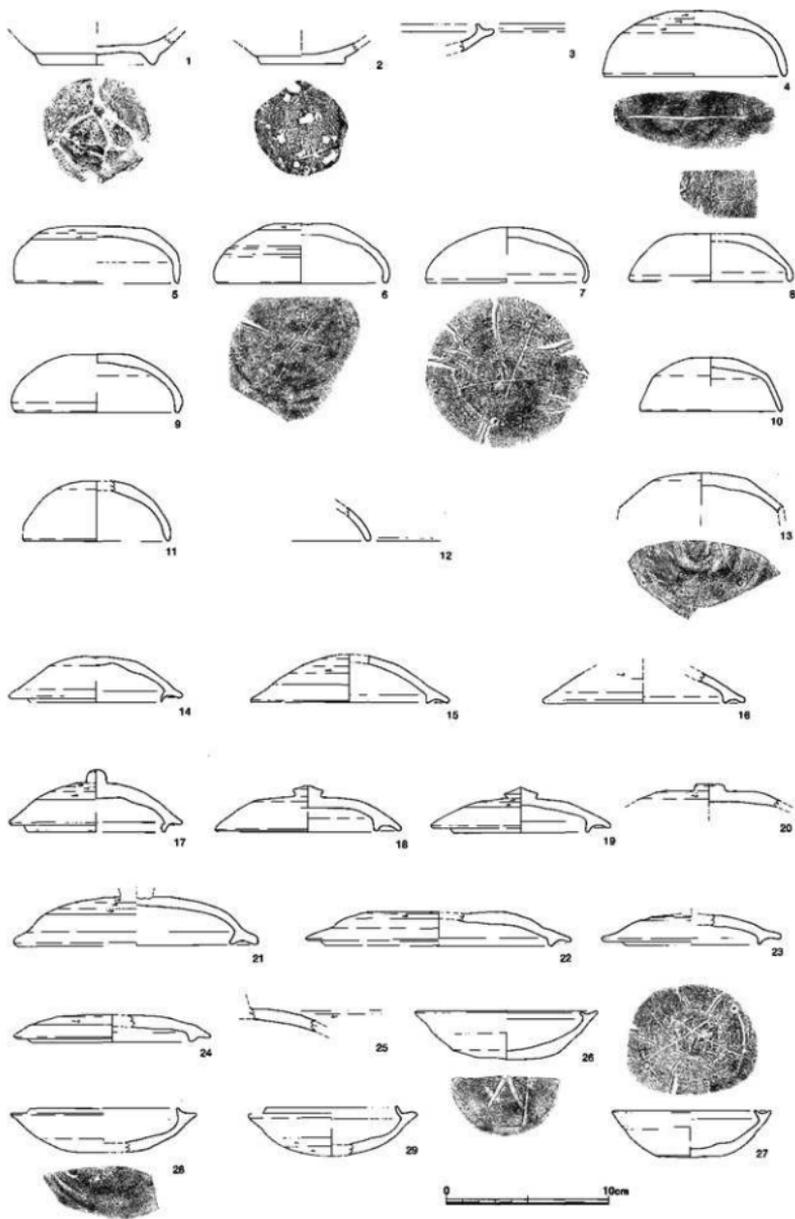
第121圖 SB16・SK02出土遺物(縮尺1:3)



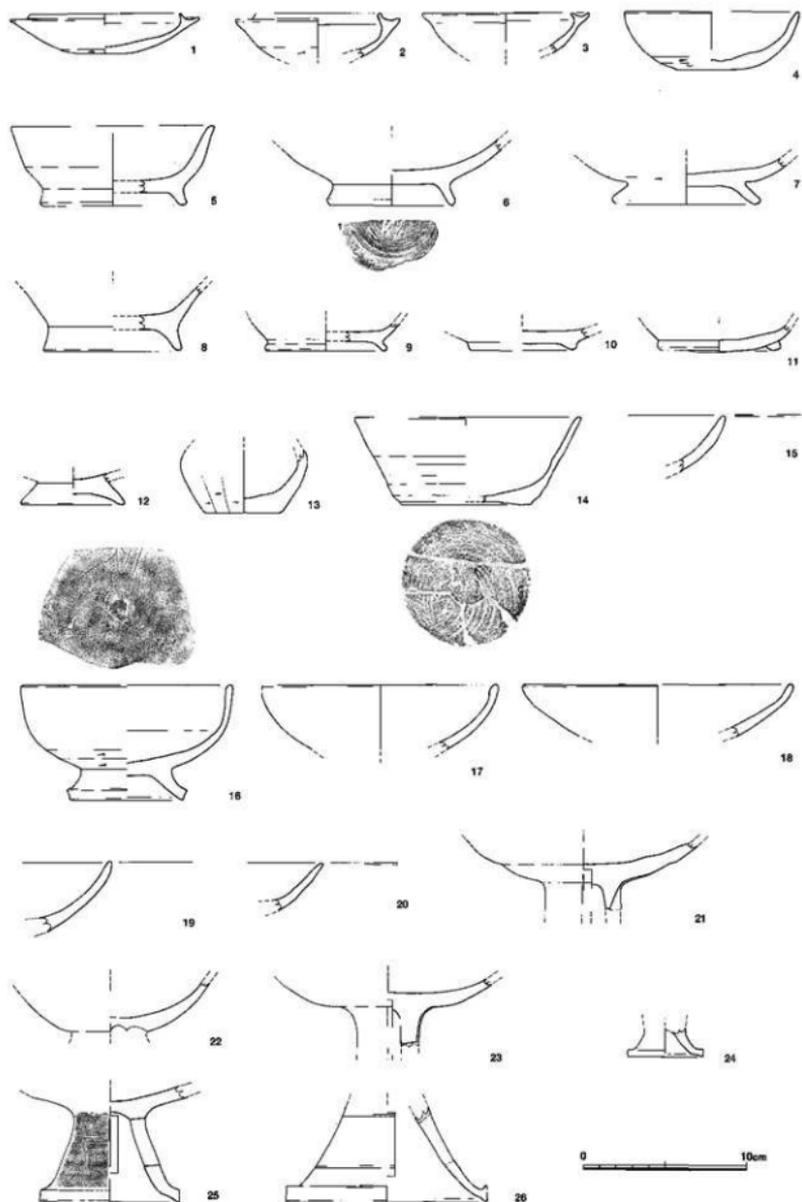
第122圖 SK02・SK03出土遺物 (縮尺1:3)



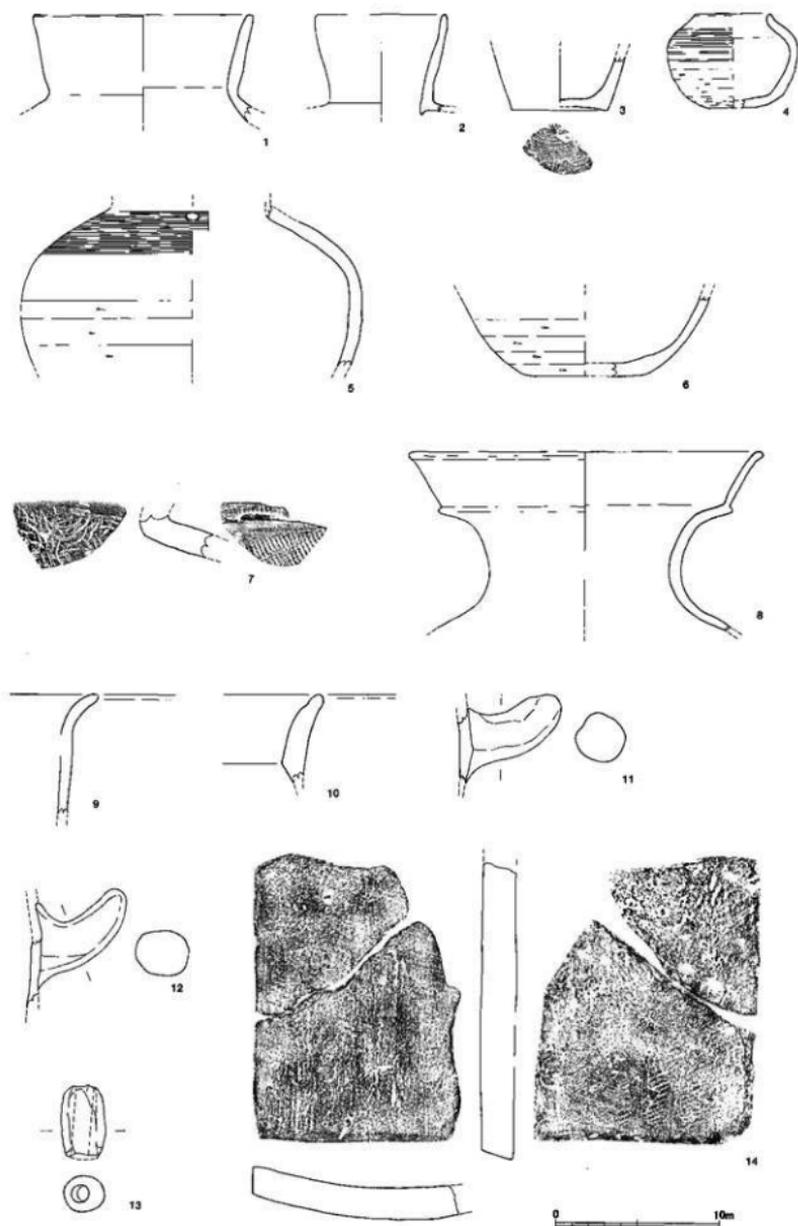
第123図 SK03・石群出土遺物 (縮尺1:3)



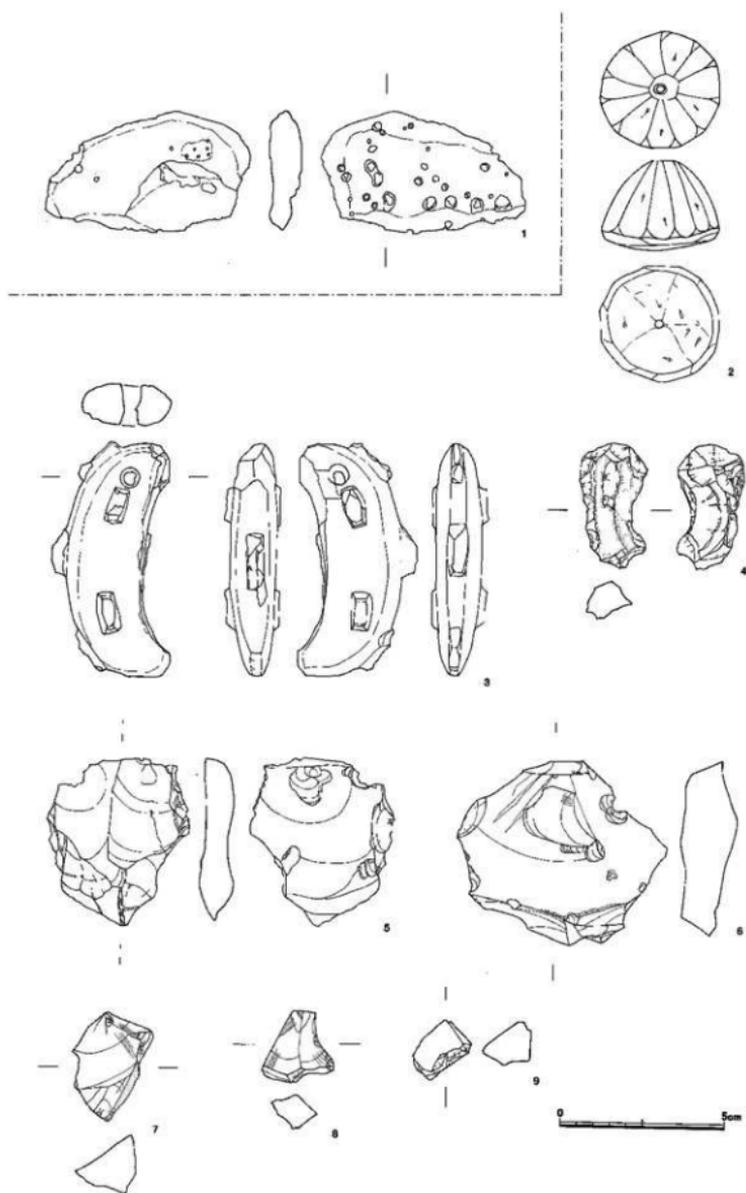
第124图 5区包含层出土遗物(1)(缩尺1:3)



第125図 5区包含層出土遺物(2)(縮尺1:3)



第126图 5区包含层出土遗物(3)



第127図 5区出土石器(縮尺 1は4:3、2~9は2:3)

第26表 中横遺跡5区出土土器観察表(2)

調査番号	遺物番号	種類	器種	形状	容量 (L)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	調査	出土	時期	土質	備考
124	- 27	112	弥生前期	弥生前期	包土器	80	9.8	3.9		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(1)
124	- 28	113	弥生前期	弥生前期	包土器	80	9.8			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(下層)
124	- 29	112	弥生前期	弥生前期	包土器	60	6.0	3.0		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 1	112	弥生前期	弥生前期	包土器	20	11.2	3.2		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 2	112	弥生前期	弥生前期	包土器	20	9.6	3.0		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 3	116	弥生前期	弥生前期	包土器	5	10.0			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 4	112	弥生前期	弥生前期	包土器	70	10.4	3.8		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 5	112	弥生前期	弥生前期	包土器	60	12.2	4.9	6.6	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	弥生前期の弥生土器
125	- 6	112	弥生前期	弥生前期	包土器	60			7.4	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	弥生前期の弥生土器
125	- 7	112	弥生前期	弥生前期	包土器	30			0.1	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	弥生前期の弥生土器
125	- 8	113	土師器土器	土師器土器	包土器	70			8.0	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 9	113	土師器土器	土師器土器	包土器	30			7.9	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 10	113	土師器土器	土師器土器	包土器	30			6.2	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 11	113	土師器土器	土師器土器	包土器	30			7.0	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 12	115	弥生前期	弥生前期	包土器	30			0.5	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 13	112	弥生前期	弥生前期	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 14	113	土師器土器	土師器土器	包土器	60	12.8	3.4	0.0	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	弥生前期の弥生土器
125	- 15	116	弥生前期	弥生前期	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 16	113	土師器土器	土師器土器	包土器	60	12.8	3.1	6.8	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(4)
125	- 17	115	弥生前期	弥生前期	包土器	70	10.0	4.0		内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 18	116	弥生前期	弥生前期	包土器	30	10.2			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 19	118	弥生前期	弥生前期	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 20	116	弥生前期	弥生前期	包土器	5				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 21	113	土師器土器	土師器土器	包土器	35				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(5)
125	- 22	1.3	弥生前期	弥生前期	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 23	1.4	弥生前期	弥生前期	包土器	35				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(6)
125	- 24	115	弥生前期	弥生前期	包土器	5			4.5	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
125	- 25	114	弥生前期	弥生前期	包土器	60			9.4	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(7)
126	- 1	118	弥生前期	弥生前期	包土器	30			12.2	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 2	114	弥生前期	弥生前期	包土器	30	13.2			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 3	114	弥生前期	弥生前期	包土器	30	7.6			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 4	1.4	弥生前期	弥生前期	包土器	30			6.0	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(8)
126	- 5	114	弥生前期	弥生前期	包土器	60	4.8	5.8	3.3	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(9)
126	- 6	115	弥生前期	弥生前期	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(10)
126	- 7	116	弥生前期	弥生前期	包土器	10				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 8	115	土師器土器	土師器土器	包土器	30	2.0			内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 9	118	土師器土器	土師器土器	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 10	115	土師器土器	土師器土器	包土器	15				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 11	116	土師器土器	土師器土器	包土器	90				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 12	116	土師器土器	土師器土器	包土器	15				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 13	118	土師器土器	土師器土器	包土器	30				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	
126	- 14	118	土師器土器	土師器土器	包土器	70				内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	2000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	→ 27号(11)
127	- 2	115	弥生前期	弥生前期	包土器	100	9.5	2.7	1.8	内: 黒褐色土質、外: 黒褐色土質	1000年代の弥生土器	良好	内: 黒褐色土質 外: 黒褐色土質	

第27表 中横遺跡5区出土土器・銅演観察表

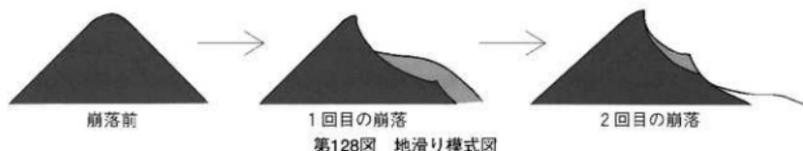
調査番号	調査番号	種類	器種	形状	容量 (L)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	備考	
127	- 1	116	弥生前期	弥生前期	包土器	—	3.1	1.9	0.3	9.4	
127	- 3	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	7.2	3.6	1.7	16.2	
127	- 4	116	弥生前期	弥生前期	包土器	—	3.8	2.1	1.3	10.5	→ 27号(12)
127	- 5	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	6.2	4.4	1.1	8.0	
127	- 6	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	5.7	6.4	2.0	17.4	
127	- 7	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	3.4	2.3	2.0	10.2	
127	- 8	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	2.8	2.3	1.0	3.9	
127	- 9	117	弥生前期	弥生前期	包土器	—	1.7	1.8	1.4	4.8	

第6節 総括

1. 中嶺遺跡の地形的特徴

遺構検出面より下の橙褐色土層で礫が層状をなさず多量に混在しており、橙褐色土層に黒色土層(旧表土)が混入している点から、3区と5区の地形が丘陵の崩落土により形成されたことが判明した。地形を形成した大規模な崩落は、崩落土内に遺物が無いこと、遺構検出面出土遺物の上限が古墳時代であること、丘陵頂上部の中嶺1号墳が崩落後の地形に築造されていることから、古墳時代初頭以前に発生したと考えられる。また、5区斜面上段では「雁行状亀裂」と呼ばれる併行して延びる2条の地割れが確認された。この地割れからは須恵器が出土しており、7世紀から8世紀に小規模な崩落や地割れが発生したことが判った。S K03で確認された地山との段差は崩落で生じたものと考えられる。以上のことから、3区と5区では大きな崩落で形成された地形に集落が営まれ、その後も小規模な地割れと崩落が発生したことが判明した。また、4区は崩落土で形成された地形ではない。このような丘陵の崩落により生じた地形は松江市北部では多く見られる。

*以上の内容は2004年12月13日に受けた中村唯史氏による調査指導の内容を要約したものである。



2. 中嶺1号墳

中嶺1号墳は小谷1式～小谷2式期に築造された14.5m×11.5m前後の方墳と考えられる。付近の初期古墳には、客山1号墓⁸⁰⁾、客山2号墓、八日山1号墳がある。近年、松江市持田町沢下遺跡では四隅突出型墳丘墓が2基確認された⁸¹⁾。これにより松江市北東部でも四隅突出型墳丘墓から小形長方形墳への変遷が想定できるようになった。所在地から客山1墓、客山2墓、八日山1号墳は中海西岸と本庄平野の勢力と考えられ、中嶺1号墳は福原町の平野部の勢力と考えられる。中嶺1号墳の立地する丘陵は持田平野と本庄平野の境界であり、交通の要衝である。嶋根郡が形成される過程でどの様な役割を果たしたのが、今後の課題である。

第28表 周辺の初期古墳

遺跡名	所在地	墳形	規模(m)	時期	土器部	遺物	文献
客山1号墳	松江市邑牟町	方形	13×10 高さ19	大木式	箱式木棺?1	土器、礫石	(14)
中嶺1号墳	松江市福原町	方形	14.5?×11.5? 高さ0.8?	小谷1式～2式	土壘1	土器	
客山2号墓	松江市邑牟町	方形	5.5×4.9? 高さ?	小谷2式	土壘2以上	土器	(14)
八日山1号墳	松江市新庄町	方形	23.5×? 高さ2.7	小谷2式?	?	波紋帯四神二獣鏡出土	(15)

3. 鳥根県出土の滑石製子持勾玉

現在、鳥根県では6遺跡から7点の子持勾玉が出土している。時期は5世紀前葉から8世紀初頭である。子持勾玉の使用法は2種類ある。1つは古墳出土品で、5世紀代に限定され、副葬品として使用される。もう1つは集落出土品で、祭祀具と考えられる。子持勾玉が出土した集落遺跡は生産遺跡との関わりがある。岩谷山南遺跡は6世紀後半から鍛冶生産が行われた集落と考えられている。史跡出雲玉作跡は玉生産遺跡である。中嶺遺跡は生産遺跡ではないが、銅製品の生産に関わる官衙に関連する集落である。現状での鳥根県内の子持勾玉の出土例は、地域が出雲東部に限られ、

第5章 中嶺遺跡

副葬品としては5世紀代の古墳に使用され、祭祀用具としては生産遺跡に関連する集落で使用されたとされる。但し、生産遺跡や官衙関連遺跡全てから手持勾玉は出土していない。手持勾玉が出土する集落には更に条件があると考えられる。

第29表 鳥根県出土の子持勾玉

遺跡名	所在地	法量(長さ×幅×厚さ)	時期	出土遺構	文献
中嶺遺跡	松江市福原町	7.2cm×3.6cm×1.7cm	高広ⅡB-ⅢA	石群付近	
岩屋門南遺跡	安来市佐久保町	3.8cm×2.4cm×1.4cm	高広ⅡA?	建物跡	(1)
史跡出雲玉作跡 ⁽¹⁾	松江市玉湯町	3.2cm×1.5cm×1.4cm	不明	包含層	(2)
金崎1号墳	松江市西川津町	8.1cm×2.1cm×1.5cm	5世紀後半	壁穴石室内	(2)
金崎1号墳	松江市西川津町	7.1cm×2cm×1.5cm	5世紀後半	壁穴石室内	(2)
二名宿2号墳	松江市乃木福原町	11cm×3.8cm×2.5cm	5世紀後半	古墳上体部	(3)
松江東北部遺跡	松江市本庄町	10cm×4cm×3.7cm	5世紀前半	不明	(4)

4. 鳥根県出土の権

現在、鳥根県では12遺跡から44点の権が出土している。第20表は鳥根県出土の権を宮本佐知了氏の分類案⁽⁵⁾にF類⁽⁶⁾を加えたものである。時期は6世紀後半から平安時代にわたるが、大半は7世紀代から8世紀代に集中する。松江市はA類を中心とし、江津市ではF類が、その他の地域ではB類が出土している。出土遺跡は官衙関連遺跡、窯跡、集落遺跡の3つに分かれる。これは権の使用法の差と考えられる。官衙関連遺跡では権は計量用具として使用される。窯跡は包含層出土品なので、制作場所なのか、計量に使用したのか、祭祀に使用したのか不明である。集落では祭祀具として使用されている。権が出土した集落遺跡は、全て官衙や須恵器の生産に関連する集落である。中嶺遺跡は出土遺物から官衙関連の集落と言え、且つ銅滴が出土したことから銅製品の生産に関わる集落と言える。大谷徹氏は権の出土する遺跡について「国・郡衙の官衙や駅家などの公的施設、あるいはそれらに関連する集落」「畿内と日本海を結ぶ交通の要衝に位置するもの」「漆器・金属器等の工房と関連が窺われる遺跡」と指摘した⁽⁷⁾。3つめの条件を、「生産遺跡との関連が窺える遺跡」とすれば、鳥根県の権出土遺跡も全てその指摘に当てはまる。

第30表 鳥根県出土の権

	所在地	型式	時期	材質	重量(g)	遺跡の種類	備考	文献
中嶺遺跡	松江市福原町	A-1類	7C中～8C初	須恵質	35.57			
才の峠遺跡	松江市竹矢町	A-2類	7C末～9C	砂岩	34.1	寺院や役所に関連した集落		(5)
高広A遺跡	松江市大井町	E類	7C～9C	須恵質	8.5	須恵器工人の集落か祭祀遺跡	権か疑間	(6)
イガラビ遺跡	松江市大井町	A-1類	7C末～8C中	須恵質	36.45	須恵器工人の集落か祭祀遺跡		(7)
出雲国府(資料A)	松江市大草町	A-1類	奈良～平安	銅	63	官衙	中袋で砂を詰める	(8)
出雲国府(資料B)	松江市大草町	A-1類	8C	銅	157.77	官衙		(8)
古八幡付近遺跡	江津市歌川町	F類	奈良	土師質	38	官衙関連もしくは郡司層の拠点		(9)
平田浜西遺跡	江津市二宮町	F類	奈良	土師質	90	官衙関連		(10)
		F類	奈良	土師質	46			
		F類	奈良	土師質	88			
		F類	奈良	土師質	100			
		F類	奈良	土師質	193			
飯田C遺跡	江津市二宮町	F類	奈良	土師質	25.5	官衙関連		(11)
		F類	奈良	土師質	28.2			
		F類	奈良	土師質	67.6			
矢原遺跡	海士町矢原	B類	奈良以降	鉄	183	漆器部家陶産遺跡		(12)
中野清水遺跡	川雲市中野町	B類	平安	銅	103	銅製品の生産した官衙関連遺跡		(12)
山岸宮跡	松江市大井町	A-3類	不明	須恵質	不明	須恵器窯跡		(13)
棚橋坪込遺跡(5)	江津市	F類	6C後半	土師質	36点出土。大中小に分かれる。テラス状遺構から出土した。			

5. 集落の変遷

中嶺遺跡では高広ⅡA期～高広ⅣA期にかけて集落が営まれた。以下、集落の変遷を述べる。所収時期が複数となる遺構のうちSB12とSB13は同時期に1棟しか成立しないので、ここでは便宜的にSB13を高広ⅢA期、SB12を高広ⅢB期として扱う。

高広ⅡA期 建物跡2棟（SB03、SB16）、土坑2基（SK02、SK03）がある。土坑2基は同時期には1基しか成立しない。建物が初めて出現する時期である。遺構は3区と5区に展開する。SK02とSK03は短期間に設置と廃棄が行われた祭祀遺構で、SK03には地滑りで生じた段がある。小規模であるが地震か大雨による地滑りが5区で発生したと考えられる。SK02・SK03に見られる祭祀はこのような災害に対して行われたものかもしれない。

高広ⅡB期 建物跡5棟（SB01、SB02、SB05、SB14、SB15）、加工段1か所（加工段1）、石群がある。5区の建物が消え、4区に建物が出現した。加工段1、SB05、石群では多量の土器が出土しており、祭祀行為が実施されたと思われる。特に石群周辺では、子持勾玉、権、銅滴などが特異な遺物が出上しており、加工段1やSB05より大規模な祭祀が実施されたと考えられる。

高広ⅢA期 建物跡4棟（SB04、SB08、SB09、SB13）、加工段1か所（加工段5）、土器溜り2か所（土器溜り2、土器溜り3）、溝状遺構2条（SD01、SD02）、石群がある。3区で建物が消え、大型の掘立柱建物のSB09が建築された。SB09は他に同規模の建物が無いこと、道と思われるSD01・SD02がSB09の下方に延びることなどから、集落の中心的な施設と考えられる。

高広ⅢB期 建物跡4棟（SB07、SB10、SB11、SB12）、加工段1か所（加工段5）、土器溜り1か所（土器溜り2）、溝状遺構2条（SD01、SD02）がある。遺構は4区にのみ展開する。SB08はSB07、SB09はSB10、SB13はSB12へ建て替えが行われている。最高所に中心的な施設のSB10を配置し、その直下にSB07を配置する。SB07は高広ⅣA期にはSB06に建て替えられ、3時期にわたり存続する遺構で、SB09・SB10に次ぐ中心的な施設と考えられる。

高広ⅣA期 建物跡1棟（SB06）のみとなる。SB06では大量の土器が出土しており、祭祀が行われたと考えられる。この祭祀はSB06の廃棄に対するものであり、且つ集落の廃棄に対する行為と考えられる。

以上、中嶺遺跡の変遷を概観した。集落が5区→3区→4区と移動したことが判る。集落の移動

第31表 中嶺遺跡の遺構変遷

	高広ⅡA期	高広ⅡB期	高広ⅢA期	高広ⅢB期	高広ⅣA期
5区	SB16				
	SK02				
	SK03				
		石群			
3区	SB03				
		SB01			
		SB02			
		加工段1			
4区		SB05			
		SB14			
		SB15			
			SH04		
			加工段5		
			土器溜り3		
			SH09	SB10	
			SH13	SB12	
				SB11	
			SB08	SE07	SH06
		土器溜り2			
		SD01・SD02			

高広Ⅱ A



高広Ⅱ B



高広Ⅲ A



高広Ⅲ B



第129図 遺構変遷図 (縮尺1:1,200)

は5区や3区的地盤が軟弱で、地震や地滑りでの被害が発生した為と考えられる。集落の最盛期は高広ⅢA期から高広ⅢB期で、この時期には4区でS B09・S B10を中心に集落が営まれた。S B09・S B10は、柱穴が他の建物より大きく、柱穴から勾玉未製品が出土するなど特殊な建物である。付近の遺構からは托や硯、5区からは瓦や権が出土したことから官衙に関連する遺構の可能性と、仏教的施設である可能性が考えられる。

6. 中嶺遺跡と周辺の遺跡

7世紀から9世紀にかけての中嶺遺跡、東前田遺跡、大谷口遺跡、金クソ谷遺跡、芝原遺跡は一つの集落を形成している。以下、芝原遺跡の変遷を軸に、各遺跡の変遷を考える⁹⁾。

芝原遺跡の建物はA～E期に分類されている。B期までを「小規模の館の主人であった段階」とし、C期以降を「福原地区のみならずもう少し広範囲の地域を掌握した」時期とする。また、大規模な溝(S101)の出現、SX01から「出雲」、「出雲家」、「校尉」などの墨書土器、製塩土器、丹塗土師器が出土したことから、芝原遺跡を官衙跡と推定する。C期・D期の建物が「あくまで豪族の居館の形態」に留まることについて、官衙の中心が未調査区にあり、「南部の建物群は豪族の居館から発展し、D期の頃に同じ台地に設置された官衙の一部に組み込まれたが、依然として居館であり続けた」と説明する。また、官衙については嶋根郡家が想定されている。

嶋根郡家の位置については、本庄と新庄の中間、福原、納佐、坂本下の4か所の意見がある¹⁰⁾。「出雲国風土記」は天平五年(733)に成立したとされている。須恵器の型式では高広ⅢB期から高広ⅣA期に当たる。未調査区に想定されている中心部の時期は不明で、現状では高広ⅣB期に官衙的性格が出現したとしか言えない。また、福原に「出雲国風土記」記載の郡家が所在したとするならば、福原の西側に朝酌匠戸渡と千酌駅を結ぶ道と、嶋根郡家と秋鹿郡家を結ぶ道が交差する丁字路が存在する。しかし、「出雲国風土記」にはこの丁字路に付いての記載はない。以上のことから、現状では、733年まで嶋根郡家は納佐あるいは坂本下に位置し、高広ⅣA期に嶋根郡家が移転したか、もしくは豪族居館に官衙的性格が付与されたと考えることが妥当であろう。以上の前提で、各時期の遺跡の在り方を考える。

高広ⅡA期・高広ⅡB期：芝原遺跡、中嶺遺跡で建物が出現した時期である。芝原遺跡ではまだ倉庫が出現していない。中嶺遺跡では5区と3区から4区へ建物が移動する時期である。

高広ⅢA期・高広ⅢB期：中嶺遺跡では4区への移住が完了し、中心施設を中心に集落が完成した時期である。芝原遺跡ではこの時期と確定できる遺構が無い。東前田遺跡では建物が出現する。この時期は中嶺遺跡の法が芝原遺跡より集落の規模が大きい。また芝原遺跡の縁辺に位置する東前田遺跡に建物が出現することを考えると、集落が芝原遺跡の周辺に拡散したとも解釈できる。

高広ⅣA期：中嶺遺跡の集落が廃棄される。芝原遺跡では倉庫と考えられる総柱建物が出現する。東前田遺跡では166号柱穴と167号柱穴が出現する。中嶺遺跡が廃棄され、芝原遺跡を中心として集落が形成される時期である。東前田遺跡は祭祀の場として機能を開始した時期である。倉庫が出現し、集落が官衙的性格を獲得する準備段階と言える。

高広ⅣB期・高広Ⅴ期：芝原遺跡が官衙的な遺跡となる。東前田遺跡では仏教的祭祀が行われる。金クソ谷遺跡に墓域が成立する。芝原遺跡は官衙的集落、東前田遺跡は祭祀の場、金クソ谷遺跡は墓域と、場所による役割分担が行われる。また、東前田遺跡の仏教的祭祀、金クソ谷遺跡の骨甕器

第5章 中嶺遺跡

など、全体的に仏教的色彩が強くなる。

第32表 各遺跡の主要な遺構

	高広ⅡA期	高広ⅡB期	高広ⅢA期	高広ⅢB期	高広ⅣA期	高広ⅣB期	高広Ⅴ期
	7C初～前	7C中～後	7C末～8C初	8C前	8C前～中	8C後～9C初	9C前葉以降
中嶺遺跡	建物2	建物5	建物4	建物4	建物1		
芝原遺跡	A期(建物3)	B期(建物2)			C期(建物8・倉庫2)		D期(倉庫3・SD01・SX01)
東前田遺跡		建物1			柱穴2		須志器埋納坑2
大谷口遺跡		建物1					
金タコ谷遺跡							高城

7. 今後の課題

中嶺遺跡は、高広ⅡA期に出現し、高広ⅢA期・高広ⅣB期で頂点に達し、高広ⅣB期に消滅する。中嶺遺跡の集落廃棄は、芝原遺跡の官衙的集落への変化に原因があると考えられる。中嶺遺跡は官衙関連の集落であり、且つ銅製品生産に関連する集落と考えられる。芝原遺跡の官衙化に際して、中嶺遺跡の住民は芝原遺跡で、もしくは他地域で職能集団として再編された可能性が考えられる。今後は、納佐・坂本下・福原の調査、調査済み遺跡の再検討、文献の検討を行い、嶋根郡の成立・変遷を研究する必要がある。

註

- (1) 史跡出雲玉作跡の内容については勝部龍氏のご教授による。
- (2) 宮本知了「岡内出土の地産資料」『大阪市文化財協会 1994』
- (3) 江津市の 郡は村制が1段階、形状が三角錐、頂点に横から穿孔、大きさ(重量)が大中小に分かれる。ここでは便宜的に、この 郡を便宜的に分類とする。
- (4) 大谷原「西門遺跡」『埼玉埋蔵文化財調査事業報告書第96巻(附)埼玉埋蔵文化財調査事業報 1991』
- (5) 柳瀬正道遺跡の内容については堀本成雄氏のご教授による。
- (6) 報告書では塔山1号墓は卑田5期とされているが、ここでは第40回2の図片を重視し、1号墓を大木式併行の初期古墳と判断した。
- (7) 鳥取県教育委員会「鳥取県教育庁埋蔵文化財調査センター年報15 平成18年度」2006
- (8) 芝原遺跡では神岡輪(山本岡)と柳瀬福平が検出されているが、本報内での神岡輪にあわせて、A期はSD02出土遺物から山本岡期とし暦年代を7世紀前半としている。ここでは第30号陪塚の芯と坏から高ⅡA期と判断した。D期はSD01清灰土遺物から暦年4期とし暦年代を8世紀後半から9世紀前半(下)9世紀としている。ここでは第28回18-3と18-8から高広ⅣB期と判断した。C期はSD01に遺物が切られていることから、「8世紀中頃までには既に建てた」とし、「C期とD期の建物の一部は同時期に存在した可能性が高い」という記述がある。ここでは高広ⅣA期とし、B期は時期に関する記載はないが、「A期の建物の左右に建て替えが行われ」とA期との連続性を指摘していることから、ここでは高広ⅡA期から高広ⅡB期と判断した。また各時期の建物と倉庫の数は、第96回～第99回を参考にした。
- (9) 香取の比較・検討については「芝原遺跡」(松江市教育委員会 1989年)で詳しく行われている。

参考文献

- (1) 鳥取県教育委員会「岩谷口山遺跡」(船山道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ) 1996
- (2) 松山林里「子付向資料集成」福井県立大学日本文化研究所2003
- (3) 松江市教育委員会「二名田古墳群発掘調査報告書」松江市文化財調査報告書第30号 1992
- (4) 松江市教育委員会「『中嶺遺跡』の発掘調査報告書」『本庄地区墓古墳調査事業に伴う松江北部遺跡発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書 第28号 1999
- (5) 鳥取県教育委員会「国道9号バイパス予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」 1983
- (6) 松江市教育委員会「高沢A遺跡・馬沢B遺跡・別所遺跡」1988
- (7) 松江市教育委員会「『中嶺遺跡』の発掘調査報告書」イガラビ遺跡・池ノ島古墳群・池ノ島C、D遺跡」松江市文化財調査報告書 第1巻 1990
- (8) 鳥取県教育委員会「史跡山雲洞遺跡」Ⅰ 風上記の丘内遺跡発掘調査報告書14 2003
- (9) 鳥取県教育委員会「神土遺跡・雲崎内谷遺跡・古八幡付遺跡・橋路古墳」一般国道9号津路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 2000
- (10) 鳥取県教育委員会「一般国道9号津路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ(鹿伏山・平田西・二宮C遺跡・久米奥宮跡)」1995
- (11) 鳥取県教育委員会「高久志遺跡・坂田C遺跡・古八幡付遺跡」一般国道9号津路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 1997
- (12) 鳥取県教育委員会「中野清江遺跡(3)・[校本遺跡]」一般国道9号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 2006
- (13) 松江市教育委員会(編)「松江市教育文化財調査事業団」山井宮跡群 山井宮跡群・山井宮跡群・山井宮跡群発掘調査報告書Ⅱ 松江市文化財調査報告書 第104巻 2006
- (14) 鳥取県教育委員会「馬場遺跡・杉ヶ池遺跡・雲山遺跡群・進行遺跡」国道431号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 2002
- (15) 岡崎重一郎、原田律夫、松本岩雄「吉野における岡田遺跡の新興・高麗朝八日山1号墳出土の神祇鏡をめぐる、三の課題」『考古学雑誌』第63巻 4号 1978

第6章 金クソ谷遺跡

第1節 発掘作業と整理事業の経過

1. 発掘調査の経過

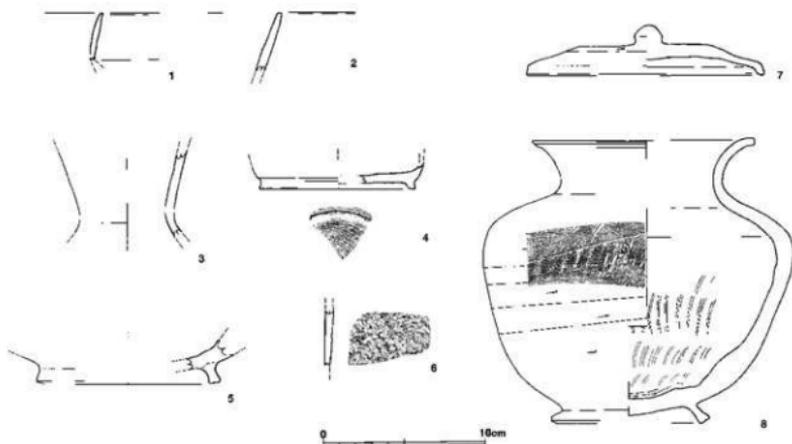
金クソ谷遺跡は松江市上本中町と福原町に位置する。西側に中級遺跡、東側に荒船遺跡がある。地理的には、西側の持田平野と、東側の本庄平野を区切る丘陵部と言える。持田平野には芝原遺跡を中心とする遺跡が在り、本庄平野には本庄川流域条里遺跡が在り、交通の要衝と言える。

金クソ谷遺跡は3つの丘陵に分かれ、東側の丘陵北側尾根を1区、東側の丘陵西側を2区、中央の丘陵を3区、西側の丘陵を4区とした。昭和62年度の分布調査で、1区は2,900㎡、2区は2,700㎡、3区は11,000㎡、4区は5,400㎡が調査対象地となった。トレンチ調査を平成15年度に3区の東側斜面、平成17年度に1区、2区、3区西側斜面で実施し、1区は130㎡、2区は1,600㎡、3区は1,200㎡をそれぞれ全面発掘調査地とした。

全面発掘調査は調査員1名・調査補助員2名、発掘作業員18名の体制で、平成17年のトレンチ調査終了後に継続して実施した。1区では性格不明の上坑1基と古墳時代の包含層を確認した。2区では古墳時代の包含層と、縄文時代の包含層、古墳時代と時期不明の上坑8基を確認した。3区では奈良時代の土器溜り3か所と包含層を確認した。

2. 整理事業の経過

発掘調査中の整理事業は、調査員1名、調査補助員2名、整理事業員2名で実施した。報告書作成の平成18年度は、調査員1名・補助員1名・整理事業員3名で実施した。石製遺物の自然科学分析は有限会社遺物材料研究所に委託した。



第130図 トレンチ出土遺物 (縮尺1:3)



第131図 金クソ谷遺跡調査区位置図 (縮尺1:2,000)

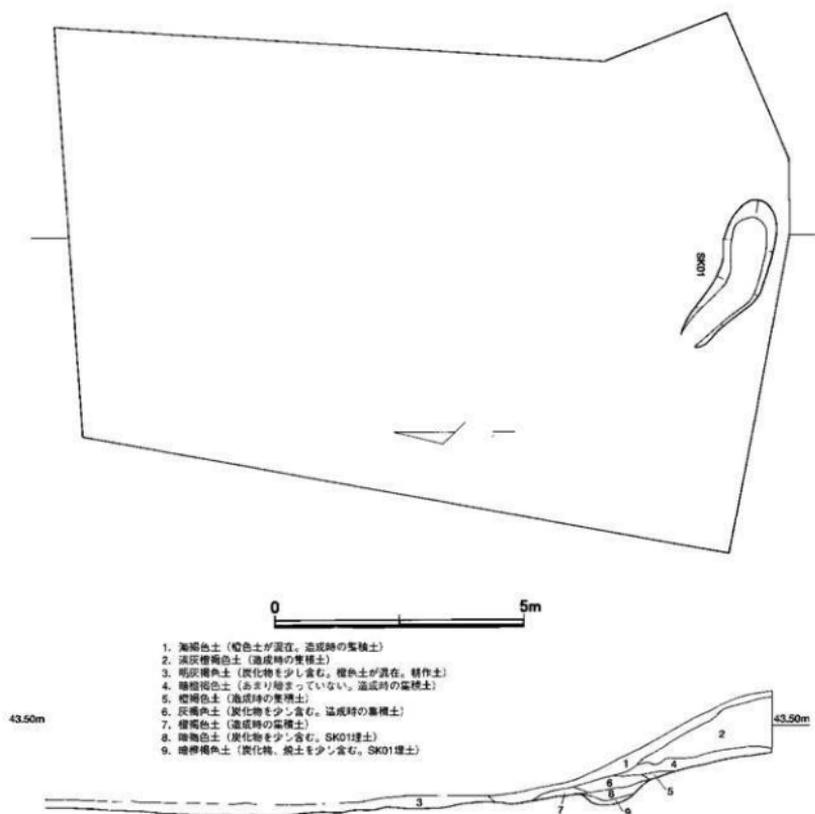
第2節 1区の調査

1. 調査の方法

荒船遺跡の西側に位置する丘陵尾根で、調査前は休耕地と雑木林であった。1区は丘陵の分布調査で遺跡とした範囲に、1区では平成17年度に幅2.0m、長さ5m～20mのトレンチを22か所設定し、Tr.16で土坑を確認したことから、上坑を中心に130㎡を全面発掘調査対象地とした。

2. 遺構

1区の南側で土坑1基を確認し、SK01とした。平面形は楕円を呈し、検出面で長さ3.3m、幅1.0m、深さ30cmを測る。出土遺物は無く、時期、性格ともに不明である。



第132図 金クソ谷遺跡1区遺構位置図（縮尺1：100）

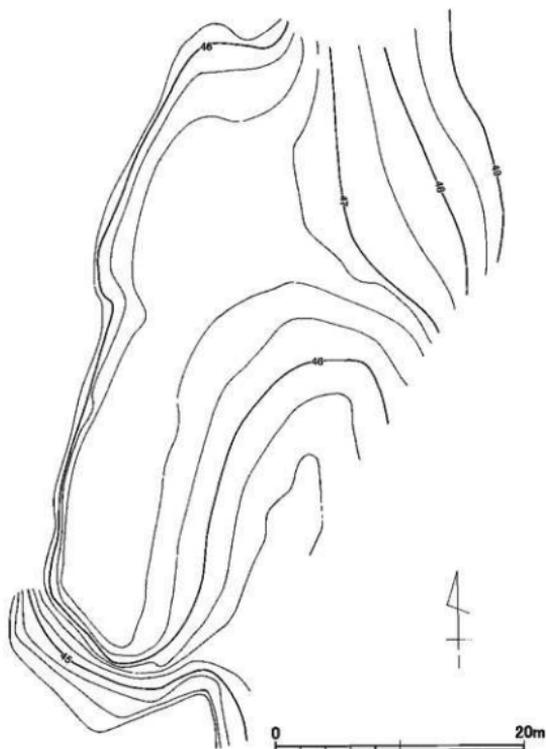
第3節 2区の調査

1. 調査の方法

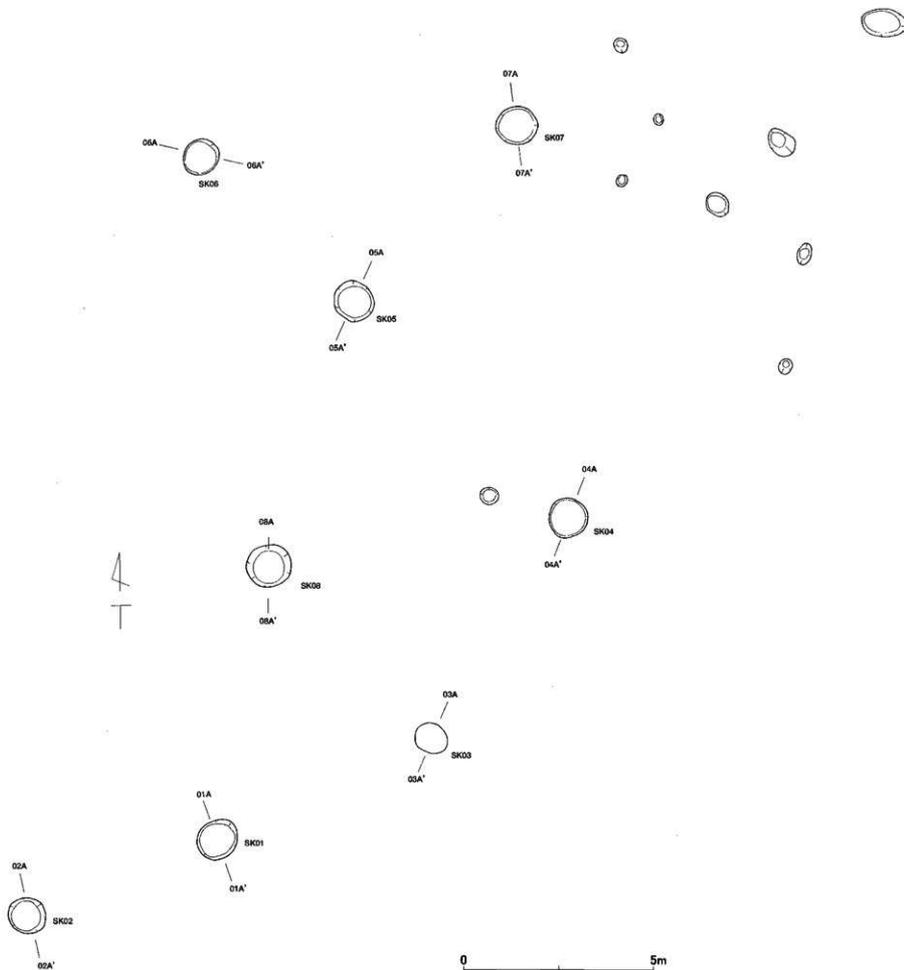
2区の地形は緩やかな谷頭で、調査前には休耕地であった。平成17年度に幅2.0m、長さ3m～16mのトレンチを設定し、須恵器、土師器、縄文土器、石器を採集したことから1,600mを全面発掘調査対象地とした。古墳時代の土坑と縄文時代の包含層を確認した。縄文時代包含層を掘削後に、Tr.23を掘削して地山を確認した。

2. 遺構

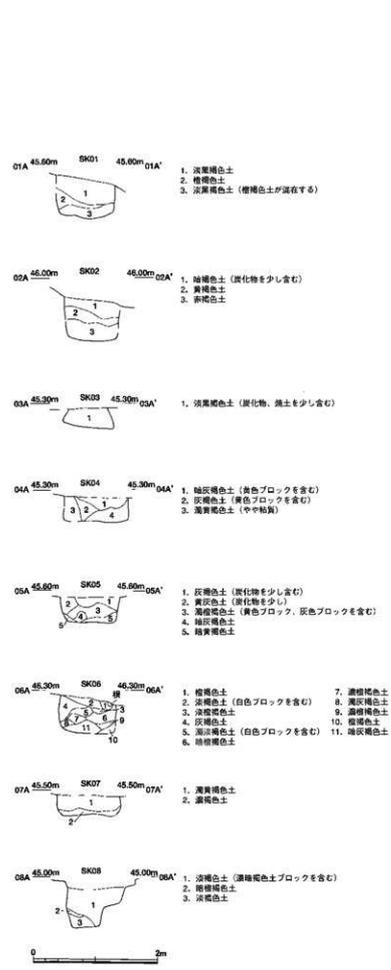
SK01～SK08までの8基の上坑を検出した。これらの上坑は直径が90cm～100cm程度で、遺跡の谷部分、標高46.25m～45.25mの間分布する。断面形は大半が円筒形であるが、SK03はフラスコ状、SK08は3段階である。遺物はSK02埋土中（2層）から土師器と須恵器の小片が出土したのみである。遺構の時期は、形態が共通するSK01、SK04～SK07はSK02と同じ古墳時代後期の可能性が高い。



第133図 2区調査前地形測量図（縮尺1：400）



第134図 2区土坑位置図 (1) (縮尺1:100)



第135図 2区土坑土層図 (縮尺1:60) (折り込み部分)

50.50m

49.80m

49.80m

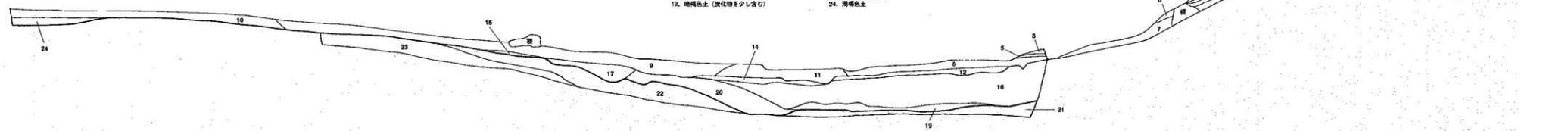
- Tr.22
1. 暗褐色土 (造成土)
 2. 灰褐色土 (造成粘の黄土)
 3. 暗褐色土

Tr.15

1. 暗褐色土 (造成土)
2. 深明暗褐色土 (造成土)
3. 灰褐色土 (造成粘の黄土)
4. 赤褐色土 (黄土)
5. 灰褐色土 (造成粘の黄土)
6. 暗褐色土
7. 暗褐色土
8. 深暗褐色土 (粘存土)
9. 深暗褐色土 (粘存土)
10. 赤褐色土 (粘存土)
11. 深暗褐色土
12. 暗褐色土 (炭化物を少し含む)
13. 暗褐色土 (炭化物を少し含む)
14. 灰褐色土 (炭化物を少し含む)
15. 灰褐色土
16. 深暗褐色土 (炭化物を少し含む、濃暗褐色土ブロックを含む)
17. 深暗褐色土
18. 赤褐色土 (炭化物を少し含む、濃暗褐色土ブロックを含む)
19. 暗褐色土
20. 深暗褐色土
21. 暗赤褐色土 (埴山)
22. 暗赤褐色土 (埴山)
23. 暗褐色土 (埴山)
24. 暗褐色土

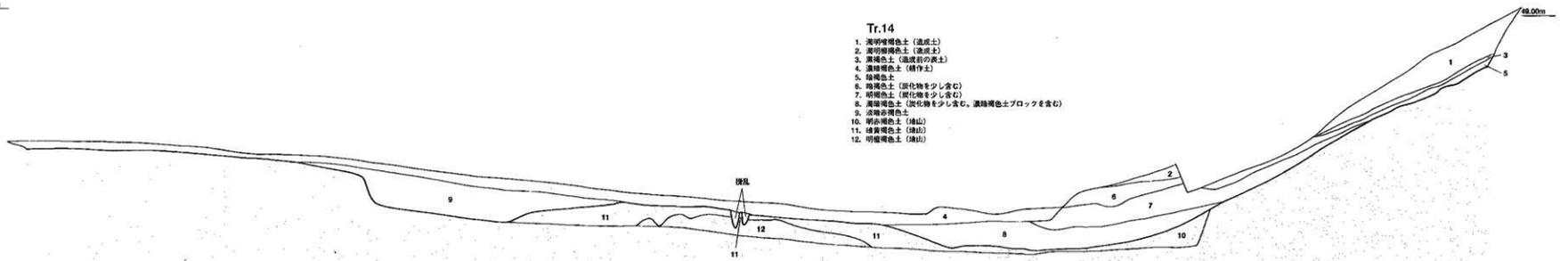
Tr.14

1. 深明暗褐色土 (造成土)
2. 深明暗褐色土 (造成土)
3. 灰褐色土 (造成粘の黄土)
4. 深暗褐色土 (粘存土)
5. 暗褐色土
6. 暗褐色土 (炭化物を少し含む)
7. 暗褐色土 (炭化物を少し含む)
8. 深暗褐色土 (炭化物を少し含む、濃暗褐色土ブロックを含む)
9. 深暗褐色土
10. 明赤褐色土 (埴山)
11. 暗赤褐色土 (埴山)
12. 明暗褐色土 (埴山)



49.00m

49.00m

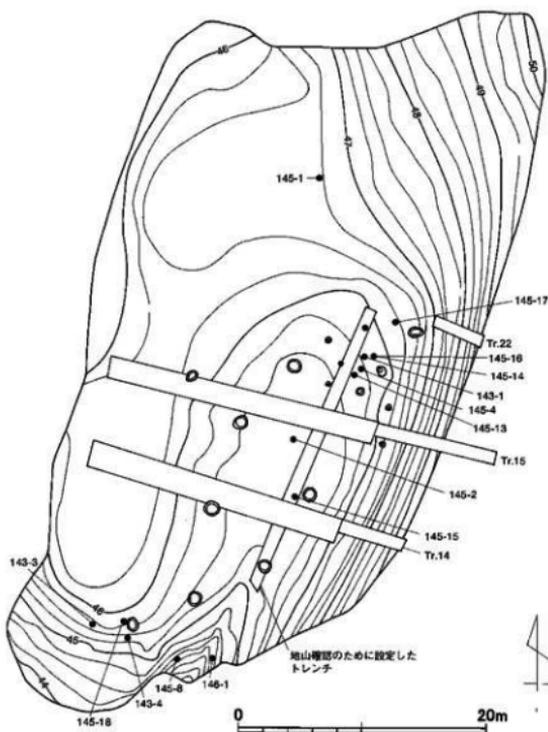


第136図 Tr.14、Tr.15、Tr.22土層図 (縮尺1:60)

3. 包含層出土遺物

古墳時代の遺物では上師器と須恵器が出土した。上師器は小片で実測図を掲載しなかった。143-2は須恵器の蓋で高広ⅠAか高広ⅠB（6世紀後葉～7世紀初頭）と思われる。143-3と143-4は須恵器の坏V類で高広ⅣA（8世紀中葉～後葉）と思われる。

縄文時代の遺物では縄文上器と石器がある。143-1は羽島下層Ⅰ式（縄文時代前期初頭）と思われる。外面にはI字文様を施している。130-6はTr.14から出土した縄文時代前期の上器で、外面に縄文を施している。石器は黒曜石の石鏃4点、スクレイパー2点、楔形石器1点、剥片9点、安山岩の打製石斧1点、スクレイパー2、石英の破片1点が出土した。このうち145-11と145-12はTr.14から出土したが、他は地山上面から出土した。これらの石器は一群として、羽島下層Ⅰ式期の組成を示す石器群である可能性が高い。

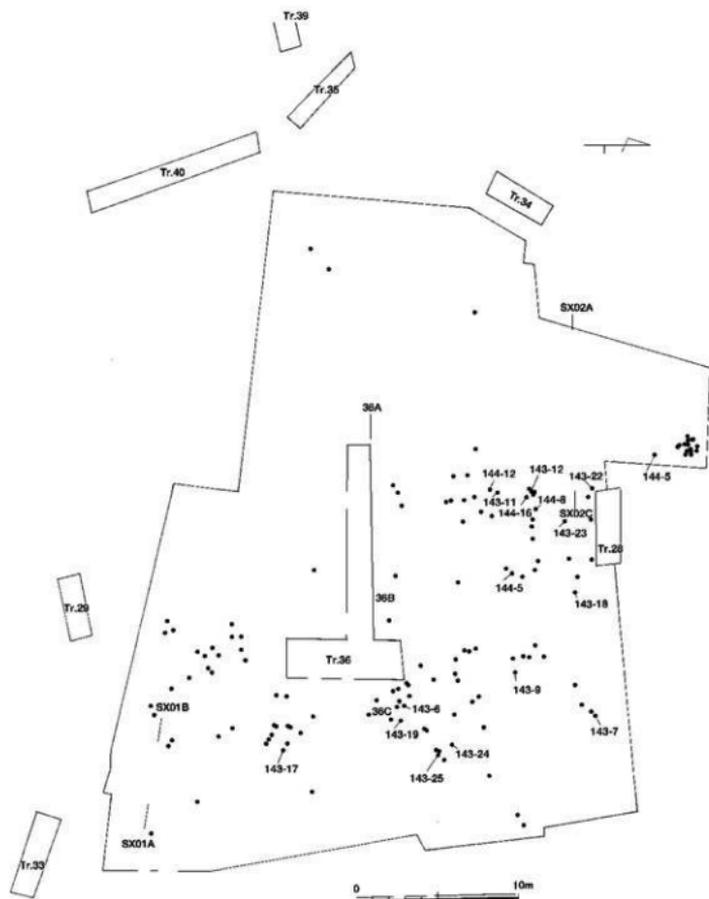


第137図 2区調査後地形測量図および遺物出土状況（縮尺1：400）

第4節 3区の調査

1. 調査の方法

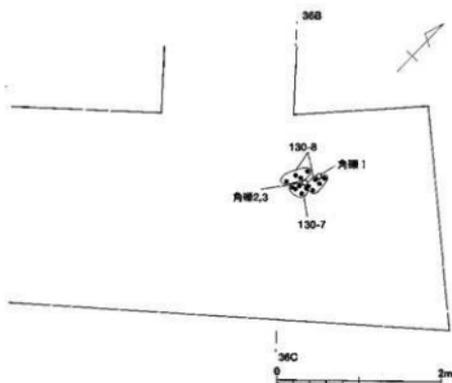
3区は2区と4区の間にある丘陵に立地する。平成15年度に丘陵東側斜面で幅1.5m、長さ5.0m～15mのトレンチを16か所設定し、平成17年度に丘陵西側斜面で幅1.5m、長さ5.0m～15mのトレンチを4か所設定して調査した。Tr.36で須恵器（130-7、130-8）の土器溜りを確認したことから、Tr.36を中心として丘陵の東側緩斜面1,200㎡を全面発掘調査対象地とした。全面調査では奈良時代の土器溜りを2か所確認した。



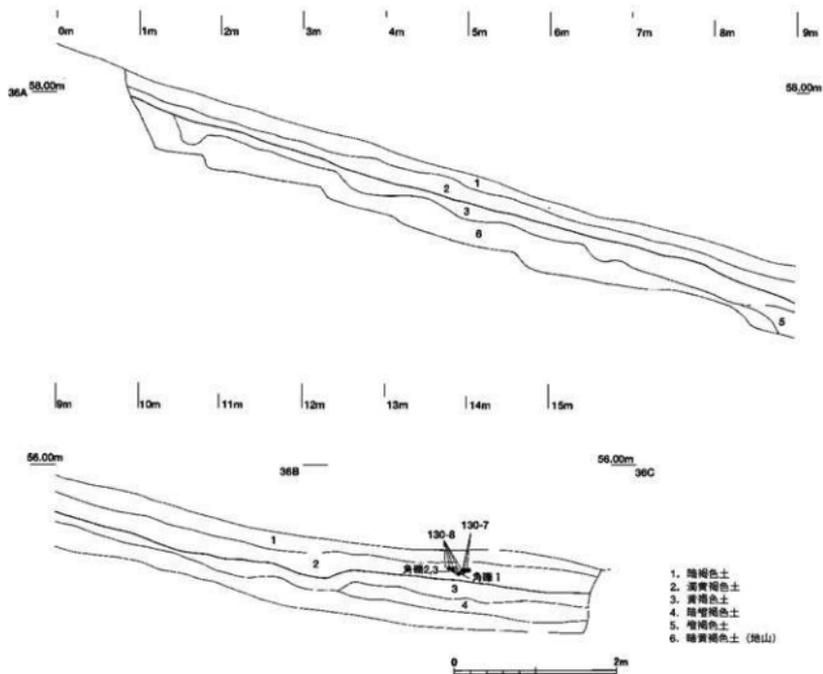
第138図 3区遺構配置図および遺物出土状況（縮尺1：300）

Tr.36

遺物は斜面と平坦地の変換点から出土した。40cm×50cmの範囲から、須恵器片15点、角礫3が出土した。須恵器片を接合すると130-7と130-8の2個体となった。ただし、足りない破片もあり、完形品にはならなかった。型式は高広ⅢA（7世紀末～8世紀初頭）と考えられる。角礫1は20cm×15cm×13cm、角礫2は10cm×9cm×4cm、角礫3は8cm×5cm×3cmの大きさを測る。これら3点の角礫は接合できた。



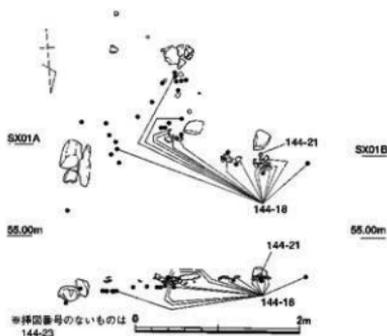
第139図 Tr.36遺物出土状況（縮尺1：60）



第140図 Tr.36土層図（縮尺1：60）

SX01

遺構 3区の南側の標高54.30m前後の平坦地に位置する。3.2m×2.2mの範囲から、須恵器片58点、角礫10点が出土した。出土遺物は144-18、144-21、144-23で、土器溜りの大半は144-23の破片であった。144-18は有益壺の蓋で、中央にはつまみが付くと思われる。内面には丁寧な回転ナデ調整を施し、外面にはカキH状のナデ調整を施す。また、外面の一部には平行叩きの痕跡を残す。144-23は須恵器の鉢である。内面には丁寧な回転ナデ調整を施し、外面にはカキ日状のナデ調整を施す。出土状況や調整の特徴から144-18は144-23の蓋と思われる。147-1は寛水通室で表土掘削中に出土した。144-18、144-23は形状や調整などから8世紀代～9世紀代の土器と考えられるが、埋土から144-18が出土したことから、近世の遺物とも考えられる。ここでは、時期については不明とする。



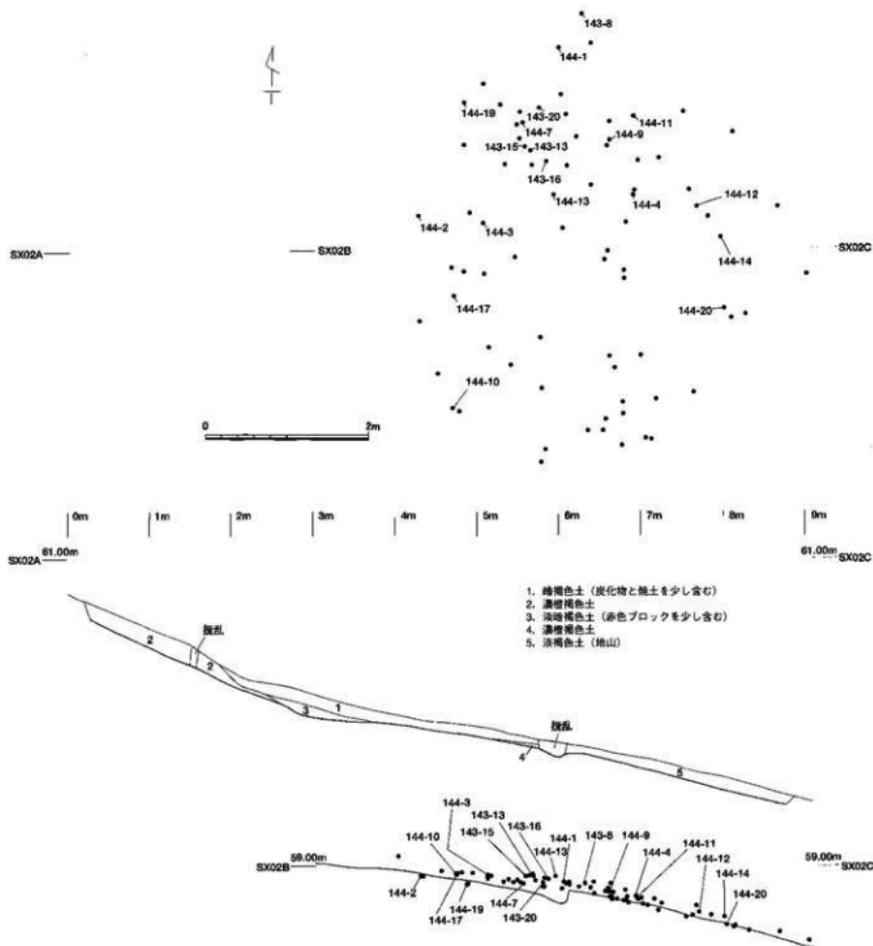
第141図 SX01遺物出土状況(縮尺1:60)

SX02

遺構 3区の南側の平坦地に位置する。5.0m×5.6mの範囲から、須恵器片80点が出土した。環類が多いが、143-13など蓋も少量出土した。型式は高広IVB～高広V(8世紀末葉～9世紀後葉)に含まれるもの出土している。

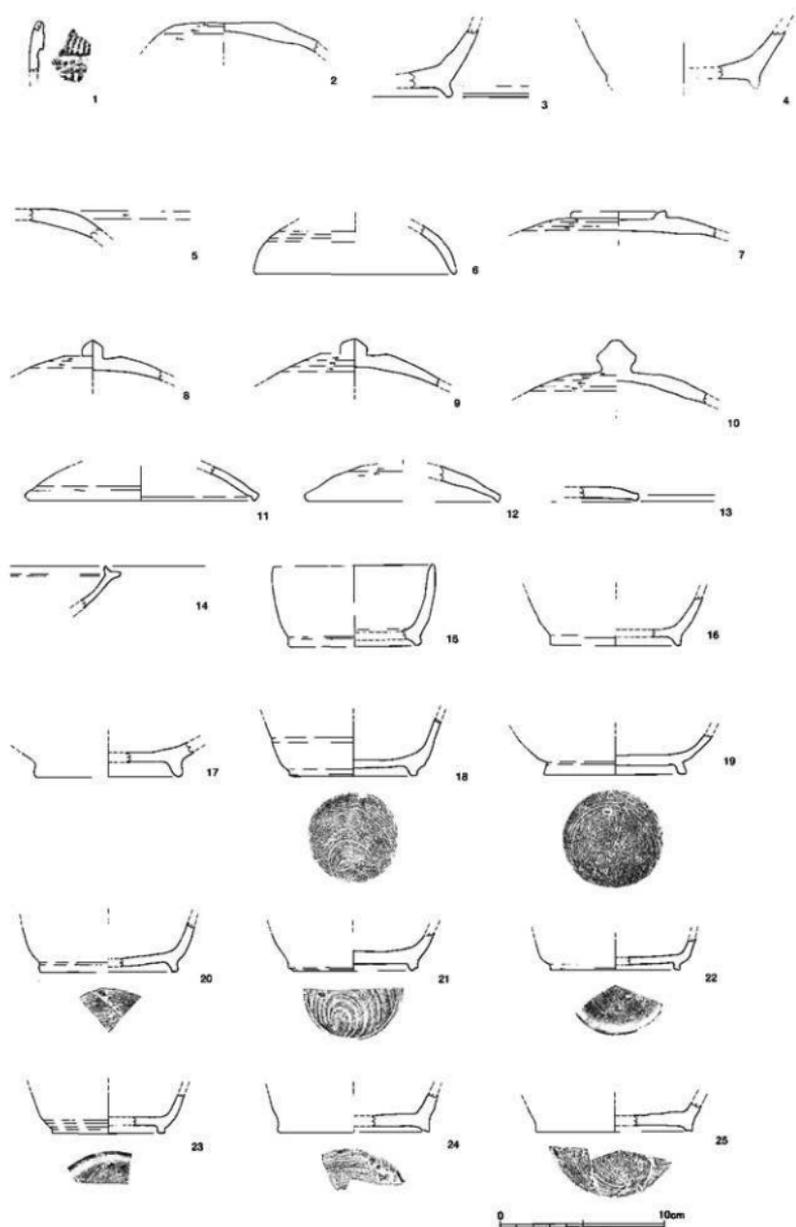
第5節 総括

3区では7世紀末葉～9世紀後葉の土器溜りを2か所確認した。Tr.36では須恵器の蓋と短頸壺のセット、高環、皿、SX02では主に須恵器の環が出土した。包含層からは須恵器の環が多く出土した。出土遺物のほとんどは須恵器で、土師器は数えるほどでしか出土していない。煮炊具と思われる土師器は無く、生活感が無い。また、建物跡と思われる遺構は無く、トレンチ調査の結果でも、遺物包含層はTr.36を中心とした緩斜面にしか認められない。以上のことから、3区は集落の可能性が低い。Tr.36出土の蓋と短頸壺のセットは、骨殖器の可能性が考えられる。SX02では骨殖器を想定できる遺物はないが、須恵器の環が集中して出土した。これらは供献に使用した遺物と考えられる。以上のことから、墓域と考えられる。また、SX02では硯(144-17)が出土していることから、この墓域は官衙に関連する集団との関わりが窺える。

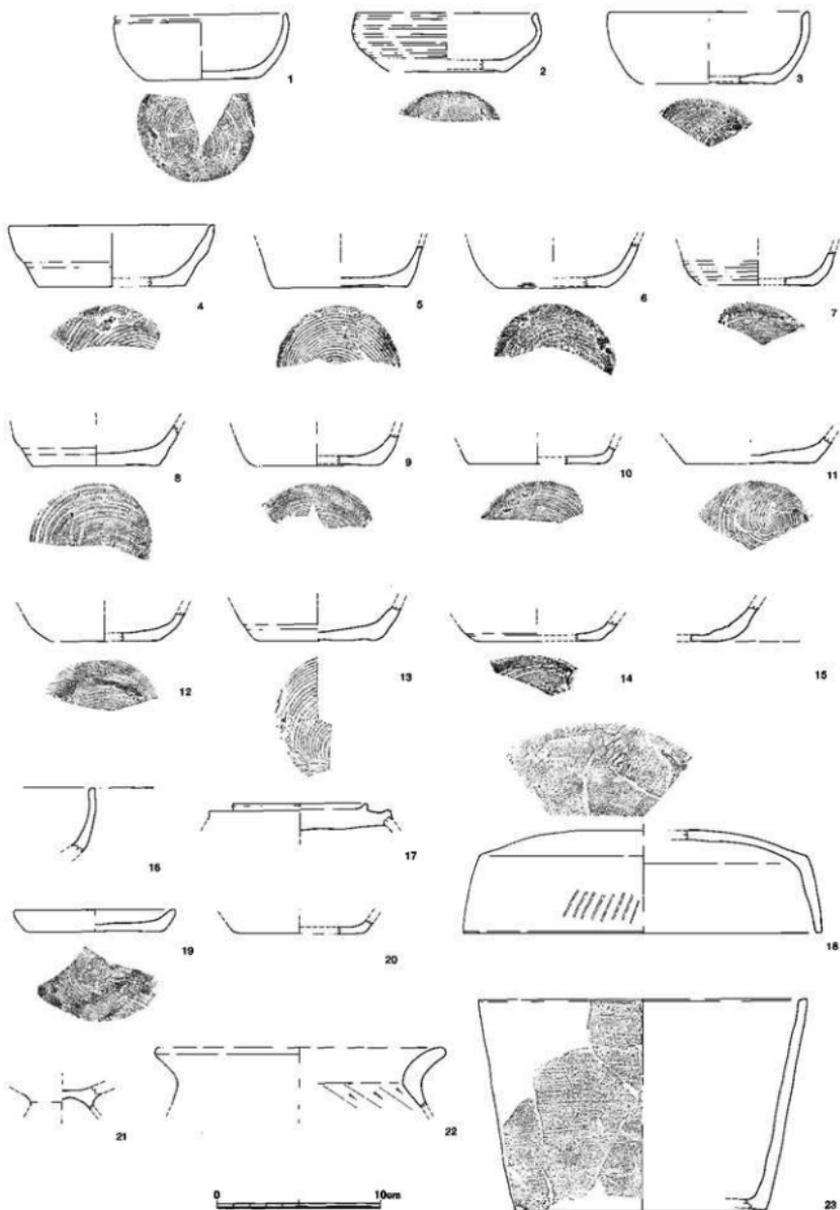


第142図 S X02遺物出土状況 (縮尺1:60)

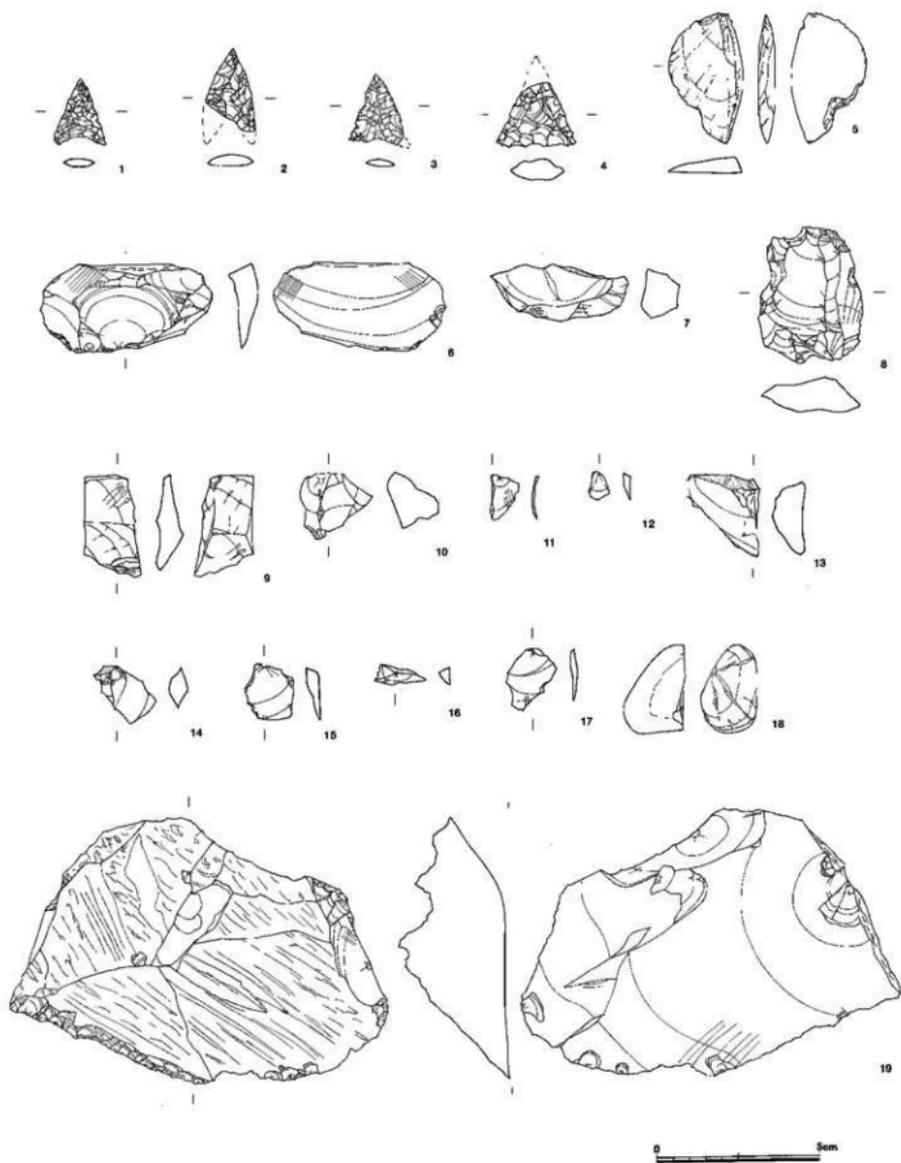
第6章 金クソ谷遺跡



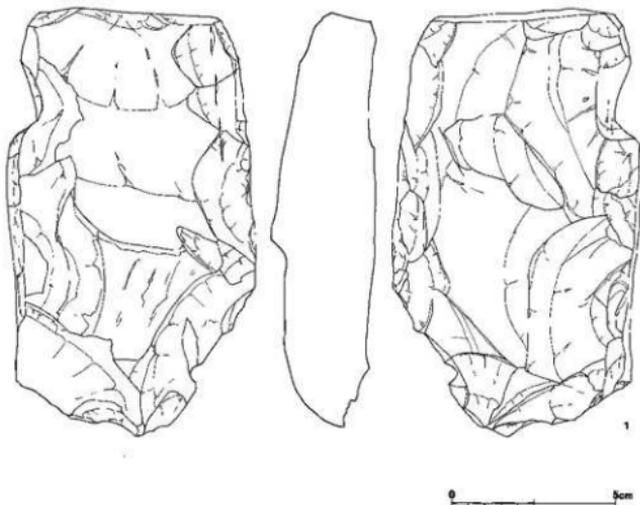
第143図 金クソ谷遺跡出土遺物1 (縮尺1:3)



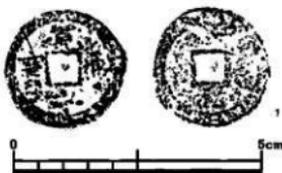
第144図 金クソ谷遺跡出土遺物2 (縮尺1:3)



第145図 金クソ谷遺跡出土石器1 (縮尺2:3)



第146図 金クソ谷遺跡出土石器 2 (縮尺1:3)



第147図 金クソ谷遺跡出土銭貨 (縮尺1:1)

第33表 金クソ谷遺跡出土土器観察表 (1)

発掘番号	発掘層	調査日	種類	形状	用途	高さ	口径	厚さ	重量	容積	土質	観察	出土	年代	備考
130-1	105	25K	灰土器	碗	炊飯器	7.2	5				灰土器	灰土器	灰土器		
130-2	105	10K	灰土器	皿	食器	7.2	6				灰土器	灰土器	灰土器		
130-3	105	25K	灰土器	皿	食器	7.7	5.8				灰土器	灰土器	灰土器		
130-4	105	25K	灰土器	鉢	食器	7.4	5.9				灰土器	灰土器	灰土器		
130-5	105	25K	灰土器	鉢	食器	7.2	5.8				灰土器	灰土器	灰土器		
130-6	105	25K	灰土器	鉢	食器	7.14	6.0				灰土器	灰土器	灰土器		
130-7	105	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
140-1	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-1	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-2	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-3	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-4	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-5	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-6	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-7	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-8	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-9	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-10	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-11	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-12	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		
143-13	107	25K	灰土器	鉢	食器	7.36	6.0	14.4	2.1		灰土器	灰土器	灰土器		

第34表 金クソ谷遺跡出土土器観察表 (2)

発掘年度	発掘番号	調査区	場所	形状	用途	容量	口径(φ)	口縁高(φ)	高さ	重量	特徴	出土層	産地	備考
112	11	125	3区	須恵器	水 鉢	1					外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
112	16	125	3区	須恵器	甕	30	9.8	8.5		3.9	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	165	122	3区	須恵器	甕	30	9.8	8.5		7.4	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	17	122	3区	須恵器	甕	20				2.8	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	18	122	3区	須恵器	甕	40				7.2	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	19	122	3区	須恵器	甕	40				8.1	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	20	125	3区	須恵器	甕	30				8.2	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	21	125	3区	須恵器	甕	30				7.2	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	22	125	3区	須恵器	甕	30				7.8	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	23	125	3区	須恵器	甕	30				6.9	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	24	125	3区	須恵器	甕	20				9.2	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
143	25	125	3区	須恵器	甕	30				9.1	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	1	125	3区	須恵器	甕	30	10.4	4.0		7.8	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	2	125	3区	須恵器	甕	30	11.0	3.6		7.9	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	3	125	3区	須恵器	甕	30	12.0	4.3		6.9	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	4	125	3区	須恵器	甕	30	12.4	3.4		6.9	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	5	124	3区	須恵器	甕	30				6.2	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	6	124	3区	須恵器	甕	20				6.6	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	7	124	3区	須恵器	甕	30				7.6	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	8	124	3区	須恵器	甕	30				7.8	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	9	124	3区	須恵器	甕	30				3.7	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	10	125	3区	須恵器	甕	30				8.2	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	11	125	3区	須恵器	甕	30				8.1	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	12	124	3区	須恵器	甕	30				6.4	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	13	124	3区	須恵器	甕	30				7.6	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	14	124	3区	須恵器	甕	30				6.4	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	15	124	3区	須恵器	甕	20				7.8	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	16	125	3区	須恵器	甕	5				7.8	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	17	125	3区	須恵器	甕	5				8.0	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	18	125	3区	須恵器	甕	20	8.0			8.0	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	19	125	3区	須恵器	甕	30	9.8	1.3		8.4	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	20	125	3区	須恵器	甕	5				7.6	外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	21	125	3区	須恵器	甕	30				8.0	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	22	125	3区	須恵器	甕	10	17.0				外 底面平	1a層の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	
144	23	125	3区	須恵器	甕	30	3.0	13.1		17.6	外 底面平	2a層以下の砂状土を含む	鳥取県 西伯郡 西伯町	

第35表 金クソ谷遺跡出土土器観察表

発掘番号	調査区	調査区	形状	用途	容量	口径(φ)	高さ	重量	特徴	出土層	産地	備考
145	1	126	3区	須恵器	水 鉢				300 2.1	1.2	0.3	0.4
145	2	126	3区	須恵器	水 鉢				70 2.4	3.5	0.05	1.1 - 1a層
145	3	126	3区	須恵器	水 鉢				90 2.2	1.7	0.3	0.7 - 1a層
145	4	126	3区	須恵器	水 鉢				100 2.2	1.4	0.4	2.3 - 1a層
145	5	126	3区	須恵器	水 鉢				-	2.1	1.4	24.8
145	6	126	3区	須恵器	水 鉢				-	2.7	1.3	0.6
145	7	126	3区	須恵器	水 鉢				-	1.8	0.7	1.8
145	8	126	3区	須恵器	水 鉢				-	4.3	3.2	1.3
145	9	126	3区	須恵器	水 鉢				-	7.9	1.8	0.8
145	10	126	3区	須恵器	水 鉢				-	4.9	2.2	1.3
145	11	126	3区	須恵器	水 鉢				-	1.4	0.9	0.3
145	12	126	3区	須恵器	水 鉢				-	3.8	0.8	0.2
145	13	126	3区	須恵器	水 鉢				-	3.0	0.3	1.0
145	14	126	3区	須恵器	水 鉢				-	1.8	1.0	0.6
145	15	126	3区	須恵器	水 鉢				-	1.8	1.3	0.4
145	16	126	3区	須恵器	水 鉢				-	0.6	1.5	0.3
145	17	126	3区	須恵器	水 鉢				-	1.3	1.8	0.1
145	18	127	3区	須恵器	水 鉢				-	2.7	1.8	1.1
145	19	127	3区	須恵器	水 鉢				-	2.0	0.1	0.6
145	20	127	3区	須恵器	水 鉢				-	13.3	2.8	2.3

第36表 金クソ谷遺跡出土銭貨観察表

発掘番号	調査区	調査区	形状	用途	容量	口径(φ)	高さ	重量	特徴	出土層	産地	備考
147	1	127	3区	須恵器	水 鉢				1.0	0.4	0.4	2.1

第7章 自然科学分析

第1節 川津バイパス関係遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析およびメノウ製勾玉・剥片の非破壊定性分析

有限会社 遺物材料研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1) 2) 3)}。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートル内にある石器の原産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。「遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されていると言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。」

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが現実的には不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、その産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測出来、理論的にも証明されている方法として、マハラノビスの距離を求めてその結果を用いておこなうホテリングのT2乗検定法がある。ホテリングのT2乗検定法とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）の各々の方法を比較すると以下の通りとなる。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動してしまう。例えば、A原石製の遺物とA、B、C産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はA原石とクラスターを作るが、A原石を抜いて、D、E産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がE産地とクラスターを作ってしまう。もし、A産地が調査されていないと、遺物はE原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、A原石製遺物と分かっていたら、E原石とクラスターを作らないようにもできる。クラスター分析を正確に行うには遺物の原産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があるため、正しい結果を得るのは大変に困難なものとなる。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布図の中に分析した遺物の結果が入るか否かを図示した方法で、原石の含有元素の絶対定量値を求めてその違いを地球科学的に議論するには地質学では最も適

した方法であるが、産地分析の見地からみると、クラスター法よりさらに後退した方法である。それは何個の原石を分析すればその産地を正確に表現出来るのか不明であり、例えば分析する原石の数が少ないときにはA産地とB産地が区別できていたのに、分析する原石数が増えるとA産地、B産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター判定法でも同じ危険性がある）、判定結果に疑問が残る。以上のことから産地分析の方法として理想的なもの、地質学の常識的な知識（高校生程度）さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要ないもので、また、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行なえることが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定をおこなえるかが重要である。このようにクラスター判定法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出され、理論的に証明された判定法がホテリングのT2乗検定法である。産地分析を正確におこなうには、ある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すればその産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、また、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類においては、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなるが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きく、もし他のB、C、D・・・の産地の原石と比較していない場合それらの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地（A、B、C、D・・・）の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは観察者各人の主観で分類基準が異なり不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なるため、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより大きく左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量元素成分組成には違いがあると考えられるため、微量元素成分を中心に元素分析をおこないこれを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物の分析値を対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。また、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を分析した全ての産地についておこない、ある遺物原材と同じ

元素組成の原石がA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。すなわち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は鳥根県に位置する東前田・中嶺・金クソ谷遺跡出土の黒曜石製・安山岩製遺物および中嶺遺跡出土メノウ製勾玉・剥片で産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石、安山岩（サヌカイトなど）原石の分析

黒曜石、サヌカイト両原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比の値を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。また、元素組成によってこれら原石を分類して表1に示す。この原石群と原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると295個の原石群・遺物群になる。また、安山岩では、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srの比の値を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地、および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所以上の調査を終えている。図2にサヌカイトの原産地の各地点を示す。これら産地の原石および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると165個の原石群・遺物群に分類でき、その結果を表2に示した。また、岩屋、中持地域原産地の堆積層から円礫状で採取される原石の中に、金山・五色台地域産サヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示す原石がある。これら岩屋地域産のもの进行分类すると、全体の約2/3が表3に示す割合で金山・五色台地域の各群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことが推測される。和泉・岸和田原産地からも全体の約1%であるが金山東群に一致する原石が採取される(表4)。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から複数の遺物を分析し、表3、表4のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。金山東群を作った原石は香川県坂出市に位置する金山東麓を中心にした広い地域から採取された。この金山東群と元素組成の類似する原石は岩屋、和泉・岸和田の原産地からそれぞれ5%、1%の割合で採取されることから、一つの遺跡から複数の遺物を分析し、表3、表4のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、岩屋、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

結果と考察

遺跡から出した黒曜石製石器、剥片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層

の影響を受けやすいと考えられる。また、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比の値を除いて産地分析を行った場合と、除かずに産地分析を行った場合では、いずれの場合でも同定される産地は同じである。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製遺物は、白っぽく表面が風化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。

今回分析した東前田・中嶺・金クソ遺跡出土黒曜石製遺物の分析結果を表5-1に、中嶺・金クソ谷遺跡出土安山岩製遺物の分析結果を表5-2示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて各原石群・遺物群との比較をする。説明を簡単にするためRr/Zrの変数だけを考える。表5-1の試料番号98409番の遺物ではRr/Zrの値は0.397であり、表1の久見群のRr/Zrの[平均値]±[標準偏差値]は、0.386±0.011である。遺物と久見群の差を久見群の標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は久見群から1 σ 離れている。ところで久見群の原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から±1 σ のずれより大きいものが84個ある。すなわち、この遺物が、久見群の原石から作られていたと仮定しても、1 σ 以上離れる確率は84%であると言える。だから、久見群の平均値から1 σ しか離れていないときには、この遺物が久見群の原石から作られたものでないとは到底言い切れない。ところがこの遺物を中町第1群に比較すると、中町第1群のRr/Zrの[平均値]±[標準偏差値]は、0.810±0.087であるので中町第1群の標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は中町第1群から4.75 σ 離れている。これを確率の言葉で表現すると、中町第1群の産地の原石を採ってきて分析したとき、平均値から4.75 σ 以上離れている確率は、五十万分の一であると言える。このように、五十万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、中町第1群産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は久見群に84%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから久見群原石が使用されていると同定され、さらに中町第1群に五千分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから中町第1群産原石でないと判定される」。遺物が一つの産地(久見群産地)と一致したからと言って、例え久見群と中町第1群の原石の元素組成が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は残る。すなわちある産地(久見群)に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の295個すべての原石群・遺物群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群・遺物群を消していくことにより、はじめに久見群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一つの値だけでなく、前述した8個の値で取り扱うのでそれぞれの値の間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とSr元素との間に相関があり、Caの量を計ればSrの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Sr量も一致するはずである。もしSr量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数率的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²乗検定であ

る。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する^{4,5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石では295個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち、久見群産原石と判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ元素組成の原石とか、信州和田峠、霧ヶ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみ結果を表6に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、小さな遺物試料は単位時間あたりの分析カウントは少なく、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のパラツキの範囲を超えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D²乗の値を記した。この遺物については、記入されたD²乗の値が原石群の中で最も小さなD²乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の元素組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。また、蛍光X線分析では、分析試料の風化による表面状態の変化(粉末の場合粒度の違い)、不定形では試料の置き方で誤差範囲を超えて分析値に影響が残り、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原石産地に同定されるとき、および、信頼限界の0.1%の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて4~12回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率(1%以下)の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。以上のことは安山岩を含めた他の種類の石材の場合でも同様である。

東前田遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析結果

今回分析した東前田遺跡出土黒曜石製遺物の4個をホテリングのT²乗検定法で表1の原石群・遺物群と比較した結果、分析番号98406番の遺物は加茂産原石に同定され、分析番号98407番の遺物は津井産原石に同定され、分析番号98408、98409番の遺物は久見産原石が使用されていると同定された。また、1分条件で、久見原石と元素組成が比較的似ている北朝鮮の白頭山産原石、会寧城外遺物群の可能性が否定されたことから、隠岐との交流のみで北朝鮮との交流の可能性は否定された結果となった。

中嶺遺跡出土の黒曜石・安山岩遺物の原産地分析結果

今回分析した中嶺遺跡出土黒曜石製遺物の13個をホテリングのT²乗検定法で表1の原石群・遺物群と比較した結果、分析番号98411番の遺物が加茂産原石に同定され、その他の12個全て久見産原石が使用されていると同定された。また、1分条件で、久見原石と元素組成が比較的似ている北朝鮮の白頭山産原石、会寧城外遺物群の可能性が否定されたことから、隠岐との交流のみで北朝鮮との交流の可能性は否定された結果となった。また、分析番号98437番の安山岩製遺物をホテリン

グのT2乗検定法で表2の原石群・遺物群と比較した結果、既知のいずれの群とも一致せず、この遺物を44回測定し新たに中嶺32遺物群を作成した。これにより、もし他の遺跡でこの遺物群の石材の使用が分かればその遺跡と中嶺遺跡との交流の可能性が確認できるようになった。

中嶺遺跡出土メノウ製遺物の蛍光X線分析法による非破壊定性分析

今回分析した遺物はメノウ製勾玉と赤メノウの剥片の2個で、メノウ製勾玉は19.16686グラムで比重は2.600、赤メノウの剥片は10.43808グラムで比重は2.59で、両比重値はメノウの範囲に入る。これら遺物の含有元素の蛍光X線分析法による定性分析の結果を示す。

分析番号98440番のメノウ製勾玉と98441番の赤メノウの蛍光X線分析スペクトルを図3-1、3-2に示した。蛍光X線スペクトルには珪素の分析ピークが非常に大きく観測され珪素が主成分であることを示している。また鉄のピークも観測されているが鉄の信号とバックグラウンドのノイズとの関係から推測すると、鉄の含有量は非常に少なく微量で、他の元素は検出限界以下の含有量で、花仙山産メノウ原石を観測したときの信号に一致することから産地分析の必要条件を満たし、肉眼観察の推定結果に一致する花仙山産メノウの可能性は推測されるが、他のメノウ産地の原石でないとの十分条件が求められていないので、遺物の産地を花仙山産と特定できなかった。

金クソ谷遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原産地分析結果

今回、分析した金クソ谷遺跡出土の黒曜石製遺物と安山岩製遺物の中で、通常の方法では産地を判定する信頼限界の0.1%に達しない遺物がみられた。これら産地が特定できなかった理由は、(1) 遺物が異常に風化し元素組成の変化が非常に激しい場合、(2) 遺物の厚さが非常に薄いとき、特に遺物の平均厚さが1.5mm以下の薄い試料では、Mn/Zr、Fe/Zrの比値が大ききく分析され、1mm厚でFe/Zr比は約15%程度大きく分析される。しかし、1mm厚あればRb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrについては分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr、Fe/Zrの影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。(3) 未発見の原石を使用している場合などが考えられる。

分析番号98427番の遺物は見た目にも風化が激しかったので、軽元素を抜いて検定すると加茂群に同定された。また、分析番号98430、98431番の各遺物は、いずれも厚さが薄く上記の(2)の場合と考えられ分析番号98430番の遺物を0.6mmのものを分析したときにおこなう厚さ補正をすると、久見群に一致し、分析番号98431番の遺物を0.8mmのものを分析したときにおこなう厚さ補正をすると、久見群に一致した。

これら上記の手法を用いて判定した黒曜石製遺物と通常の手法で判定した黒曜石製遺物の合計17個の検定結果は、上記に示したように分析番号98427番の遺物が加茂産原石に同定され、その他の遺物は全て久見産原石が使用されていると同定された。また、十分条件で、久見原石と元素組成が比較的似ている北朝鮮の白頭山産原石、会寧城外遺物群の可能性が否定されたことから、隠岐との交流のみで北朝鮮との交流の可能性は否定された結果となった。

また、分析番号96035、98438、98439番の安山岩製遺物をホテリングのT2乗検定法で表2の原石群・遺物群と比較した結果、いずれの群とも一致せず、これらの遺物をそれぞれ45回測定し新たに金クソ谷3遺物群、金クソ谷33遺物群、金クソ谷34遺物群を作成した。これにより、もし他の遺跡でこの遺物群の石材の使用が分かればその遺跡と金クソ谷遺跡との交流を推測するときに重要な

参考資料となると思われる。

参考文献

- 1) 高村哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II), 考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 高村哲男・東村武信・鈴木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (III), (IV), 考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 高村哲男・東村武信 (1983), 石器原料の産地分析, 考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法, 考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学, 学生社

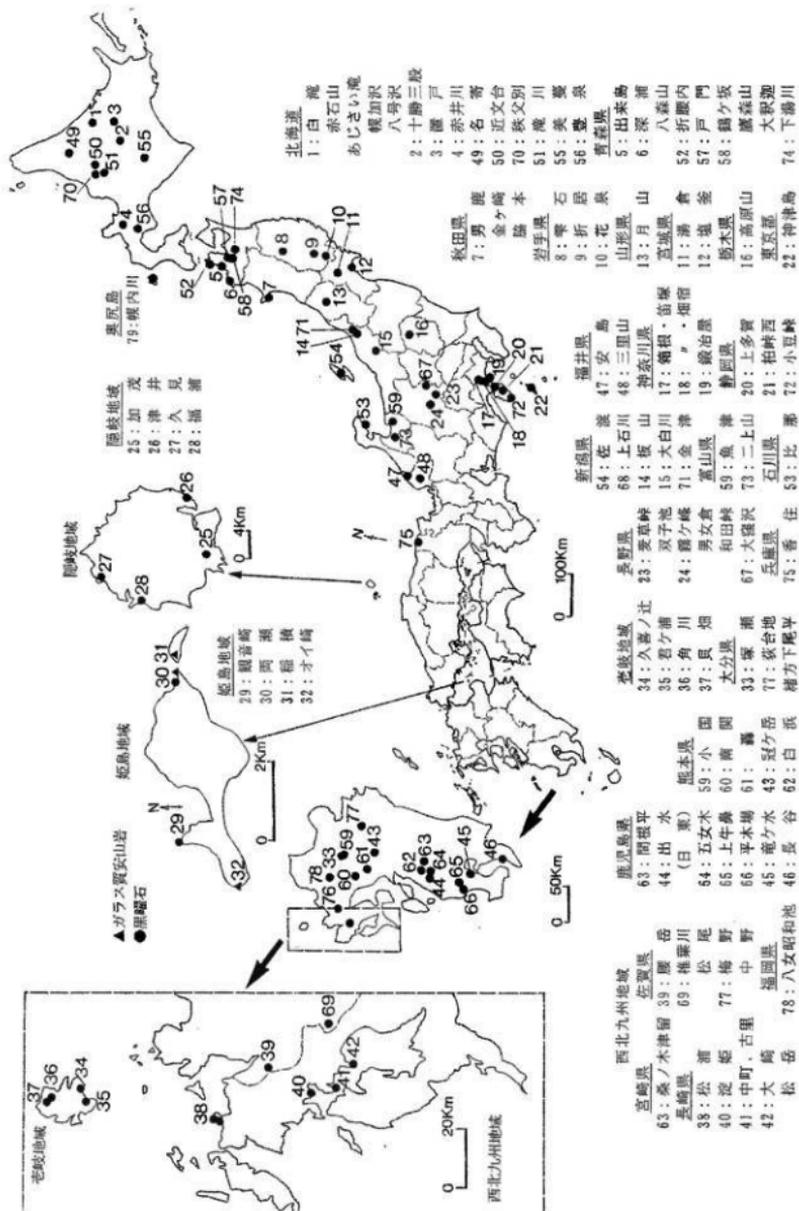


図1 黒曜石産地

図2 安山岩(サヌカイト)の原産地



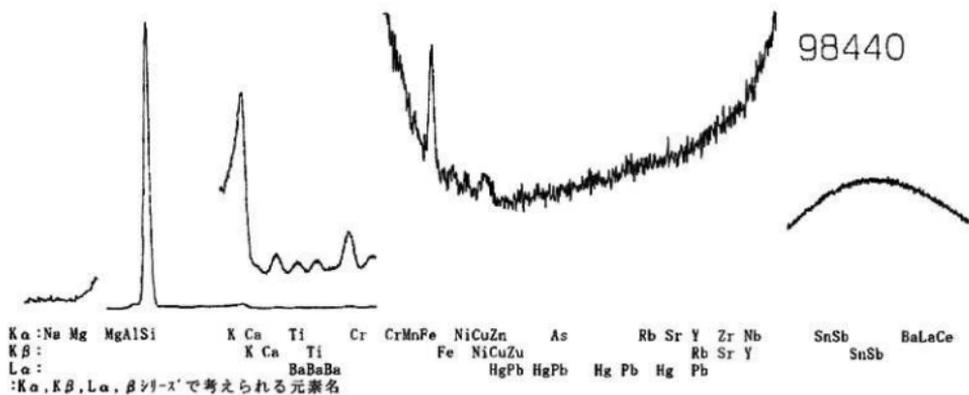


図3-1 中嶺遺跡出土メノウ製勾玉(98440)の蛍光X線スペクトル

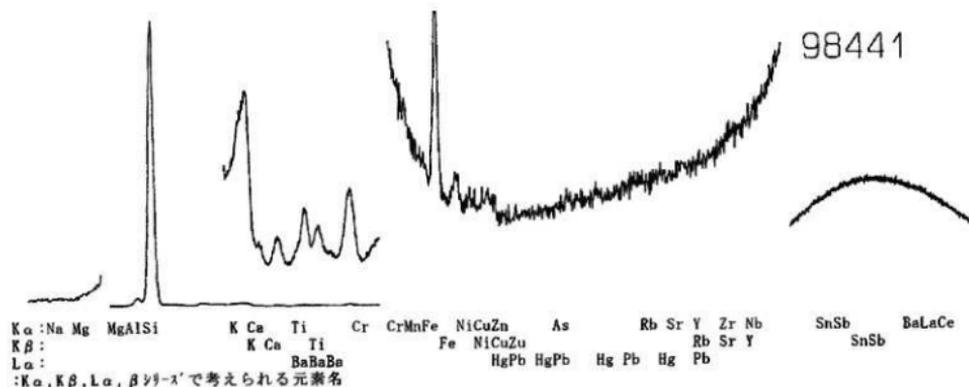


図3-2 中嶺遺跡出土赤メノウ製剥片(98441)の蛍光X線スペクトル

表1-1 各黒曜石の産地地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

分析 回数	産地	原石群名	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Ba/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
14	上	名寄群	0.476±0.015	0.121±0.005	0.635±0.007	1.711±0.065	0.616±0.032	0.261±0.022	0.201±0.017	0.624±0.016	0.633±0.002	0.394±0.010
35		名寄群	0.309±0.011	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.098	0.686±0.044	0.565±0.011	0.300±0.022	0.246±0.020	0.628±0.007	0.571±0.016
130		白黒石	0.175±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	1.747±0.145	1.340±0.068	0.263±0.018	0.441±0.030	0.673±0.026	0.628±0.002	0.364±0.006
27		白黒石	0.138±0.004	0.021±0.002	0.020±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.599±0.039	0.107±0.019	0.627±0.002	0.376±0.004
30		八景群	0.138±0.010	0.029±0.002	0.108±0.017	1.846±0.165	1.035±0.049	0.103±0.014	0.478±0.045	0.076±0.046	0.627±0.008	0.359±0.004
50		阿蘇山群	0.140±0.003	0.024±0.001	0.101±0.009	3.021±0.127	1.835±0.152	0.109±0.047	0.480±0.042	0.104±0.044	0.627±0.001	0.364±0.006
34		阿蘇山群	0.139±0.003	0.023±0.003	0.099±0.007	3.020±0.117	1.799±0.103	0.109±0.039	0.470±0.029	0.098±0.046	0.627±0.001	0.361±0.008
38		阿蘇山群	0.819±0.013	0.165±0.008	0.081±0.010	3.266±0.117	1.694±0.063	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.639±0.002	0.457±0.008
107		阿蘇山群	0.317±0.011	0.099±0.003	0.067±0.004	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.635±0.002	0.442±0.009
47		阿蘇山群	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.018	2.746±0.262	0.838±0.100	0.796±0.081	0.220±0.043	0.035±0.021	0.638±0.004	0.419±0.014
32	阿蘇山群	阿蘇山群	1.076±0.032	0.182±0.003	0.074±0.011	2.914±0.117	0.791±0.028	0.618±0.033	0.120±0.022	0.622±0.012	0.640±0.005	0.317±0.013
33		阿蘇山群	0.746±0.017	0.179±0.006	0.074±0.011	3.045±0.083	0.863±0.034	0.638±0.038	0.093±0.018	0.629±0.009	0.631±0.019	0.317±0.013
37		阿蘇山群	0.746±0.017	0.179±0.006	0.074±0.011	3.045±0.083	0.863±0.034	0.638±0.038	0.093±0.018	0.629±0.009	0.631±0.019	0.317±0.013
48	阿蘇山群	阿蘇山群	0.510±0.016	0.097±0.005	0.065±0.016	2.085±0.123	0.814±0.034	0.789±0.043	0.205±0.024	0.630±0.018	0.637±0.003	0.417±0.015
31		阿蘇山群	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.917±0.045	0.459±0.075	0.233±0.029	0.038±0.018	0.626±0.003	0.419±0.013
94	阿蘇山群	阿蘇山群	0.529±0.004	0.118±0.005	0.018±0.001	3.004±0.032	0.809±0.055	0.783±0.044	0.201±0.020	0.040±0.015	0.636±0.003	0.419±0.013
40		阿蘇山群	0.259±0.004	0.118±0.005	0.018±0.001	3.004±0.032	0.809±0.055	0.783±0.044	0.201±0.020	0.040±0.015	0.636±0.003	0.419±0.013
50	阿蘇山群	阿蘇山群	0.273±0.011	0.128±0.005	0.018±0.001	1.349±0.037	0.413±0.013	0.167±0.010	0.137±0.006	0.008±0.003	0.628±0.001	0.429±0.009
41		阿蘇山群	0.340±0.018	0.105±0.009	0.054±0.003	2.140±0.106	0.676±0.022	0.407±0.010	0.223±0.007	0.152±0.014	0.625±0.001	0.429±0.009
65	阿蘇山群	阿蘇山群	0.236±0.008	0.128±0.005	0.045±0.002	1.813±0.065	0.824±0.024	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.627±0.002	0.517±0.031
52		阿蘇山群	0.272±0.006	0.095±0.005	0.044±0.002	1.738±0.070	0.947±0.102	0.429±0.016	0.201±0.015	0.067±0.026	0.623±0.001	0.516±0.011
48	阿蘇山群	阿蘇山群	0.643±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.720±0.072	0.440±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.632±0.003	0.456±0.010
58		阿蘇山群	0.643±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.720±0.072	0.440±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.632±0.003	0.456±0.010
48	阿蘇山群	阿蘇山群	0.353±0.023	0.145±0.009	0.037±0.002	1.705±0.061	0.378±0.016	0.422±0.022	0.115±0.008	0.033±0.017	0.638±0.002	0.478±0.029
54		阿蘇山群	0.353±0.023	0.145±0.009	0.037±0.002	1.705±0.061	0.378±0.016	0.422±0.022	0.115±0.008	0.033±0.017	0.638±0.002	0.478±0.029
50	阿蘇山群	阿蘇山群	0.305±0.011	0.130±0.008	0.030±0.008	1.802±0.059	0.412±0.018	0.238±0.011	0.179±0.013	0.028±0.015	0.633±0.004	0.441±0.011
51		阿蘇山群	0.305±0.011	0.130±0.008	0.030±0.008	1.802±0.059	0.412±0.018	0.238±0.011	0.179±0.013	0.028±0.015	0.633±0.004	0.441±0.011
51	阿蘇山群	阿蘇山群	0.470±0.034	0.116±0.015	0.044±0.004	1.937±0.161	0.503±0.044	0.459±0.084	0.153±0.013	0.043±0.016	0.631±0.005	0.481±0.023
50		阿蘇山群	0.470±0.034	0.116±0.015	0.044±0.004	1.937±0.161	0.503±0.044	0.459±0.084	0.153±0.013	0.043±0.016	0.631±0.005	0.481±0.023
48	阿蘇山群	阿蘇山群	0.851±0.068	0.224±0.004	0.048±0.001	2.347±0.032	0.609±0.013	0.688±0.014	0.154±0.006	0.029±0.015	0.633±0.001	0.451±0.013
48		阿蘇山群	0.851±0.068	0.224±0.004	0.048±0.001	2.347±0.032	0.609±0.013	0.688±0.014	0.154±0.006	0.029±0.015	0.633±0.001	0.451±0.013
48	阿蘇山群	阿蘇山群	0.510±0.017	0.098±0.004	0.053±0.001	2.667±0.038	0.829±0.013	0.723±0.013	0.154±0.006	0.023±0.006	0.628±0.001	0.352±0.003
48		阿蘇山群	0.510±0.017	0.098±0.004	0.053±0.001	2.667±0.038	0.829±0.013	0.723±0.013	0.154±0.006	0.023±0.006	0.628±0.001	0.352±0.003
68	阿蘇山群	阿蘇山群	0.358±0.065	0.113±0.011	0.027±0.001	1.799±0.023	0.603±0.013	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.630±0.001	0.397±0.013
68		阿蘇山群	0.358±0.065	0.113±0.011	0.027±0.001	1.799±0.023	0.603±0.013	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.630±0.001	0.397±0.013
65	阿蘇山群	阿蘇山群	0.716±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.033	0.170±0.028	0.030±0.013	0.630±0.003	0.396±0.014
62		阿蘇山群	0.716±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.033	0.170±0.028	0.030±0.013	0.630±0.003	0.396±0.014
60	阿蘇山群	阿蘇山群	0.256±0.018	0.074±0.005	0.052±0.003	1.977±0.097	0.550±0.026	0.694±0.028	0.159±0.021	0.035±0.018	0.631±0.001	0.392±0.012
41		阿蘇山群	0.256±0.018	0.074±0.005	0.052±0.003	1.977±0.097	0.550±0.026	0.694±0.028	0.159±0.021	0.035±0.018	0.631±0.001	0.392±0.012
60	阿蘇山群	阿蘇山群	0.499±0.020	0.121±0.007	0.059±0.010	2.633±0.181	1.007±0.065	0.434±0.023	0.334±0.025	0.064±0.025	0.629±0.005	0.396±0.012
60		阿蘇山群	0.499±0.020	0.121±0.007	0.059±0.010	2.633±0.181	1.007±0.065	0.434±0.023	0.334±0.025	0.064±0.025	0.629±0.005	0.396±0.012
28	阿蘇山群	阿蘇山群	0.592±0.036	0.141±0.012	0.069±0.010	0.928±0.251	0.760±0.040	0.764±0.051	0.199±0.029	0.039±0.023	0.633±0.003	0.442±0.015
50		阿蘇山群	0.254±0.029	0.070±0.004	0.068±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.240±0.024	0.058±0.021	0.638±0.022	0.430±0.009
30	阿蘇山群	阿蘇山群	0.258±0.065	0.072±0.002	0.060±0.010	1.767±0.085	0.870±0.045	0.436±0.028	0.245±0.021	0.021±0.029	0.629±0.007	0.371±0.007
75		阿蘇山群	0.258±0.065	0.072±0.002	0.060±0.010	1.767±0.085	0.870±0.045	0.436±0.028	0.245±0.021	0.021±0.029	0.629±0.007	0.371±0.007
40	阿蘇山群	阿蘇山群	0.377±0.016	0.148±0.007	0.055±0.005	1.764±0.072	0.607±0.027	0.697±0.028	0.151±0.026	0.024±0.017	0.630±0.002	0.469±0.013
40		阿蘇山群	0.377±0.016	0.148±0.007	0.055±0.005	1.764±0.072	0.607±0.027	0.697±0.028	0.151±0.026	0.024±0.017	0.630±0.002	0.469±0.013
58	阿蘇山群	阿蘇山群	0.289±0.028	0.087±0.006	0.193±0.032	1.834±0.180	2.043±0.224	1.475±0.201	0.360±0.058	0.085±0.031	0.631±0.004	0.347±0.010
58		阿蘇山群	0.289±0.028	0.087±0.006	0.193±0.032	1.834±0.180	2.043±0.224	1.475±0.201	0.360±0.058	0.085±0.031	0.631±0.004	0.347±0.010

表1-2 各黒曜石の原産地における原岩群の元素比の平均値と標準偏差

分類 群数	原産地 群名	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
35	野郎内	0.190±0.012	0.076±0.003	0.040±0.008	1.576±0.066	1.241±0.046	0.399±0.033	0.179±0.031	0.076±0.022	0.436±0.021		
27	山梨県	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.288±0.108	0.865±0.044	1.106±0.056	0.141±0.033	0.039±0.008	0.498±0.013		
36	八ヶ岳	0.080±0.006	0.097±0.001	0.013±0.002	0.701±0.042	0.128±0.008	0.009±0.002	0.009±0.001	0.030±0.002	0.370±0.010		
41	湖上	0.257±0.024	0.069±0.003	0.013±0.002	0.601±0.018	0.131±0.005	0.003±0.002	0.077±0.005	0.033±0.006	0.384±0.009		
28	戸部	0.034±0.005	0.059±0.003	0.068±0.012	0.359±0.237	1.168±0.066	0.521±0.063	0.277±0.068	0.076±0.025	0.365±0.015		
28	戸部	0.034±0.005	0.104±0.004	0.013±0.002	0.651±0.021	0.123±0.006	0.009±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.389±0.015		
33	戸部	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.029	2.261±0.143	0.861±0.058	1.081±0.060	0.390±0.039	0.181±0.037	0.496±0.018		
52	戸部	0.250±0.029	0.066±0.003	0.074±0.029	2.247±0.131	1.153±0.066	1.551±0.031	0.284±0.031	0.049±0.031	0.493±0.018		
32	戸部	0.472±0.014	0.168±0.008	0.074±0.029	2.247±0.131	1.153±0.066	1.551±0.031	0.284±0.031	0.049±0.031	0.493±0.018		
36	戸部	0.672±0.017	0.206±0.016	0.326±0.017	3.616±0.068	0.609±0.021	0.538±0.028	0.358±0.018	0.169±0.028	0.850±0.006		
64	戸部	0.285±0.012	0.066±0.003	0.071±0.012	2.516±0.118	1.149±0.063	1.621±0.063	0.284±0.037	0.044±0.035	0.385±0.010		
41	戸部	0.806±0.243	2.484±0.035	0.161±0.018	7.570±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.284±0.037	0.044±0.035	0.385±0.010		
43	戸部	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.654±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.400±0.044		
45	戸部	0.296±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.054	0.367±0.059		
44	戸部	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.007	1.906±0.096	0.968±0.069	1.022±0.071	0.276±0.046	0.119±0.053	0.443±0.014		
48	戸部	0.385±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.025	0.036±0.015	0.600±0.010		
25	戸部	0.636±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.015	0.045±0.014	0.591±0.014		
37	戸部	0.632±0.033	0.185±0.013	0.052±0.006	1.766±0.048	0.307±0.017	0.420±0.022	0.208±0.015	0.039±0.015	0.579±0.014		
54	戸部	0.708±0.033	0.143±0.008	0.061±0.002	1.826±0.048	0.179±0.010	0.246±0.022	0.116±0.012	0.112±0.014	0.657±0.012		
29	戸部	0.602±0.044	0.175±0.015	0.053±0.003	1.781±0.068	0.313±0.029	0.416±0.027	0.214±0.013	0.039±0.016	0.576±0.027		
21	戸部	2.174±0.068	0.349±0.017	0.067±0.005	2.571±0.149	0.116±0.029	0.658±0.024	0.138±0.025	0.029±0.013	0.673±0.063		
47	戸部	0.598±0.392	1.630±0.104	0.118±0.017	11.362±1.130	0.468±0.018	1.298±0.083	0.159±0.016	0.037±0.018	0.740±0.032		
46	戸部	0.433±0.017	0.138±0.007	0.109±0.011	2.729±0.070	0.471±0.025	0.696±0.035	0.219±0.021	0.066±0.014	0.516±0.012		
56	戸部	0.317±0.021	0.138±0.007	0.109±0.011	2.729±0.070	0.471±0.025	0.696±0.035	0.219±0.021	0.066±0.014	0.516±0.012		
46	戸部	0.317±0.021	0.130±0.007	0.114±0.005	1.833±0.089	0.614±0.044	0.664±0.045	0.301±0.029	0.068±0.039	0.471±0.022		
40	戸部	0.765±0.254	2.219±0.057	0.118±0.014	1.809±0.096	0.614±0.044	0.664±0.045	0.301±0.029	0.068±0.039	0.471±0.022		
31	戸部	0.246±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.006		
41	戸部	1.686±0.019	0.381±0.015	0.056±0.007	2.139±0.097	0.062±0.029	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.680±0.005		
31	戸部	2.229±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2.228±0.164	0.085±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.002	0.900±0.020		
52	戸部	0.246±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.006		
31	戸部	1.218±0.164	0.299±0.018	0.041±0.006	1.699±0.167	0.087±0.009	0.737±0.023	0.138±0.013	0.007±0.007	0.697±0.006		
35	戸部	1.218±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.138±0.011	0.010±0.002	0.658±0.018		
40	戸部	1.110±0.020	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	1.134±0.051	0.087±0.057	0.009±0.009	0.429±0.015		
42	戸部	0.278±0.012	0.069±0.003	0.066±0.013	2.013±0.119	0.875±0.052	0.539±0.039	0.190±0.029	0.077±0.033	0.353±0.012		
46	戸部	0.312±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.060	0.40±0.025	0.665±0.029	0.118±0.026	0.047±0.031	0.399±0.016		
40	戸部	0.40±0.025	0.062±0.008	0.054±0.011	2.013±0.119	0.875±0.052	0.539±0.039	0.190±0.029	0.077±0.033	0.353±0.012		
43	戸部	0.441±0.032	0.108±0.011	0.079±0.021	2.251±0.135	0.719±0.159	1.222±0.068	0.121±0.041	0.067±0.053	0.412±0.024		

表1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	原産地群名	分析個数	元素比									
			Ca/K	Al/K	Si/K	Ca/K	Al/K	Si/K	Ca/K	Al/K	Si/K	Ca/K
長野県	標高ヶ峰	108	0.150±0.010	0.068±0.003	0.100±0.018	1.032±0.070	0.360±0.051	0.967±0.036	0.275±0.039	0.060±0.033	0.029±0.003	0.446±0.011
	標高ヶ峰	72	0.159±0.010	0.069±0.002	0.100±0.018	1.321±0.074	1.055±0.057	0.386±0.036	0.279±0.032	0.060±0.033	0.029±0.003	0.446±0.010
	和出峠群	3	0.147±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.051	1.853±0.124	0.119±0.056	0.460±0.048	0.139±0.026	0.205±0.000	0.355±0.016
	和出峠群	39	0.147±0.028	0.032±0.003	0.150±0.011	1.481±0.084	0.627±0.169	0.027±0.040	0.527±0.040	0.185±0.022	0.026±0.001	0.265±0.010
	和田峠群	57	0.144±0.017	0.064±0.012	0.110±0.011	1.609±0.173	1.667±0.135	0.275±0.097	0.316±0.048	0.122±0.024	0.022±0.003	0.347±0.019
	和田峠群	3	0.154±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.314±0.087	0.206±0.029	0.650±0.022	0.060±0.022	0.025±0.002	0.331±0.019
	和田峠群	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.075±0.011	1.287±0.068	1.051±0.106	0.184±0.044	0.466±0.021	0.060±0.021	0.021±0.000	0.308±0.019
	和田峠群	53	0.176±0.019	0.055±0.003	0.095±0.012	1.332±0.063	1.523±0.093	0.134±0.033	0.279±0.039	0.010±0.017	0.021±0.000	0.313±0.012
	和田峠群	50	0.182±0.024	0.038±0.002	0.123±0.014	1.359±0.041	1.978±0.061	0.045±0.010	0.339±0.039	0.145±0.022	0.020±0.002	0.350±0.010
	和田峠群	45	0.182±0.024	0.040±0.009	0.104±0.008	1.674±0.068	1.952±0.074	0.150±0.048	0.116±0.022	0.039±0.001	0.020±0.000	0.350±0.008
	和田峠群	43	0.166±0.026	0.060±0.008	0.084±0.008	1.684±0.068	1.875±0.101	0.087±0.011	0.438±0.022	0.052±0.002	0.020±0.000	0.346±0.009
	小笠原	81	0.222±0.014	0.069±0.006	0.058±0.008	1.801±0.060	0.748±0.075	0.362±0.031	0.140±0.022	0.046±0.021	0.035±0.006	0.440±0.009
	立峠	63	0.155±0.007	0.068±0.003	0.105±0.018	1.079±0.018	1.033±0.063	0.859±0.043	0.785±0.032	0.108±0.044	0.030±0.003	0.356±0.010
	双上港	97	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	0.651±0.099	0.542±0.058	0.546±0.034	0.727±0.038	0.637±0.037	0.027±0.001	0.401±0.011
	双上港	80	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	0.830±0.179	0.669±0.055	0.807±0.068	0.111±0.024	0.637±0.037	0.027±0.001	0.401±0.011
	小川	87	0.267±0.011	0.143±0.006	0.048±0.013	0.948±0.013	0.462±0.066	0.546±0.034	0.727±0.038	0.109±0.031	0.045±0.022	0.351±0.011
	大瀧	42	0.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.041	1.010±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.450±0.010
	作楽峠群	41	0.347±0.066	1.071±0.028	0.118±0.015	7.380±0.369	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021
	作楽峠群	34	0.228±0.013	0.078±0.008	0.020±0.005	1.492±0.079	0.82±0.047	0.289±0.018	0.142±0.015	0.049±0.017	0.024±0.001	0.328±0.012
	佐藤川	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±1.108	0.246±0.029	0.091±0.023	0.046±0.015	0.024±0.001	0.328±0.009
佐藤川	45	0.231±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.778±0.034	0.189±0.023	0.038±0.027	0.024±0.001	0.359±0.009	
東山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.049±0.011	2.179±0.110	1.772±0.098	0.772±0.048	0.374±0.047	0.134±0.034	0.027±0.001	0.359±0.009	
東山	43	0.309±0.008	0.142±0.005	0.033±0.001	1.608±0.039	0.261±0.009	0.352±0.009	0.150±0.008	0.039±0.003	0.036±0.001	0.491±0.012	
東山	35	0.163±0.019	0.057±0.006	0.099±0.007	1.554±0.065	0.612±0.067	0.984±0.057	0.709±0.019	0.038±0.018	0.023±0.002	0.446±0.012	
岩川	55	0.163±0.019	0.061±0.006	0.099±0.007	1.554±0.065	0.612±0.067	0.984±0.057	0.709±0.019	0.038±0.018	0.023±0.002	0.446±0.012	
岩川	48	0.370±0.009	0.087±0.008	0.060±0.003	2.699±0.088	0.639±0.021	0.834±0.026	0.172±0.011	0.032±0.028	0.032±0.001	0.496±0.010	
桶井群	42	0.407±0.006	0.123±0.006	0.038±0.002	1.829±0.048	0.643±0.028	0.673±0.023	0.113±0.008	0.061±0.012	0.032±0.001	0.150±0.010	
桶井群	37	0.206±0.020	0.127±0.008	0.033±0.003	1.411±0.068	0.397±0.021	0.740±0.053	0.114±0.010	0.022±0.012	0.022±0.001	0.324±0.007	
桶井群	30	0.216±0.026	0.067±0.002	0.043±0.002	1.828±0.056	0.883±0.043	0.265±0.011	0.097±0.021	0.119±0.020	0.026±0.011	0.446±0.012	
桶井群	40	0.273±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.056	0.813±0.043	0.397±0.020	0.112±0.020	0.138±0.024	0.026±0.011	0.446±0.012	
桶井群	48	0.123±0.004	0.056±0.002	0.068±0.012	1.997±0.061	1.778±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006	
島根県	厚狭	20	0.160±0.008	0.099±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
	厚狭	30	0.145±0.008	0.139±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.017±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.241±0.006
	厚狭	31	0.145±0.008	0.081±0.003	0.021±0.001	0.896±0.023	0.386±0.011	0.007±0.005	0.099±0.012	0.238±0.011	0.020±0.002	0.241±0.006
	厚狭	48	0.208±0.009	0.070±0.003	0.077±0.003	1.721±0.113	1.820±0.096	0.244±0.051	0.085±0.036	0.085±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
	厚狭	51	0.202±0.077	0.141±0.010	0.033±0.008	3.126±0.150	0.698±0.068	1.859±0.098	0.029±0.028	0.065±0.029	0.041±0.004	0.367±0.011
	厚狭	59	0.189±0.028	0.142±0.018	0.033±0.010	2.840±0.102	0.423±0.058	1.043±0.073	0.023±0.019	0.045±0.013	0.045±0.001	0.507±0.013
	厚狭	59	0.189±0.028	0.142±0.018	0.033±0.010	2.840±0.102	0.423±0.058	1.043±0.073	0.023±0.019	0.045±0.013	0.045±0.001	0.507±0.013
	厚狭	59	0.189±0.028	0.142±0.018	0.033±0.010	2.840±0.102	0.423±0.058	1.043±0.073	0.023±0.019	0.045±0.013	0.045±0.001	0.507±0.013
	厚狭	59	0.189±0.028	0.142±0.018	0.033±0.010	2.840±0.102	0.423±0.058	1.043±0.073	0.023±0.019	0.045±0.013	0.045±0.001	0.507±0.013
	厚狭	59	0.189±0.028	0.142±0.018	0.033±0.010	2.840±0.102	0.423±0.058	1.043±0.073	0.023±0.019	0.045±0.013	0.045±0.001	0.507±0.013
佐賀県	標高ヶ峰	30	0.467±0.043	0.116±0.012	0.048±0.014	3.305±0.199	0.833±0.048	1.256±0.056	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.014
	標高ヶ峰	34	0.418±0.043	0.116±0.012	0.048±0.014	3.305±0.199	0.833±0.048	1.256±0.056	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.014
	標高ヶ峰	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.799±0.027	0.226±0.013	0.283±0.013	0.007±0.009	0.073±0.018	0.023±0.001	0.321±0.011
	標高ヶ峰	39	0.207±0.007	0.087±0.003	0.027±0.003	0.626±0.028	0.444±0.015	1.030±0.018	0.103±0.018	0.044±0.008	0.023±0.001	0.270±0.006
	標高ヶ峰	40	0.345±0.007	0.104±0.000	0.027±0.001	1.333±0.039	0.545±0.017	0.397±0.014	0.060±0.016	0.059±0.014	0.026±0.005	0.328±0.008
佐賀県	標高ヶ峰	39	0.211±0.009	0.031±0.003	0.075±0.010	2.573±0.212	1.600±0.085	2.014±0.043	0.311±0.046	0.258±0.043	0.020±0.002	0.345±0.009
	標高ヶ峰	54	0.414±0.009	0.071±0.003	0.041±0.011	2.947±0.142	1.253±0.081	2.014±0.043	0.147±0.033	0.258±0.040	0.030±0.001	0.388±0.009
	標高ヶ峰	40	0.620±0.067	0.183±0.028	0.183±0.028	6.599±0.389	1.170±0.114	2.623±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.035±0.003	0.376±0.008
	標高ヶ峰	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.128±0.013	4.656±0.243	0.838±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.006	0.385±0.008

表1-5 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

台 産	原産地・原石群名	分析 例数	元素比										
			Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
台湾	奇策山脈	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.078	0.353±0.018	0.519±0.017	0.122±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010	
	ノリスダヤ川	40	19.739±1.431	6.653±0.538	0.292±0.051	32.021±4.964	0.600±0.016	2.859±0.412	0.176±0.027	0.025±0.016	0.185±0.026	1.574±0.152	
	ナチキ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.026	0.500±0.026	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006	
ロシア	RED LAKE-1	40	0.134±0.004	0.044±0.002	0.014±0.002	1.238±0.027	1.019±0.026	0.511±0.009	0.395±0.016	0.044±0.031	0.022±0.000	0.334±0.005	
	シネビヤン川第2群	44	0.188±0.005	0.486±0.102	0.031±0.002	1.866±0.036	0.188±0.008	0.580±0.012	0.066±0.005	0.086±0.015	0.029±0.001	0.480±0.023	
アメリカ	ノデバ/ミズ群	48	0.204±0.004	0.044±0.002	0.864±0.025	5.868±0.191	1.170±0.039	0.021±0.016	0.508±0.025	0.259±0.018	0.791±0.028	7.508±0.279	
	白蘭山脈区	50	0.157±0.009	0.067±0.003	0.018±0.005	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.013	0.338±0.012	0.027±0.003	0.300±0.008	

表1-7 黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差値

製造物群	製造物名	元素比										
		Ca/K	Ti/K	Mn/K	Fe/K	Rb/K	Str	Y/K	Nb/K	Al/K	Si/K	
黒川島群	K11製造物	0.383±0.012	0.101±0.005	0.060±0.004	1.915±0.138	0.985±0.057	0.567±0.032	0.137±0.004	0.079±0.008	0.028±0.002	0.449±0.009	
	K12製造物	0.402±0.015	0.146±0.008	0.090±0.017	1.529±0.147	0.728±0.052	0.580±0.038	0.197±0.004	0.083±0.026	0.028±0.002	0.433±0.022	
	K13製造物	1.545±0.154	0.557±0.045	0.074±0.011	3.746±0.452	0.384±0.018	0.783±0.044	0.106±0.021	0.029±0.011	0.047±0.006	0.599±0.021	
	K14製造物	2.625±0.159	0.871±0.136	0.093±0.007	5.653±0.630	0.258±0.015	0.906±0.074	0.107±0.006	0.031±0.015	0.048±0.007	0.457±0.038	
	K15製造物	0.206±0.011	0.064±0.007	0.061±0.004	1.570±0.163	2.113±0.062	0.720±0.036	0.224±0.013	0.044±0.030	0.014±0.001	0.259±0.076	
	K16製造物	0.447±0.041	0.122±0.005	0.045±0.020	1.737±0.046	0.687±0.023	0.481±0.020	0.102±0.005	0.050±0.024	0.010±0.001	0.428±0.008	
	K17製造物	0.655±0.069	0.151±0.009	0.026±0.001	1.515±0.020	0.330±0.011	0.340±0.011	0.102±0.005	0.051±0.011	0.010±0.001	0.531±0.007	
	K18製造物	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.019	4.108±0.222	2.002±0.014	0.659±0.025	0.135±0.013	0.015±0.019	0.007±0.021	0.353±0.033	
	K19製造物	3.21±0.074	0.687±0.026	0.081±0.008	3.109±0.161	0.302±0.012	0.570±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.009±0.014	0.518±0.021	
	K20製造物	1.871±0.019	0.681±0.003	0.081±0.003	3.085±0.128	0.377±0.036	1.484±0.058	0.149±0.008	0.184±0.023	0.027±0.002	0.285±0.009	
北野群	K21製造物	0.671±0.019	0.212±0.004	0.061±0.003	1.985±0.107	0.877±0.038	0.685±0.032	0.165±0.013	0.065±0.013	0.037±0.005	0.292±0.008	
	K22製造物	0.483±0.022	0.121±0.006	0.054±0.014	1.975±0.122	0.695±0.040	0.734±0.054	0.127±0.024	0.055±0.013	0.034±0.006	0.361±0.016	
	K23製造物	0.483±0.022	0.121±0.006	0.054±0.014	1.975±0.122	0.695±0.040	0.734±0.054	0.127±0.024	0.055±0.013	0.034±0.006	0.361±0.016	
	K24製造物	0.303±0.012	0.167±0.006	0.038±0.007	1.937±0.044	0.447±0.020	0.433±0.016	0.216±0.023	0.039±0.015	0.032±0.004	0.376±0.012	
	K25製造物	0.276±0.019	0.063±0.004	0.084±0.017	2.491±0.128	1.409±0.038	0.657±0.048	0.26±0.016	0.08±0.028	0.030±0.004	0.345±0.011	
	K26製造物	0.265±0.010	0.104±0.003	0.064±0.003	1.668±0.046	0.917±0.038	0.498±0.030	0.275±0.018	0.067±0.040	0.025±0.000	0.343±0.005	
	K27製造物	0.777±0.063	0.154±0.008	0.029±0.002	1.627±0.105	0.287±0.019	0.243±0.042	0.120±0.008	0.036±0.016	0.035±0.001	0.466±0.005	
	K28製造物	0.316±0.016	0.134±0.023	0.063±0.004	1.657±0.041	0.890±0.031	0.688±0.029	0.151±0.011	0.102±0.033	0.029±0.001	0.432±0.014	
	K29製造物	0.135±0.012	0.062±0.005	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.668±0.019	0.150±0.022	0.272±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012	
	北野群	K30製造物	0.888±2.100	0.098±0.008	0.203±0.032	27.963±2.608	0.059±0.017	2.719±0.115	0.163±0.019	0.06±0.006	0.173±0.028	1.674±0.240
K31製造物		28.18±1.003	0.508±0.036	0.240±0.016	26.686±0.014	0.178±0.031	2.337±0.092	0.165±0.025	0.031±0.001	0.222±0.013	2.176±0.123	
K32製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K33製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K34製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K35製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K36製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K37製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K38製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
K39製造物		27.65±1.922	0.453±0.016	0.258±0.033	27.539±0.033	0.174±0.031	2.276±0.094	0.095±0.001	0.159±0.012	0.193±0.012	2.388±0.113	
北野群	K40製造物	0.708±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.150	0.246±0.017	0.938±0.026	0.075±0.016	0.015±0.008	0.031±0.003	0.462±0.022	
	K41製造物	0.717±0.019	0.269±0.006	0.031±0.003	1.604±0.044	0.119±0.007	0.938±0.026	0.093±0.008	0.016±0.005	0.041±0.004	0.402±0.020	
	K42製造物	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.150±0.026	0.060±0.026	0.013±0.002	0.017±0.003	0.146±0.004	
	K43製造物	0.411±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.020	0.150±0.026	0.100±0.009	0.024±0.005	0.016±0.002	0.176±0.009	
	K44製造物	0.258±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.108±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007	
	K45製造物	0.467±0.009	0.163±0.005	0.045±0.002	1.528±0.047	0.186±0.015	0.490±0.019	0.116±0.011	0.010±0.013	0.028±0.001	0.448±0.010	
	K46製造物	0.184±0.006	0.074±0.003	0.061±0.004	1.406±0.079	0.756±0.038	0.433±0.045	0.281±0.027	0.281±0.027	0.622±0.001	0.328±0.003	
	K47製造物	0.827±0.015	0.186±0.011	0.061±0.004	1.384±0.062	0.253±0.023	1.423±0.048	0.080±0.018	0.020±0.023	0.000±0.001	0.307±0.012	
	K48製造物	0.141±0.003	0.066±0.002	0.250±0.028	3.377±0.071	0.568±0.022	0.114±0.013	0.114±0.013	0.151±0.032	0.028±0.001	0.388±0.004	

表2-2 各サマカイト(安山岩)の原産地における原岩中の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名	原岩名	分析										
		K ₂ O/Ca	Na ₂ O/Ca	Ti/Ca	Mn ₂ O ₃ /Sr	Fe ₂ O ₃ /Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al ³⁺ /Ca	Si ⁴⁺ /Ca
福岡県	阿蘇山	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.023	0.050±0.003	0.500±0.012
	八女	51	1.592±0.056	0.609±0.020	0.061±0.005	3.075±0.123	0.534±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.419±0.014
	大分	50	3.144±0.069	0.721±0.036	0.073±0.009	2.914±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
	阿蘇山	50	1.922±0.108	0.681±0.030	0.064±0.005	3.029±0.103	0.607±0.033	0.121±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
	多入	40	0.820±0.053	0.405±0.012	0.056±0.009	4.680±0.233	0.494±0.033	0.049±0.029	0.912±0.045	0.199±0.030	0.031±0.003	0.284±0.017
	多入	42	0.844±0.061	0.395±0.019	0.061±0.010	5.106±0.397	0.539±0.053	0.069±0.030	0.911±0.050	0.197±0.028	0.032±0.004	0.293±0.026
	海防(多入第3群)	42	1.287±0.051	0.340±0.013	0.058±0.010	3.643±0.225	0.784±0.030	0.081±0.025	0.824±0.033	0.265±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
	花松川	50	0.704±0.029	0.310±0.009	0.073±0.015	5.265±0.176	0.533±0.035	0.073±0.027	0.720±0.053	0.191±0.035	0.026±0.028	0.249±0.010
	宇山	50	0.629±0.043	0.140±0.008	0.070±0.012	5.265±0.236	0.492±0.034	0.043±0.021	0.700±0.033	0.180±0.027	0.021±0.002	0.227±0.011
	佐賀県	45	0.911±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
熊本県	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
	阿蘇山	40	0.910±0.052	0.335±0.012	0.081±0.003	3.854±0.217	0.583±0.031	0.094±0.013	0.995±0.041	0.169±0.010	0.019±0.001	0.351±0.006
熊本県	阿蘇山	44	1.045±0.211	0.547±0.064	0.056±0.008	2.852±0.410	0.313±0.048	0.088±0.015	1.108±0.160	0.046±0.013	0.036±0.006	0.302±0.038
	阿蘇山	42	0.778±0.057	0.358±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
	阿蘇山	50	0.612±0.015	0.196±0.009	0.042±0.005	2.626±0.103	0.164±0.007	0.073±0.013	0.977±0.021	0.018±0.008	0.029±0.003	0.271±0.007
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011
	阿蘇山	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.767±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

熊本県産地(阿蘇山)原産地(近江式表2-2) 平均値と標準偏差値。*: 黒川中流から大分県山岳 a): Ando, A., Kurawawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GSI geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 179-192.

表2-3 原石産地不明の組紐の似たナカスイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差

遺物名(遺物群名)	分析 例数	K/Ca	Tl/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Nb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道											
50 函川川遺物群	36	0.452±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.160±0.013	0.674±0.101	0.018±0.011	0.020±0.002	0.166±0.000
51 函川No.17遺物群	48	0.284±0.006	0.316±0.008	0.134±0.016	9.214±0.461	0.158±0.013	0.103±0.010	0.652±0.046	0.022±0.012	0.020±0.002	0.164±0.004
52 吹上ノ遺物群	48	0.268±0.014	0.308±0.006	0.135±0.003	8.760±0.209	0.129±0.007	0.117±0.011	0.515±0.014	0.012±0.009	0.014±0.001	0.178±0.002
53 吹上No.2遺物群	50	0.427±0.021	0.238±0.009	0.126±0.003	6.023±0.150	0.237±0.012	0.140±0.013	0.998±0.036	0.051±0.021	0.029±0.001	0.178±0.022
54 吹上No.3遺物群	45	0.464±0.012	0.438±0.006	0.141±0.006	9.807±0.323	0.500±0.027	0.089±0.007	4.70±0.049	0.118±0.040	0.023±0.001	0.359±0.006
55 吹上No.4遺物群	45	0.152±0.006	0.241±0.012	0.153±0.002	9.785±0.139	0.103±0.008	0.147±0.012	0.748±0.020	0.021±0.013	0.011±0.001	0.101±0.001
56 吹上No.5遺物群	45	0.710±0.005	0.377±0.005	0.100±0.002	5.327±0.960	0.122±0.003	0.152±0.008	1.300±0.015	0.040±0.015	0.024±0.001	0.223±0.001
57 吹上No.6遺物群	42	1.088±0.006	2.029±0.012	0.061±0.006	14.030±0.064	0.400±0.028	0.098±0.013	1.002±0.050	0.087±0.045	0.024±0.001	0.283±0.104
58 吹上No.7遺物群	42	0.689±0.002	0.307±0.005	0.107±0.013	7.144±0.459	0.066±0.046	0.161±0.019	0.557±0.035	0.036±0.008	0.012±0.002	0.102±0.001
59 吹上No.8遺物群	36	0.202±0.012	0.352±0.007	0.149±0.010	7.209±0.251	0.181±0.013	0.153±0.013	0.905±0.035	0.024±0.013	0.019±0.002	0.161±0.008
千歳県											
宇津川No.1群	48	0.096±0.002	0.306±0.004	0.141±0.012	8.920±0.285	0.032±0.008	0.096±0.008	0.419±0.019	0.011±0.006	0.011±0.001	0.093±0.003
宇津川No.2群	48	0.134±0.002	0.359±0.004	0.128±0.012	9.817±0.196	0.092±0.009	0.096±0.009	0.612±0.023	0.017±0.009	0.012±0.001	0.094±0.002
有古No.14群	48	0.201±0.002	0.310±0.004	0.116±0.009	8.780±0.163	0.091±0.009	0.097±0.009	0.586±0.029	0.016±0.009	0.015±0.002	0.117±0.003
加賀川遺物群	42	0.447±0.004	0.608±0.017	0.089±0.012	5.098±0.781	0.183±0.019	0.106±0.010	0.654±0.026	0.015±0.002	0.015±0.002	0.130±0.003
石川県											
地方15865群	42	0.366±0.011	0.341±0.013	0.077±0.008	4.116±0.119	0.115±0.012	0.087±0.010	1.288±0.118	0.016±0.012	0.024±0.004	0.208±0.027
地方No.2811群	36	0.032±0.032	0.393±0.013	0.048±0.005	2.229±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.000±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.019
地方No.2705群	32	0.790±0.010	0.209±0.005	0.040±0.005	2.886±0.041	0.089±0.005	0.023±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006
地方No.2706群	32	0.315±0.014	0.688±0.017	0.119±0.023	6.639±0.453	0.614±0.041	0.210±0.032	1.320±0.087	0.138±0.027	0.017±0.015	0.265±0.081
地方No.26230群	40	0.384±0.178	0.078±0.008	0.037±0.006	2.358±0.088	0.109±0.007	0.051±0.007	0.851±0.022	0.022±0.005	0.017±0.002	0.150±0.004
新島No.2925群	32	3.884±0.178	1.077±0.068	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.023	0.150±0.028	0.183±0.019	2.889±0.159
川津No.1群	48	0.101±0.002	0.297±0.003	0.145±0.012	3.011±0.247	0.056±0.009	0.112±0.009	0.589±0.028	0.011±0.009	0.011±0.001	0.088±0.002
朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.262±0.005	0.067±0.009	3.829±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010
愛知県											
高瀬群	48	1.016±0.022	0.199±0.003	0.043±0.012	3.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.088	0.058±0.026	0.032±0.009	0.357±0.021
日向No.6群	48	0.248±0.012	0.189±0.003	0.053±0.007	3.752±0.073	0.217±0.019	0.060±0.011	0.635±0.047	0.013±0.006	0.019±0.002	0.145±0.004
日向No.9群	48	0.246±0.003	0.203±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.062±0.011	0.610±0.021	0.010±0.010	0.015±0.001	0.127±0.002
中津No.82群	48	0.340±0.003	0.226±0.003	0.085±0.005	3.738±0.074	0.229±0.016	0.059±0.010	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002
中津No.83群	48	0.605±0.005	0.287±0.004	0.046±0.008	2.079±0.046	0.028±0.019	0.138±0.017	1.425±0.066	0.029±0.019	0.097±0.033	1.903±0.065
中津No.184群	48	0.605±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.264±0.098	0.113±0.017	0.044±0.016	0.328±0.026	0.029±0.009	0.011±0.002	0.102±0.002
大飯町											
泉No.12群	33	0.361±0.004	0.263±0.001	0.053±0.007	3.109±0.070	0.236±0.016	0.063±0.014	0.684±0.024	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004
泉No.17群	33	0.377±0.004	0.256±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.240±0.010	0.068±0.010	0.675±0.025	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005
泉No.18群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.309±0.152	0.210±0.015	0.067±0.009	0.651±0.026	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006
泉No.19群	48	0.440±0.002	0.268±0.006	0.058±0.007	1.106±0.087	0.160±0.010	0.099±0.010	0.582±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004
伊賀No.15群	45	0.297±0.002	0.229±0.002	0.046±0.003	4.113±0.127	0.210±0.005	0.061±0.008	0.609±0.011	0.018±0.010	0.015±0.001	0.125±0.002
伊賀No.117群	48	0.378±0.005	0.226±0.004	0.071±0.007	4.599±0.093	0.216±0.009	0.063±0.010	0.611±0.024	0.022±0.008	0.019±0.002	0.134±0.004
尾内No.7群	55	0.259±0.004	0.180±0.003	0.078±0.007	4.600±0.180	0.248±0.015	0.088±0.012	0.381±0.037	0.015±0.007	0.017±0.002	0.141±0.004
尾内No.12群	45	0.291±0.003	0.168±0.002	0.081±0.009	4.899±0.103	0.226±0.016	0.059±0.019	0.617±0.039	0.014±0.007	0.016±0.001	0.127±0.003
尾内No.13群	48	0.669±0.008	0.150±0.004	0.089±0.009	2.799±0.148	0.046±0.008	0.049±0.013	0.417±0.027	0.010±0.007	0.014±0.005	0.149±0.005
尾内No.31群	48	11.976±0.068	1.248±0.059	0.035±0.011	3.746±0.214	1.647±0.054	0.216±0.053	1.272±0.034	0.130±0.023	0.276±0.032	4.903±0.241
尾内No.83群	48	23.782±0.975	3.092±0.279	0.045±0.014	6.247±0.192	0.414±0.046	0.129±0.027	2.258±0.134	0.178±0.026	0.590±0.066	5.231±0.519
尾内No.215遺物群	48	1.934±0.008	1.349±0.084	0.028±0.010	8.199±0.351	0.625±0.028	0.128±0.027	1.414±0.061	0.072±0.027	0.028±0.002	0.151±0.019
尾内No.252遺物群	48	0.491±0.008	0.524±0.009	0.040±0.005	2.278±0.047	0.098±0.006	0.046±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006
尾内No.259群	48	0.324±0.007	0.508±0.007	0.048±0.005	2.859±0.079	0.098±0.006	0.051±0.006	0.528±0.025	0.048±0.008	0.028±0.002	0.132±0.006

表3 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率(%)	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20	30	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第二群	22	33	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明(どこの原石群にも属さない)

表4 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率(%)	他原産地および他原石群との関係
	12	17	淡路島、岸和田、和歌山に出現、岩屋第一群に一致
和泉群	9	13	淡路島、岸和田、和歌山に出現
	6	8	白峰群、岩屋第二群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明(どこの原石群にも属さない)

第7章 自然科学分析

表5-1 東前田・中嶺・金クソ谷遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
98406	0.166	0.107	0.012	0.855	0.269	0.022	0.056	0.129	0.020	0.238
98407	0.158	0.128	0.015	0.908	0.294	0.013	0.059	0.146	0.021	0.243
98408	0.147	0.060	0.021	0.975	0.386	0.002	0.110	0.244	0.023	0.312
98409	0.146	0.063	0.021	0.975	0.397	0.007	0.112	0.241	0.022	0.302
98410	0.149	0.061	0.021	0.970	0.389	0.002	0.109	0.242	0.023	0.309
98411	0.164	0.085	0.015	0.893	0.273	0.000	0.064	0.161	0.019	0.243
98412	0.145	0.062	0.021	0.955	0.382	0.003	0.109	0.242	0.022	0.312
98413	0.146	0.062	0.020	0.942	0.379	0.005	0.108	0.235	0.024	0.312
98414	0.144	0.061	0.021	0.984	0.395	0.000	0.107	0.240	0.023	0.308
98415	0.137	0.059	0.021	0.987	0.393	0.000	0.109	0.237	0.023	0.319
98416	0.142	0.060	0.021	0.979	0.399	0.008	0.112	0.248	0.024	0.312
98417	0.141	0.062	0.021	0.979	0.403	0.001	0.115	0.243	0.023	0.314
98418	0.142	0.061	0.021	0.973	0.387	0.000	0.109	0.243	0.024	0.317
98419	0.140	0.063	0.021	0.951	0.381	0.001	0.109	0.233	0.023	0.315
98420	0.138	0.060	0.020	0.947	0.391	0.008	0.108	0.244	0.024	0.321
98421	0.143	0.060	0.019	0.928	0.382	0.001	0.106	0.242	0.024	0.310
98422	0.146	0.061	0.018	0.908	0.369	0.001	0.103	0.240	0.023	0.304
98423	0.147	0.058	0.020	0.959	0.373	0.011	0.104	0.236	0.024	0.320
98424	0.135	0.062	0.020	0.940	0.379	0.010	0.110	0.241	0.023	0.295
98425	0.138	0.059	0.019	0.925	0.378	0.000	0.113	0.234	0.024	0.311
98426	0.143	0.058	0.019	0.908	0.370	0.006	0.110	0.228	0.024	0.314
98427	0.142	0.064	0.016	0.881	0.370	0.000	0.090	0.264	0.021	0.285
98428	0.143	0.060	0.021	0.970	0.382	0.002	0.111	0.244	0.023	0.308
98429	0.142	0.061	0.021	0.984	0.386	0.002	0.113	0.242	0.024	0.305
98430	0.146	0.064	0.025	1.202	0.428	0.016	0.115	0.222	0.023	0.319
98431	0.145	0.061	0.024	1.119	0.405	0.018	0.112	0.239	0.023	0.318
98432	0.137	0.060	0.019	0.949	0.388	0.001	0.110	0.250	0.024	0.317
98433	0.139	0.062	0.018	0.870	0.363	0.000	0.099	0.224	0.023	0.299
98434	0.142	0.064	0.021	0.968	0.378	0.008	0.111	0.244	0.023	0.311
98435	0.138	0.058	0.022	1.025	0.403	0.001	0.121	0.247	0.023	0.309
98436	0.131	0.061	0.021	0.970	0.390	0.003	0.108	0.231	0.023	0.305
96032	0.145	0.061	0.020	0.944	0.387	0.004	0.110	0.240	0.025	0.319
96033	0.147	0.061	0.020	0.956	0.377	0.003	0.101	0.232	0.025	0.331
96034	0.145	0.058	0.019	0.924	0.370	0.005	0.106	0.241	0.025	0.329
JG-1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

表5-2 中嶺・金クソ谷遺跡出土安山岩製造物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
98437	0.363	0.613	0.061	3.693	0.102	0.028	0.830	0.091	0.019	0.177
98438	1.633	1.094	0.096	3.923	0.322	0.089	0.928	0.047	0.118	3.560
98439	1.165	1.064	0.065	9.194	0.681	0.094	1.465	0.140	0.047	0.452
96035	3.566	4.033	0.133	20.306	0.622	0.095	1.335	0.065	0.222	5.192

JG 1:標準試料 Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表6 川津バイパス関係(東前田・中嶺・金クソ谷)遺跡出土黒曜石、安山岩製造物の原産地分析結果

分析番号	挿図番号	分析年度	遺跡名	石材	ホテリングのT ² 検定結果	判定結果	備考
98406	40-1	平成18年度	東前田遺跡	黒曜石	加茂(19%),津井(0.5%)	加茂	
98407	40-2	平成18年度	東前田遺跡	黒曜石	津井(66%),加茂(30%)	津井	
98408	40-6	平成18年度	東前田遺跡	黒曜石	久見(97%)	久見	
98409	40-7	平成18年度	東前田遺跡	黒曜石	久見(94%)	久見	
98410	114-4	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(78%)	久見	
98411	114-5	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	加茂(26%)	加茂	
98412	114-6	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(83%),加茂(0.1%)	久見	
98413	114-7	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(90%),加茂(0.2%)	久見	
98414	114-8	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(96%)	久見	
98415	114-10	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(54%)	久見	
98416	114-11	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(77%)	久見	
98417	114-12	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(82%)	久見	
98418	114-13	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(95%)	久見	
98419	114-14	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(25%),加茂(0.1%)	久見	
98420	127-6	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(13%)	久見	
98421	127-7	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(46%),加茂(0.2%)	久見	
98422	127-8	平成18年度	中嶺遺跡	黒曜石	久見(28%),加茂(0.5%)	久見	
98423	145-1	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(91%),加茂(0.7%)	久見	
98424	145-2	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(2%)		
98425	145-3	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(6%),加茂(0.1%)	久見	
98426	145-4	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(11%),加茂(0.4%)	久見	
98427	145-7	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	【加茂(0.3%)】	加茂	
98428	145-8	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(70%)	久見	
98429	145-10	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(92%)	久見	
98430	145-11	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	《久見(29%)》	久見	
98431	145-12	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	《久見(93%)》	久見	
98432	145-13	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(15%)	久見	
98433	145-14	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(3%),加茂(0.4%)	久見	
98434	145-15	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(42%)	久見	
98435	145-16	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(26%)	久見	
98436	145-17	平成18年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(2%)	久見	
96032	145-19(大型)	平成17年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(74%)	久見	
96033	145-19(破片)	平成17年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(90%),加茂(0.2%)	久見	
96034	145-6	平成17年度	金クソ谷遺跡	黒曜石	久見(37%),加茂(0.6%)	久見	
98437	114-9	平成18年度	中嶺遺跡	安山岩	中嶺32遺物群(99.7%)		
98438	145-9	平成18年度	金クソ谷遺跡	安山岩	金クソ谷33遺物群(97%)		
98439	146-1	平成18年度	金クソ谷遺跡	安山岩	金クソ谷34遺物群(99.5%)		
96035	145-5	平成17年度	金クソ谷遺跡	安山岩	金クソ谷3遺物群(99%)		

【】は、軽元素を抜いて計算したもの、①は厚さ補正をして計算したものである。

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(上器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係(相互チェックなし)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第2節 国道431号道路改築事業（川津バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査に必要とする中嶺遺跡出土遺物分析

JFEテクノロジー株式会社
分析・評価事業部
埋蔵文化財調査研究室

1. はじめに

島根県松江市福原町に所在する中嶺遺跡から出土した銅閃光と思われる遺物について、非破壊成分分析に基づく調査を依頼された。以下にその結果について報告する。

2. 分析方法

成分分析に当たっては非破壊分析の要望があったため蛍光X線分析を採用した。また、調査の過程でX線回折による化合物種の同定調査を追加した。

(i) 重量計測、外観観察

分析調査に先立ち重量、形状を測定した。資料重量の計量には0.1gまで測定可能な電子天秤を使用した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。

(ii) X線透過観察

X線発生装置を用いて最適のX線強度を選択し、写真撮影を行う。同一のX線強度と照射時間では、照射される物質の質量が重いほど、また寸法が厚いほどX線が吸収され写真上では黒くなり、その反対ではX線が容易に透過するので白く写る。したがって、凹凸や異種金属が共用されているとか、錆で金属部分が薄くなっている場合でも、写真の濃淡で状況が判断できる。

(iii) エネルギー分散型蛍光X線分析：(EDX元素分析)

原理はX線管で発生させたX線を試料にあてることによって、試料に含まれる元素固有のエネルギーを持った特性X線を発生させ、このX線をSi半導体検出器で検出し、試料中の構成元素を定性・定量分析するものである。蛍光X線分析装置（堀場製作所製、MESA-500）を使って遺物の元素分析（測定元素： ${}^{11}\text{Na}$ ～ ${}^{92}\text{U}$ ）を行う。測定条件は以下の通りである。（X線管ターゲット：Rh（ロジウム）、X線管電圧：1～500 μA （15kV）、1～240 μA （50kV）（全自動2段切り換え）、検出器：高純度シリコン検出器）。

3. 調査結果および考察

・外観観察、感応調査：調査資料の外観写真を3頁に示す。重量、6.4g、長さ33mm、幅19mm、厚さ5mmである。金属としては軽く、部分的に緑青が吹いた赤銅色を呈するやや発泡している資料である。磁性の感応検査では着磁はなく、金属検知では明確な反応が認められ、金属が含まれていることが確認された。これらの観察結果から金属銅を少量含む銅滓の可能性が高いように思われた。

・X線透過観察：X線透過観察の結果を4頁に示す。参考のために厚さ5mmの銅製耳環を同時にX線透過撮影した結果も一緒に示してある。所々に砂粒大のX線の透過しにくい部分が観察されるが耳環と比べるとはるかに良くX線は透過しており金属製品でないことはほぼ確実である。

・化学成分分析：資料の比較的凹凸の少ない部分を蛍光X線により非破壊分析した結果を表1に、

X線回折用にかげらを粉砕した資料を蛍光X線分析した結果を表2に示す。

表1 成分分析結果（非破壊分析）

	Cu	As	Si	Ag	Fe
1	93.0	5.33	1.00	0.67	0.01
2	91.25	6.55	1.16	0.96	0.09
3	92.2	5.95	1.01	0.81	0.03
平均	92.15	5.94	1.06	0.81	0.04

表2 成分分析結果（粉末）

	Cu	As	Si	Ag	Fe
粉末化試料	96.6	0.43	2.97	不検出	不検出

本資料は金属成分のみでは主成分としてCuを92%含み、不純物としてAsを約6%、Siを1%、Agを0.8%、Feをわずかに0.04%程度含んでいる。粉末試料の分析では微量元素のAg、Feは検出されないがCuが主成分でAs、Siを含むという点では本質的に差はない。Cu鉱石は硫化鉱で採取されることが多いが、本資料ではSは検出されておらず、感応検査などの結果と合わせると酸化物として存在している可能性が高い。

・X線回折調査：化学分析結果ではSが検出されず、酸化物系主体の資料と考えられたが、この点を確認するためX線回折調査により鉱物種の同定を行った。試料は小さな破片を粉砕して調査に供した。4頁にX線回折結果を示す。圧倒的な強度でCuOが同定され、わずかに金属Cuが同定された。金属銅を少量含む銅酸化物主体の試料であることが確認された。表1の結果を参考にするとAs化合物の存在が想定されるが同定されない。これはX線透過写真に見られるように資料は不均質であり分析位置と試料採取位置の違いによると思われる。

4. 考察

Cu鉱石は硫化鉱で採取されることが多く、不純物としてAs、Agなどが含まれているため銅の製錬灰や滓はAs、Agの原料として使用されている。多量のAsやAgが含まれている点から見てCu鉱石に関連した遺物であることは間違いないと思われる。本資料ではSは検出されておらず、X線回折の結果では少量の金属銅と圧倒的に多量のCuOが同定されている。感応検査などの結果と合わせると酸化物として存在している可能性が高い。本資料には硫黄が検出されず、しかもCu濃度が92%と非常に高く濃縮されていることを考慮するとCuを採取した後の製錬滓とは考えにくい。したがって硫化鉱を一端酸化させて酸化物としてから還元してCuを製錬採取する過程の硫化鉱を酸化処理した後、Cuを還元採取する段階の滓（実質的には原料）ではないかと思われる。しかし、非常に限られた情報の元での推定であり、更なる検討が必要である。

5. まとめ

調査した試料は金属成分として92%のCuを含み、不純物としてAsを6%、Agを0.8%含んだ硫化鉱を酸化処理した後、還元製錬で銅を採取する過程の途中産物ではないかと推定された。

6. 写真

· 外觀写真



・ X線透過写真



実寸大写真

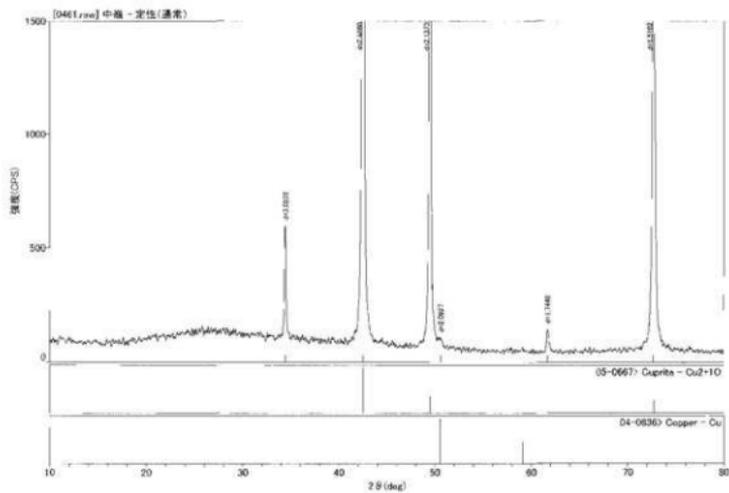


X線透過写真



参考：ほぼ同厚みの銅製耳環

・ X線回折



X線回折結果

写 真 图 版



東前田遺跡空中写真 芝原遺跡方向を望む



東前田遺跡調査前（南西から）



東前田遺跡及び大谷口遺跡調査前（西から）



東前田遺跡発掘状況空中写真



東前田遺跡
1区上段遺構
遺構検出状況



東前田遺跡
1区上段遺構
発掘調査状況1



東前田遺跡
1区上段遺構
発掘調査状況 2



東前田遺跡
1区上段遺構
発掘調査状況 3



東前田遺跡 1区上段
須恵器及び石埋納坑
検出状況

東前田遺跡1区上段
須恵器及び石埋納坑
発掘調査状況 1



東前田遺跡1区上段
須恵器及び石埋納坑
発掘調査状況 2



東前田遺跡1区上段
須恵器及び石埋納坑
発掘調査状況 3





東前田遺跡1区上段
須恵器及び石埋納坑
発掘調査状況4

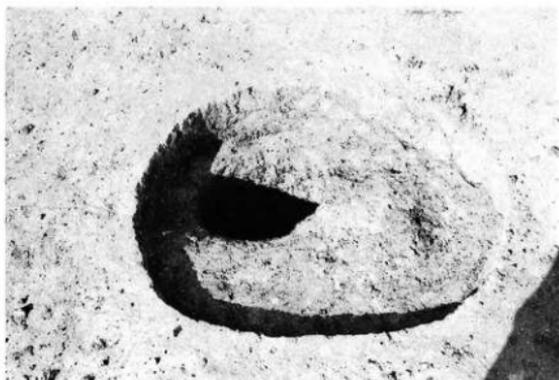


東前田遺跡1区中段
柱穴等遺構検出状況



東前田遺跡1区中段
柱穴等遺構発掘調査状況

東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況 1



東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況 2



東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況 3





東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況4



東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況5



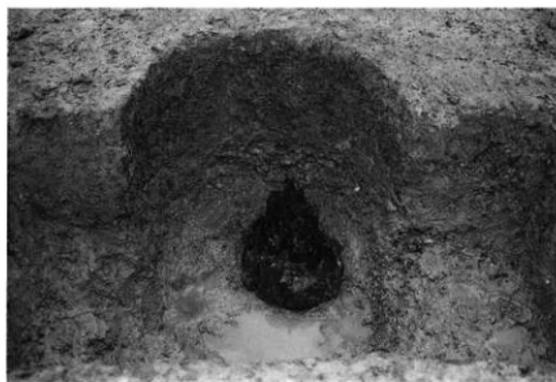
東前田遺跡1区中段
第166号柱根柱穴
発掘調査状況6



東前田遺跡1区中段
第167号柱根柱穴
発掘調査状況 1



東前田遺跡1区中段
第167号柱根柱穴
発掘調査状況 2



東前田遺跡1区中段
第167号柱根柱穴
発掘調査状況 3



東前田遺跡1区下段
土層断面



東前田遺跡1区下段
第1号掘建柱建物跡
検出状況



東前田遺跡1区下段
第1号掘建柱建物跡
発掘調査状況



東前田遺跡1区及び2区完掘状況



東前田遺跡2区土層断面



東前田遺跡2区
黒色土溜り完掘状況



東前田遺跡2区完掘状況

東前田遺跡 2区
黒色土溜り検出状況



東前田遺跡 2区
黒色土溜り発掘調査状況 1



東前田遺跡 2区
黒色土溜り発掘調査状況 2





東前田遺跡 2区黒色土溜り発掘調査状況 3



東前田遺跡 2区黒色土溜り発掘調査状況 4



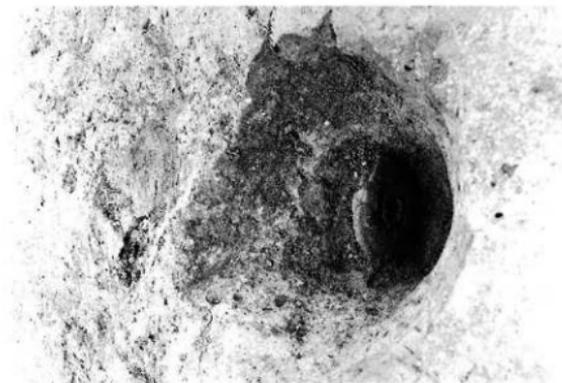
東前田遺跡 2区黒色土溜り発掘調査状況 5



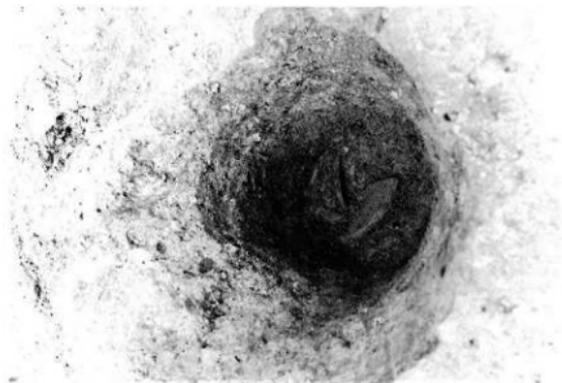
東前田遺跡 2区黒色土溜り発掘調査状況 6



東前田遺跡2区
須恵器埋納坑
発掘調査状況1



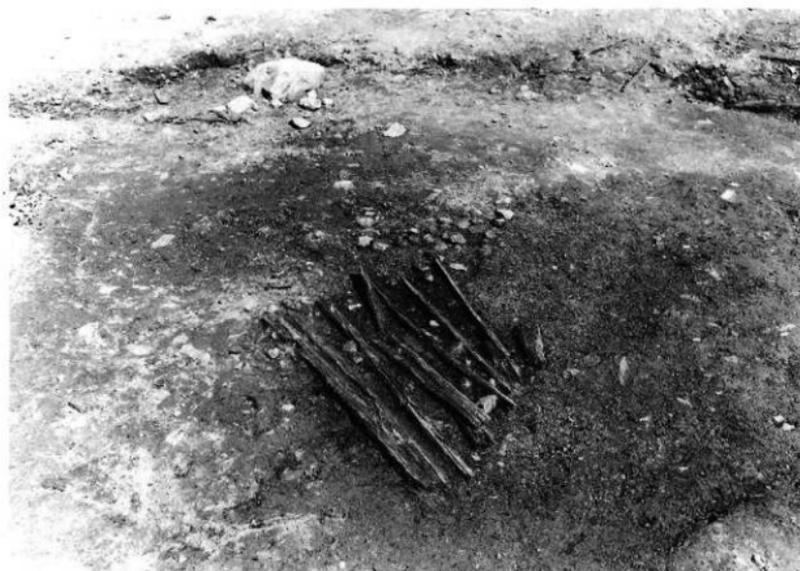
東前田遺跡2区
須恵器埋納坑
発掘調査状況2



東前田遺跡2区
須恵器埋納坑
発掘調査状況3



東前田遺跡 2 区木片及び配石遺構発掘調査状況



東前田遺跡 2 区木片及び配石遺構発掘調査状況



東前田遺跡 2区土坑発掘調査状況



東前田遺跡 2区土坑発掘調査状況